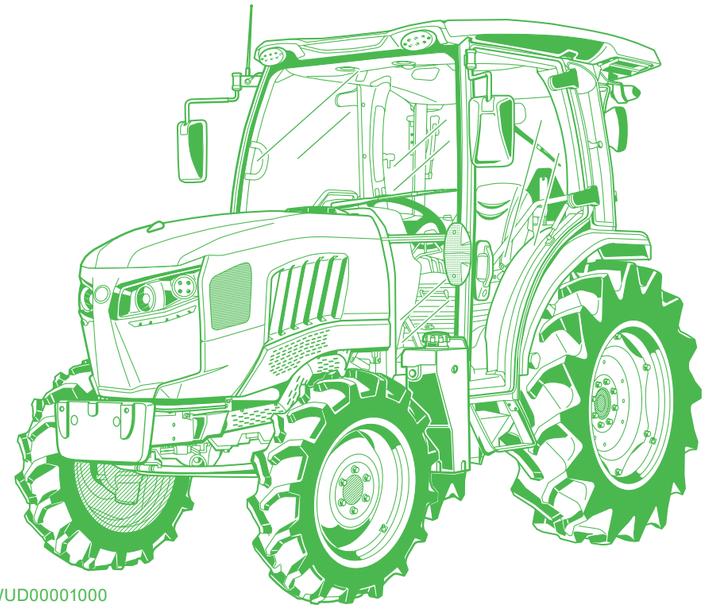
トラクタ

取扱説明書

GJE 28 35・35H



1ZWUD00001000

ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

異常警告	高速又は高
エンジン異常警告	低速又は低
火気厳禁	３点リンク（上げ）
ディーゼル軽油	３点リンク（下げ）
アワメータ（積算時間計）	作業灯（フロントサイド）
グロー	作業灯
バッテリ充電異常	ワイパ（前）
エンジンオイル圧力	ワイパ（後）
エンジン水温	再生状態
エンジン回転	再生禁止
シートベルト	駐車再生
メンテナンス	駐車再生要求
ホーン	ブレーキ
ハザードランプ	クラッチ
方向指示器	モンロシリンダ上げ
ヘッドライト（下向）	モンロシリンダ下げ
ヘッドライト（上向）	
駐車ブレーキ	

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型　　式

機械番号（製造番号）

キーナンバー

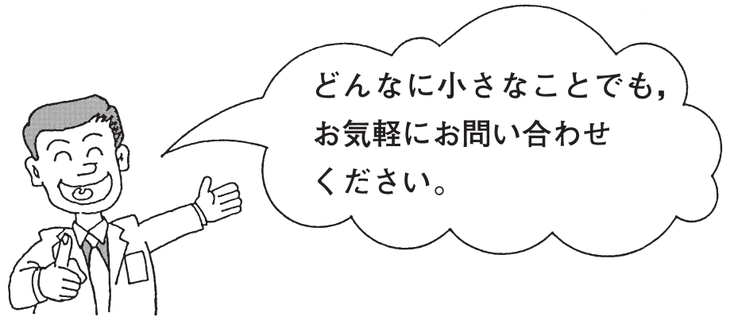
●ご使用状況は…？

（何速で，どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

TEL　　（　　）

はじめに

このたびは三菱マヒンドラ農機製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。
ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され、お買上げの製品が優れた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また、お読みになった後必ず大切に保存し、分からないことがあったときには取出してお読みください。
なお、製品の仕様変更などにより、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお、⚠表示ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げの購入先に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。

⚠ **危険**	注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ **警告**	注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ **注意**	注意事項を守らないと、ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要：	注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足：	その他、使用上役立つ補足説明を示します。

仕 様 に つ い て

この取扱説明書では、仕様の異なる製品を下記のように表示していますので、お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ、お間違いのないようお願いいたします。
なお、説明は **GJE35 安全キャブ仕様**を基本とし、**GJE35 安全キャブ仕様**と取扱いが異なる場合はその都度追加説明してあります。

- エンジン出力（PS）によって ……GJE28 仕様、GJE35(H) 仕様
- 走行速度（ギヤ比）によって ……ハイスピード［高速走行］(H) 仕様
- 安全キャブ付き ……安全キャブ仕様
- 安全フレーム付き ……安全フレーム仕様
- パワクロ仕様 ……K 仕様
- 幅狭タイヤ仕様 ……N 仕様

本 書 の 見 方

この取扱説明書には必要な情報が容易に検索できるよう、一般目次以外に下記３つの目次を掲載しています。
目的に応じ使い分けの上、必要な情報の検索にご活用ください。

１．目的目次　　困った事、知りたい事などから関連する項目の説明ページが検索できます。

２．絵目次　　レバーやスイッチの名称が分からなくても、イラストから確認したいレバーやスイッチの説明ページが検索できます。

３．索引（巻末）　　調べたい名称から掲載ページが検索できます。
例えば[エンジンオイルの交換のしかた]のページを調べたい場合、「あ行」の［エンジンオイルの交換］で説明ページが検索できます。

その他について

商標について

商　標	商標権者について
AdBlue®	AdBlue はドイツ自動車工業会 (VDA) の登録商標です。
QRコード	QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

本書に記載されている会社名、製品名、サービス名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。本文中では、それらの名称には必ずしも商標表示（™、®）を付記していません。

目次

困ったときには 9
目的目次 9
安全に作業をするために 11
サービスと保証 29
ご相談窓口 29
補修用部品の供給年限について 30
取扱説明書の収納 30
農機型式名一覧表 31
小型特殊自動車としての取扱い 32
小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバープレート）の取付け 32
低速車(SMV)マーク 32
運転免許 32
損害賠償保険について 33
公道走行時の注意 33
輪距 33
装置の名称と取扱い 34
トラクタの外観 34
ハンドル部 37
操作レバー、ペダル［安全キャブ仕様］ 38
操作レバー、ペダル［安全フレーム仕様］ 40
モンロー操作パネル 42
安全キャブ部 42
3 点リンク 43
運転のしかた 44
運転前の点検 44
トラクタへの乗降 44
排ガス後処理装置 44
1. ディーゼル・パーティキュレート・フィルタ(DPF)マフラ 44
2. DPF マフラの取扱いポイント 44
3. 液晶モニタの PM 堆積量表示 45
3.1 PM 堆積量表示項目 45
4. DPF マフラの再生方式 46
4.1 自動再生モード 46
4.2 再生禁止モード 46
5. 自動再生モードの操作手順 47
6. 自動再生モード時の PM 堆積の警告レベルと必要な処置 48
7. 再生禁止モードの操作手順 49
8. 再生禁止モード時の PM 堆積の警告レベルと必要な処置 50
9. 駐車再生の操作手順 51
10. DPF の再生に関する豆知識 51
エンジンの始動と停止 52
1. エンジンの始動のしかた 52
1.1 キースイッチ 55
1.2 オートグロー 56
1.3 モニタランプ 57
2. エンジンの停止のしかた 58
3. 寒冷時の暖機運転 58
3.1 暖機運転について 58
4. バッテリあがりの処置 58
5. ならし運転 59
運転席周りの調節 59

1. シート 59
2. 安全キャブ／安全フレームとシートベルト 59
2.1 安全フレームの折りたたみ方法 60
2.2 安全フレームを起こす方法 60
2.3 シートベルト 60
2.4 シートベルトホルダ 60
2.5 チルトステアリングハンドル 60
2.6 バックミラー 61
灯火類の操作 61
1. ヘッドライトスイッチ 61
2. ウインカスイッチ 61
3. ハザードスイッチ 62
4. ホーンボタン 62
5. フロントサイド作業灯 62
6. バックランプ 63
7. ブレーキランプ 63
8. 車幅灯、尾灯 63
外部電源取出端子 63
1. 外部電源、信号取出端子 63
2. トレーラカプラ電源 64
発進、走行 64
1. 発進、走行のしかた 64
停車、駐車 65
1. 駐車ブレーキ 65
1.1 駐車ブレーキの解除 65
1.2 駐車ブレーキを掛ける方法 65
2. ブレーキペダル 65
2.1 ブレーキ連結ロック解除警告灯 66
3. クラッチペダル 66
各変速レバー 67
1. 各変速レバーの取扱い 67
1.1 主変速（U シフト）レバー 67
1.1.1 主変速（U シフト）レバーの変速操作 67
1.2 クリープレバー 69
1.2.1 クリープの使用方法 70
1.3 シャトルレバー 70
2. 走行モード切換スイッチ 71
2.1 4 輪駆動の使用方法 71
2.2 倍速ターンの使用方法 71
2.3 AD 倍速ターンの使用方法 72
3. アクセルレバー 72
4. アクセルペダル 72
省エネ運転のしかた 72
1. 省エネ運転時のメータパネル表示 73
1.1 距離燃費表示 73
1.2 瞬間燃費表示 73
1.3 平均燃費表示 73
1.4 積算量表示 73
電子メータパネル 74
1. 電子メータ 74
2. 液晶表示 75
3. 液晶表示の切替え 78
4. 電子メータメッセージのリセット方法 80
電子メータパネルの選択表示 80
1. 電子メータパネルの選択表示の操作手順 81
2. メンテナンス表示 81
2.1 メンテナンス表示の操作手順 81
2.2 メンテナンス表示画面の確認方法 81

2.3 メンテナンス表示時間のリセット方法 82
3. 作業条件メモ 82
3.1 作業条件メモの操作手順 82
4. エンジン始動セキュリティ機能 82
4.1 暗証番号の入力方法 83
4.2 エンジン始動セキュリティ機能の入／切設定方法 84
4.3 暗証番号の変更方法 85
5. 時刻合わせと表示、非表示の設定 86
5.1 時刻合わせ 86
5.2 時刻の表示、非表示の切換え 87
電子エンジン制御 87
1. エンジン回転メモリ設定 87
1.1 エンジン回転数の設定方法 87
1.2 エンジン回転メモリ操作方法 88
1.2.1 エンジン回転メモリ操作の設定条件 88
1.2.2 エンジン回転メモリの実行（エンジン回転メモリスイッチに 1500 回転をセットした場合） 88
1.2.3 エンジン回転メモリを切る方法 88
2. e-アシスト旋回 88
2.1 e-アシスト旋回の設定方法 89
2.2 e-アシスト旋回の応答時間変更方法 90
運転中の作動確認 91
1. イージーチェッカ 91
2. 燃料計 92
3. エンジン回転計 92
4. 水温計 92
4.1 オーバーヒートしたときの処置 92
状況に応じた操作 93
1. デフロック 93
1.1 デフロックペダル 93
1.2 デフロックの使用方法 93
2. 旋回のしかた 93
3. 坂道での運転 93
4. ほ場への出入り時の注意 93
4.1 パワクロ仕様の場合のほ場出入り時の注意 94
5. 道路走行中の注意 94
6. トラックへの積み、降ろし 95
7. パワーステアリングの取扱い 95
8. パワクロ仕様の運転のしかた 95
8.1 パワクロ仕様の運転操作 95
8.2 あゆみ板の使用［パワクロ仕様］ 96
9. ローダ作業 96
作業のしかた 98
作業機昇降装置 98
1. 油圧（ポジションコントロール）レバー 98
1.1 レバーストッパの使用方法 98
1.2 油圧レバーの取扱い特性 98
2. 3 点リンク高さ規制ダイヤル 98
2.1 3P 手動の使用方法 98
3. ポンパレバー／ポンパスイッチ［安全キャブ仕様］ 99
3.1 ポンパレバー 99
3.2 ポンパスイッチ［安全キャブ仕様］ 99
3.3 ポンパレバー、ポンパスイッチの上手な使用方法 100
3.4 3 点リンクの安全ロック機能 100
4. オートアップスイッチ 100
4.1 オートアップの使用方法 100
5. バックアップスイッチ 101
5.1 バックアップの使用方法 101

6. 作業機落下速度の調整 101
6.1 油圧ロックの取扱い 102
モンローマチック・オート 102
1. モンローマチック・オートの各部の名称 103
2. ワンタッチ耕うんモードスイッチ 104
2.1 ワンタッチ耕うんモードの任意変更 105
2.2 ワンタッチ耕うんモードの設定変更方法 106
3. 3P 切換スイッチ 106
4. モンロースイッチ 106
4.1 モンロー水平 106
4.2 モンロー傾斜地 107
4.3 モンロー切（手動） 107
5. 切換スイッチ 108
6. モンロー角度調節ダイヤル 109
7. オートスイッチ 109
8. 耕深調節ダイヤル 109
9. モンロー手動スイッチ 110
10. 作業機の取扱い 110
10.1 リフトシリンダを取付け、取外しする場合 110
3 点リンク 111
1. 3 点リンクの各部の名称 111
2. インプルメント取付け前の準備 112
2.1 オートワイヤ 112
2.1.1 オートワイヤの格納 112
2.2 ロアーリンク取付け穴の選択 112
3. 作業機の着脱 112
3.1 トップリンク 112
3.1.1 トップリンク取付け穴の選択 112
3.1.2 トップリンク長さの調整 112
3.2 チェックチェーンの調整 113
3.3 作業機を取り付けないときの注意 113
3.3.1 オートワイヤの格納 113
けん引ヒッチ 113
1. けん引フック 113
PTO 114
1. あんしん PTO スイッチ 114
1.1 あんしん PTO スイッチの操作 114
1.2 アップオフ PTO モード 115
2. PTO 変速レバー 115
2.1 PTO 逆転の使用方法 115
3. PTO 軸カバー、PTO 軸キャップ 116
タイヤ 116
1. タイヤの空気圧 116
1.1 標準空気圧 116
輪距の調整 116
1. 前輪輪距 116
2. 後輪輪距の調整 116
3. 後輪輪距 117
ウエイト（オプション） 118
1. 前部ウエイト（オプション） 118
1.1 前部ウエイトの取付け方法 118
一般的な耕うん要領 118
1. 隣接耕うんのしかた 118
2. 一うねおき耕うんのしかた 119
3. トラクタの方向転換のしかた 119
安全キャブ装備品の取扱い 120
ドア、窓の開閉とロック 120

1. ドア 120
1.1 ドアの開閉とロック 120
2. リヤウインド 120
3. クォータウインド 121
ルームランプ 121
ワイパ 121
1. フロント／リヤワイパ・ウォッシャスイッチ 121
2. 寒冷時のワイパの使用 122
作業灯 122
1. 作業灯スイッチ 122
2. 作業灯（前、後） 122
その他のアクセサリ 122
1. サンバイザ（オプション） 122
2. ルームミラー（オプション） 123
オートエアコン 123
1. フロンの取扱いの注意 123
2. 空気の流れ 123
3. 風向調整 124
3.1 フロント吹出口 124
3.2 サイド吹出口 124
4. コントロールパネル 124
4.1 内外気切換えスイッチ 124
4.2 温度コントロールつまみ 124
4.3 ファンスイッチ 125
4.4 エアコンスイッチ 125
4.5 暖房、冷房、除湿暖房 125
4.6 デフロスト 125
5. ヒータ使用上の注意 125
オーディオ機器の取扱いについて 125
1. オーディオ機器のお問合せについて 126
2. オーディオ機器の電源が入らないときの対処 126
3. 本機で利用できないオーディオ機器の機能について 126
4. アンテナ 126
作業機の装着 126
1. 作業機用操作ボックスの取付け 126
トラクタの簡単な手入れと処置 128
トラクタの手入れ、処置時の注意 128
廃棄物の処理について 128
洗車時の注意 128
定期点検箇所一覧表 130
給油、給水一覧表 133
1. トラクタの給油、給水一覧表 133
推奨オイル、グリース一覧表 134
1. エンジンオイル、ミッションオイル一覧表 134
2. グリース一覧表 134
ボンネットの開閉およびサイドカバーの取外し 134
1. ボンネットの開閉 134
1.1 ボンネットを開ける方法 134
1.2 ボンネットを閉める方法 135
2. サイドカバーの取外し 135
2.1 右サイドカバーの取外し 135
2.2 左サイドカバーの取外し 135
日常点検 135
1. 前日の異常箇所の点検 135
2. トラクタの周囲の点検 135
3. エンジンオイルの量および汚れの点検 136
4. ミッションオイルの量および汚れの点検 136

5. 冷却水の量の点検 136
6. ウォータセパレータの確認 137
7. ウォータセパレータの水の排出 137
8. エバキュエータバルブの清掃 137
9. ワイヤハーネス、バッテリ（+）コードの点検 137
10. タイヤの空気圧、および摩耗、損傷の点検 138
10.1 標準空気圧の確認 138
11. 防虫網の清掃 138
11.1 ラジエータ用防虫網の清掃 138
11.2 エアコンコンデンサ用防虫網、燃料クーラの清掃 139
11.3 オイルクーラの清掃 139
12. DPF の点検 139
13. ブレーキペダルの遊びの点検 139
14. 駐車ブレーキの作動点検 140
15. クラッチペダルの遊びの点検 140
16. メータ、ランプ類の作動点検 141
17. 燃料の補給 141
18. エンジンの始動確認 142
19. エンジンの排気の状態の確認 142
燃料給油時の便利な機能と装置 142
1. 満タンお知らせブザーの取扱い 142
日常点検［パワクロ仕様］ 142
1. 日常点検箇所一覧［パワクロ仕様］ 142
2. ゴムクローラの張り調整［パワクロ仕様］ 143
30 時間ごとの点検、整備 143
1. グリースの注入［パワクロ仕様］ 143
1.1 グリースアップ時の電子メータメッセージのリセット［パワクロ仕様］ 145
50 時間ごとの点検、整備 145
1. グリースの注入 145
2. エンジン始動システムの点検 145
3. タイヤ取付けボルトの点検 146
4. クラッチハウジングの水抜き 146
5. パワーステアリングホースの点検 146
6. 燃料ホースの点検 147
100 時間ごとの点検、整備 147
1. バッテリ電解液の点検、バッテリの補充電 147
1.1 バッテリ液の点検 148
1.2 バッテリの取付け、取外し 148
1.3 補充電のしかた 148
2. エアクリーナエレメントの清掃、交換 149
2.1 エアクリーナエレメントの清掃 149
2.2 エアクリーナエレメントの交換について 149
2.3 エバキュエータバルブの清掃 149
3. ファンベルトの点検、調整 149
3.1 ファンベルトの調整方法 149
4. ブレーキペダルの点検、調整 149
4.1 ブレーキペダルの調整方法 150
5. クラッチペダルの点検、調整 150
5.1 クラッチペダルの調整方法 150
6. エキゾーストパイプおよびマフラの状態の確認 150
200 時間ごとの点検、整備 150
1. エンジンオイルの交換 150
1.1 エンジンオイル交換時の電子メータメッセージのリセット 151
2. エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 151
3. ラジエータホースの点検 152
4. オイルクーラホースの点検 152
5. オイルセパレータホースの点検 152
6. 吸気ホースの点検 152

7. トランスミッションオイルフィルタカートリッジの交換 153
8. ステアリングジョイント部の点検 153
9. トーイン、タイロッドの点検、調整 154
9.1 トーインの点検 154
9.2 トーイン、タイロッドの調整方法 154
10. 内気フィルタの清掃［安全キャブ仕様］ 154
10.1 内気フィルタの取付け、取外し［安全キャブ仕様］ 154
11. 外気フィルタの清掃［安全キャブ仕様］ 155
11.1 外気フィルタの清掃方法［安全キャブ仕様］ 155
12. エアコンコンデンサの詰まり除去［安全キャブ仕様］ 155
13. エアコンベルトの張り調整［安全キャブ仕様］ 156
14. クローラガイドの点検［パワクロ仕様］ 156
15. 転輪、遊輪の点検［パワクロ仕様］ 156
16. スプロケットの点検［パワクロ仕様］ 156
17. ゴムクローラの点検［パワクロ仕様］ 156
300 時間ごとの点検、整備 156
1. 前車軸ケースオイルの交換 156
400 時間ごとの点検、整備 156
1. ミッションオイルの交換 156
2. 燃料フィルタカートリッジの交換 157
3. ウォータセパレータの清掃 158
600 時間ごとの点検、整備 158
1. 前部デフケースの前後遊びの点検、調整 158
1.1 前部デフケースの前後遊びの点検 158
1.2 前部デフケースの前後遊びの調整 158
800 時間ごとの点検、整備 159
1. エンジンバルブクリアランスの点検 159
1500 時間ごとの点検、整備 159
1. 燃料インジェクタの点検 159
2. オイルセパレータエレメントの交換 159
3. EGR クーラの点検、清掃 159
3000 時間ごとの点検、整備 159
1. サプライポンプの点検 159
2. EGR システムの点検、清掃 159
3. DPF マフラの清掃 159
3.1 DPF マフラの灰（燃えカス）の除去 159
3 か月ごとの点検、整備 159
1. エアコン機器の簡易点検［安全キャブ仕様］ 159
1 年ごとの点検、整備 160
1. エアクリーナエレメントの交換 160
2. ヒータ配管、ウォータホースの点検［安全キャブ仕様］ 160
3. エアコン配管、ホースの点検［安全キャブ仕様］ 160
4. エキゾーストマニフォールドの点検 160
5. DPF 差圧センサパイプの点検 160
6. EGR パイプの点検 160
2 年ごとの点検、整備 160
1. 冷却水の交換 160
1.1 不凍液の使用方法 161
2. ラジエータの洗浄 161
3. ラジエータホースの交換 161
4. パワーステアリングホースの交換 161
5. 吸気ホースの交換 161
6. 燃料ホースの交換 161
7. モンローシリンダホースの交換 162
8. メインシリンダホースの交換 162
9. オイルクーラホースの交換 162
10. オイルセパレータホースの交換 162
11. DPF 差圧センサホースの交換 162

必要に応じた点検、整備 162
1. 燃料の空気抜きのしかた 162
1.1 燃料の空気抜き手順 162
2. ヒューズの交換 162
3. スローブローヒューズの交換 162
4. ヘッドランプの交換 163
5. ランプ一覧 163
6. ホーン接点のグリース塗布 163
7. ドアヒンジ部とリヤウインドヒンジ部の注油［安全キャブ仕様］ 163
8. ウォッシャ液の補充［安全キャブ仕様］ 164
9. 冷媒（ガス）量の点検［安全キャブ仕様］ 164
9.1 冷媒（ガス）量の点検方法［安全キャブ仕様］ 164
10. スプロケットの交換［パワクロ仕様］ 164
11. ゴムクローラの交換［パワクロ仕様］ 164
格納 165
1. 長期格納時の手入れ 165
1.1 クラッチの切状態保持の方法 165
2. 作業機を装着しているトラクタの保管について 166
3. 長期格納後の運転 166
3.1 長期格納後のエアコンの取扱い 166
不調と処置 167
1. エンジンの不調と処置 167
2. トラクタの故障と処置 168
付表 171
主要諸元 171
1. トラクタの主要諸元 171
2. 走行速度表 175
3. 標準付属品 177
主な消耗部品一覧 178
パワクロ仕様足回り交換部品一覧表 183
アタッチメント一覧表 184
インプルメント 187
1. ロータリ、補助ユニット一覧表 187
センサリンク取付け要領 187
1. オートヒッチフレーム側センサリンクの取付け方法 187
作業ごとの一般的な調整要領 189
インプルメントの大きさの上限について 191
索引 192

困ったときには

目的目次

	目的、場面	項目	参照ページ
エンジン始動時に	寒冷時暖機運転時間がどの程度必要か	寒冷時の暖機運転	58
	スタータモータが回らない	エンジンの始動と停止	52
道路走行時に	2WD、4WD、倍速、AD を切り換えるには	走行モード切換スイッチ	71
	インプルメントの落下防止を施すには	作業機落下速度の調整	101
	トレーラ用電源コンセントを接続するには	トレーラ用カプラ	64
作業時に	省エネ運転をするには	省エネ運転のしかた	72
	PTO 回転数を変更するには	PTO 変速レバー	115
	インプルメントを取り付けるには	3 点リンク	111
	インプルメント用電源や車速信号を取り出すには	外部電源取出端子	63
	インプルメント用操作ボックスを取り付けるには	インプルメントの装着	126
	タイヤがスリップする	デフロックの使用方法	93
	モンロー／オートをワンタッチで設定するには	ワンタッチ耕うんモードスイッチ	104
	エンジン回転数を記憶させるには	エンジン回転数メモリ設定	87
	モンロー／オートの設定を任意変更するには	ワンタッチ耕うんモードスイッチ	105
	モンロー／オートの一般的な調整要領を知りたい	作業ごとの一般的な調整要領	189
	ロータリカバーを上げた状態でオートを使うには	オートスイッチ	109
	作業機の上げ高さを規制するには	3 点リンク高さ規制ダイヤル	98
	旋回時、自動的にロータリを上げるには	オートアップスイッチ	100
	後進時、自動的にロータリを上げるには	バックアップスイッチ	101
	ロータリを上げたとき、自動的に PTO の回転を止めるには	あんしん PTO スイッチ	114
	電子メータにメッセージが表示されたときには	電子メータパネル	74
	電子メータ内の赤色ランプが点灯、点滅したときには	運転中の作動確認	91
	電子メータの表示内容を変更するには	表示の切替え	78
メンテナンス時に	ボンネットを開ける方法を知りたい	ボンネットの開閉	134、135
	日常点検ですべき事は	日常点検	135
	オイル、冷却水量を知りたい	給油、給水一覧表	133
	適切なオイルの種類を知りたい	推奨オイル、グリース一覧表	134、134
	電球が切れたときには	主な消耗部品一覧表	178
	燃料切れでエンジンが止まった	燃料の給油	141
		空気抜きのしかた	162
	トラクタのマイコンでメンテナンスの時間管理を行うには	電子メータパネルの選択表示	81
	時計の時刻を合わせたい	電子メータパネルの選択表示	86
	パワクロメンテナンス項目を知るには	日常点検 **［パワクロ仕様］** パワクロ仕様の点検および交換手順	142

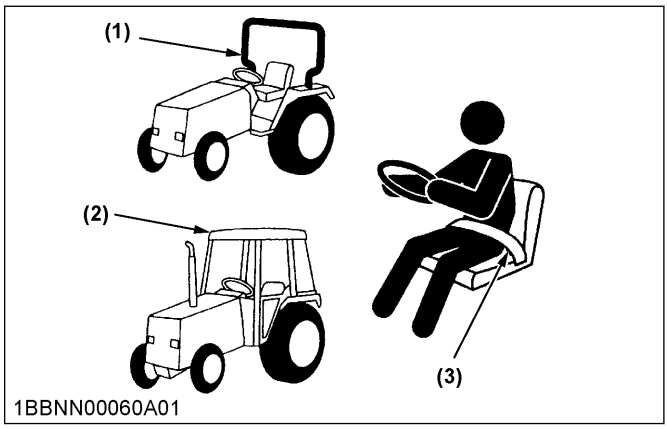
安全に作業をするために

本機をご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をよく読み理解したうえで、安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は本章のとおりですが、これ以外にも、本文の中で危険、警告、注意、重要、補足としてそのつど取り上げています。

安全キャブ、安全フレームについての注意事項

1. 安全キャブ、安全フレームの目的

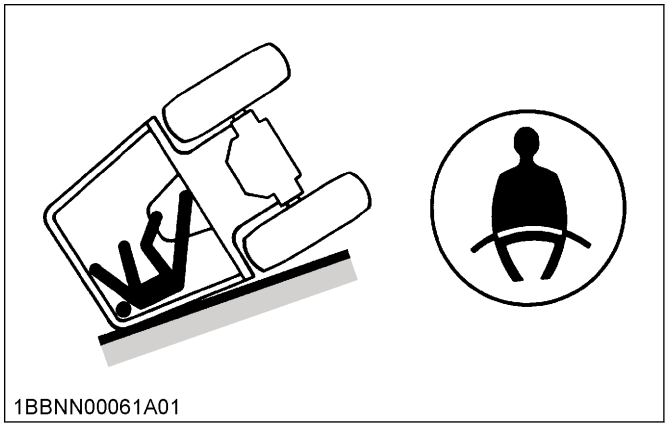
安全キャブ、安全フレームは、万一トラクタが転倒したとき事故の被害を軽減する物であって、転倒事故を防止する物ではありません。
注意事項を守って、安全運転を心がけてください。



(1) 安全フレーム
(2) 安全キャブ
(3) シートベルト

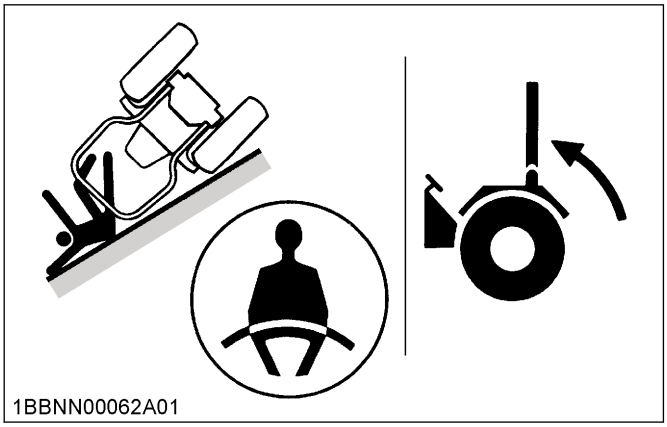
2. シートベルトを併用すること

- 運転時は安全キャブまたは安全フレームとシートベルトを常に使用するようにしてください。



3. 安全フレーム使用時の注意

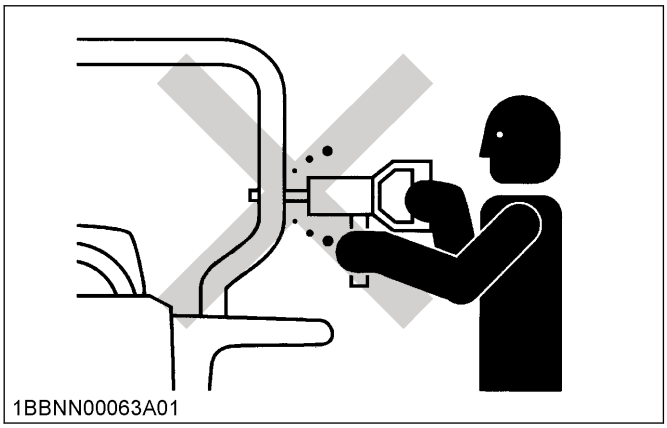
- 安全フレームを取り外して運転しないでください。
- 納屋への出入りなど、安全フレームが当たる場合を除き、運転時はいつも安全フレームを立て、確実にロックして使ってください。
  安全フレームを折りたたんだ状態では、万一トラクタが転倒したとき、安全フレームの役目をしません。



- 安全フレームを立てたときは、運転時シートベルトを常に使用してください。折りたたんだ状態では、シートベルトを使用しないでください。
- 安全フレームを折りたたんだり、立てたりするときは、平たんな場所で、必ず作業機を地面に降ろし、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。

4. 安全キャブおよび安全フレームの改造禁止

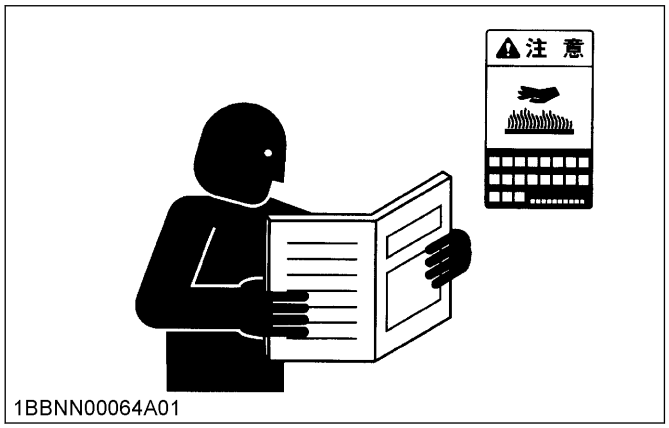
- 安全キャブまたは安全フレームを改造しないでください。また、強度に影響する破損、曲がりなどが発生した場合、交換してください。



運転前の注意事項

1. 正しい運転方法､運転してはいけない人

- トラクタを動かす前に、トラクタおよび装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある ⚠ 安全ラベルをよく読み、理解したうえで運転してください。
- トラクタ、作業機を他人に貸すとき、また、運転させるときは、事前に運転のしかたを教え、本書を読ませてください。
- 本書およびラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。
- 飲酒時や体調が悪いとき、病気や妊娠しているときは、トラクタを運転しないでください。

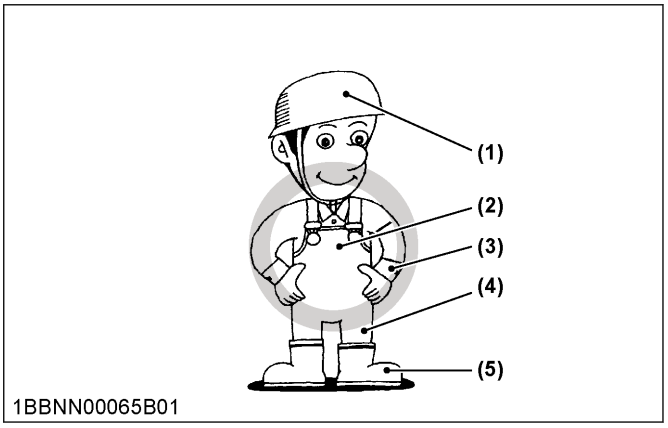


1BBNN00064A01

2. 作業に適した服装

- ダブダブの衣服やかさばった衣服を着用しないでください。
  回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。
  安全のため、ヘルメット、滑りにくい靴を着用し、必要に応じて安全靴、保護めがねや手袋などを使ってください。

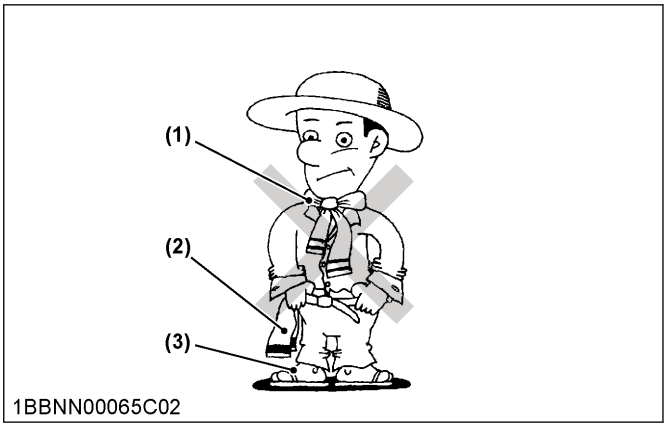
服装の良い例



1BBNN00065B01

(1) ヘルメット
(2) 活動的な服装
(3) きっちりした袖口
(4) きっちりしたスソ
(5) 滑りにくい靴

服装の悪い例



1BBNN00065C02

(1) 巻きタオル
(2) 腰タオル
(3) サンダル

3. トラクタの改造禁止

- トラクタを改造しないでください。改造すると、過度の出力アップによる動力伝達系の破損、冷却性能を超える出力の運転によるオーバーヒート、排出ガス後処理の制御不具合等、機器の破損・不具合・事故が生じます。また排ガス規制の違反になりかねません。改造に起因した事故や故障について、メーカーは一切保証しません。

4. 作業前の点検、確認

- 安全カバー類を外した状態でトラクタ、作業機を使用しないでください。
  紛失したり損傷した部品は交換してください。
  ブレーキ、クラッチ、ステアリングや安全装置などの日常点検を行い摩耗や損傷している部品があれば、交換してください。
  また、定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
  （詳細は、日常点検（135 ページ）を参照）
- トラクタは常に清掃しておいてください。

バッテリ、配線、マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。

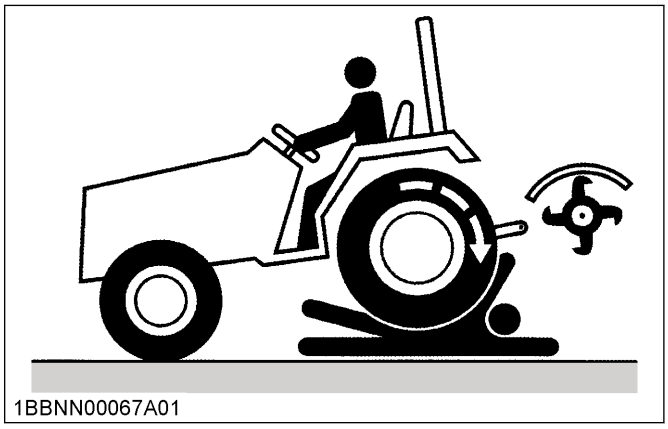
始動時の注意事項

1. レバー、スイッチ、ブレーキの確認

- エンジンを始動する前に、必ずシートに座り、シャトルレバー、PTO 変速レバーが“中立”かどうか、あんしん PTO スイッチが**[切]**かどうか、また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
- 地上に立ってエンジンを始動したり、スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
  トラクタが突然動き出すおそれがあります。

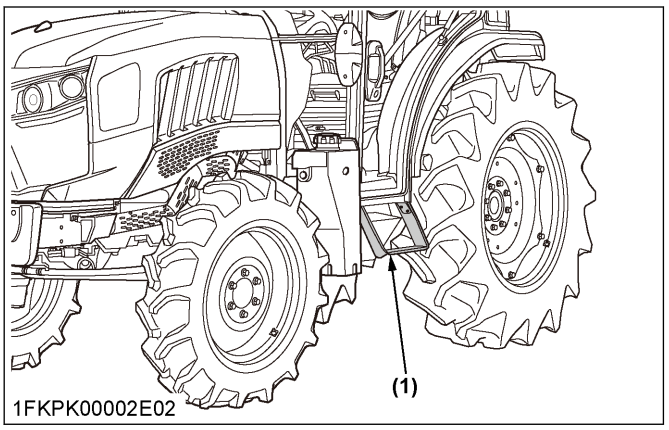
2. 周囲の安全確認

- トラクタを始動、運転するときは前後左右をよく確認し、付近に人（特に子供）を近づけないでください。
  もし変速ギヤが入っていると車体が動いたりロータリが回転したりして事故になるおそれがあります。
  また、安全キャブや安全フレームに当たる障害物が無いかも確認してください。


1BBNN00067A01

乗降時の注意事項

- 乗り降りは補助ステップを使ってください。
  補助ステップを使わないと転倒のおそれがあります。



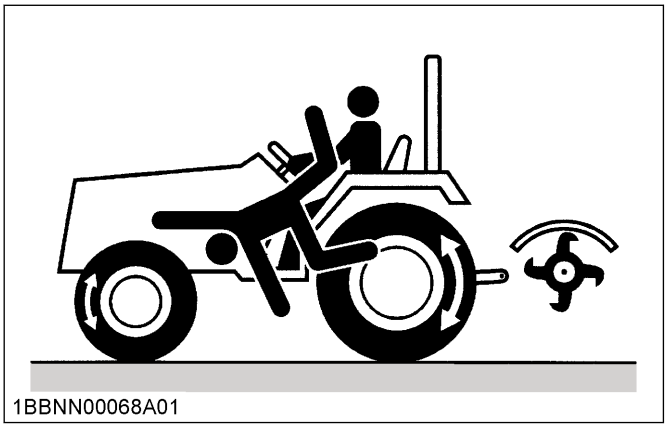
1FKPK00002E02

(1) 補助ステップ

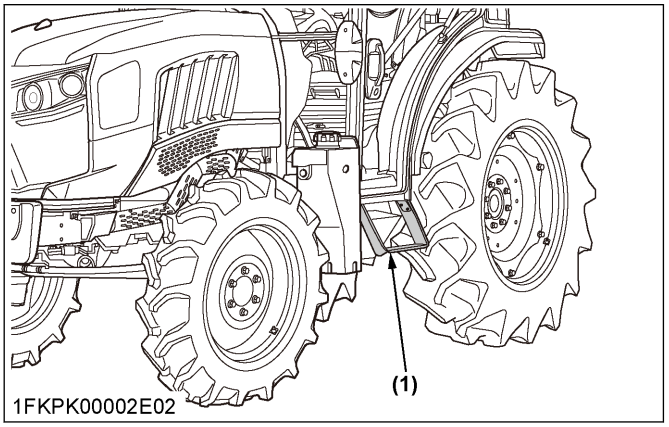
運転時の注意事項

1. 同乗禁止

- 子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。
  また、必ずシートに座って運転してください。


1BBNN00068A01

- トラクタの運転中は、絶対に他の人を補助ステップに乗せないでください。補助ステップに乗ると、過大な力による補助ステップの破損や滑りによる転落で、後輪タイヤに巻き込まれるなど重大な死傷事故を引き起こすおそれがあります。

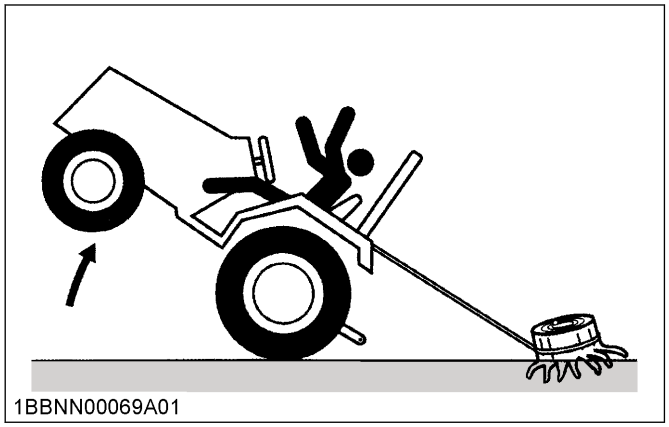


1FKPK00002E02

(1) 補助ステップ

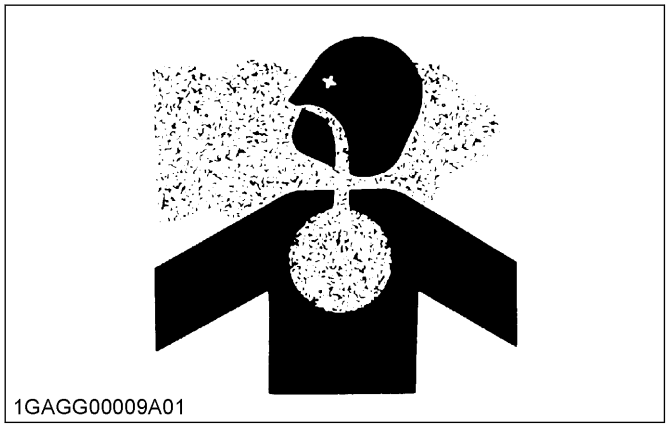
2. けん引作業時の注意

- けん引作業には、別売のけん引ヒッチを用い、絶対に車軸やトップリンクブラケットなどで引っ張らないでください。
  トラクタの破損や転覆の原因となります。


1BBNN00069A01

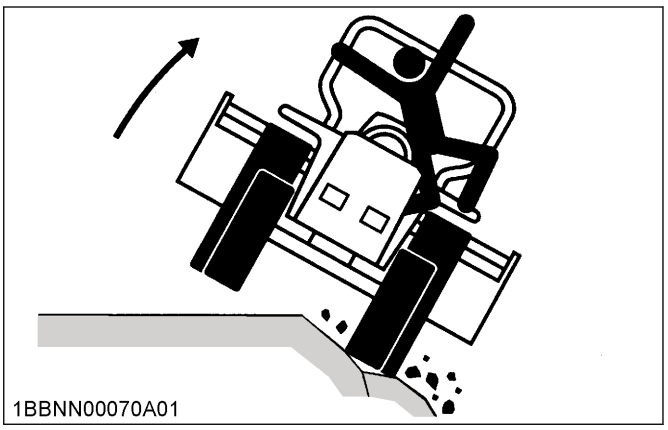
3. 屋内で運転するとき

- 換気が不十分な所では、暖機運転や作業はしないでください。
  排ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。


1GAGG00009A01

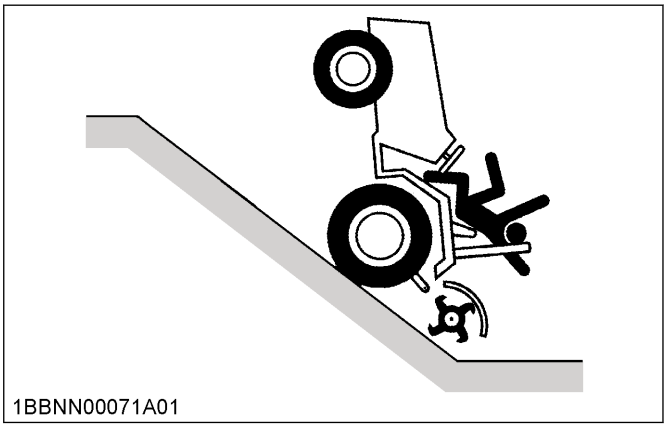
4. 運転に不適切な場所

- 溝や穴の近く、路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
  また、草の繁ったところや水たまりなどには、隠れて見えない窪地がある場合があり、トラクタが落ち込むと転倒することがあります。そういう所は必ずトラクタから降りて確認してください。


1BBNN00070A01

5. 後方転覆の危険、共同作業時の注意

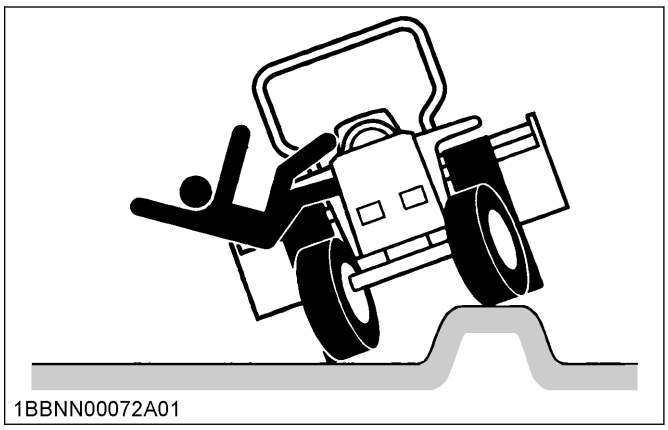
- 溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり、急な坂を前進で登るとトラクタが後方に転覆する危険があります。このような所では、バックで運転してください。


1BBNN00071A01

- 共同で作業をするときは、声をかけあって、お互いにしようとしている事を知らせてください。

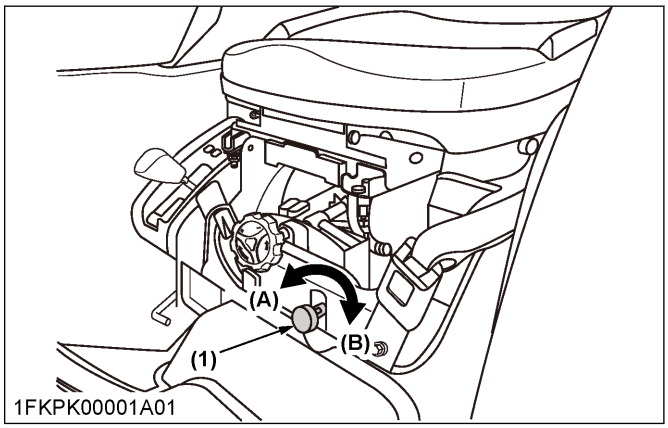
6. ほ場の出入り

- ほ場の出入りなどで、急傾斜の上り降りや溝越えは、低速にして直角に進行してください。その際、必ず連結解除ペダルロックレバーを“ロック”位置にするとともに、デフロックの解除を確認してください。



7. ほ場外での作業機落下防止

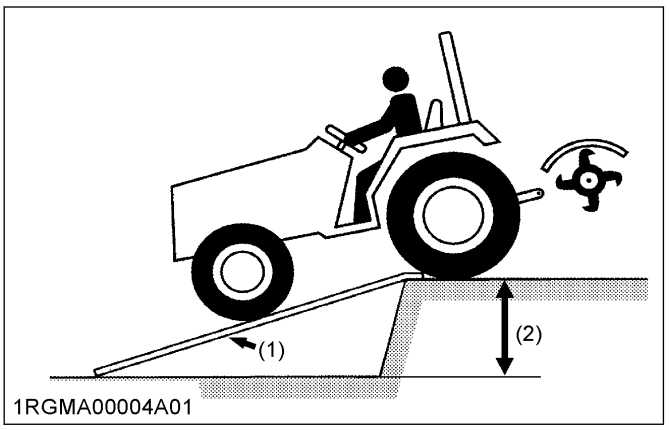
- ほ場外では、落下速度調整グリップで油圧ロック（停止）をして作業機の落下を防止してください。
“遅い”方向に締めきるとロック（停止）します。



(1) 落下速度調整グリップ　*(A)* 開　*(B)* 止

8. あゆみ板の使用、途中変速の危険

- ほ場の出入りなどで、高低差の大きい急傾斜の登り降りや、溝越えが必要な場合、あゆみ板を使用し、確実に固定してから低速で行ってください。
あゆみ板は段差の 4 倍以上の長さの物を使用してください。

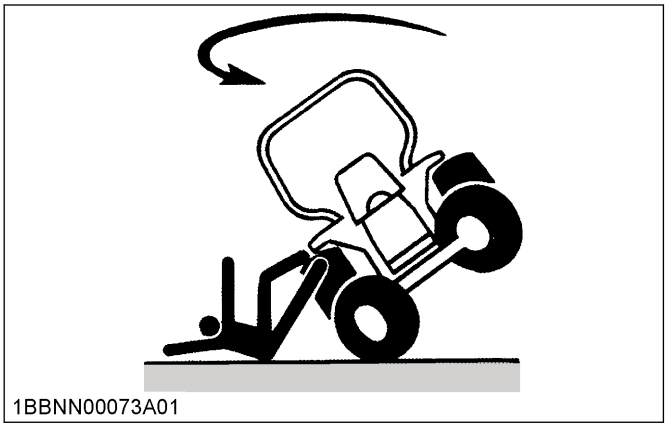


(1) あゆみ板　*(2)* 段差

- 急な坂道、車両への積込み積降ろし、ほ場への出入り、あぜの乗越えなどでは途中で変速すると危険ですので、あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて運転してください。

9. 急旋回禁止

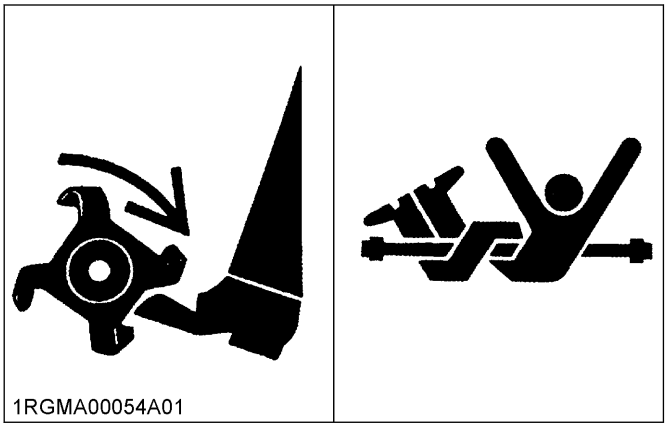
- ほ場以外や高速走行時、倍速ターンおよび AD 倍速ターンを使用すると、旋回時急に回り事故を引き起こすおそれがあります。
必ず走行モード切換スイッチを**[2WD]**または**[4WD]**に切り換えてください。



作業機使用時の注意事項

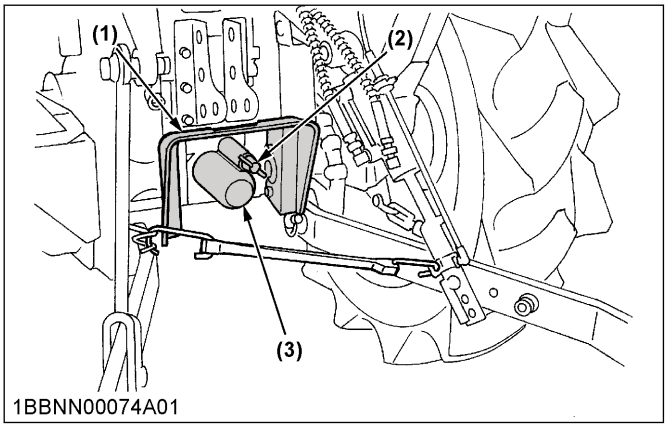
1. 作業機の着脱

- 作業機の着脱は、平たんで安全な場所で行ってください。
- トラクタから降りるときや、ロータリなど PTO 作業機の装着、取外し、調整、掃除、または修理をするときは、作業機が完全に止まるまで待ってください。


1RGMA00054A01

2. PTO 軸の保護と回転数

- PTO を使用しないときは、PTO 軸キャップを装着しておいてください。
- PTO 軸カバーは常に取り付けておいてください。
- PTO 作業機は、その作業機で定められた PTO 回転以上で使用しないでください。
  機械の破損や人身事故のおそれがあります。

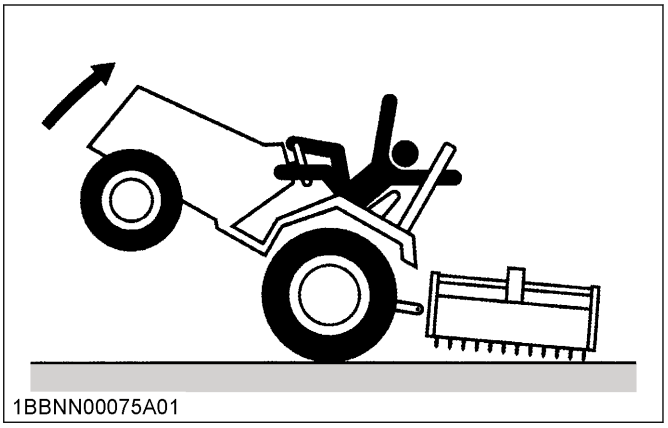


1BBNN00074A01

(1) PTO 軸カバー
(2) 蝶ボルト
(3) PTO 軸キャップ

3. 転倒防止のための重量バランス

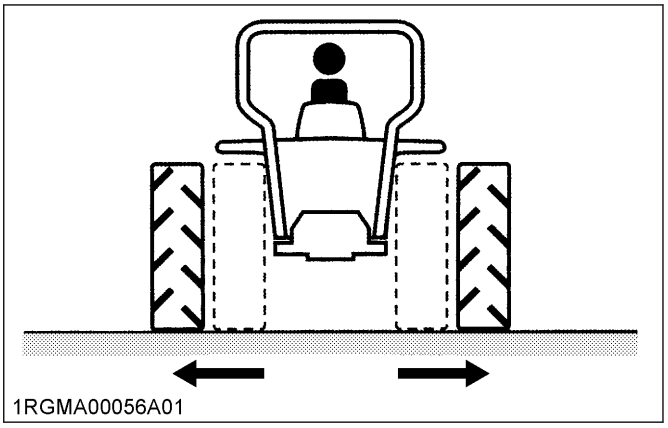
- トラクタ後部用作業機を装着したとき、かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20%以上になるようにバランスウエイトを装備し、使用してください。
  前部が軽くなりすぎると、操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります。


1BBNN00075A01

- 作業機はトラクタに推奨されている物を使用してください。
  大きすぎたり、小さすぎたりしてバランスの悪い作業機は機械の破損や人身事故にもつながります。
  詳細は購入先にご相談ください。

4. 傾斜地作業、フロントローダ作業時の注意

- 傾斜地作業、フロントローダ作業などでは、安定を良くするために、支障の無い範囲で輪距（タイヤ中心間の距離）を大きくしてください。

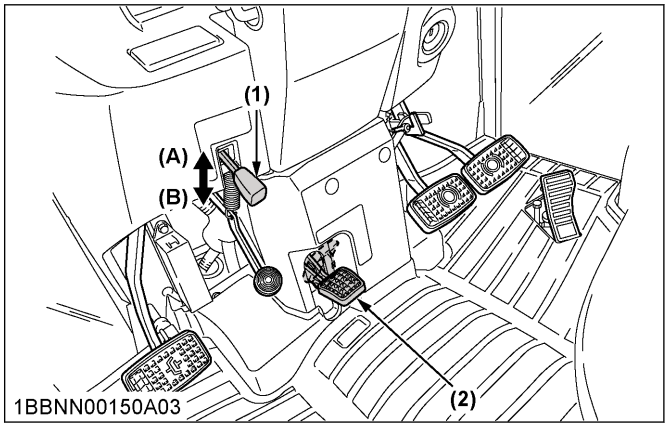

1RGMA00056A01

道路走行時の注意事項

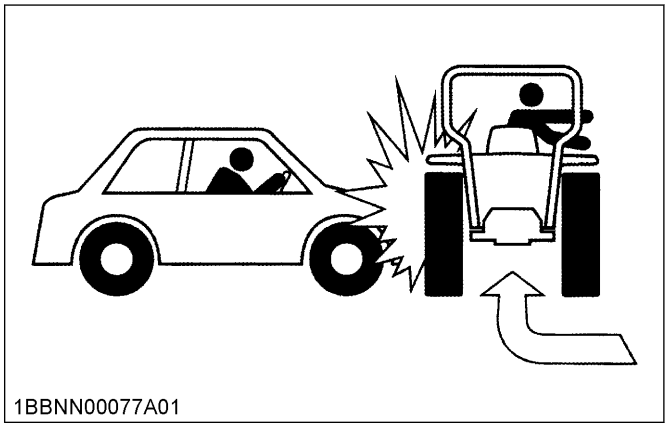
1. ブレーキペダルの使用方法

- 道路走行時は、連結解除ペダルロックレバーを“下げ”、連結解除ペダルが踏めないことを確認してください。
  高速走行で誤って片ブレーキをかけるとトラクタが振られ、転倒や交通事故のおそれがあります。

道路走行時は連結解除ペダルロックレバーを必ず下げる



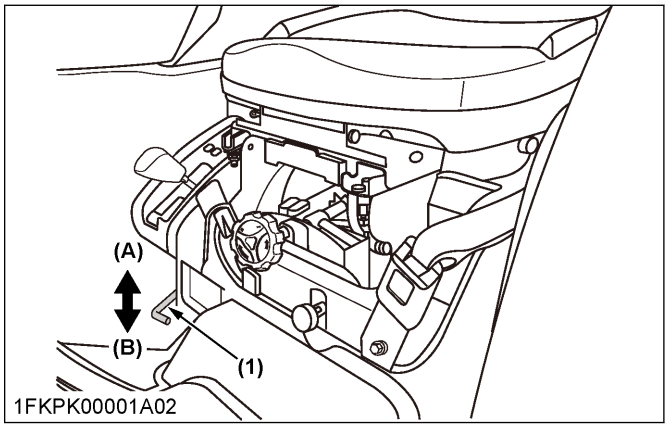
(1) 連結解除ペダルロックレバー
(2) 連結解除ペダル
(A) ロック解除
(B) ロック（格納）



- 信号待ちなどの一時停止時はブレーキペダルを踏んだままにしてください。

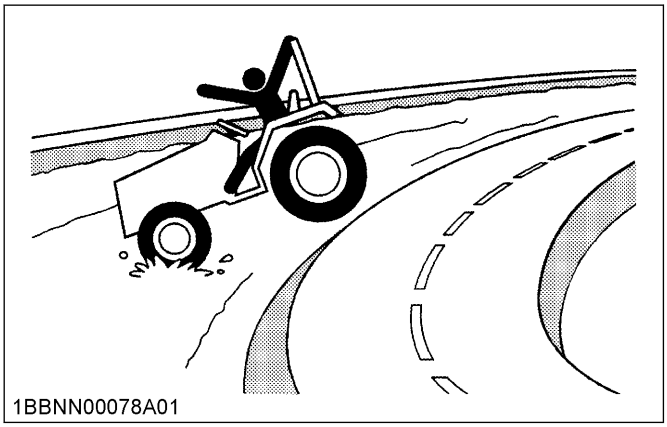
2. デフロックの禁止、旋回速度注意

- 道路走行時は絶対にデフロックを使用しないでください。
  ハンドル操作ができなくなります。



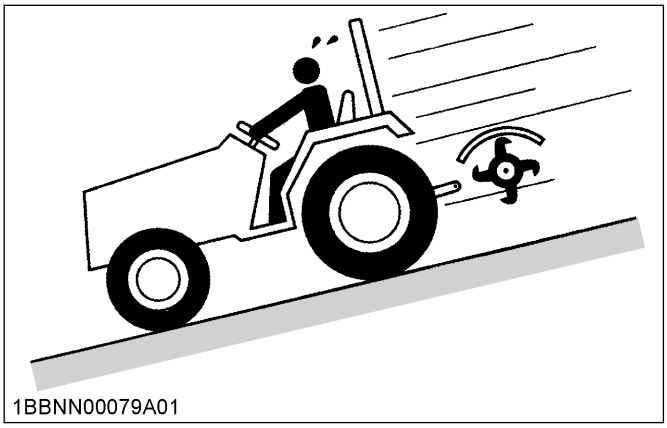
(1) デフロックペダル
(A) 離す（解除）
(B) 踏む（ロック）

- 旋回する前にはトラクタの速度を落としてください。
  高速で旋回するとトラクタが転倒するおそれがあります。



3. 坂道走行、交通法規遵守

- 坂を降りるとき、クラッチを切ったり、変速を“中立”にして惰性で走行しないでください。
  操縦ができなくなるおそれがあります。

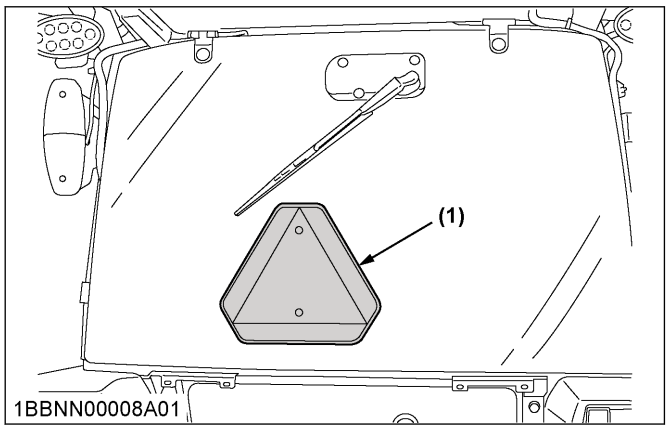


- インプルメントやアタッチメントを装着した状態では、[道路運送車両法の保安基準] を満たしていなければ道路走行することはできません。インプルメントやアタッチメントと、トラクタとの組み合わせごとに、[保安基準] を満たしていることの確認が必要です。
- 交通や安全規則を守ってください。
  運転免許証は、必ず携行してください。

4. 低速車(SMV)マークの表示

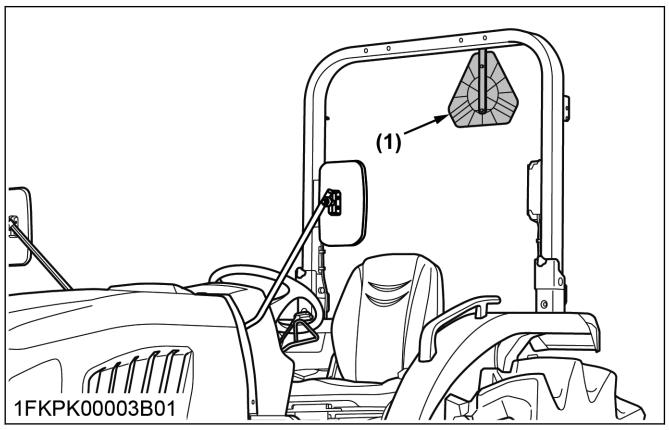
- 公道走行時は後続車に低速農耕車が走行していることを知らせる**低速車(SMV)マーク**を取り付けてください。
  また、夜間ヘッドライトに**低速車(SMV)マーク**がよく反射するように、マークは常に清掃しておいてください。

安全キャブ仕様



(1) 低速車*(SMV)*マーク

安全フレーム仕様

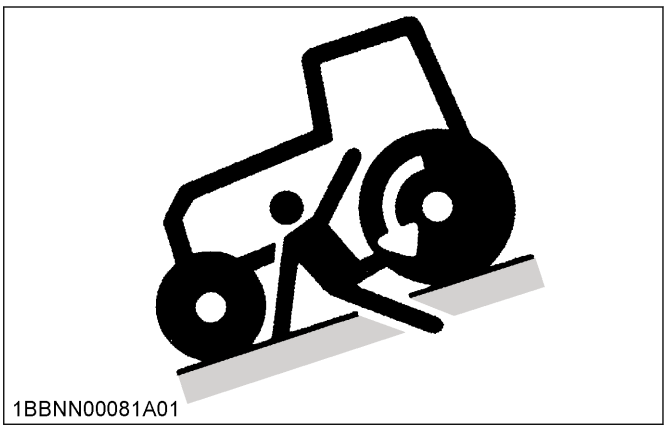


(1) 低速車*(SMV)*マーク

駐車、格納時の注意事項

1. 駐車場所、レバーの状態、シートをかける方法

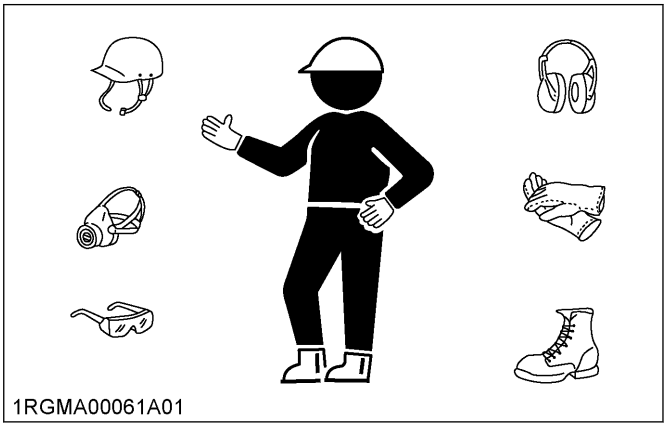
- 駐車するときは、平たんでトラクタが安定する場所を選び、PTO を“切”、作業機を“下げ”、各変速レバーを“中立”、駐車ブレーキを“掛け”、エンジンを“停止”してキーを“抜いて”ください。
  やむをえず坂道で駐車する場合は、タイヤに車止めをしてください。
- 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には、駐車しないでください。
- 格納などでトラクタにシートをかける場合は、マフラやエンジンがじゅうぶん冷えてから行ってください。



点検時、給油時、整備時の注意事項

1. 適した服装、安全確認

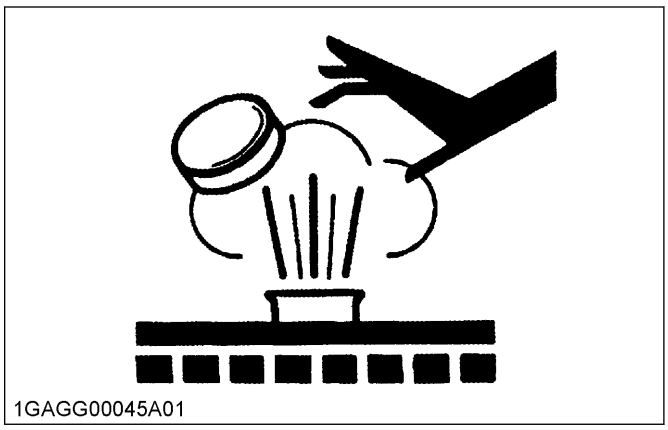
- 点検整備には帽子と安全な服装を着用してください。
  作業内容によってはヘルメット、安全靴、保護めがね、防塵マスク、防音具、保護手袋などの保護具を着用してください。
  各保護具は使用前に機能を確認してください。

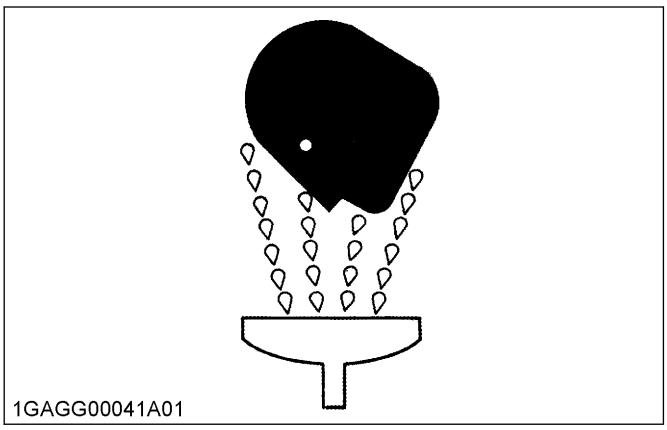


- エンジンを停止し、キーを抜き安全を確認してから作業を行ってください。

2. エンジン停止時の注意

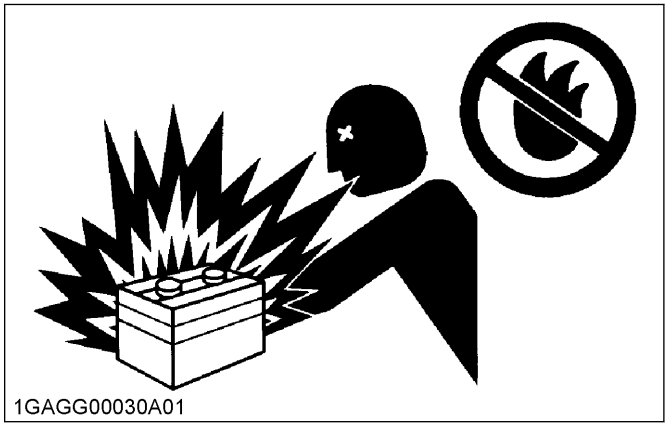
- 平たんな場所に駐車し、作業機を“下げ”、駐車ブレーキを“掛け”、各変速レバーを“中立”にし、そしてエンジンを“停止”してキーを抜いてください。
- エンジン、マフラ、ラジエータなどがじゅうぶん冷えてから点検整備してください。ヤケドのおそれがあります。


1GAGG00045A01


1GAGG00041A01

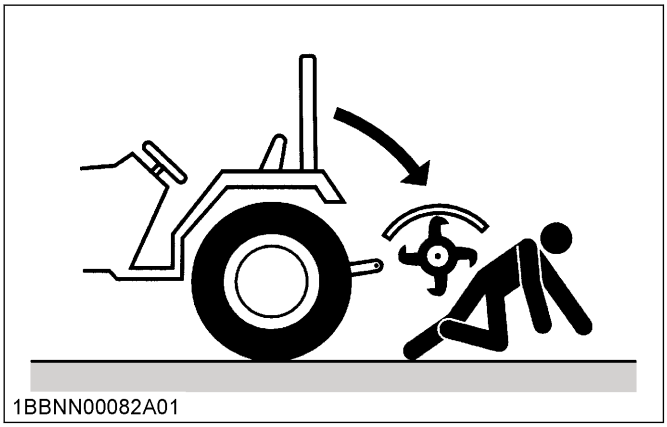
3. バッテリの取扱い

- バッテリを充電しているときは、タバコを吸ったり、火を近づけないでください。
  バッテリは充電中可燃性ガスが発生し、引火爆発のおそれがあります。
- 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは、取扱方法をよく読みそれに従ってください。
  （詳細は、バッテリあがりの処置（58 ページ）を参照）
- バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
  LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。
  補水可能なバッテリの場合、すぐに UPPER LEVEL（上限）と LOWER LEVEL（下限）の間に補水してください。
- バッテリを外すときは、短絡事故を防ぐため、最初にバッテリのマイナスコードを外し、接続するときは最後に接続してください。
- バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し、体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って、速やかに医師の診療を受けてください。


1GAGG00030A01

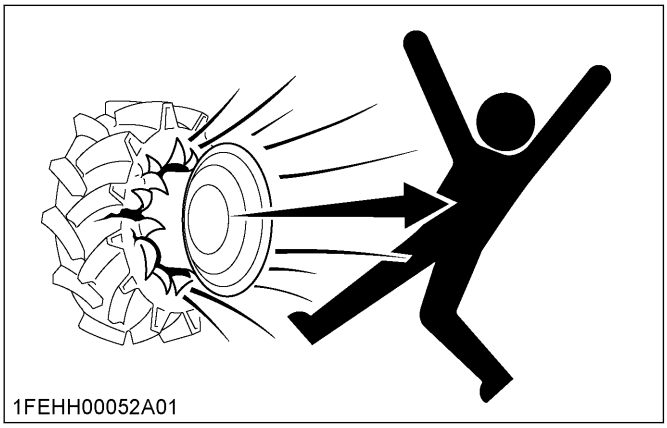
4. 3 点リンク作業機の注意

- 3 点リンク作業機を上げた状態で点検整備を行う場合、必ず落下速度調整グリップで作業機が落下しないようにロック（停止）してください。ロック（停止）するとともに適切なジャッキまたはブロックで歯止めをし、落下防止を行ってください。


1BBNN00082A01

5. タイヤの確認

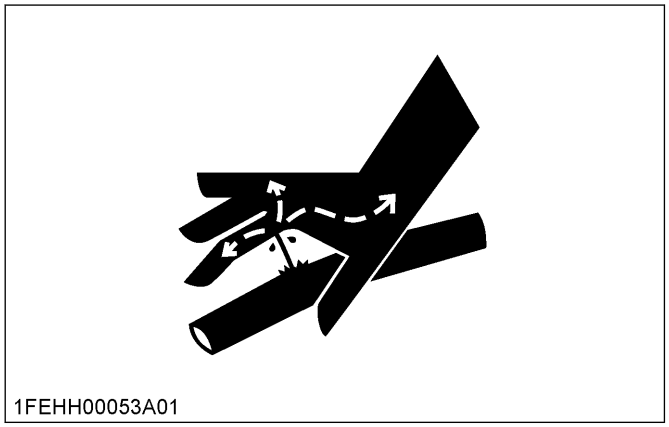
- タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
  空気の入れ過ぎは、タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。


1FEHH00052A01

- タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。
  タイヤ破裂のおそれがあります。
- タイヤ、チューブ、リムなどの交換、修理は、必ず購入先にご相談ください。
  特別教育を受けた人が行うように、法で決められています。

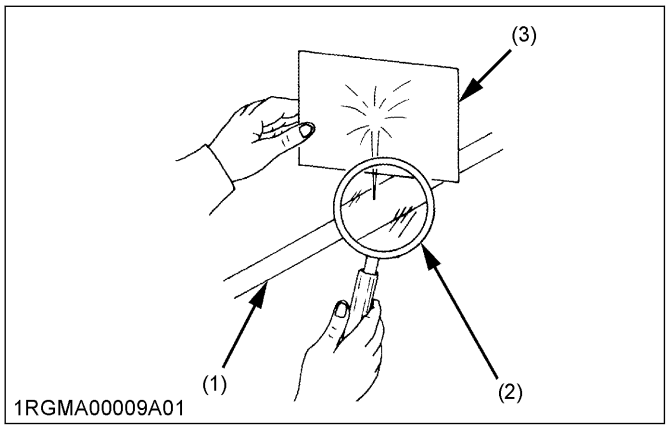
6. 油圧部品を外すときの注意

- 圧力がかかり噴出した油は、皮膚を貫通するほどの力があり、傷害の原因になります。油圧部品を外すときは、必ず残圧を抜いてください。


1FEHH00053A01

7. 油漏れの点検

- 見えない小さな穴からの油漏れを探すときは、保護めがねをかけ、ボール紙などを利用してください。
  万一、油が皮膚を貫通したときは、強度のアレルギーを起こすおそれがあるので、すぐ医師の診療を受けてください。



1RGMA00009A01

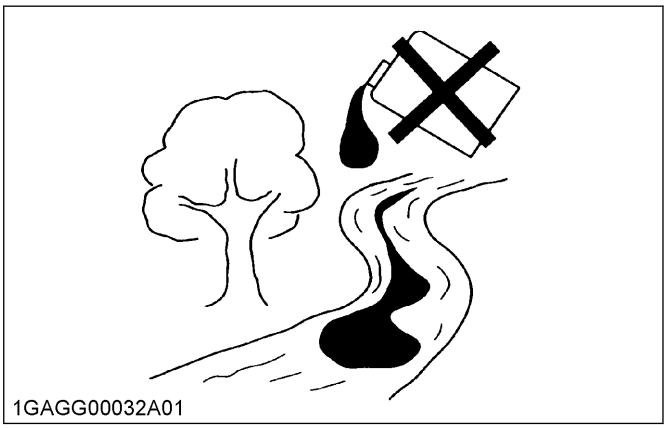
(1) 高圧ホース
(2) 虫めがね
(3) ボール紙

8. 後輪を浮かせての始動禁止

- 点検、整備時に、後輪だけを地面から浮かせた状態にしてエンジンを始動させないでください。ブレーキを踏むと前後輪を連結状態にする機構になっていますので前輪が回転し、トラクタが動き出すおそれがあります。

9. 廃棄物の処理

- 廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
  - 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
  - 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
  - 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、尿素水(AdBlue)、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先、または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。


1GAGG00032A01

10. コモンレール仕様の注意事項

- コモンレール仕様エンジンには高電圧や高圧力の燃料が通る部分があります。
  次の注意事項を守らないと、感電事故や高圧燃料の漏れによるケガをするおそれがあります。
  - 掃除などでエンジンを制御する電子部品や、そのコネクタ、ハーネスを触る場合は、キースイッチを**[切]**位置にしてください。
  - エンジンの高圧燃料が通る部品は、分解や修理を行わないでください。
    付近のボルト、ナット類もゆるめないでください。
    高圧燃料が通るのは、燃料噴射ポンプからインジェクタの間です。
  - エンジンの不調時は、購入先にご相談ください。

11. ディーゼルパーティキュレートフィルタについての注意事項

- ディーゼルパーティキュレートフィルター(DPF)再生中は排ガスや DPF が高温になります。やけどや

周囲のわらくず、異物などの発火、溶解に注意してください。
以下本文中ではディーゼルパーティキュレートフィルターを DPF と表記します。
- 高温の排ガスが当たらないようにトラクタの周囲に人や可燃物を近づけないようにしてください。
- 火災防止のため、DPF マフラの周囲は可燃物を取り除き常にクリーンにしておいてください。
- DPF 再生中は白煙が発生する場合がありますので、換気の悪い場所では再生を行わないでください。
- DPF 再生中はトラクタから離れないでください。

12. 排気管周辺の注意事項

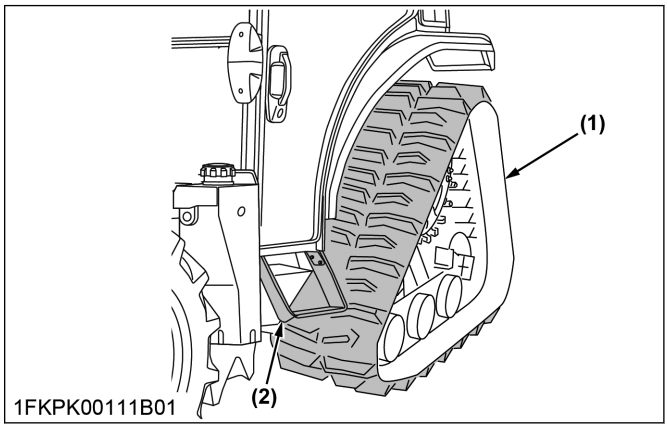
- 枯草、小枝などがボンネット内に入り込んだり、触媒や排気管に触れて発火するおそれがあります。作業後、高圧洗浄後などは、排気管周辺に燃えやすいものがないかじゅうぶん注意してください。

[パワクロ仕様]についての注意事項

[パワクロ仕様]の場合の特別な注意事項を記載しています。他項の注意事項と合わせてよく読み理解したうえで、安全な作業をしてください。

1. 乗り降り時の注意［パワクロ仕様］

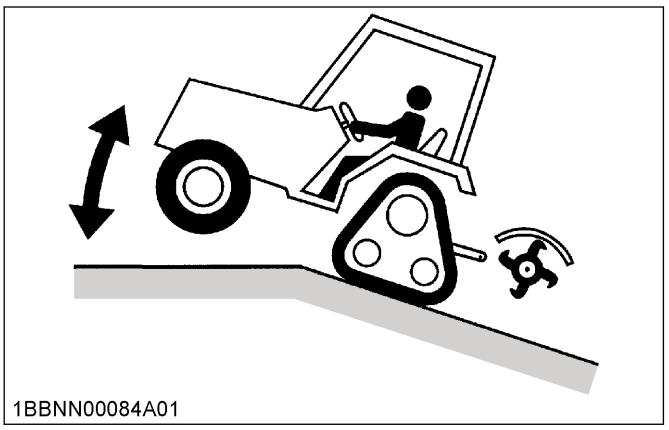
- 乗り降りは補助ステップを使ってください。クローラに足をかけるとすべって転倒するおそれがあります。



(1) クローラ　　*(2)* 補助ステップ

2. 運転時の注意［パワクロ仕様］

- 凹凸やカーブの多い所では絶対に高速走行をしないでください。ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。
- クローラ部が凸部を乗り越えるときは、急に姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。



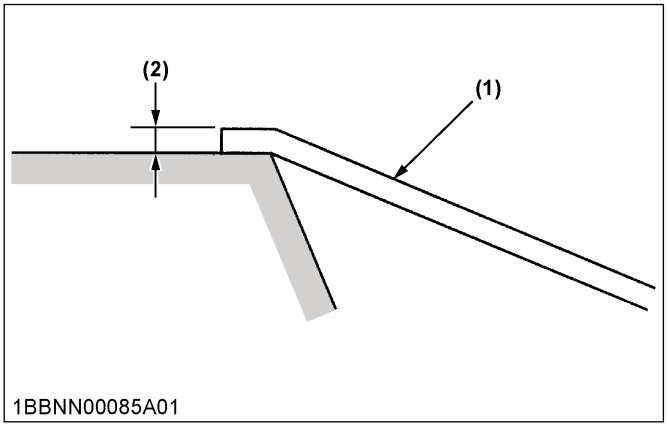
3. あゆみ板使用時の注意［パワクロ仕様］

- あゆみ板は左右の先端をそろえ、前後にずれないように確実に固定してください。
- あゆみ板とあゆみ板をかけた面との段差が大きい場合、運転には特に注意してください。
- 途中で変速すると危険ですので、あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて低速で運転してください。
- あゆみ板は、じゅうぶんな強度、幅、傾斜が 15 度以下になる長さのあるすべり止めおよび爪付きの物を使用し、パワクロの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。

傾斜が 15 度以下になる長さ	トラックの荷台高さ、あるいはほ場乗入れ部高さの 4 倍以上

ほ場への出入り

- クローラの片側だけが段差に引っかかり乗り上がらない状態になった場合、いったん車両をもとに戻し、あゆみ板をかけ直してはじめからやり直してください。



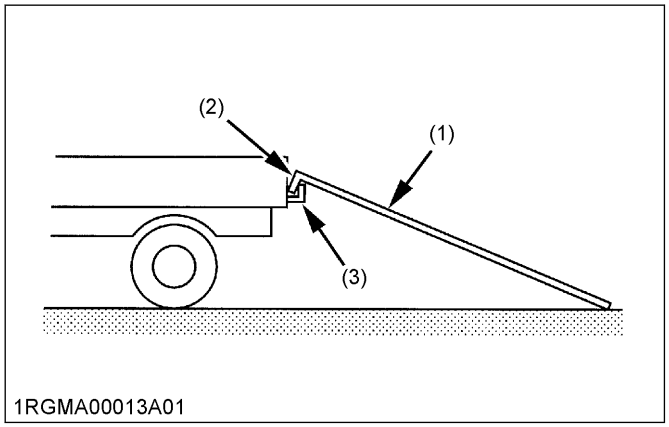
(1) あゆみ板　　*(2)* 段差

作業時

- クローラの構造上、左右に大きな段差のある状態で作業を行うと、クローラが外れる場合があります。プラウ作業などで片側のクローラを溝に落としての作業は行わないでください。

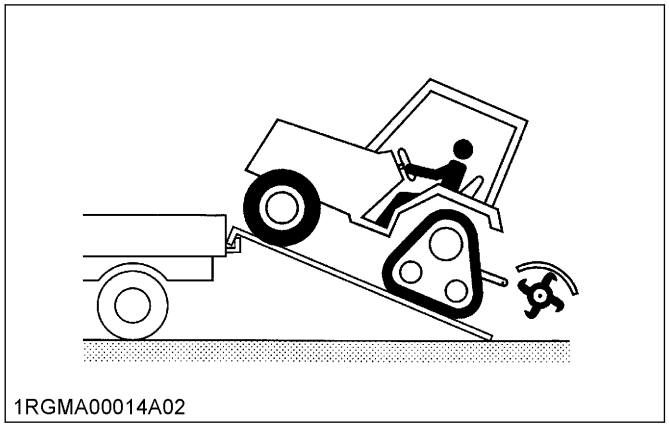
トラックへの積み、降ろし

- トラックは荷台後部にあゆみ板の爪をかけるフックが付いた物を使用してください。



(1) あゆみ板　　*(3)* フック
(2) 爪

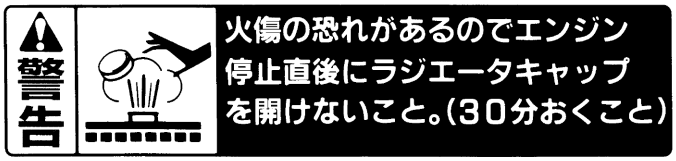
- トラックへの積み、降ろしは、必ず左右のブレーキペダルを“連結”し、“前進で積み込み、後進で降ろして”ください。前進で降りると、クローラがあゆみ板の段差ですべり、前輪が浮いて車体が旋回し、転倒事故につながるおそれがあります。



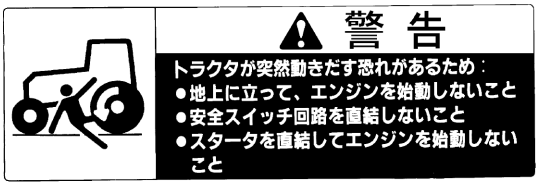
安全ラベル

1. 安全ラベルと貼付け位置

(1) 品番 99870005881



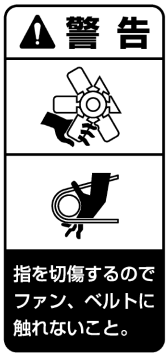
(2) 品番 99660027950

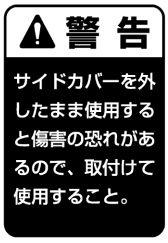


(3) 品番 99790002351［MF（メンテナンスフリー）バッテリ］



(4) 品番 95340000670

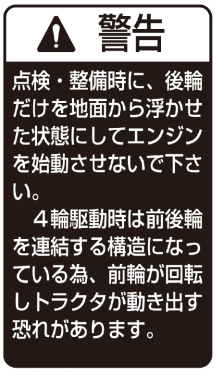




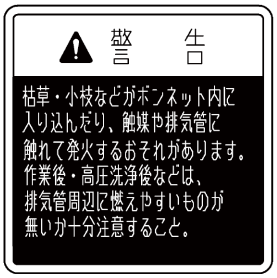
(5) 品番 95340000680

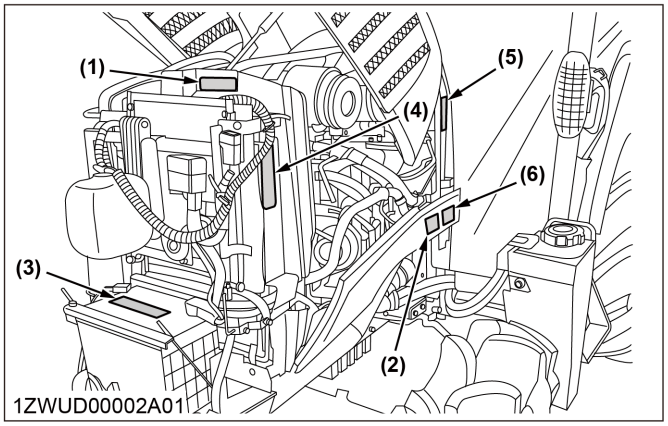


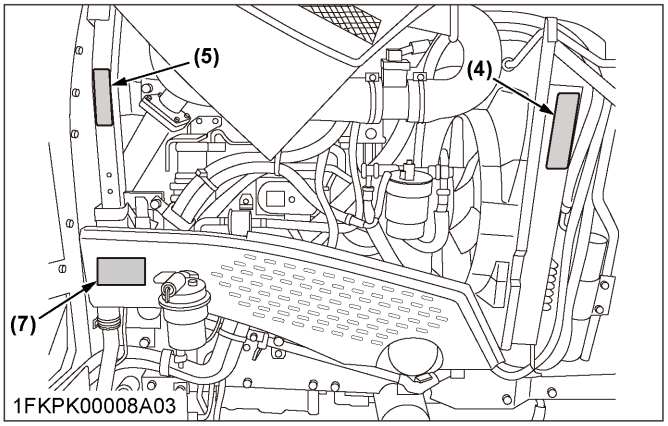
(6) 品番 95340000540



(7) 品番 95270000250







1ZWUD00003A01jaJP

⚠ 安全に作業をするために

(1) 品番 95340000730
［安全キャブ仕様］

⚠ 警 告

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください

始動時
- シートにすわり、ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にすること
- 前後左右に人がいないことを確認すること

運転時
- 運転者以外に人を乗せないこと
- 排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので換気の不十分な所で使用しないこと
- 溝や穴のちかく、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
- 急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り、畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと
- 道路走行時はデフロックを使用しないこと
- 道路走行時は低速車マークを装着すること
- 道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）

駐車時
- ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛け、エンジンをとめること

点検、整備時
- エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
- 3点リンクで作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

(2) 品番 99900007651
［安全キャブ仕様］

⚠ 警 告



転倒、転落による死傷事故軽減のために、運転時は必ずシートベルトを着用すること。

(3) 品番 95340000690

⚠ 警 告

ポンパは圃場内作業のみに使用すること。作業時以外は作業機の昇降を油圧レバーで行うこと

(4) 品番 95340000740
［安全キャブ仕様］

⚠ 警 告

巻き込まれによる死傷事故を防ぐためアップオフPTO入りの時は作業機に近づかないこと。（油圧ロックで作業機が下がらなくてもポンパ、油圧レバーの下降操作でPTOが回転します）

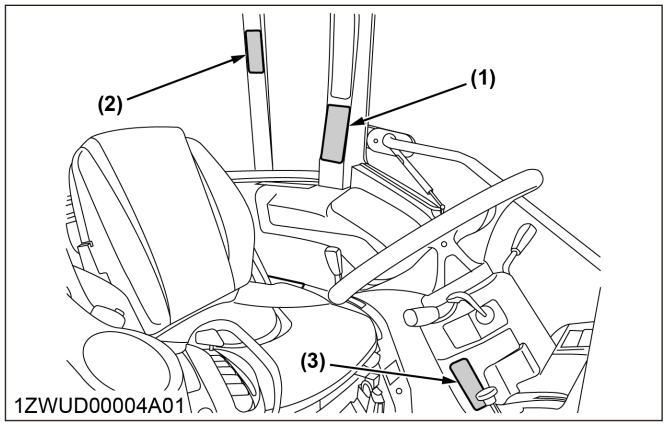
⚠ 警 告

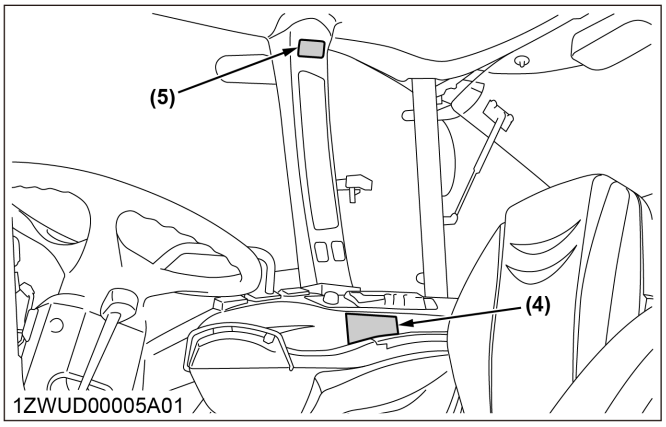
- アップオフPTOは圃場内作業以外切りにすること。
- アップオフPTOはロータリ、ハロー作業のみに使用すること。

(5) 品番 95340000560
［安全キャブ仕様］

⚠ 注 意

作業機用コントローラを掛けない時は、掛け金具（上下共）を取り外して下さい。





1ZWUD00006A01jaJP

(1) 品番 99900007772

警告
転倒や衝突による死傷事故を防ぐために、道路走行時は連結解除ペダルロックレバーをロックすること。

(2) 品番 99580009502

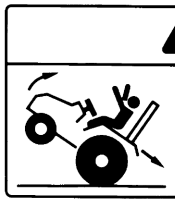


警告
転倒による死傷事故を防ぐために、圃場以外では倍速、AD倍速を使用しないこと。

(3) 品番 95340000750
［安全キャブ仕様］

⚠ 警告
低速車マークをはずしたまま公道を走行すると、追突されるおそれがあります
公道走行時は低速車マークを取り付けること

(4) 品番 99660028630［安全キャブ仕様］



⚠ 警 告
転倒による死傷事故を防ぐために、けん引は、けん引ヒッチを使用し、車軸やトップリンクブラケット等で行わないこと

(5) 品番 95340000700

⚠ 警告
- PTO軸カバーを取りはずさないこと。
- PTO軸カバーの上に乗らないこと。

(6) 品番 99660028670［安全キャブ仕様］

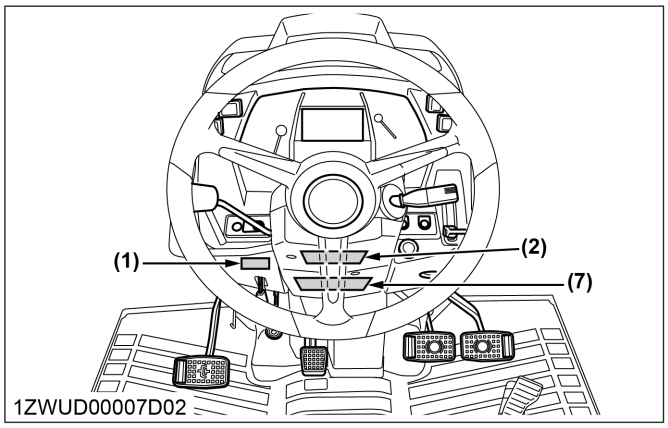


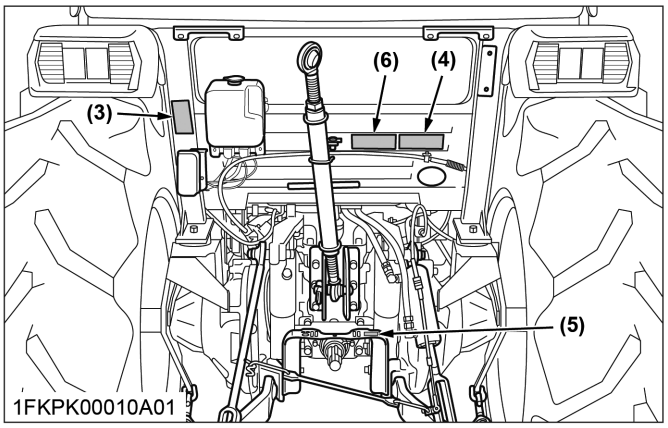
⚠ 警 告
巻込まれによる死傷事故を防ぐために
●PTO軸回転中は近づかないこと
●PTO軸を使用しないときは
PTO軸キャップを装着すること

(7) 品番 95340000490



警告
駐車後にトラクタが動く恐れがあるため必ず駐車ブレーキをかけること。
本機は変速ギヤを入れていてもエンジンをとめるとエンジンブレーキはききません。





1ZWUD00008A01jaJP

⚠ 安全に作業をするために

(1) 品番 99900007454

⚠ 警 告

本製品にはDPF(ディーゼル・パーティキュレート・フィルタ)が搭載されています。
DPFの再生処理中はマフラ、排気ガスが高温になります。
DPFの再生処理を行うときは以下のことを守ってください。

1. 納屋や倉庫など囲まれた場所で再生処理を行わないでください。
2. 再生処理中は排気管周辺から人や動植物が離れていることを確認してください。
3. 再生処理中は排気管周辺に燃えやすいものがないことを確認してください。

詳しくは取扱説明書をご覧ください。

(2) 品番 95340012550



(3) 品番 95340000600
［安全キャブ仕様］

⚠ 警 告

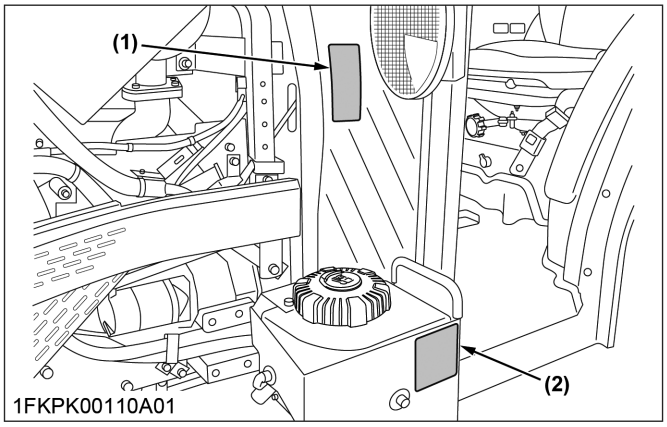
低温始動時
Uシフトでの発進遅れ
・異常ではないので変速を入れたまま降りないこと。遅れて動き出してキケンです。

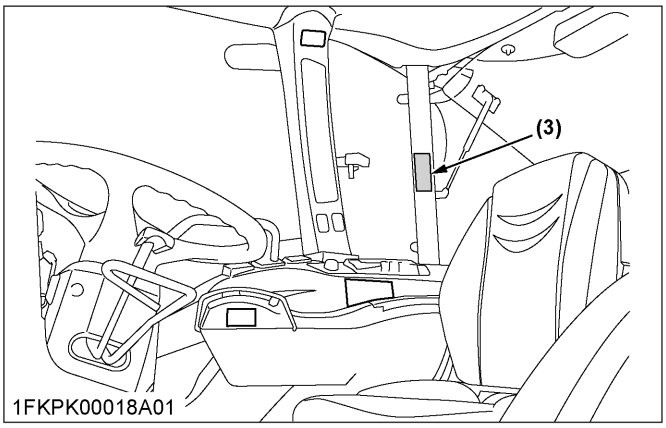
傾斜面での
Uシフト変速
・急斜面でUシフト変速を行うと、滑走するおそれがあるので低速で走行し途中変速しないこと。

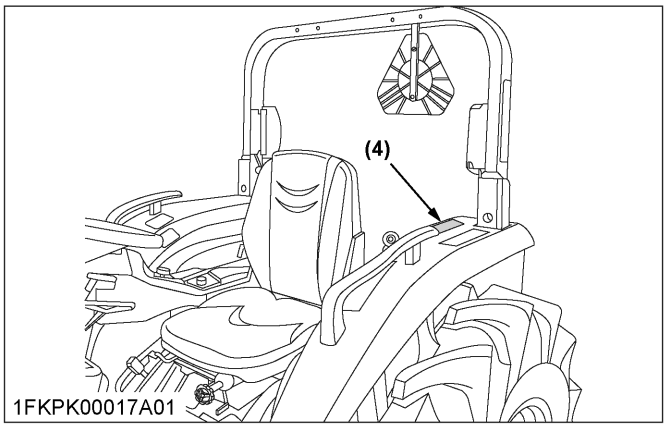
(4) 品番 95340000580
［安全フレーム仕様］

⚠ 警 告

低温始動時Uシフトでの発進遅れ
・異常ではないので変速を入れたまま降りないこと
遅れて動き出しキケンです
傾斜面でのUシフト変速
・急斜面でUシフト変速を行うと、滑走する恐れがあるので、低速で走行し、途中変速しないこと







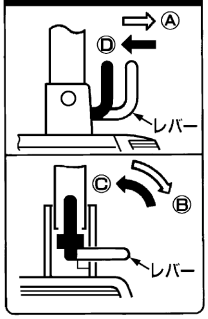
1ZWUD00009A01jaJP

(1) 品番 95340000570
［安全フレーム仕様］

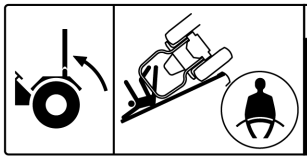
⚠ 警告

安全フレームを折りたたんだり、立てたりする時は、下記の手順を守ること。
1. エンジンを止める
2. 作業機をおろす
3. 駐車ブレーキをかける

レバーの操作方法
- 安全フレームを折りたたむ時はⒶⒷの順にレバーを倒して下さい。（左右とも外側へ）
- 立てる時はⒸⒹの順にレバーを操作し、レバーを確実に前方へ押し込んで下さい。
- 詳しくは取扱説明書をよくお読み下さい



(2) 品番 95340000640［安全フレーム仕様］



⚠ 警 告

転倒、転落による死傷事故軽減のために:
- 納屋の出入りなど安全フレームが当たる場合を除き，運転時は安全フレームを立て、確実にロックして使用すること。
- 安全フレームを立てたとき、必ずシートベルトを着用すること。
- 安全フレームを折った状態では、シートベルトを着用しないこと。

⚠ 警告

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください

始動時
- シートにすわり、ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にすること
- 前後左右に人がいないことを確認すること

運転時
- 運転者以外に人を乗せないこと
- 排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので換気の不十分な所で使用しないこと
- 溝や穴のちかく、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
- 道路走行時はデフロックを使用しないこと

運転時
- 道路走行時は低速車マークを装着すること
- 急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り、畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと
- 道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）

駐車時
- ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛け、エンジンをとめること

点検、整備時
- エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
- ３点リンク作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

(3) 品番 95340000650［安全フレーム仕様］

⚠ 警告

巻き込まれによる死傷事故を防ぐためアップオフＰＴＯ入りの時は作業機に近づかないこと。（油圧ロックで作業機が下がらなくてもポンパ、油圧レバーの下降操作でＰＴＯが回転します）

⚠ 警告

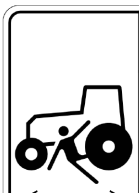
- アップオフＰＴＯは圃場内作業以外切りにすること。
- アップオフＰＴＯはロータリ、ハロー作業のみに使用すること。

(4) 品番 95340000750
［安全フレーム仕様］

⚠ 警告

低速車マークをはずしたまま公道を走行すると、追突されるおそれがあります
公道走行時は低速車マークを取り付けること

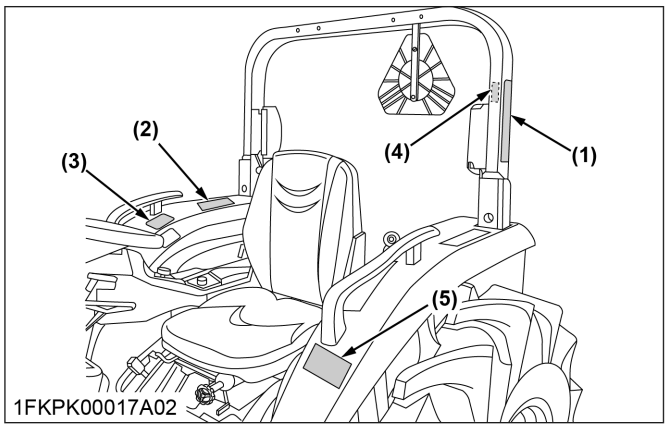
(5) 品番 95340020390
［安全フレーム仕様］

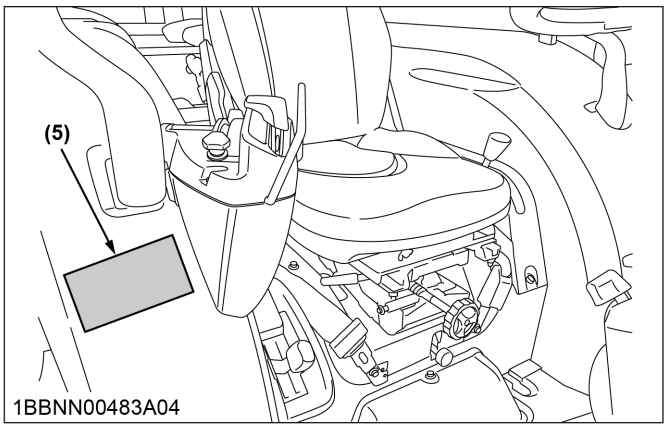


⚠ 警 告

重大な死傷事故を防ぐために絶対に運転中は他の人をステップに乗せないこと。（ステップに乗ると滑りや過大な力による破損により落下し後輪タイヤに巻き込まれる可能性があります）

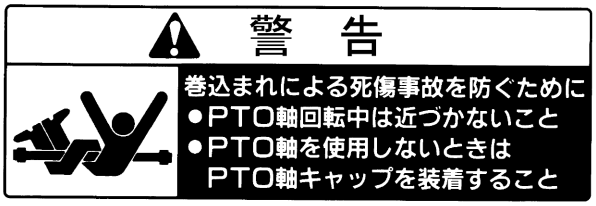




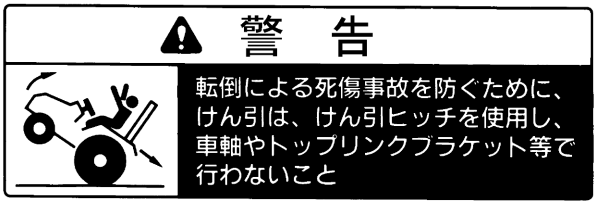


1ZWUD00010A01jaJP

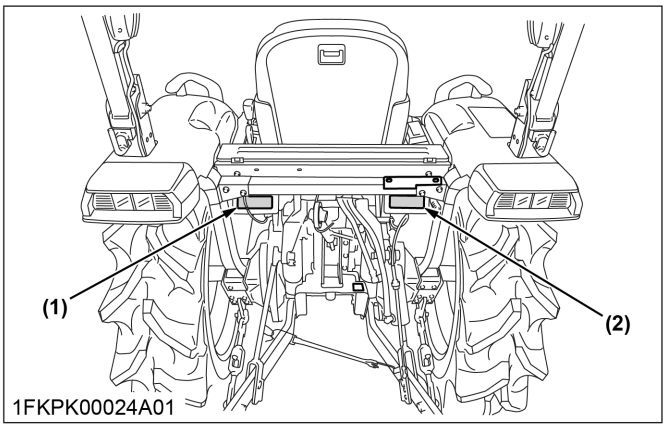
(1) 品番 99660028670［安全フレーム仕様］



(2) 品番 99660028630［安全フレーム仕様］



1ZWUD00011A01jaJP



2. 安全ラベルの手入れ

- ラベルは、いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
  もしラベルが汚れている場合は、石鹸水で洗い、やわらかい布で拭いてください。
- 高圧洗浄機で洗車すると、高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
- 破損や紛失したラベルは、製品購入先に注文し、新しいラベルに貼り替えてください。
- 新しいラベルを貼る場合は、貼付け面の汚れを完全に拭き取り、乾いた後、もとの位置に貼ってください。
- ラベルが貼り付けられている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証

この製品には、保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

ご相談窓口

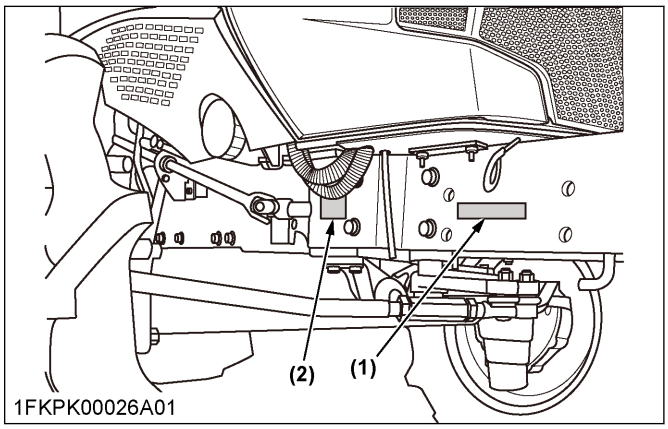
⚠ 警告

- **機械の改造は危険ですので、改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。**

ご使用中の故障やご不審な点およびサービスについてのご用命は、お買上げいただいた購入先にそれぞれ“ご相談窓口”を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際銘板に記載している次の事項を併せてご連絡ください。

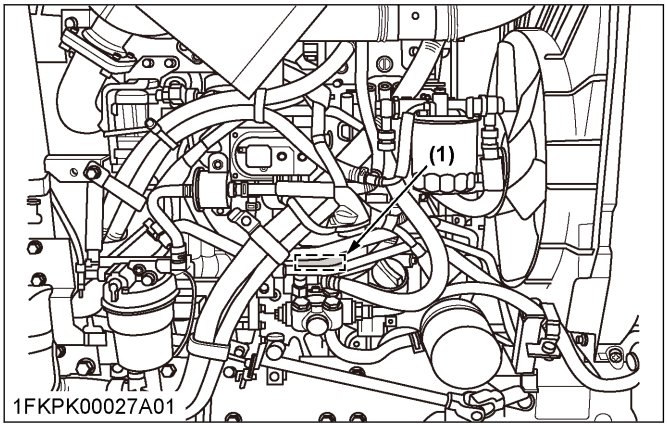
- 型式名
- 製造（車台）番号

なお、部品ご注文の際は、購入先に純正部品表を準備しておりますので、そちらでご相談ください。

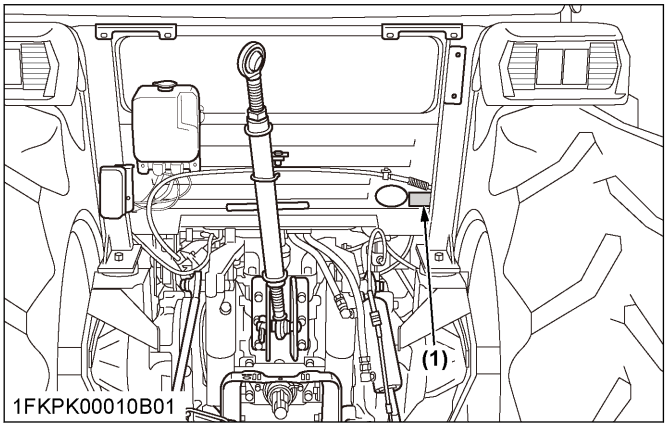




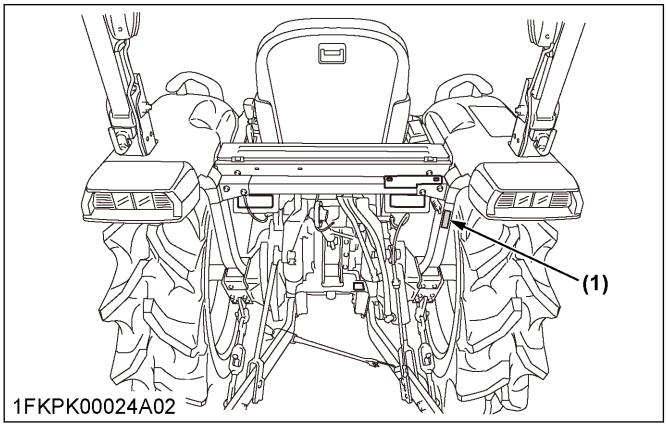
(1) 製造（車台）番号　　*(2)* 銘板



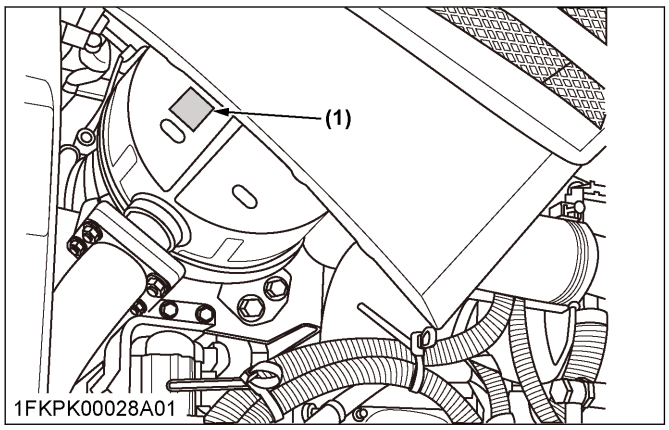
(1) エンジン番号



(1) 安全キャブ銘板



(1) 安全フレーム銘板



(1) *DPF* 番号

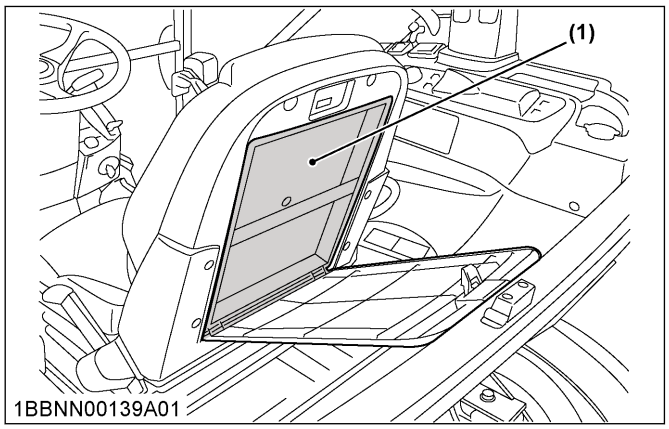
補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打切り後 12 年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に既記の供給年限で終了致しますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

取扱説明書の収納

取扱説明書類は付属のビニール袋に入れ、取扱説明書収納場所に収納し、常時携帯してください。

- 収納場所近辺を洗車する場合は、冊子を取り出してから洗車をしてください。
- 紙類は吸湿により変形や変色が生じやすいため、長期格納時は室内に保管することをお奨めします。



(1) 取扱説明書収納場所

農機型式名一覧表

型式名(商品名)	農機型式名	安全性検査番号	安全キャブ・フレーム検査合格型式名	小型特殊自動車車両型式名	型式認定番号	公道走行(トラクタ単体時)に必要な免許*1
GJE28	クボタ SL280F	申請中	クボタ KSF28S	クボタ YDM-SL2A	–	小型特殊自動車免許
GJE28X	クボタ SL280F	申請中	クボタ KSQ28S	クボタ YDM-SL2A	–	小型特殊自動車免許
GJE35	クボタ SL350F	申請中	クボタ KSF35S	クボタ YDM-SL2A	–	小型特殊自動車免許
GJE35H	クボタ SL350F	申請中	クボタ KSF35S	クボタ YDM-SL2A	–	大型特殊自動車免許
GJE35X	クボタ SL350F	申請中	クボタ KSQ35S	クボタ YDM-SL2A	–	小型特殊自動車免許
GJE35HX	クボタ SL350F	申請中	クボタ KSQ35S	クボタ YDM-SL2A	–	大型特殊自動車免許
GJE35HXN	クボタ SL350F	申請中	クボタ KSQ35S	クボタ YDM-SL2A	–	大型特殊自動車免許
GJE35KHX	クボタ SL350F-PC	申請中	クボタ KSQ35S-PC	クボタ YDM-SL2A	–	大型特殊自動車免許

*1　記載の「必要な免許」はトラクタ単体での公道走行時に必要な免許です。[作業機付きトラクタの公道走行]は、装着作業機により必要な免許が異なります。

小型特殊自動車としての取扱い

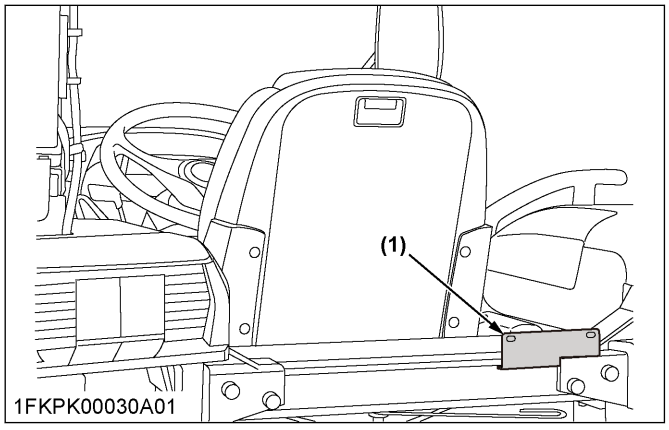
このトラクタは、道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバープレート）の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は、市町村条例により、その取得したことを市町村役所に届けて、標識（ナンバープレート）の交付を受けなければなりません。
手続きは市町村により異なりますので、詳細は購入先にご相談ください。

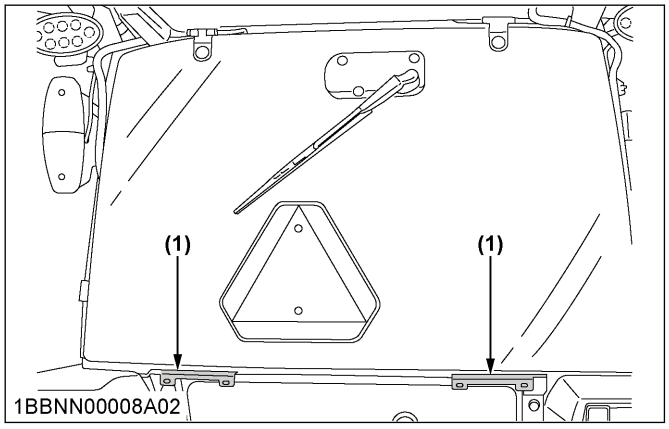
1. 小型特殊自動車を購入したときは、購入先で発行してもらう販売証明書などに、軽自動車税を添えて市町村役所に届け出ます。
2. 届出が済むと標識（ナンバープレート）が交付されます。
3. 標識（ナンバープレート）は、車体の取付け位置に取り付けてください。

安全フレーム仕様



(1) 標識（ナンバープレート）取付け位置

安全キャブ仕様

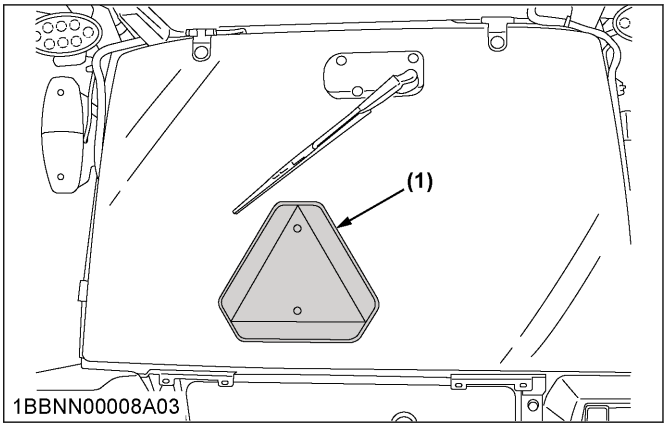


(1) 標識（ナンバープレート）取付け位置

低速車(SMV)マーク

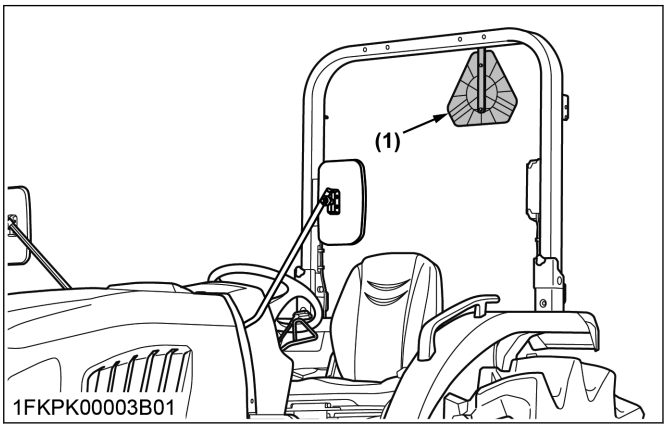
公道走行時は後続車に低速農耕車が走行している事を知らせる**低速車(SMV)マーク**を取り付けてください。

安全キャブ仕様



(1) 低速車*(SMV)*マーク

安全フレーム仕様



(1) 低速車*(SMV)*マーク

運転免許

公道を走行する場合は、次の運転免許証が必要です。必ず所持してください。

型式	免許証
GJE28、GJE28X、GJE35、GJE35X	小型特殊自動車を運転できる免許証
GJE35H、GJE35HX、GJE35HXN、GJE35KHX	大型特殊自動車を運転できる免許証

重要：

- **［パワクロ仕様］含む［GJE35H］は［道路運送車両法］上の小型特殊自動車に該当しますが、［道路交通法］では、大型特殊自動車に該当します。したが**

って公道を走行する場合は、“大型特殊自動車の運転免許証”が必要です。

損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え、任意保険に加入されることをお勧めします。

重要：

- **エンジンで封印されている所は触らないでください。封印が外されたと認められる場合は、一切の保証は致しません。**

公道走行時の注意

- インプルメントやアタッチメントを装着した状態では、［道路運送車両法の保安基準］を満たしていなければ道路走行することはできません。インプルメントやアタッチメントと、トラクタとの組合せごとに、［保安基準］を満たしていることの確認が必要です。
- 作業灯は［道路運送車両法の保安基準］第 42 条（灯火の色等の制限）において、“走行中に使用しない灯火”とされ、点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから、道路走行中の点灯は禁止されております。
- 農耕トラクタに関わる［道路運送車両法の保安基準］の運用見直しにより、直装型の作業機については、条件を満たせば装着した状態で公道を走行することができるようになりました。
- 公道走行に関連する灯火器は、作業機、オプションの対応で追加した物も含めて、必ず日常点検してください。
  （点検方法の詳細は、メータ、ランプ類の作動点検（141 ページ）を参照）

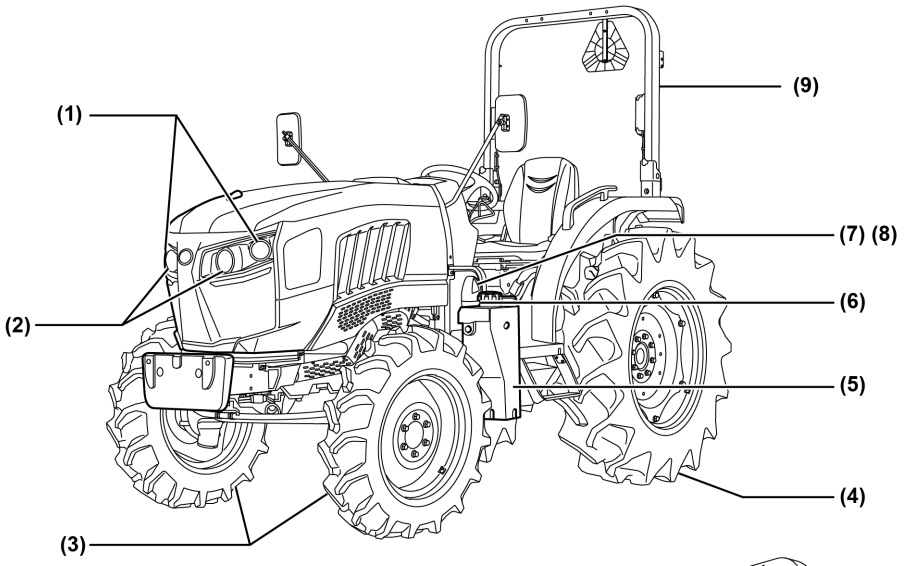
輪距

公道走行は、必ず指定の輪距で走行してください。指定の輪距どおりでない場合は［道路運送車両法の保安基準］違反になり、道路を走行することができません。

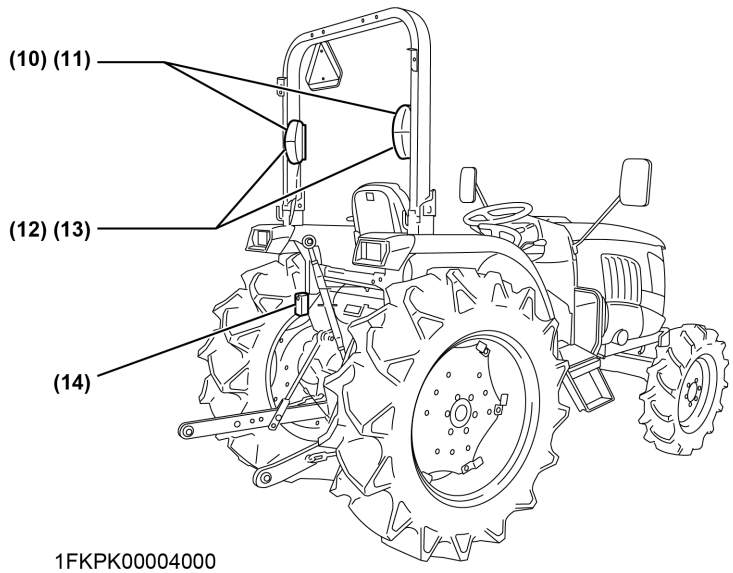
装置の名称と取扱い

トラクタの外観

［安全フレーム仕様］



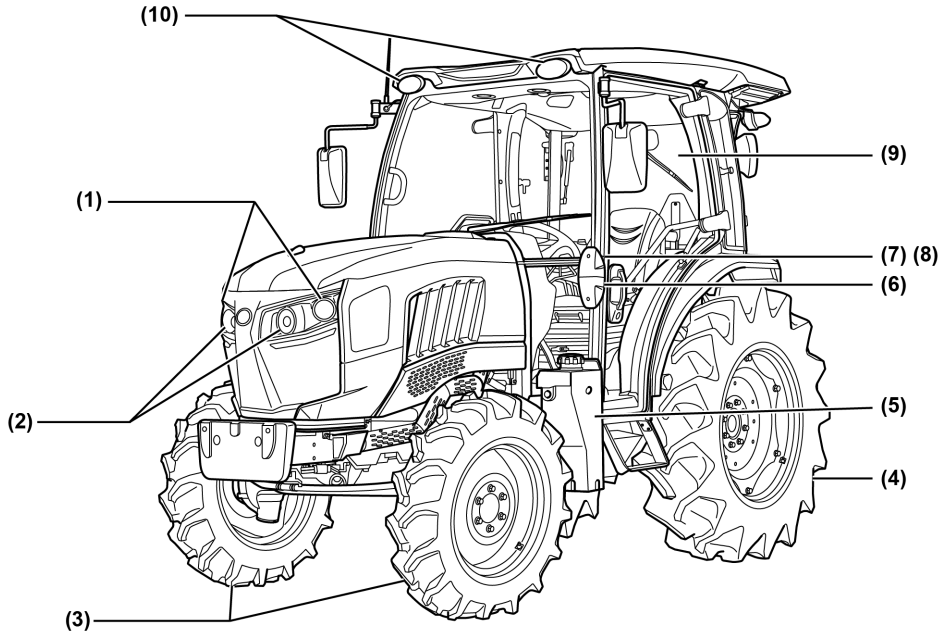
1ZWUD00018000



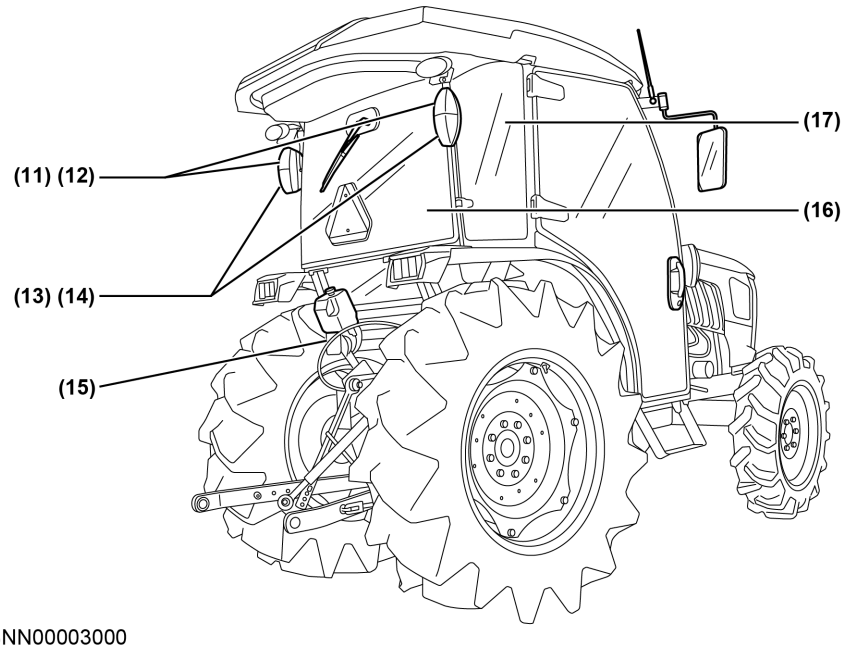
1ZWUD00026A01　　1FKPK00004000

(1) フロントサイド作業灯 *62*
(2) ヘッドライト *61*
(3) 前輪タイヤ *116*
(4) 後輪タイヤ *116*
(5) 燃料タンク *141*
(6) 車幅灯（前） *63*
(7) ウインカランプ（前） *61*
(8) ハザードランプ（前） *62*
(9) 安全フレーム *59*
(10) ウインカランプ（後） *61*
(11) ハザードランプ（後） *62*
(12) 車幅灯（後）、尾灯 *63*
(13) ブレーキランプ（後） *63*
(14) バックランプ *63*

［安全キャブ仕様］



1ZWUD00027000

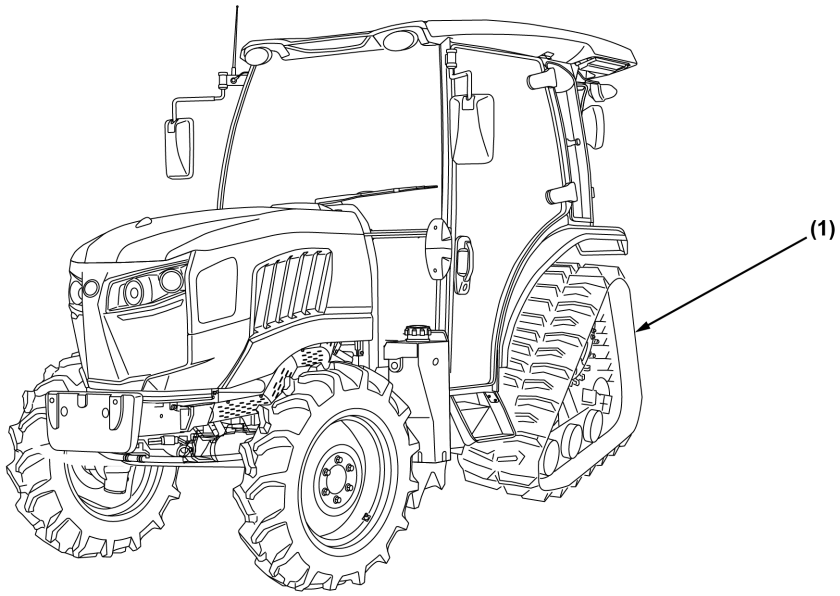


1ZWUD00028A01

1BBNN00003000

(1) フロントサイド作業灯 *62*
(2) ヘッドライト *61*
(3) 前輪タイヤ *116*
(4) 後輪タイヤ *116*
(5) 燃料タンク *141*
(6) 車幅灯（前） *63*
(7) ウインカランプ（前） *61*
(8) ハザードランプ（前） *62*
(9) ドア *120*
(10) 作業灯（前） *122*
(11) ウインカランプ（後） *61*
(12) ハザードランプ（後） *62*
(13) 車幅灯（後）、尾灯 *63*
(14) ブレーキランプ（後） *63*
(15) バックランプ *63*
(16) リヤウインド *120*
(17) クォータウインド *121*

[パワクロ仕様]



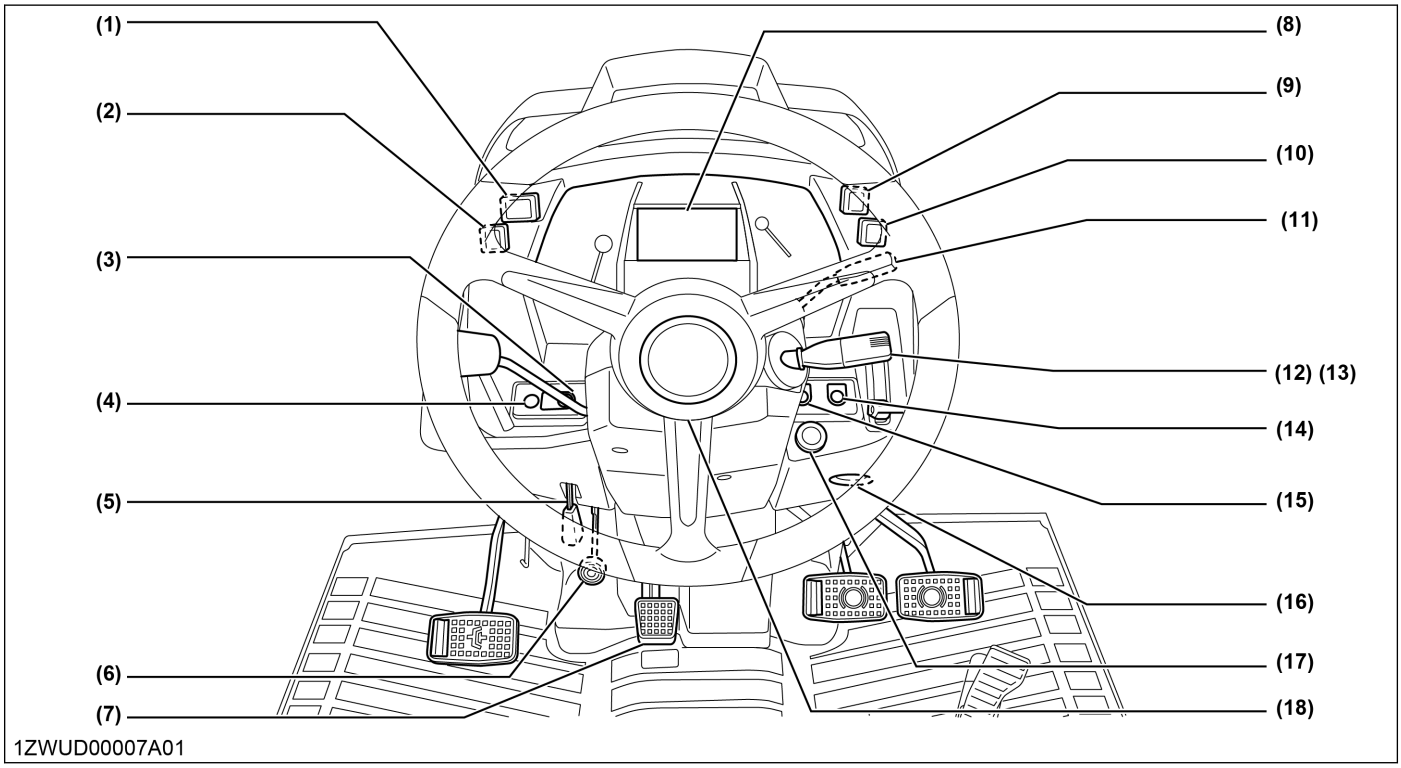
1ZWUD00040A01

(1) パワークローラ

パワクロ仕様に関する参照ページ一覧

内容	参照ページ
トラックへの積み、降ろし	95
運転のしかた	95
日常点検箇所一覧	142
点検、整備	130
主要諸元	173
走行速度表	176

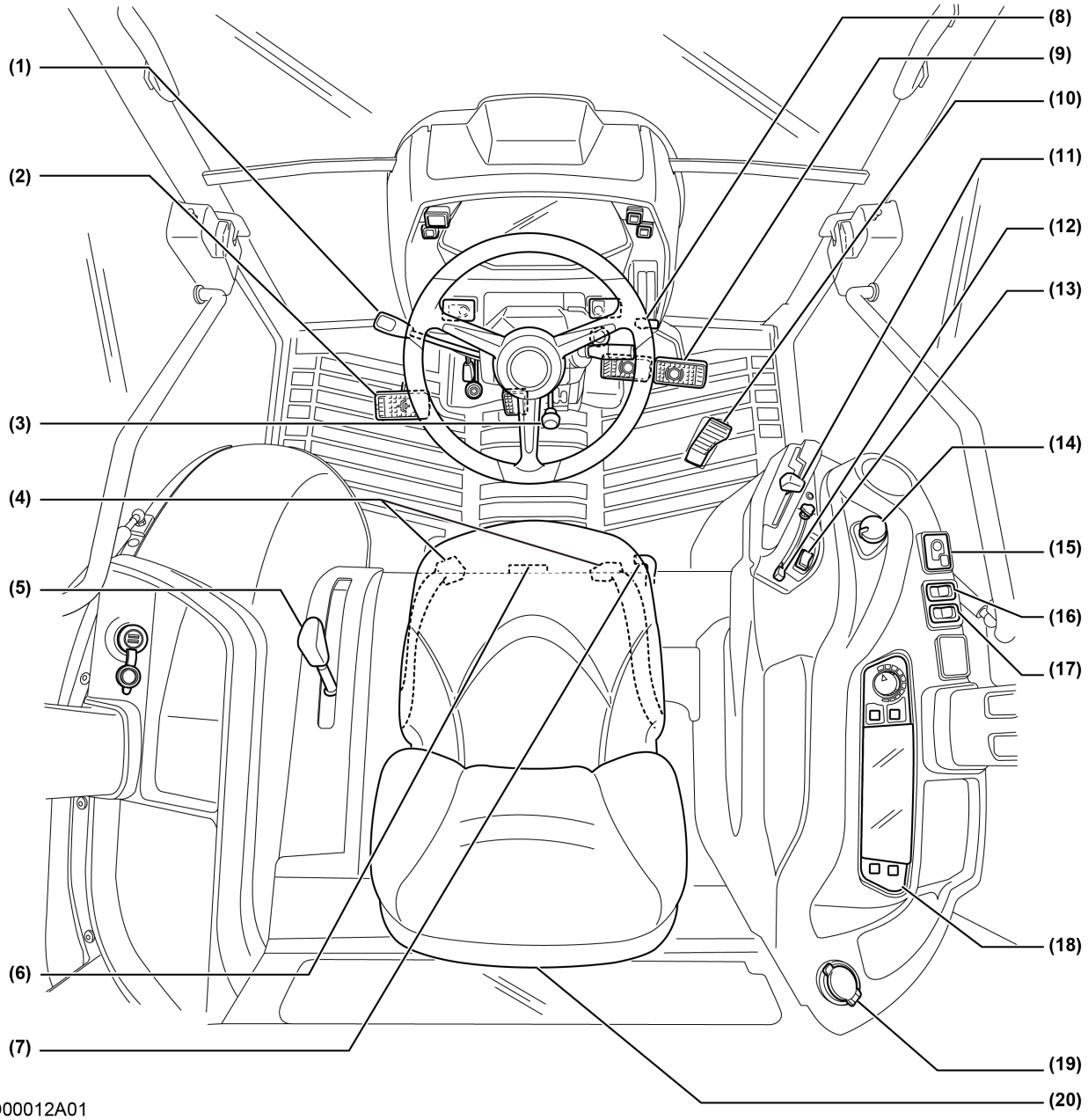
ハンドル部



1ZWUD00007A01

(1) ハザードスイッチ *62*
(2) フロントサイド作業灯スイッチ *62*
(3) 走行モード切換スイッチ *71*
(4) 表示切換スイッチ *78*
(5) 連結解除ペダルロックレバー *65*
(6) チルトペダル *60*
(7) 連結解除ペダル *65*
(8) 電子メータパネル *74*
(9) 再生禁止スイッチ *49*
(10) 駐車再生スイッチ *51*
(11) ポンパレバー *99*
(12) ヘッドライトスイッチ *61*
(13) ウインカスイッチ *61*
(14) e アシスト旋回スイッチ *88*
(15) エンジン回転メモリスイッチ *87*
(16) キースイッチ *55*
(17) 駐車ブレーキグリップ *65*
(18) ホーンボタン *62*

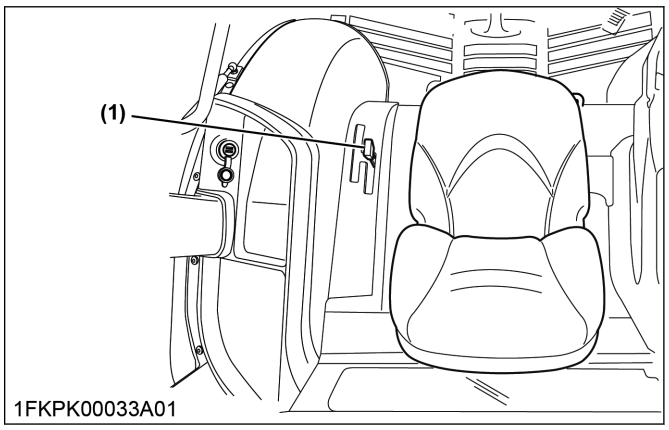
操作レバー、ペダル［安全キャブ仕様］



1ZWUD00012A01

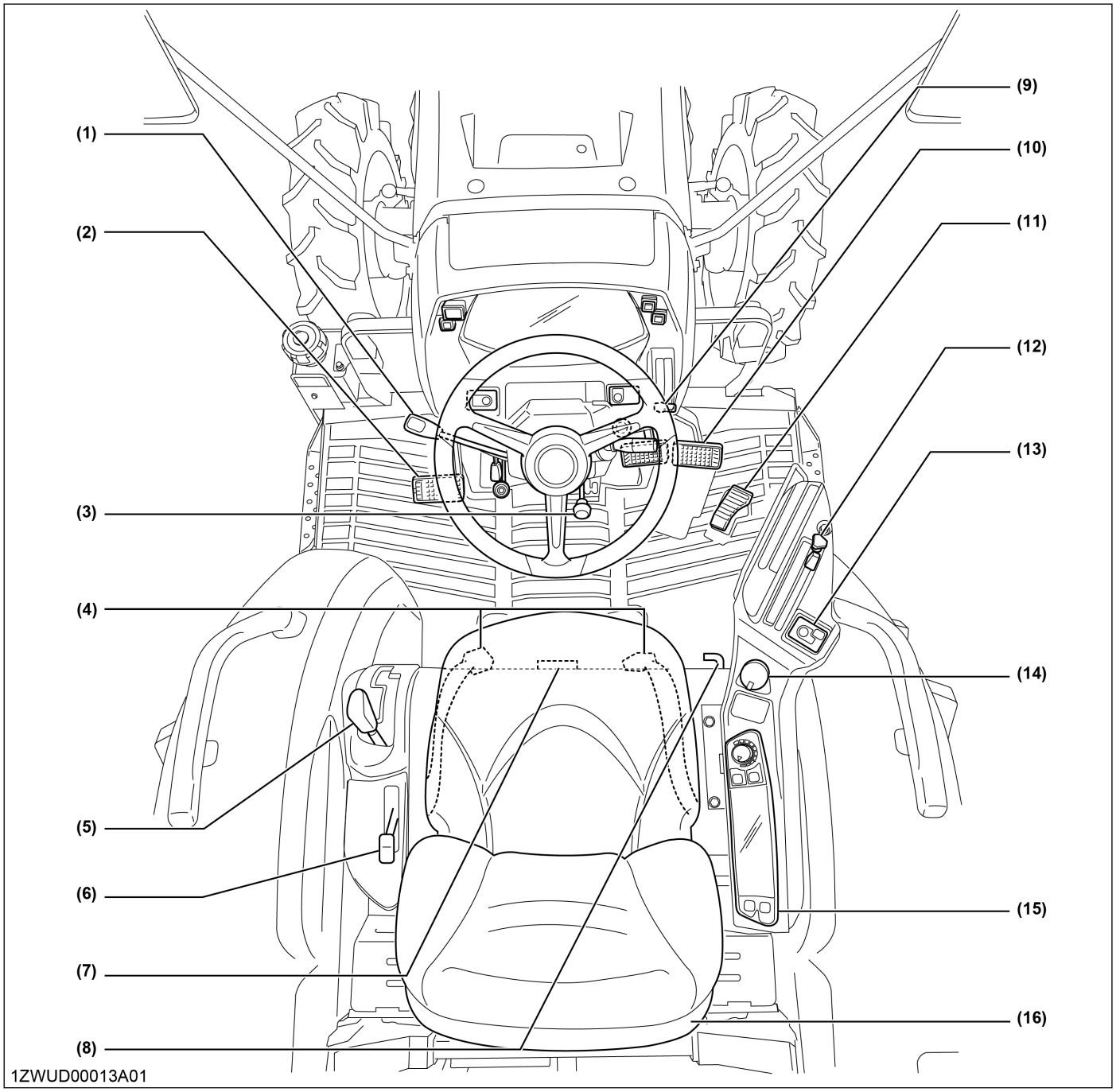
(1) シャトルレバー *70*
(2) クラッチペダル *66*
(3) *PTO* 変速レバー *115*
(4) シートベルト *60*
(5) クリープレバー *69*
(6) 落下速度調整グリップ *101*
(7) デフロックペダル *93*
(8) アクセルレバー *72*
(9) ブレーキペダル *65*
(10) アクセルペダル *72*
(11) 主変速レバー *67*
(12) 油圧（ポジションコントロール）レバー *98*
(13) ポンパスイッチ *99*
(14) あんしん *PTO* スイッチ *114*
(15) ワンタッチ耕うんモードスイッチ *104*
(16) 作業灯（前）スイッチ *122*
(17) 作業灯（後）スイッチ *122*
(18) *MA* スイッチ（モンローマチック・オート） *103*
(19) 外部電源（シガライタタイプ） *63*
(20) シート *59*

ハイスピード(H)仕様



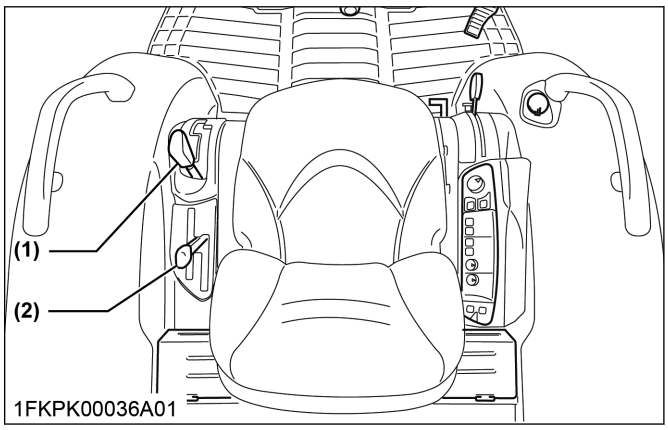
(1) クリープレバー..... *69*

操作レバー、ペダル［安全フレーム仕様］



(1) シャトルレバー *70*
(2) クラッチペダル *66*
(3) *PTO* 変速レバー *115*
(4) シートベルト *60*
(5) 主変速レバー *67*
(6) クリープレバー *69*
(7) 落下速度調整グリップ *101*
(8) デフロックペダル *93*
(9) アクセルレバー *72*
(10) ブレーキペダル *65*
(11) アクセルペダル *72*
(12) 油圧（ポジションコントロール）レバー *98*
(13) ワンタッチ耕うんモードスイッチ *104*
(14) あんしん *PTO* スイッチ *114*
(15) *MA* スイッチ（モンローマチック・オート） *103*
(16) シート *59*

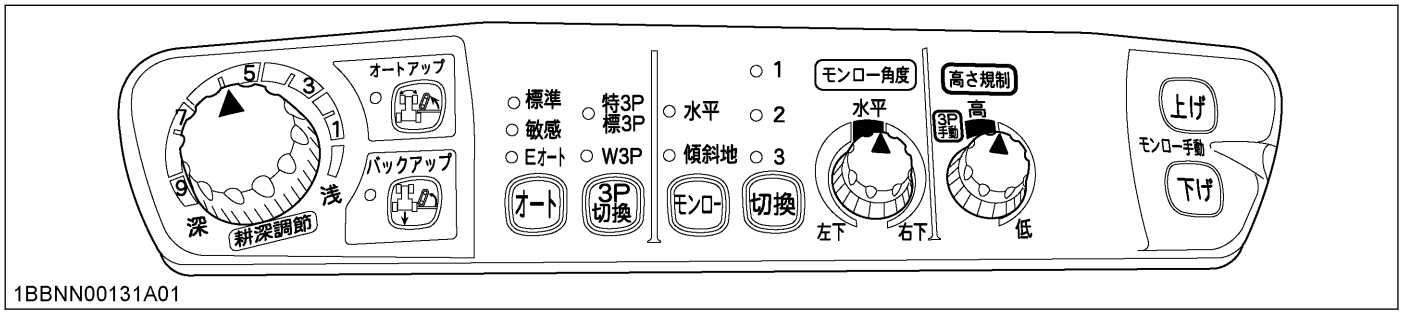
ハイスピード(H)仕様



(1) 主変速レバー ..... *67* *(2)* クリープレバー..... *69*

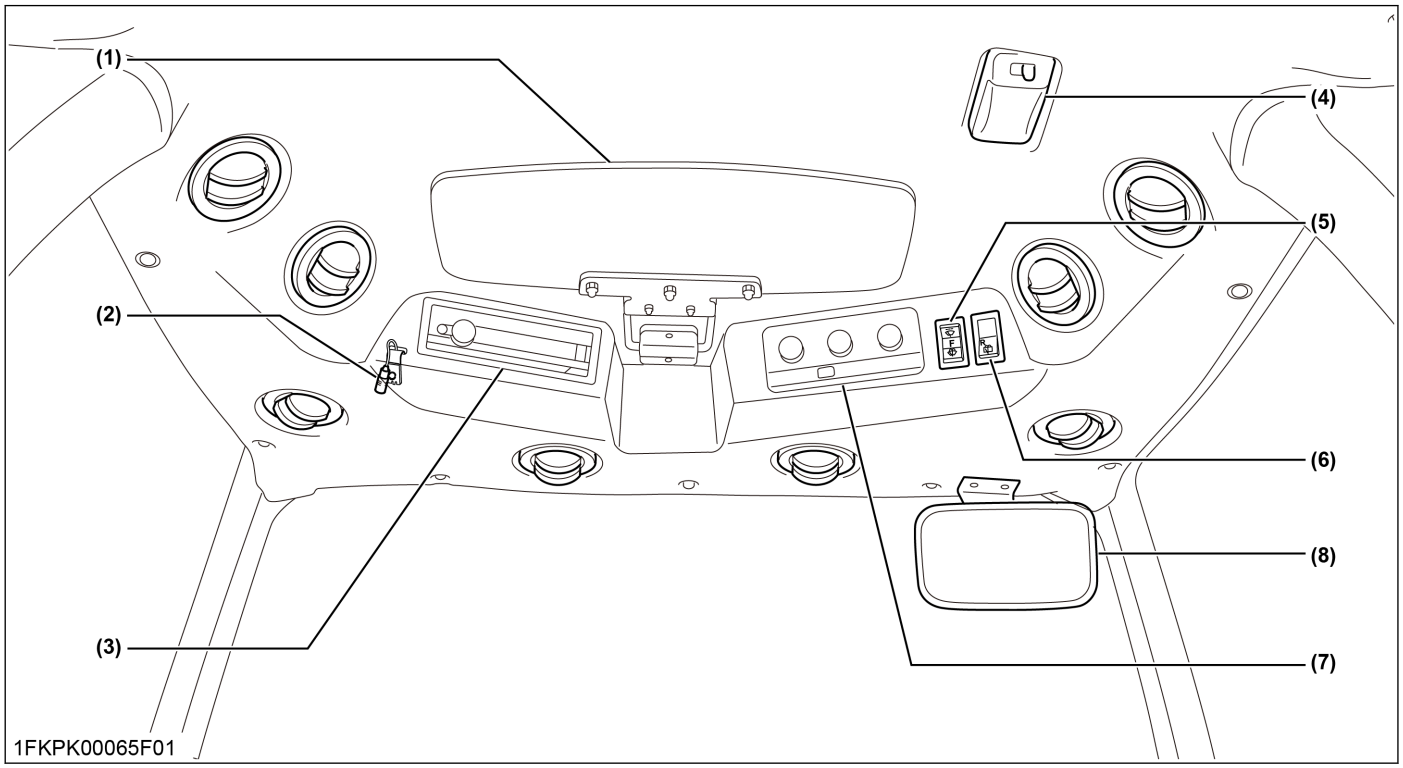
モンロー操作パネル

（詳細は、モンローマチック・オート（102 ページ）を参照）



1BBNN00131A01

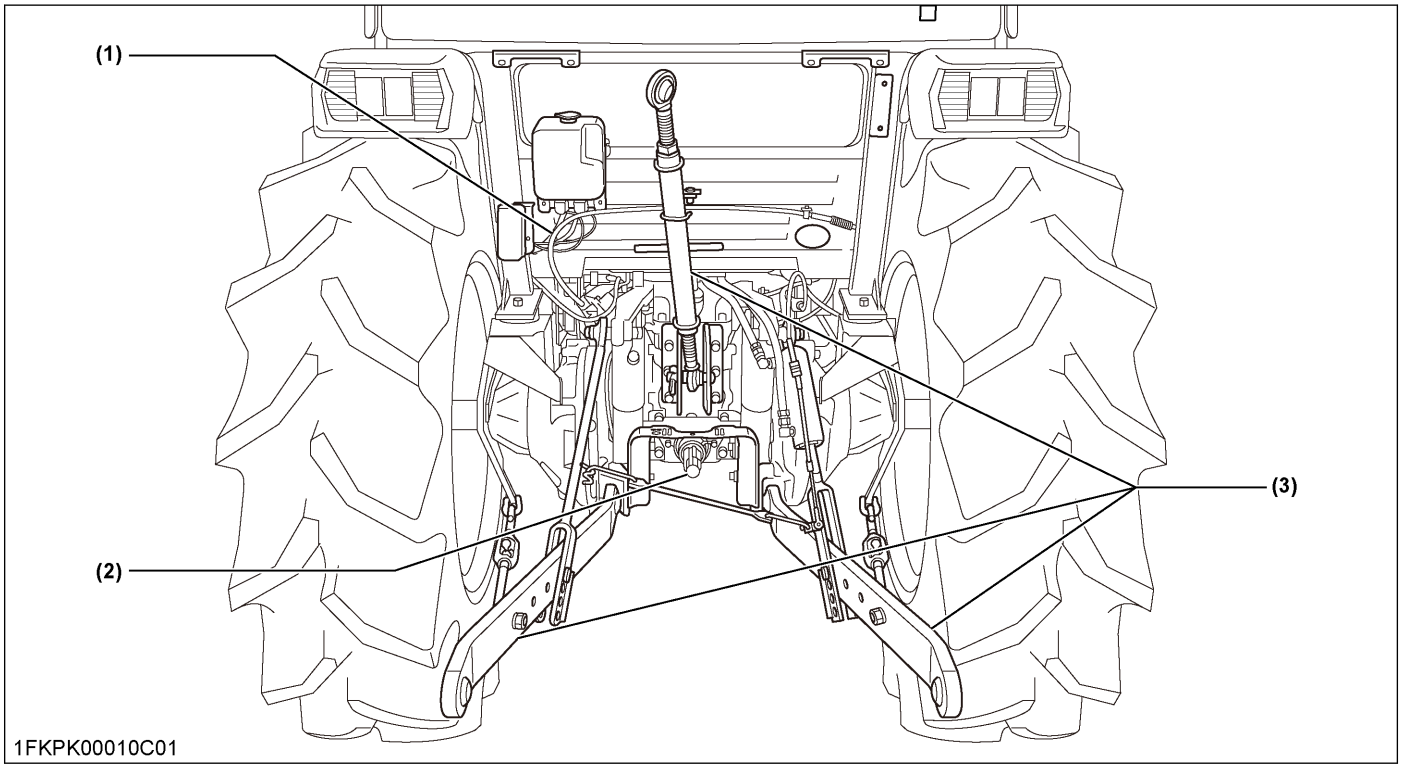
安全キャブ部



1FKPK00065F01

(1) サンバイザ（オプション） *122*
(2) ハンズフリーマイク
(3) オーディオ機器 *125*
(4) ルームランプ *121*
(5) フロントワイパ・ウォッシャスイッチ *121*
(6) リヤワイパ・ウォッシャスイッチ *122*
(7) オートエアコンコントロールパネル *124*
(8) ルームミラー（オプション） *123*

3 点リンク



(1) オートワイヤ 112
(2) PTO 116
(3) 3 点リンク 111

運転のしかた

運転前の点検

警告
- **運転前にブレーキ、クラッチ、ステアリングや安全装置などの日常点検を行い、摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また、定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。**
- **点検をするときは、必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行ってください。**
- **燃料補給時は、くわえタバコ、裸火照明はしないでください。**
- **燃料、オイルがこぼれた場合は、きれいに拭き取ってください。**
- **運転中および停止直後は、ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをするおそれがあります。**
- **エンジン周囲のカバー類を開けて点検、整備するときは、次の手順に従ってください。**
  1. **エンジン停止後 30 分経過してから開ける。**
  2. **点検、整備で内部に触れるときは、ヤケドのおそれが無いことを確認する。**

故障を未然に防ぐためには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回、運転前に欠かさず行ってください。
（点検方法の詳細は、日常点検（135 ページ）を参照）

重要：
各部への給油と交換
- **点検するときはトラクタを水平な場所に置いて行ってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。**
- **使用するエンジンオイル、ミッションオイルは、必ず指定オイルを使用してください。**

トラクタへの乗降

警告
- **トラクタへの飛乗りや飛降りは行わないでください。**
- **乗降はトラクタ側に顔を向けて、手すりを持って行ってください。**
  トラクタの不意の動きを防ぐため、変速操作レバー類をつかまないでください。
- **スリップ事故を防ぐため、ステップやフロアマットは常に清掃してください。**

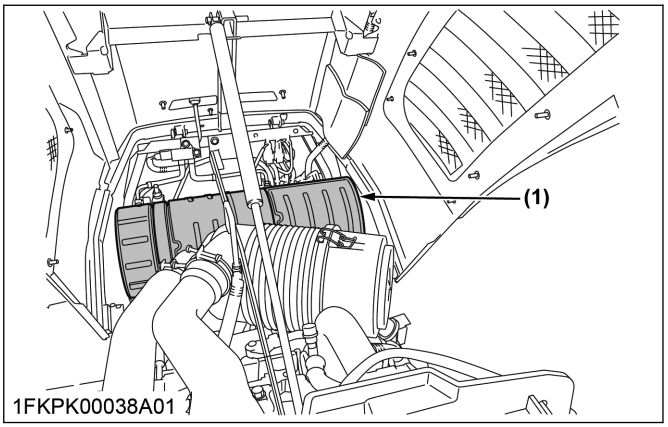
乗り降りは補助ステップを使ってください。

排ガス後処理装置

警告
- **DPF 再生中は排ガスや DPF が高温になります。ヤケド、可燃物への発火や溶解に注意してください。**
- **高温の排ガスが当たらないように、トラクタを人や動物などから離してください。**
- **再生中は白煙が発生する場合があります。換気の悪い納屋などでの再生は行わないでください。**
- **再生中はトラクタから離れないでください。**

1. ディーゼル・パーティキュレート・フィルタ(DPF)マフラ

本機には、ディーゼルエンジン排ガス中の炭化水素、一酸化炭素や他の有毒ガスを無害な二酸化炭素や水に酸化すると同時に、PM（微粒子状物質）をフィルタで捕集する DPF（ディーゼル・パーティキュレート・フィルタ）マフラ付きエンジンを搭載しています。
排ガス後処理装置を正しく取り扱い、環境保全にも努めてください。



(1) DPF マフラ

2. DPF マフラの取扱いポイント

DPF マフラ内に捕集した PM（微粒子状物質）が一定量堆積すると、PM を DPF マフラ内で燃焼させ DPF マフラをリフレッシュさせる必要があります。この燃焼作業を“再生”と呼びます。
この再生に到達するまでの運転時間を延ばし、DPF マフラの故障を防ぐため、必ず次の取扱い事項を守ってください。

燃料
燃料は必ず超低硫黄ディーゼル軽油（サルファーフリー軽油）を使用してください。

重要：
- **超低硫黄ディーゼル軽油以外の軽油を使用した場合、エンジンや排ガス後処理装置などに悪影響を与え、故障の原因となります。また、排ガスの浄化基準に適合しなくなるおそれがあります。**

エンジンオイル
DPF 搭載用ディーゼルエンジンオイル（**指定オイル D10W-30 DH-2**）をご使用ください。

重要：
- **指定のエンジンオイル以外を使用すると DPF の早期目詰まりや燃費の悪化を招くおそれがあります。**

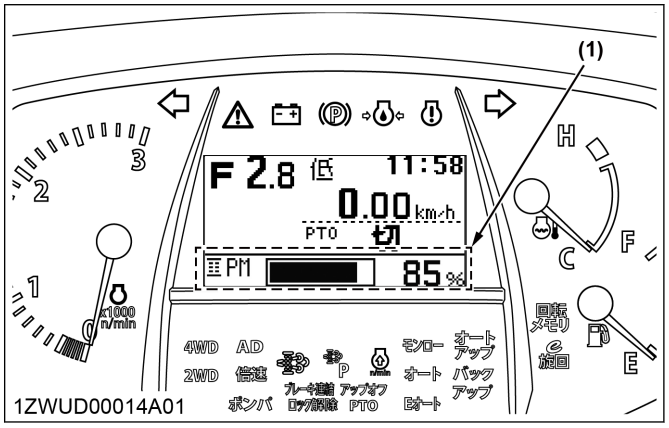
不必要なアイドリング運転の禁止
一般にエンジン回転が低いほど排ガス温度も低く、排ガス中の PM（微粒子状物質）も燃焼されず堆積しやすくなります。したがって、不必要なアイドリング運転はしないでください。

再生
ランプやブザーで“再生”の指示サインが出たときは、速やかに再生を行ってください。

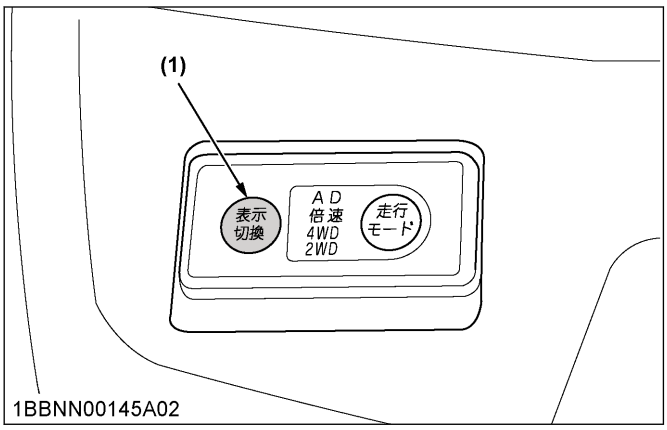
重要：
- **再生の中断や警告を無視して運転を続行すると、エンジンや DPF の故障の原因となります。**

3. 液晶モニタの PM 堆積量表示

表示切換スイッチを押して液晶モニタの画面を切り替えることにより、DPF マフラ内の PM 堆積量を表示させることができます。

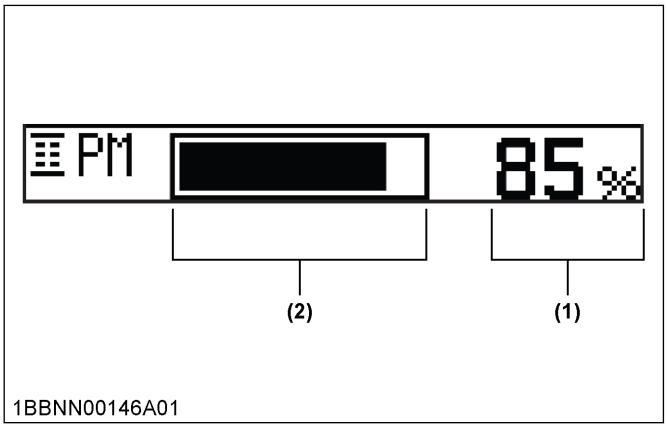


(1) *PM* 堆積量表示



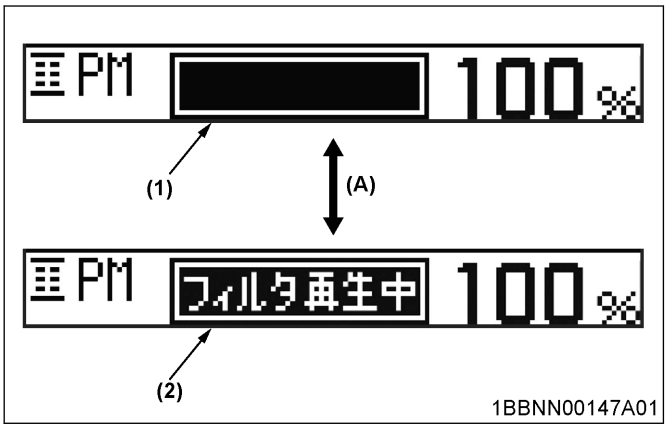
(1) 表示切換スイッチ

3.1 PM 堆積量表示項目



(1)	PM 堆積量表示	今現在の PM 堆積割合（%）を表示します。
(2)	PM 堆積量目安グラフ	今現在の PM 堆積割合を目安グラフ表示します。

補足：
- **PM 堆積量表示中に自動再生、駐車再生が実行されると、PM 堆積量目安グラフと〝フィルタ再生中〟の文字が交互に表示されます。**



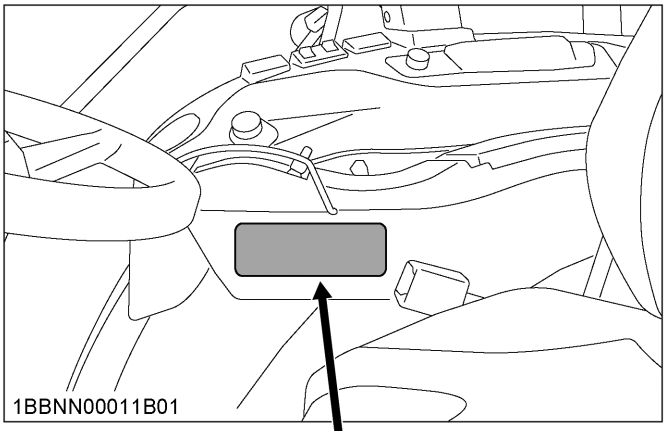
(1) *PM* 堆積量目安グラフ　　*(A)* 交互に表示
(2) フィルタ再生中表示

- **再生中の PM 堆積量目安グラフは 100%表示を継続し、再生終了時に 0%を表示します。**

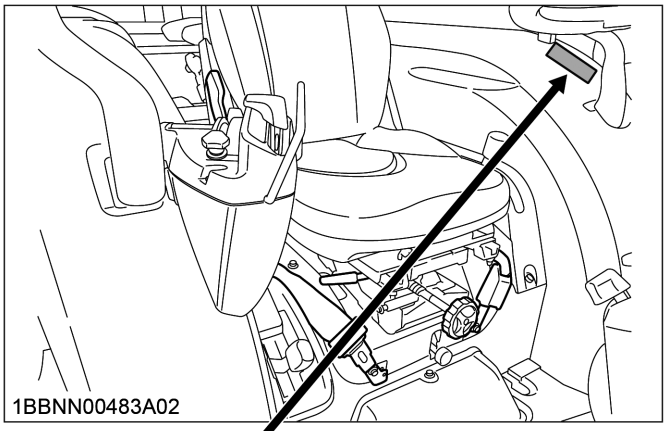
4. DPF マフラの再生方式

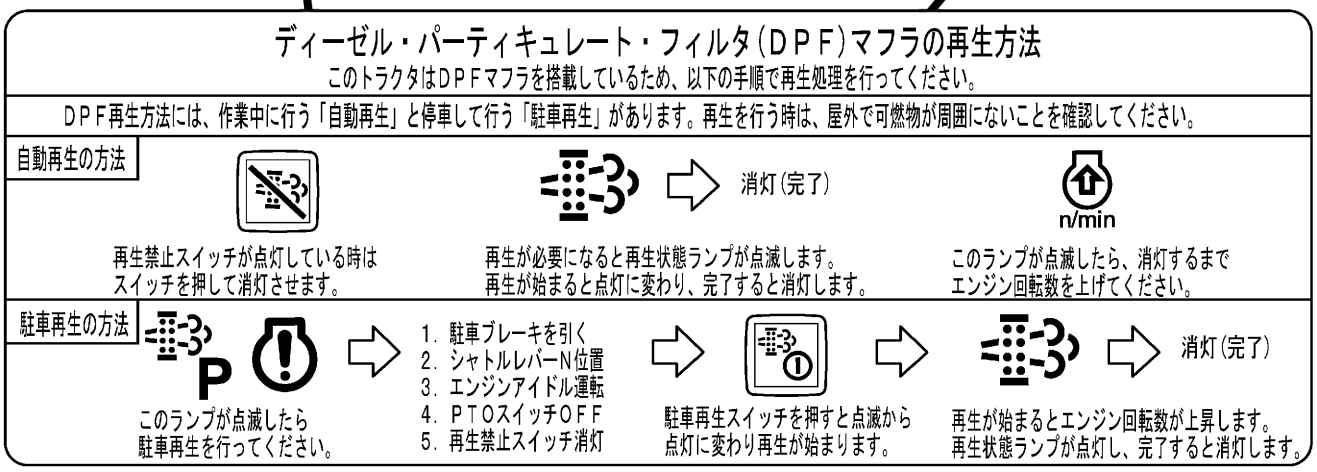
DPF マフラの再生方式は、作業に応じ“自動再生”または“再生禁止”のいずれかが選択できます。
再生に伴う排ガスの高温が作業に適さない場合を除き、“自動再生”の使用を推奨します。

［安全キャブ仕様］



［安全フレーム仕様］





1BBNN00053A01jaJP

1FKPK00096A01jaJP

4.1 自動再生モード

エンジンを始動すると“自動再生”モードが自動的に選択されます。スイッチ類の操作は不要です。
自動再生モードでは PM が一定量堆積し、再生に必要な条件が整うと、トラクタの走行や停車に関係無く自動的に再生処理されます。
（再生に必要な条件は、DPF の再生に関する豆知識（51 ページ）を参照）
（自動再生の詳細は、自動再生モードの操作手順（47 ページ）を参照）

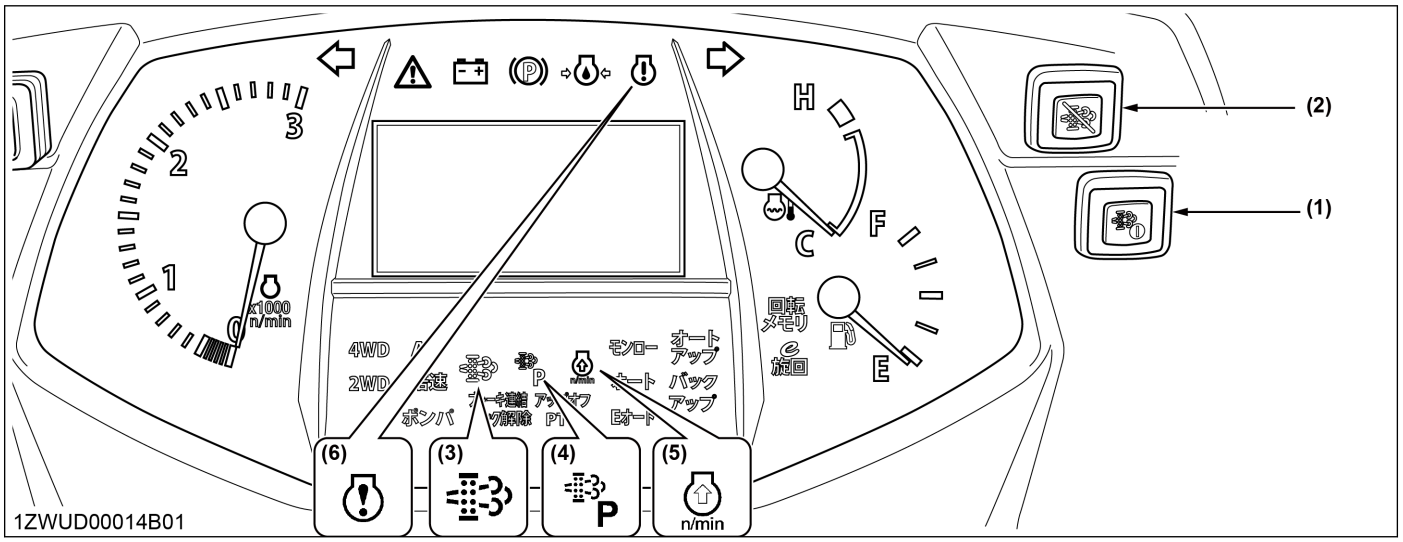
4.2 再生禁止モード

エンジン始動後、**再生禁止スイッチ**を押しスイッチランプを点灯させると、“再生禁止”モードに切り替わります。
このモードに切り替えると、PM は DPF 内に堆積され、オペレータの意思で再生操作を行わない限り再生されません。換気の悪いビニールハウス内作業や牛舎内作業に有効です。
（再生禁止の詳細は、再生禁止モードの操作手順（49 ページ）を参照）

補足：

- **いったんエンジンを停止すると“自動再生”モードに切り替わります。**

5. 自動再生モードの操作手順



(1) 駐車再生スイッチ
(2) 再生禁止スイッチ
(3) 再生状態ランプ
(4) 駐車再生要求ランプ
(5) エンジン回転上げ要求ランプ
(6) エンジン異常警告灯

1. エンジンを始動します。

   再生禁止スイッチランプ  が消灯している事を確認してください。

   再生禁止スイッチランプ消灯
   自動再生モード選択時

   再生禁止スイッチランプ点灯
   再生禁止モード選択時

   補足：
   - **エンジンを始動すると自動的に“自動再生”モードが選択されます。**
   - **再生禁止スイッチランプはエンジン始動後、スイッチを押すごとに切り替わります。**

2. 再生状態ランプ  が点滅表示した場合、そのまま運転を続行します。

   DPF マフラに一定量の PM が堆積しています。
   再生に必要な条件が整うと自動的に再生が開始されます。
   DPF や排ガスの温度が上昇しますので安全な場所で作業してください。

3. エンジン回転上げ要求ランプ  が点滅した場合、消灯するまでエンジン回転を上げます。

   補足：
   - **自動再生モードでも、トラクタの運転状態によっては、再生に必要な条件が整わず再生されない場合もあります。**
   - **エンジン負荷が大きい場合、エンジン回転上げ要求ランプが点滅していても再生条件を満たすこともあります。**
     （DPF の再生に関する豆知識（51 ページ）を参照）

6. 自動再生モード時の PM 堆積の警告レベルと必要な処置

自動再生モードで運転時、PM が一定量堆積すると自動で再生処理されますが、再生の中断や再生条件が整わなかった場合、PM の堆積レベルに応じブザー音やランプの表示を変化させ、オペレータに再生を促します。

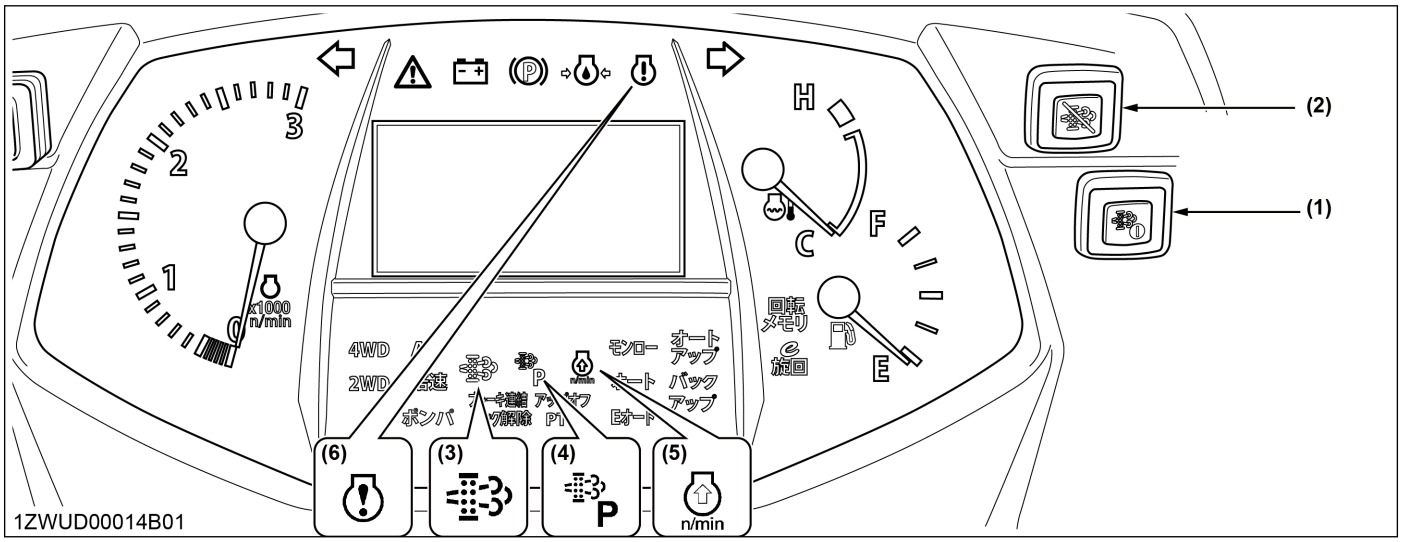
重要：

- **再生が必要なレベルに達したときは、速やかに再生を行ってください。再生の中断や警告を無視して運転を続行すると、エンジンや DPF の故障の原因となります。**

自動再生モード

警告レベル	ブザー音	エンジン出力	状態		処置
1	無し	---		再生状態ランプが点滅する。	DPF マフラーに一定量の PM が堆積しています。そのまま運転を続行してください。
				エンジン回転数が低いとき、エンジン回転上げ要求ランプが点滅する。	消灯するまでエンジン回転を上げてください。
				再生状態ランプは点滅から点灯に切り替わる。	再生が開始され、完了すると消灯します。
再生の中断や再生条件が整わないと警告レベル 2 になります。					
2-1	5 秒に 1 回鳴る	---		再生状態ランプが点滅する。	警告レベル 1 を参照し“再生”を行ってください。
				エンジン回転数が低いとき、エンジン回転上げ要求ランプが点滅する。	
2-2	3 秒に 1 回鳴る			駐車再生要求ランプも点滅する。	駐車再生要求ランプが点滅時、駐車再生も可能です。 再生条件が整わない場合は“駐車再生”を行ってください。 （駐車再生操作は、駐車再生の操作手順（51 ページ）を参照）
警告レベル 2 での再生ができなかった場合、警告レベル 3 になります。					
3	1 秒に 1 回鳴る	50%に制限される		エンジン異常警告灯が点滅する。	DPF マフラに多量の PM が堆積しています。直ちに作業を中断し“駐車再生”を行ってください。 （駐車再生操作は、駐車再生の操作手順（51 ページ）を参照） この段階では“自動再生モード”は作動しません。 これ以上運転を続けると再生操作ができなくなります。
				駐車再生要求ランプも点滅する。	
警告レベル 3 での駐車再生を中断、または無視をして運転を続行した場合、警告レベル 4 になります。					
4	1 秒に 1 回鳴る	50%に制限される		エンジン異常警告灯が点灯する。	直ちにトラクタを安全な場所に移動させ運転を中断し購入先へ連絡してください。 これ以上運転を続行すると、DPF やエンジンに致命的なトラブルが生じますので絶対に運転しないでください。

7. 再生禁止モードの操作手順



(1) 駐車再生スイッチ
(2) 再生禁止スイッチ
(3) 再生状態ランプ
(4) 駐車再生要求ランプ
(5) エンジン回転上げ要求ランプ
(6) エンジン異常警告灯

1. エンジンを始動します。
2. 再生禁止スイッチを押し、スイッチランプ  を点灯させます。

再生禁止スイッチランプ点灯
再生禁止モード選択時

再生禁止スイッチランプ消灯
自動再生モード選択時

運転中、駐車再生要求ランプ  が点滅表示した場合、DPF マフラに一定量の PM が堆積しています。
トラクタを安全な場所に移動させ、駐車再生の操作手順（51 ページ）に従い DPF マフラの再生を行ってください。

8. 再生禁止モード時の PM 堆積の警告レベルと必要な処置

再生禁止モードで運転時、PM の堆積レベルに応じブザー音やランプの表示を変化させ、オペレータに再生を促します。

重要：

- **再生が必要なレベルに達したときは、速やかに再生を行ってください。再生を中断したり警告を無視して運転を続行すると、エンジンや DPF の故障の原因となります。**

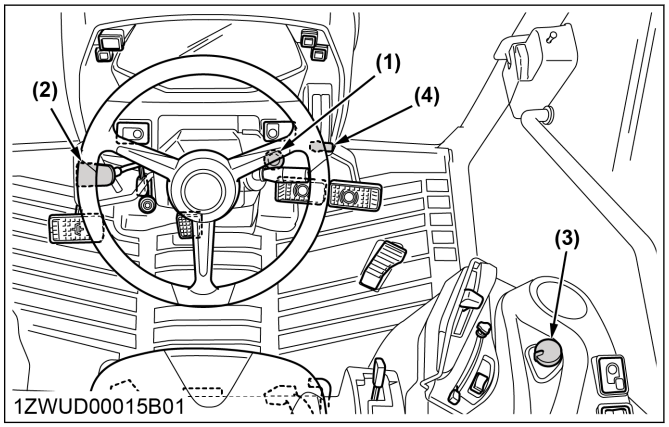
再生禁止モード

<table>
<tr><th>警告レベル</th><th>ブザー音</th><th>エンジン出力</th><th colspan="2">状態</th><th>処置</th></tr>
<tr><td>1</td><td>無し</td><td>---</td><td></td><td>再生状態ランプが点滅する。</td><td>DPF マフラーに一定量の PM が堆積しています。
そのまま運転を続行してください。</td></tr>
<tr><td colspan="6">再生の中断や再生条件が整わないと警告レベル 2 になります。
警告レベルが“1～2-2”の範囲内であれば、再生禁止スイッチ  を自動再生モードに切り替え、自動再生を行うことも可能です。</td></tr>
<tr><td>2-1</td><td>5 秒に 1 回鳴る</td><td rowspan="2">---</td><td></td><td>再生状態ランプが点滅する。</td><td rowspan="2">トラクタを安全な場所に移動し、“駐車再生”を行ってください。
（駐車再生操作は、駐車再生の操作手順（51 ページ）を参照）</td></tr>
<tr><td>2-2</td><td>3 秒に 1 回鳴る</td><td></td><td>駐車再生要求ランプも点滅する。</td></tr>
<tr><td colspan="6">警告レベル 2 での再生ができなかった場合、警告レベル 3 になります。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3</td><td rowspan="2">1 秒に 1 回鳴る</td><td rowspan="2">50%に制限される</td><td></td><td>エンジン異常警告灯が点滅する。</td><td rowspan="2">DPF マフラに多量の PM が堆積しています。直ちに作業を中断し、トラクタを安全な場所に移動し、“駐車再生”を行ってください。
（駐車再生操作は、駐車再生の操作手順（51 ページ）を参照）
この段階では“自動再生モード”は作動しません。
これ以上運転を続けると再生操作ができなくなります。</td></tr>
<tr><td></td><td>駐車再生要求ランプも点滅する。</td></tr>
<tr><td colspan="6">警告レベル 3 での駐車再生を中断、または無視をして運転を続行した場合、警告レベル 4 になります。</td></tr>
<tr><td>4</td><td>1 秒に 1 回鳴る</td><td>50%に制限される</td><td></td><td>エンジン異常警告灯が点灯する。</td><td>直ちにトラクタを安全な場所に移動させ運転を中断し購入先へ連絡してください。
これ以上運転を続行すると、DPF やエンジンに致命的なトラブルが生じますので絶対に運転しないでください。</td></tr>
</table>

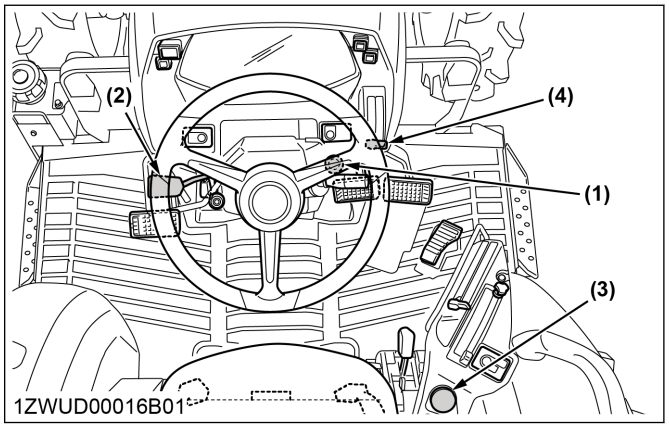
9. 駐車再生の操作手順

1. トラクタを建物、人や動物から離れた安全な場所に停車させます。
2. 駐車ブレーキを掛けます。
3. シャトルレバーを中立位置にします。
4. あんしん PTO スイッチを**[切]**にします。
5. エンジン回転をアイドリングにします。

安全キャブ仕様



安全フレーム仕様



(1) 駐車ブレーキグリップ
(2) シャトルレバー
(3) あんしん *PTO* スイッチ
(4) アクセルレバー

6. 作業機を下げます。
7. 再生禁止スイッチ を押し、スイッチランプを“消灯”させます。
   駐車再生手順の手順 2～5 と手順 7 が整うと駐車再生スイッチランプ が点滅します。
8. 駐車再生スイッチ を押し、再生を開始します。
   スイッチランプは点灯に変わります。
   エンジン回転が自動的に上昇し、再生が開始されます。
   再生中はランプ 、 が点灯し、再生が終了すると消灯します。
9. ランプが消灯後、作業を開始します。
   なお、“再生禁止”モードで運転する場合、再生禁止スイッチを押しスイッチランプを点灯させてください。

補足：

- **緊急時以外、再生中は手順 2、3、4 のレバーやスイッチ、エンジン回転数を操作しないでください。もし操作すると、再生が中断されます。**
- **駐車再生中はトラクタから離れないでください。**
- **駐車再生を中断させた場合、約 30 秒間エンジン回転がアイドリングで固定されます。この 30 秒間はアクセルレバーやアクセルペダルをアイドリング位置で保持し操作しないでください。30 秒経過後は正常に作動します。**

10. DPF の再生に関する豆知識

- **運転**
  エンジンは高速、高負荷運転するほど、排ガス温度は高温となるため、排ガス中の PM（微粒子状物質）は DPF マフラ内で燃焼します。その結果、DPF マフラは“再生”に到達するまでの運転時間が長くなります。
  逆にエンジン回転が低く負荷も低いほど、排ガス温度も低くなるため、排ガス中の PM（微粒子状物質）は、DPF マフラ内で燃焼されず堆積しやすくなります。その結果、DPF マフラは“再生”に到達するまでの運転時間が短くなるので、不必要なアイドリング運転などは推奨しません。
- **再生に必要な条件**
  次の条件がすべて整うと再生が始まります。再生途中に 1 つでも条件から外れると中断します。
  – エンジン冷却水温がじゅうぶん暖まっているとき
  – DPF 温度が高温になっているとき
  – エンジン回転数が約 1200 rpm 以上のとき
- 再生は通常 15 分～20 分で終了します。再生時間は外気温度、排ガス温度やエンジン回転数により異なります。
- 再生は、エンジンがじゅうぶんに暖まっているときに行うことを推奨します。
- 不必要な再生、中断操作を繰返し行わないでください。エンジンオイルに微量の燃料が混ざり、オイルの質を低下させます。
- DPF 再生時は、エンジンの空気流入量を自動的に制限し、排気温度が高くなるように制御されています。このとき、エンジン音が変化しますが異常ではありません。
- 再生終了直後は、DPF マフラが高温になっていますので、約 5 分程度エンジンを継続して運転することを推奨します。

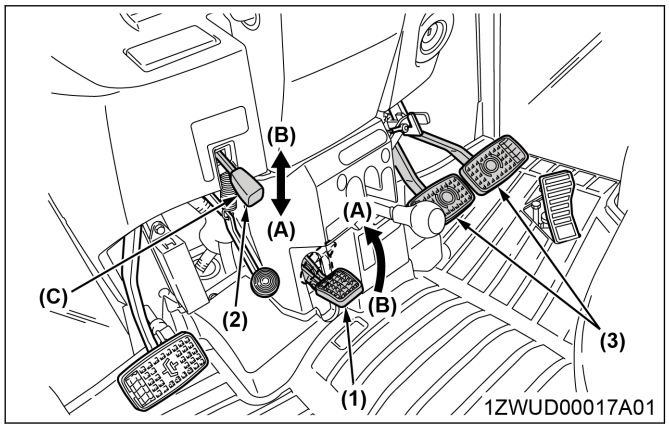
エンジンの始動と停止

⚠ 警告

- **この取扱説明前編の黄色のページの『安全に作業をするために』の内容を必ずお読みください。**
- **トラクタに貼ってある ⚠ 安全ラベルの内容を必ずお読みください。**
- **エンジンを始動する前に、必ずシートに座り、シャトルレバーや PTO 変速レバーが“中立”([N])かどうか、また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。**
- **あんしん PTO スイッチを[切]にしてください。**
- **トラクタが突然動き出すおそれがあるため、地上に立ってエンジンを始動したり、スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。**
- **室内やビニールハウス内などで運転する場合は、換気をじゅうぶんに行ってください。**
  換気が不十分であると排ガスにより、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

1. エンジンの始動のしかた

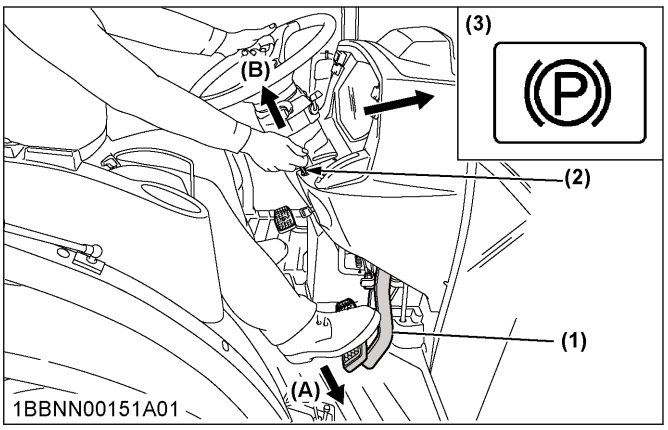
1. 連結解除ペダルロックレバーを“下げ”、連結解除ペダルが踏めないことを確認します。



(1) 連結解除ペダル
(2) 連結解除ペダルロックレバー
(3) ブレーキペダル
(A) ロック（格納）
(B) ロック解除
(C) 道路走行時は必ず下げる

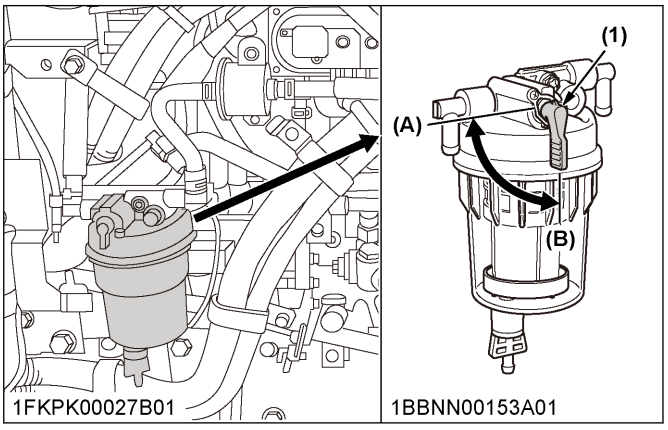
2. 駐車ブレーキを掛けます。
   a. 左右を連結したブレーキペダルを踏み込みます。
   b. レバーを“引い”たまま足をはなします。
      駐車ブレーキが掛かります。

   キースイッチ**[入]**時、駐車ブレーキを掛けるとメータパネル内の (Ⓟ) ランプが点灯します。



(1) ブレーキペダル
(2) 駐車ブレーキレバー
(3) 駐車ブレーキランプ
(A) 踏み込む
(B) 引く

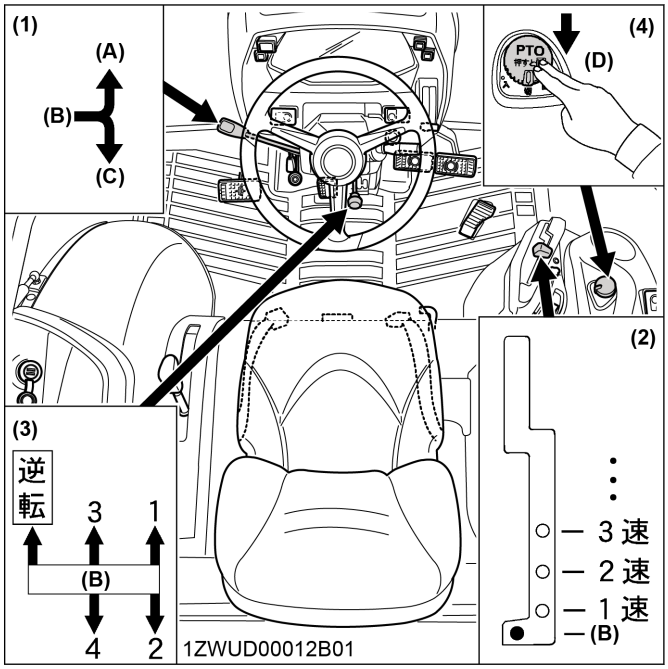
3. 燃料コックを“開”にします。



(1) 燃料コック
(A) 閉
(B) 開

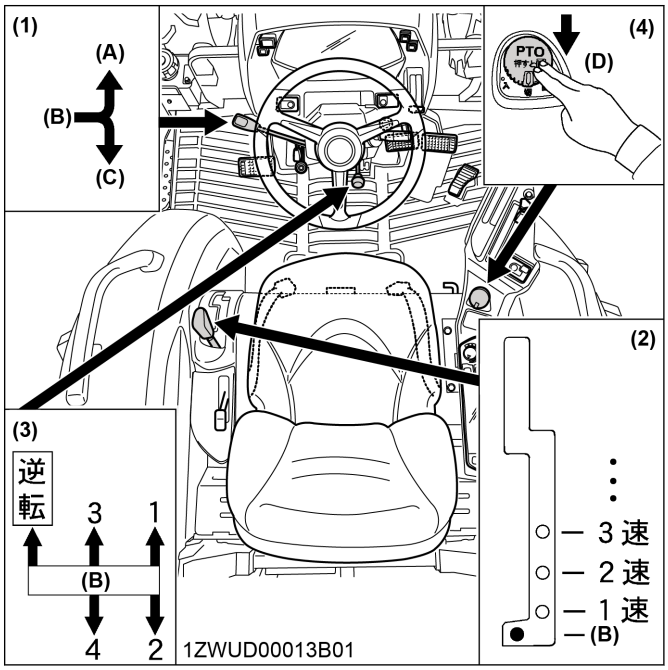
4. 仕様に応じて主変速レバー、シャトルレバー、PTO 変速レバーを“中立”(**[N]**)にします。
あんしん PTO スイッチを軽く押して**[切]**にします。

安全キャブ仕様



(1) シャトルレバー
(2) 主変速レバー
(3) *PTO* 変速レバー
(4) あんしん *PTO* スイッチ
(A) 前進*(F)*
(B) 中立*(N)*
(C) 後進*(R)*
(D) 軽く押す

安全フレーム仕様

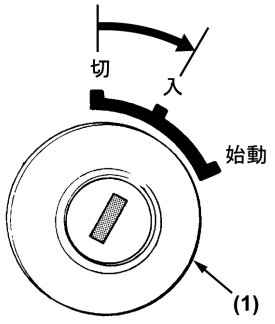
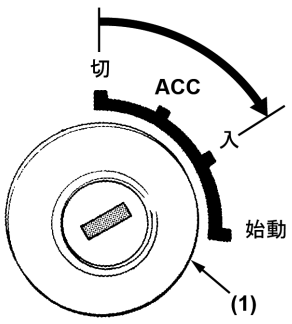


(1) シャトルレバー
(2) 主変速レバー
(3) *PTO* 変速レバー
(4) あんしん *PTO* スイッチ
(A) 前進*(F)*
(B) 中立*(N)*
(C) 後進*(R)*
(D) 軽く押す

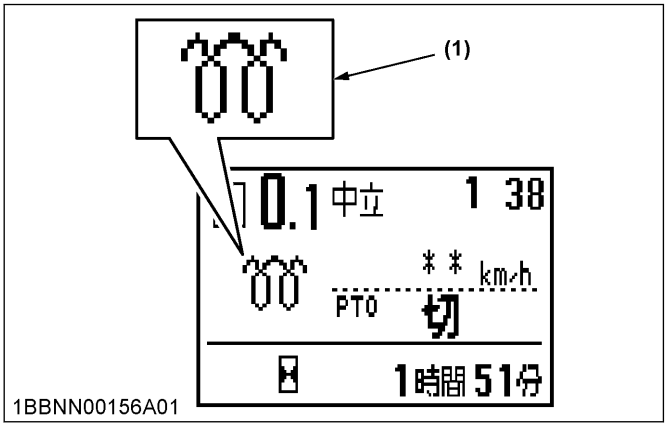
補足：

- **シャトルレバーを“中立”([N])、あんしん PTO スイッチを[切]にしないと、安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。**

5. キースイッチにキーを差し込み**[入]**位置にします。
（キースイッチ（55 ページ）を参照）

安全フレーム仕様	安全キャブ仕様
	
1FKPK00039B01	1FKPK00039C01
(1) キースイッチ	*(1)* キースイッチ

6. 寒冷時はエンジン予熱ランプが“消灯”したことを確認し、セルモータを回します。
冷却水温が低いとき、エンジン予熱ランプが点灯し、予熱が完了すると、自動的に消灯します。
（オートグロー（56 ページ）を参照）



(1) エンジン予熱ランプ

7. 次のランプが点灯または消灯しているか確認します。

点灯ランプ

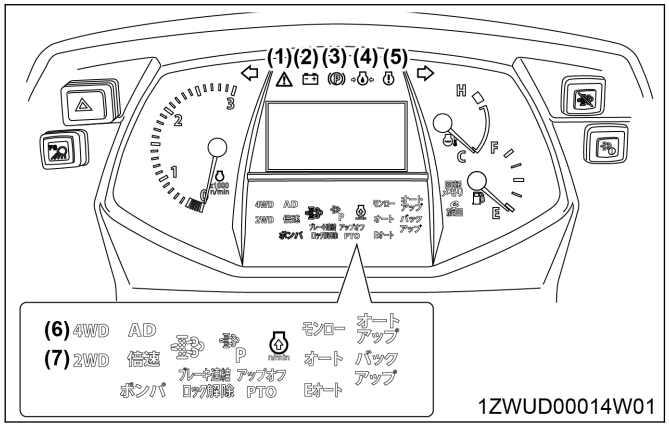
充電異常警告灯（チャージランプ）、駐車ブレーキ警告灯、エンジンオイル油圧警告灯

- 駐車ブレーキ警告灯が消灯しているときは、駐車ブレーキを掛けてください。

消灯ランプ

警告灯、エンジン異常警告灯、ブレーキ連結ロック解除警告灯、アップオフ PTO ランプ

- ブレーキ連結ロック解除警告灯ランプが点灯しているときは、連結解除ペダルロックレバーを“下げ”てください。
- アップオフ PTO ランプが点灯しているときは、あんしん PTO スイッチを**[切]**にしてください。



(1) 警告灯
(2) 充電異常警告灯（チャージランプ）
(3) 駐車ブレーキ警告灯
(4) エンジンオイル油圧警告灯
(5) エンジン異常警告灯
(6) ブレーキ連結ロック解除警告灯
(7) アップオフ *PTO* ランプ

補足：

- **レバーやスイッチの位置により、点灯または点滅するランプもあります。点灯、点滅するランプは仕様により異なります。**

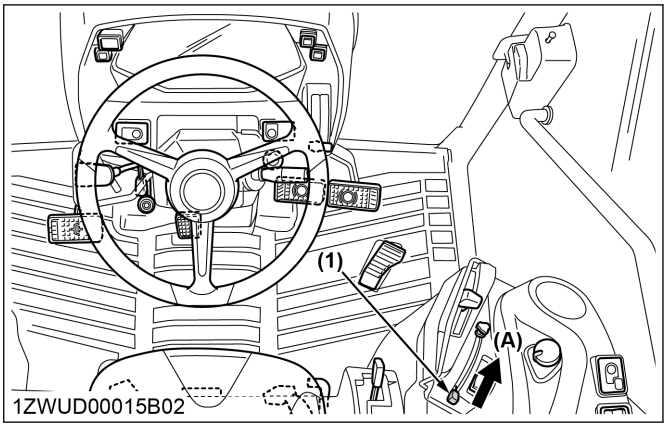
（モニタランプ（57 ページ）を参照）

8. 液晶（メッセージ）表示部に暗証番号入力画面が表示された場合は、表示切換スイッチ／走行モード切換スイッチで 3 桁の暗証番号を入力します。

補足：

- **工場出荷時は、セキュリティ機能は“切”になっています。**
- **セキュリティ機能の“入”と“切”の切替え、暗証番号の入力方法や変更についての詳細は、エンジン始動セキュリティ機能（82 ページ）を参照してください。**
- **暗証番号を連続して 10 回誤入力すると、液晶（メッセージ）表示部に〝暗証番号エラー購入先へ連絡してください〟と表示され、エンジン始動が不可能となります。この場合は購入先に連絡してください。**
- **エンジン停止後、10 分以内であれば、エンジン再始動が可能です。**

9. 作業機を下げます。
   a. 油圧レバーを前方に倒します。
      作業機が下がります。

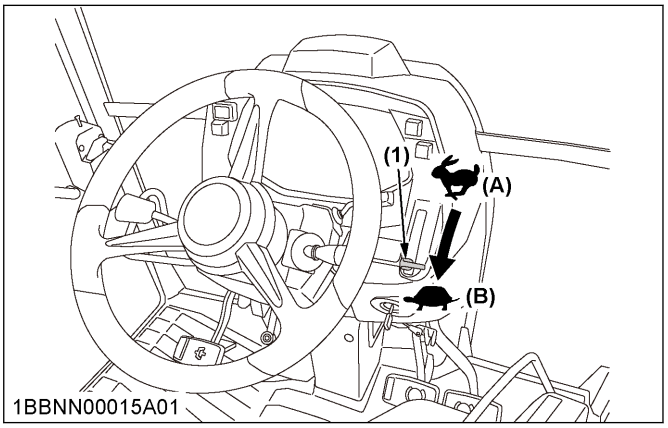


(1) 油圧レバー　　*(A)* 下げ

補足：

- **油圧ロックされている場合は下がりません。（油圧（ポジションコントロール）レバー（98 ページ）を参照）**

10. アクセルレバーを“低速”側に合わせます。



(1) アクセルレバー　　*(A)* 高速
(B) 低速

11. クラッチペダルを“踏み込み”ます。

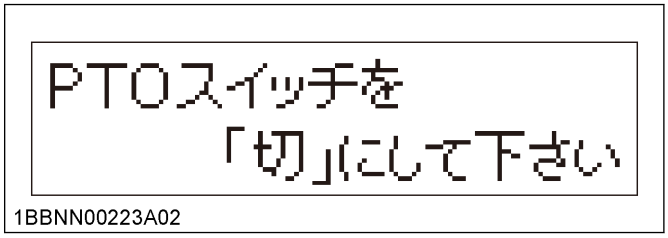
補足：

- **エンジンはクラッチペダルを踏み込まなくても始動できますが、安全確保のため踏み込んでください。**

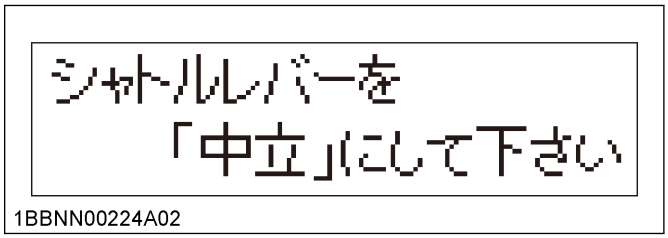
12. キーを**[始動]**位置に回します。

電子メータメッセージ

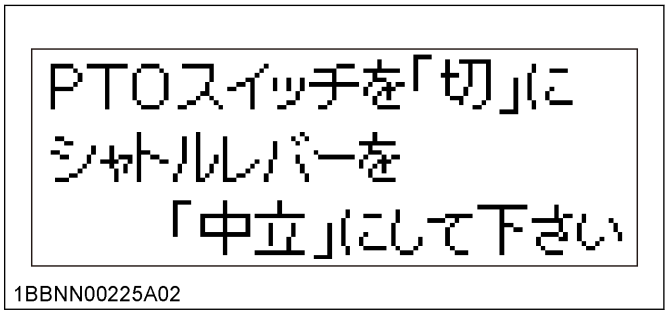
- エンジン始動時、次図のメッセージが表示されると、エンジンは始動できません。メッセージに従って操作してください。



1BBNN00223A02



1BBNN00224A02



1BBNN00225A02

重要：

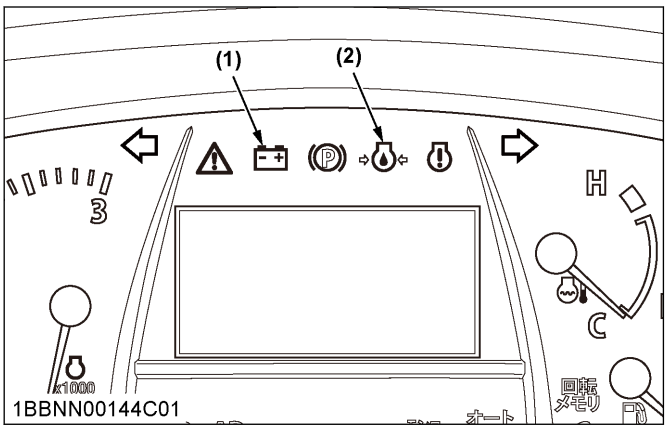
- **セルモータは、大電流を消費しますので、10 秒以上の連続使用は避けてください。**
  10 秒以内で始動しなかった場合は、いったんスイッチを切って、30 秒以上休止してから同じ操作を繰り返してください。

13. エンジンが始動したら、キーから手をはなします。自動的に**[入]**にもどります。

重要：

- **エンジン回転中は、キーを[始動]位置にしないでください。セルモータの故障原因になります。**

14. 充電異常警告灯（チャージランプ）、エンジンオイル油圧警告灯が“消灯”したか確認します。
もし、これらのランプが消灯しない場合は、エンジンを停止し、点検してください。



1BBNN00144C01

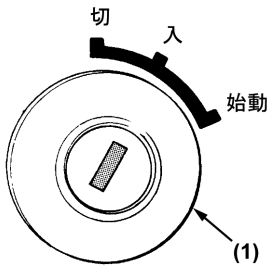
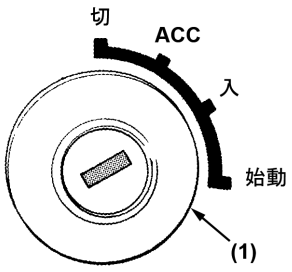
(1) 充電異常警告灯（チャージランプ）
(2) エンジンオイル油圧警告灯

15. エンジン回転を下げ、クラッチペダルからゆっくり足を離し、そのまま 5 分程度暖機運転します。

重要：

- **エンジン回転中にキーを[入]→[切]→[入]と素早く操作するとエンジンは“停止せず”、電源系のみが一瞬“停止状態”になるため、マイコンがスイッチなどの故障と判断し、PTO スイッチ、電子メータなどの作動に異常をきたすことがあります。**
  この場合機械の故障ではないので、いったんエンジンを“停止”したあと、エンジンを再始動してください。

1.1 キースイッチ

安全フレーム仕様	安全キャブ仕様
	
1FKPK00039B04	1FKPK00039C04
(1) キースイッチ	*(1)* キースイッチ

切

エンジンが停止し、キーが抜き差しできる位置。

ACC［安全キャブ仕様］

エンジン停止中、オーディオ機器や作業灯などのアクセサリが使えます。
この位置で長時間使用しないでください。バッテリあがりの原因になります。

入

燃焼室内を予熱する位置。

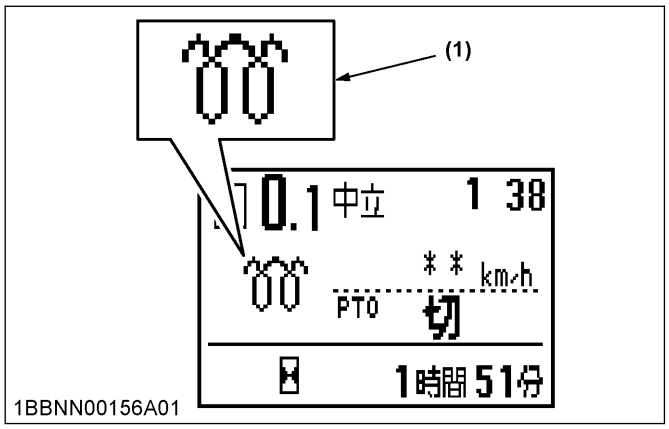
エンジン回転中の位置、すべての電気装置が使えます。

始動

エンジンを始動する位置。
手を離せば自動的に**[入]**位置に戻ります。

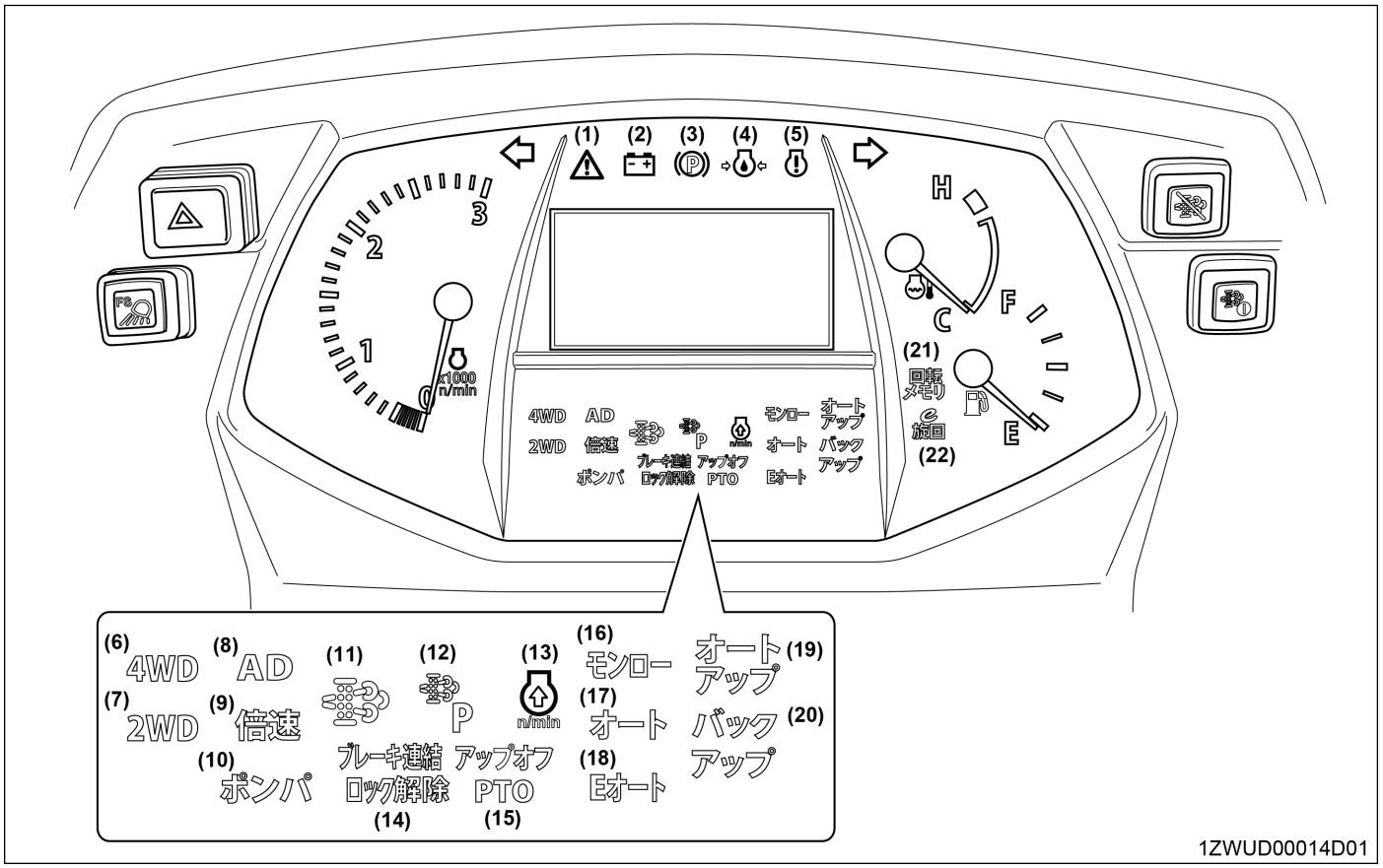
1.2 オートグロー

冷却水温が低いとき、キースイッチを**[入]**にすると、エンジン予熱ランプが点灯し、予熱が完了すると、自動的に消灯します。



(1) エンジン予熱ランプ

1.3 モニタランプ



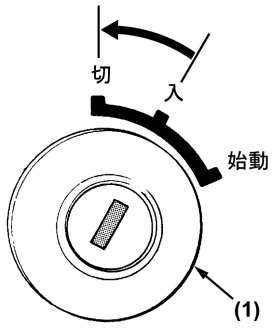
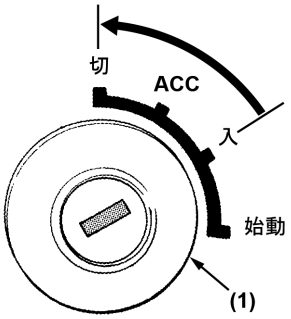
(1) 警告灯
(2) 充電異常警告灯（チャージランプ）
(3) 駐車ブレーキ警告灯
(4) エンジンオイル油圧警告灯
(5) エンジン異常警告灯
(6) *4WD* ランプ
(7) *2WD* ランプ
(8) *AD* ランプ
(9) 倍速ランプ
(10) ポンパランプ
(11) 再生状態ランプ
(12) 駐車再生要求ランプ
(13) エンジン回転上げ要求ランプ
(14) ブレーキ連結ロック解除警告灯
(15) アップオフ *PTO* ランプ
(16) モンローランプ
(17) オートランプ
(18) *E* オートランプ
(19) オートアップランプ
(20) バックアップランプ
(21) 回転メモリランプ
(22) *e* アシスト旋回ランプ

重要：

- **ランプに異常があるときは、購入先に点検、整備を依頼してください。**

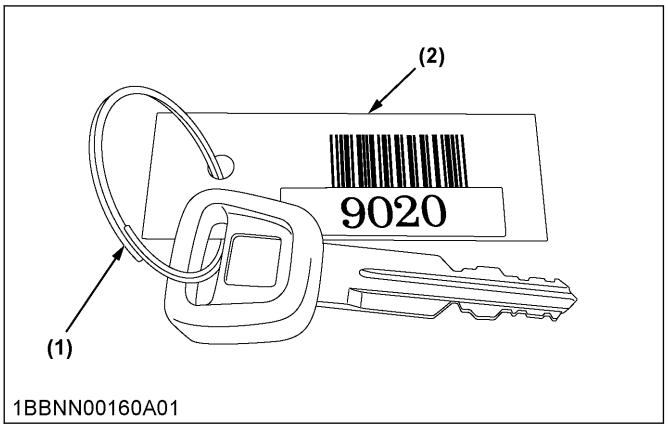
2. エンジンの停止のしかた

1. アクセルレバーを手前に“引き”、アイドリング状態にします。
2. キースイッチのキーを**[切]**位置にします。

安全フレーム仕様	安全キャブ仕様
	
1FKPK00039B02 *(1)* キースイッチ	1FKPK00039C02 *(1)* キースイッチ

エンジンは停止します。

3. キースイッチからキーを抜きます。
キーは必ず“抜き”ましょう。



1BBNN00160A01

(1) キーリング　　*(2)* キーナンバー票

重要：
- **キースイッチの切り忘れによるバッテリあがり防止のため、必ずキーを“抜いて”ください。**
- **キーリングに付属しているキーナンバー票は、キーを紛失した際必要となります。キーナンバーを裏表紙のおぼえに記入し控えておくか、キーナンバー票を大切に保管してください。**
- **[安全キャブ仕様] バッテリあがりの原因になりますので、ルームランプは消灯してください。**

3. 寒冷時の暖機運転

⚠ 警告
- **換気が不十分な所では、暖機運転はしないでください。**
換気が不十分であると排ガスにより、一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- **暖機運転中は必ず駐車ブレーキを掛けてください。**

始動後、約 5 分～10 分間は負荷をかけずにアイドリングで暖機運転をしてください。オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるためで、始動してからすぐ負荷をかけると、焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。

補足：
- **エンジン始動後、エンジン回転を安定させるため、自動的に回転数が上がることがあります。**
- **寒冷時の暖機運転では、マフラパイプ内で結露した水分が、水滴となって飛散することがあります。アイドリング以外で暖機運転をすると、水滴の飛散量が多くなります。**

3.1 暖機運転について

このトラクタには油圧クラッチが採用されており、油圧オイルはトランスミッションオイルを兼用しています。そのためアイドリングでの暖機運転終了後は、アクセルレバーを“低速”側にして必ず次の要領で暖機運転を行い、トランスミッションオイルを暖めてください。暖機運転を行わないと、満足な性能が得られないばかりか故障の原因になります。

気温	暖機運転時間
-10 ℃以上	5 分間
-10 ℃～-20 ℃	5 分～10 分間
-20 ℃以下	20 分間以上

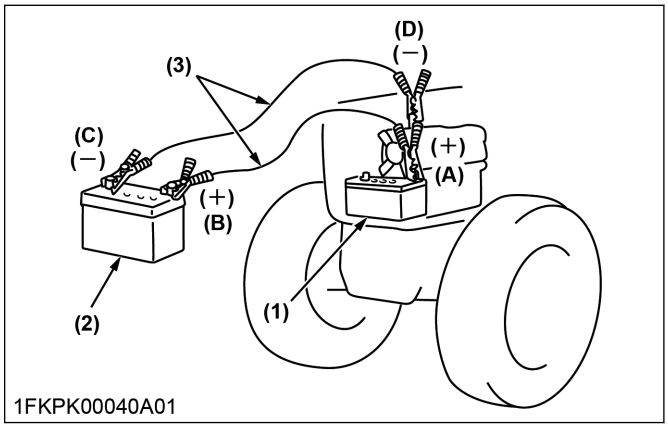
4. バッテリあがりの処置

別売のブースタケーブルがあれば、他車のバッテリを電源としてエンジンを始動することができます。

重要：
- **救援車は必ず 12 V バッテリ車を使用してください。**
- **ケーブル接続の際には、（+）と（−）端子を絶対に接触させないでください。**
- **ケーブルが冷却ファンなどに巻き込まれないようにしてください。**
- **ケーブル接続の際には、（+）と（−）をよく確認し、絶対に逆に接続しないでください。逆に接続すると、トラクタや救援車の電子機器類が破損する場合があります。**
- **救援車にこのトラクタを使用する場合は、必ず作業機を降してください。**

1. トラクタのキースイッチを**[切]**位置にします。

2. ブースタケーブルを図の A～D 番号順で接続します。
   a. バッテリの（＋）端子同士(A)、(B)を接続します。
   b. 救援車バッテリの（－）端子にマイナスケーブルの(C)を接続します。
   c. マイナスケーブルの他端(D)の接続位置は、トラクタバッテリから離れたエンジン本体または車体に接続します。
   マイナスケーブルの他端(D)を直接トラクタのバッテリの（－）端子に接続すると、バッテリから発生する可燃ガスに引火するおそれがありますので接続しないでください。



(1) 放電したトラクタバッテリ　*(3)* ブースタケーブル
(2) 救援車バッテリ

3. 救援側の車を始動し、少しエンジン回転を高めに保ちます。
4. トラクタのエンジンを始動します。
（始動手順は、エンジンの始動のしかた（52 ページ）を参照）
5. ブースタケーブルを接続順序の逆で外します。

5. ならし運転

使用開始から最初の約 50 時間は、ならし運転を行ってください。
使用開始から最初の約 50 時間は、特に次の事を厳守してください。

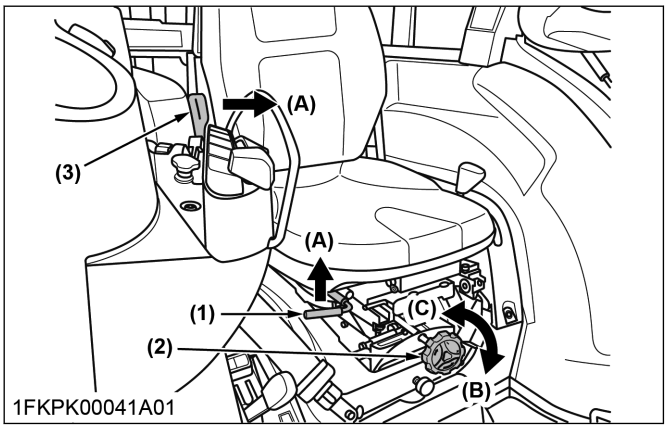
- 急なスタート、急ブレーキは慎んでください。
- 必要以上のスピードや負荷をかけないようにしましょう。
- 運転は、エンジンがじゅうぶん暖まってから行うようにしましょう。
- 悪路や傾斜地では、速度を落とし安全を確認しながら走行しましょう。
- 50 時間使用後、定期点検箇所一覧表（130 ページ）に従い各部の点検、オイル交換などを行ってください。

運転席周りの調節

1. シート

調整方法

- 前後調節レバーで“解除”すると、前後位置が調節できます。
- リクライニング調節レバーを“前に倒す”と、背もたれの角度が調節できます。
- 体重調整ハンドルを“回す”と、クッションの強さが調節できます。
- **［安全フレーム仕様］**雨のときはシートを前に倒しておくと、濡れる心配がありません。



(1) 前後調節レバー　*(A)* 解除
(2) 体重調整ハンドル　*(B)* 強くなる
(3) リクライニング調節レバー　*(C)* 弱くなる

補足：

- **体重調整ハンドルの回動が固い場合、ネジ部に少量のグリースを塗布してください。**
- **シートサスペンションのスムーズな作動のために、スプリングのフック部に適宜グリースを塗布してください。**

2. 安全キャブ／安全フレームとシートベルト

⚠ 警告

転倒、転落による死傷事故防止のため、次の事を守ってください。

- **トラクタを使用するときは、安全フレームを外して運転しないでください。**
- **納屋の出入りやハウス作業など、安全フレームが当たる場合を除き、運転時はいつも安全フレームを取り付けて立て、確実に固定し、必ずシートベルトを着用してください。**
- **安全フレームを折りたたんだ状態では、シートベルトを絶対にしないでください。折りたたみ式安全フレームは、折りたたんだ状態では安全フレームの役目をしません。**
- **安全キャブまたは安全フレームの改造を絶対にしないでください。**
  また、強度に影響する破損、曲がりなどが発生した場合、交換してください。

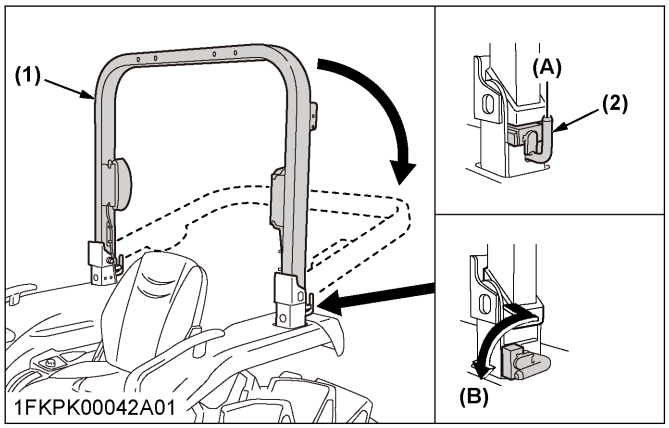
- **安全フレームを立てたときは、左右のレバーを押し込んで確実に固定してください。**
  また日常点検時、レバーにガタが無いか確認してください。
- **安全フレームが確実に固定されているか確認してください。**
- **シートベルトは作業者の身体に合わせ長さを調節してください。**
- **安全フレームを折りたたんだり、立てたりするときは、平たんな場所で必ず作業機を地面に降ろし、エンジンを止め、駐車ブレーキを掛けてから行ってください。**

補足：
- **安全キャブや安全フレームは、万一のときに少しでも被害を軽くするための物であって、すべての傷害を防げる物ではありません。**

2.1 安全フレームの折りたたみ方法

補足：
- **安全フレームを折りたたむと、作業機の状態によっては安全フレームと作業機が接触する場合があります。接触しないことを確認して折りたたんでください。**

1. レバーを左右とも後方へ引き、そのまま外側に倒します。
2. 安全フレームをゆっくりと後方へ折りたたみます。

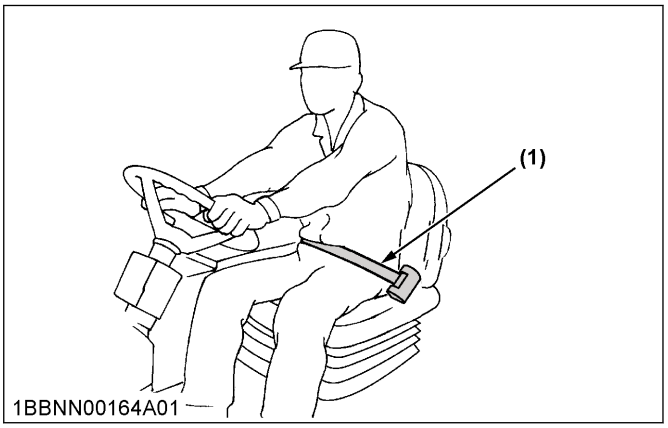


(1) 安全フレーム
(2) レバー
(A) 固定位置
(B) 折りたたみ位置

2.2 安全フレームを起こす方法

1. 安全フレームを前方へ動かなくなる位置まで完全に起こします。
2. レバーを左右とも立てて、そのまま前方へ確実に押し込みます。
3. 安全フレームにガタが無いか確認します。

2.3 シートベルト



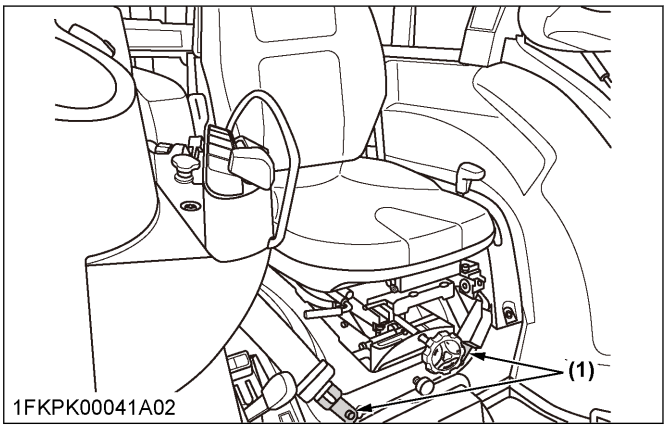
(1) シートベルト

電子メータメッセージ
- エンジン始動時、次図のシンボルマークとメッセージが 3 秒間表示されます。シートベルトを正しく装着してください。



2.4 シートベルトホルダ

降車後は、シートベルトをシートベルトホルダに収納してください。



(1) シートベルトホルダ

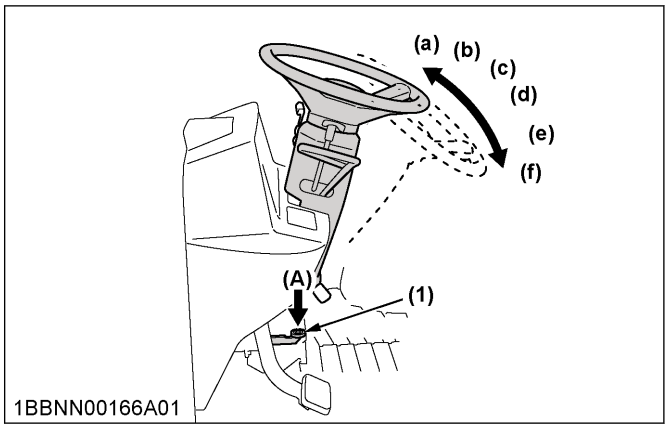
2.5 チルトステアリングハンドル

⚠ 警告
- **走行中の調節はしないでください。**
- **調節後、ハンドルがロックされていることを確認してください**

チルトステアリングハンドルの操作はチルトペダルを踏み込んで a～f の適当な位置でペダルをはなして位置を決めてください。

(a)
乗り降り時の位置

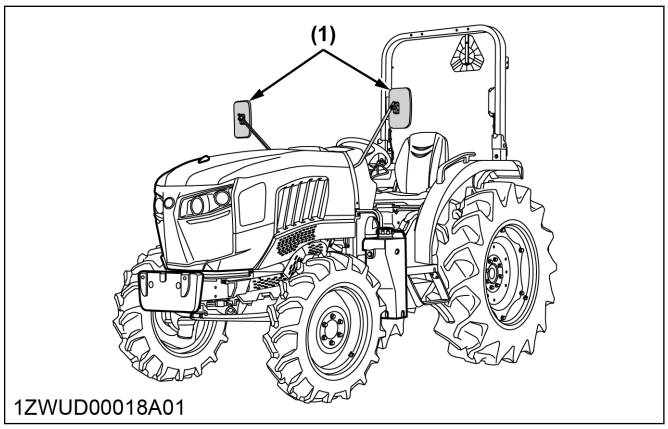
(b)〜(f)
運転操作位置



(1) チルトペダル　　*(A)* 踏み込む

2.6 バックミラー

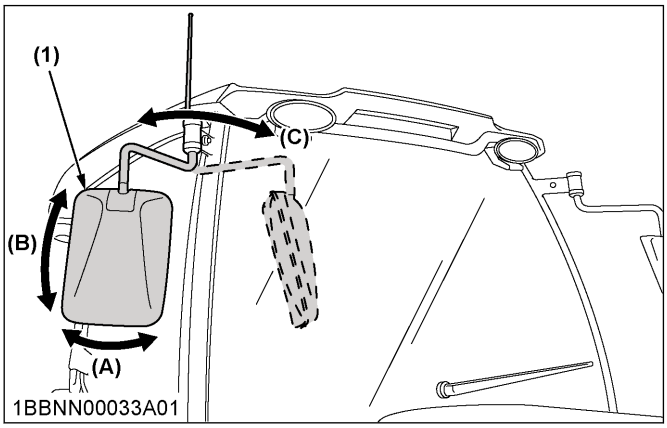
- バックミラーは、上下、左右に角度調節できますので、運転席に座って見やすい位置に調節してください。



(1) バックミラー

- **[安全キャブ仕様]** バックミラーは、格納できますので狭い場所ではぶつからないように格納してください。

安全キャブ仕様

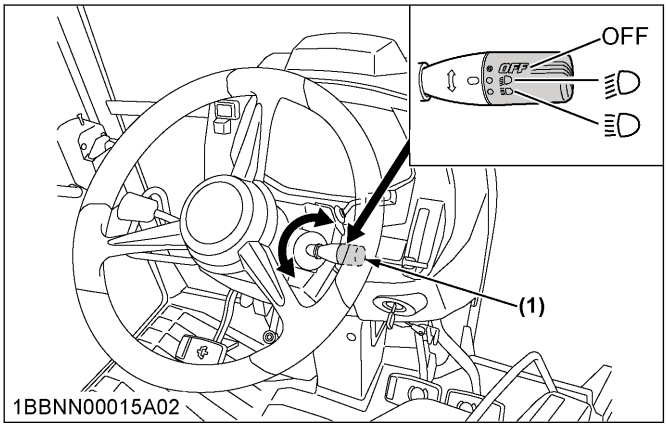


(1) バックミラー
(A) 左右
(B) 上下
(C) 格納位置

灯火類の操作

1. ヘッドライトスイッチ

ノブを回すとスイッチが入り、位置によって次のランプが点灯します。



(1) ヘッドライトスイッチ

[OFF]
ヘッドライト消灯位置

ヘッドライト下向き照射位置

ヘッドライト上向き照射位置

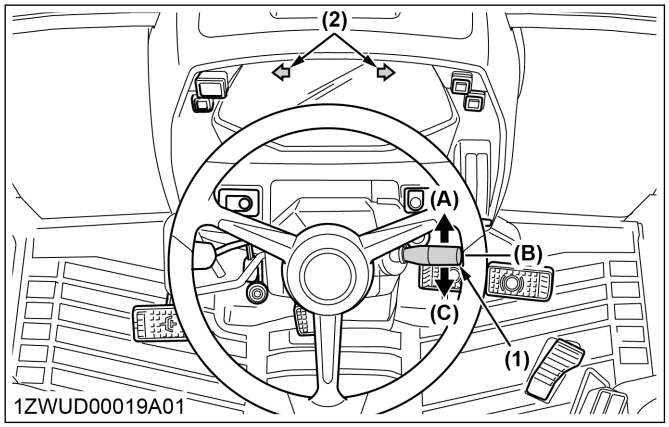
補足：

- **ヘッドライトスイッチを入れると、ウインカパイロットランプ、警告ランプ以外のランプ類、電子メータ液晶画面などの明るさが変化し暗くなります。**

2. ウインカスイッチ

- スイッチを前後操作すると、ウインカランプおよび電子メータ内のパイロットランプが点滅します。

• スイッチはハンドルを戻すと、自動的に“中立”に戻る、オートリターン機構になっています。



(1) ウインカスイッチ
(2) パイロットランプ
(A) 左折
(B) 中立
(C) 右折

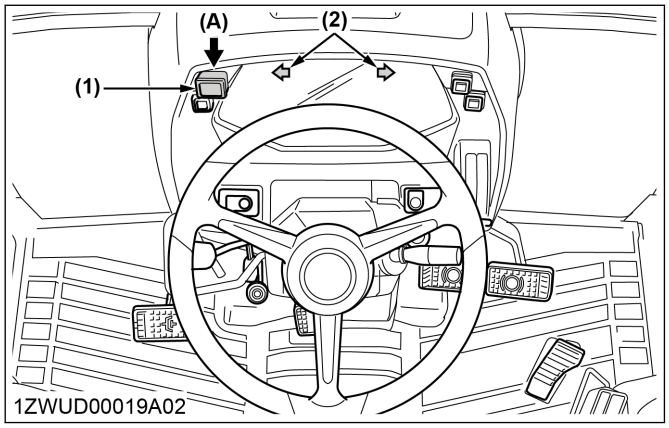
補足：

• **ハンドルを切る角度が小さいとスイッチが“中立”に戻らない場合があります。戻らないときは手で戻してください。**

3. ハザードスイッチ

トラクタが非常停止した場合、事故を防止するために使用します。

1. スイッチを押すと、ウインカ前後およびメータパネル内のウインカ作動パイロットランプが点滅し、非常停止中を知らせます。
2. 再度スイッチを押すと消灯します。



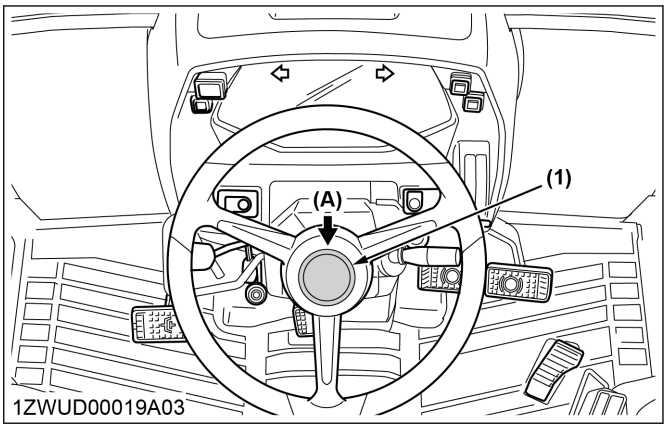
(1) ハザードスイッチ
(2) パイロットランプ
(A) *ON / OFF*

補足：

• **ハザードランプはキースイッチ[切]、[ACC]位置では作動しません。**

4. ホーンボタン

ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。



(1) ホーンボタン
(A) 押す

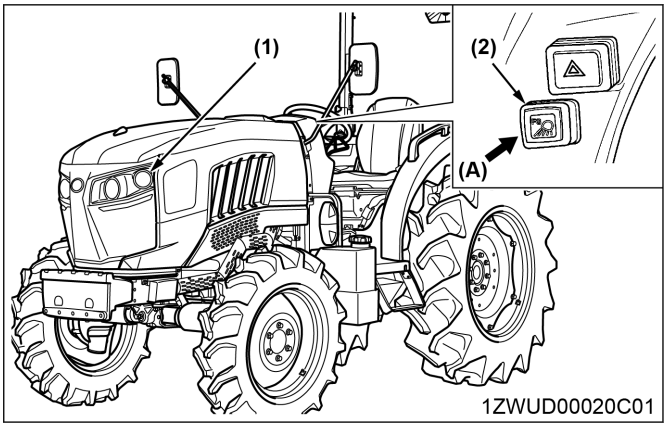
補足：

• **ホーンはキースイッチ[切]、[ACC]位置では作動しません。**

5. フロントサイド作業灯

1. スイッチを押すとフロントサイド作業灯が点灯します。
2. 再度スイッチを押すと消灯します。

作業灯の点灯を示すインジケータランプがスイッチに内蔵されています。



(1) フロントサイド作業灯
(2) フロントサイド作業灯スイッチ、インジケータランプ
(A) *ON / OFF*

補足：

• **作業灯はフロントサイド作業灯を含め［道路運送車両法の保安基準］第 42 条（灯火の色等の制限）において、“走行中に使用しない灯火”とされ、点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。道路走行時は消灯してください。**

6. バックランプ

シャトルレバーを“後進”の位置に入れると、バックランプが点灯します。
（メータ、ランプ類の作動点検（141 ページ）を参照）

7. ブレーキランプ

ブレーキペダル左右を連結し、ブレーキペダルを踏むと、ブレーキランプが点灯します。
（メータ、ランプ類の作動点検（141 ページ）を参照）

8. 車幅灯、尾灯

ヘッドライトに連動して点灯します。
（メータ、ランプ類の作動点検（141 ページ）を参照）

外部電源取出端子

1. 外部電源、信号取出端子

各種電源取出しやインプルメントに車速信号を伝達する車速信号カプラを備えています。

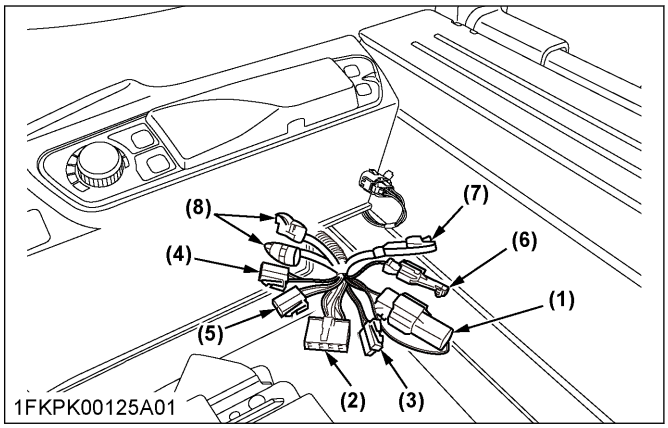
重要：

- **配線の損傷を防止するため、外部電源を使用する場合や、使用した場合には、可動部（シートなど）にケーブルが接触しないように配線してください。**
- **配線の損傷を防止するため、トラクタから作業機を取り外す際、インプルメント用ケーブルは必ずトラクタ側の電源取出しカプラ部から取り外し、作業機側のケーブルをトラクタ側に持ち込まないでください。外部電源取出しが可動部に接触しないように、もとの場所に収納してください。**
- **損傷したケーブルは使用しないでください。短絡などにより機械が故障する原因となります。**

補足：

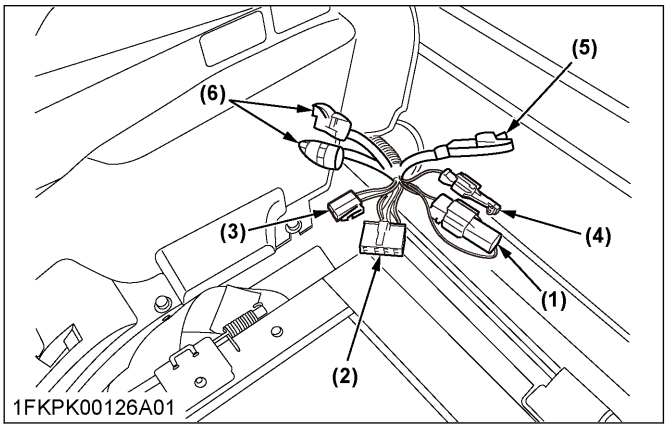
- **車速信号カプラ、作業機用大容量コネクタ(30 A)にはキャップが付いています。故障を防ぐため使用しないときは必ずキャップを装着してください。**

[安全フレーム仕様]

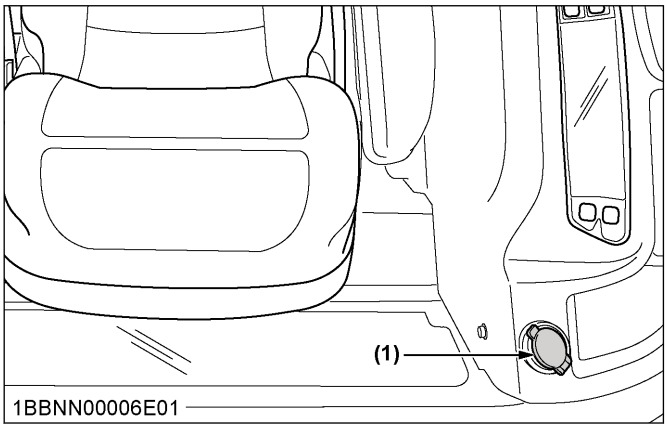


(1)	作業機用大容量コネクタ	2P カプラ（黒色）
(2)	トレーラ	8P カプラ（白色）
(3)	作業灯	2P カプラ（緑色）
(4)	作業機（ローダ）	2P カプラ（黒色）
(5)	予備電源	2P カプラ（白色）
(6)	車速信号カプラ	1P カプラ（灰色）
(7)	AG ポート	2P カプラ（黒色）
(8)	-	ユーザは使用しません

[安全キャブ仕様]

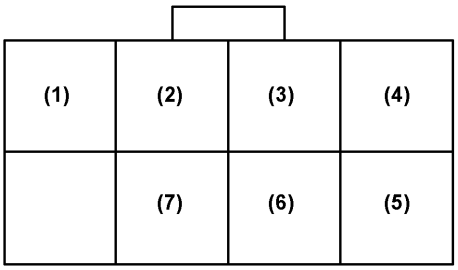


(1)	作業機用大容量コネクタ	2P カプラ（黒色）
(2)	トレーラ	8P カプラ（白色）
(3)	作業機（ローダ）	2P カプラ（黒色）
(4)	車速信号カプラ	1P カプラ（灰色）
(5)	AG ポート	2P カプラ（黒色）
(6)	-	ユーザは使用しません



(1) 外部電源（シガライタタイプ）*(10 A)*

2. トレーラカプラ電源



1BBNN00169A01

電源		配線色
(1)	アース	黒
(2)	駐車灯(8 W)	青白
(3)	フラッシャ左(23 W)	緑青
(4)	ブレーキランプ（23 W×2）	緑
(5)	フラッシャ右(23 W)	緑赤
(6)	テールランプ(8 W)	青白
(7)	バックランプ(10 W)	紫

発進、走行

⚠ 警告

- **トラクタを発進するときは前後左右をよく確認し、付近に人（特に子供）を近づけないでください。また、安全キャブや安全フレームに当たる障害物が無いかも確認してください。**
- **子供はもちろん、運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。また、必ずシートに座って運転してください。**
- **溝や穴の近く、路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。転落事故のおそれがあります。**
- **急な坂道の登坂はバックで行うか、作業機をできるだけ下げ、転倒防止に心がけてください。**
- **下り坂は、エンジンブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで降りないでください。**
- **負荷の大きいけん引をする場合や湿田脱出の場合には、徐々に発進し、トラクタが後へ転倒しないように注意してください。**
- **高速で旋回すると、横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して、必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。**
- **後進は前進とほぼ同じ速度が出ます。周囲の状況をよくみて、安全であることを確認してからシャトルレバーを後進位置に入れて、安全な速度で後進してください。また後進中は、特に周囲の状況によく注意して運転してください。**
- **運転席足元に空缶、部品などの物を置くとブレーキペダルやクラッチペダルの下にはさまり、ブレーキ操作、クラッチ操作ができなくなり危険です。**
- **連結解除ペダルロックレバーが下がっていることを確認してください。トラクタを発進、停止するときに片ブレーキを踏むと車体が振られ、転倒や交通事故のおそれがあります。**

1. 発進、走行のしかた

1. ブレーキ連結解除ペダルが踏めないことを確認します。
   （駐車ブレーキを掛ける方法（65 ページ）を参照）
   - “道路走行時”は連結解除ペダルロックレバーを必ず“下げ”て、連結解除ペダルが踏めないことを確認してください。
2. 駐車ブレーキを確認し、エンジンを始動します。
   （エンジンの始動のしかた（52 ページ）を参照）
3. 油圧レバーを“後方に引き”作業機を上げます。
   （油圧（ポジションコントロール）レバー（98 ページ）を参照）
4. 走行モードを確認します。
   （走行モード切換スイッチ（71 ページ）を参照）
5. クラッチペダルを踏み込みます。
6. 作業に応じ必要なレバー類を操作します。
   （主変速（U シフト）レバー（67 ページ）、クリープレバー（69 ページ）、シャトルレバー（70 ページ）、アクセルレバー（72 ページ）、PTO 変速レバー（115 ページ）を参照）
7. エンジン回転を調整します。
8. 駐車ブレーキを解除します。
9. 主変速レバーを“*1* 速”に入れます。
10. シャトルレバーを“前進”または“後進”に入れ、クラッチをゆっくりはなします。
    トラクタが動き始めます。
11. 主変速レバーを 1 段ずつ変速したい位置まで変速します。

電子メータメッセージ

- 連結解除ペダルロックレバーを“ロック解除”位置にしたまま、車速が 10 km/h を超えると、次図のメッセージが表示されますので、速やかにトラクタを止め、連結解除ペダルロックレバーを“ロック”位置にしてください。



1BBNN00231A02

停車、駐車

⚠ 警告

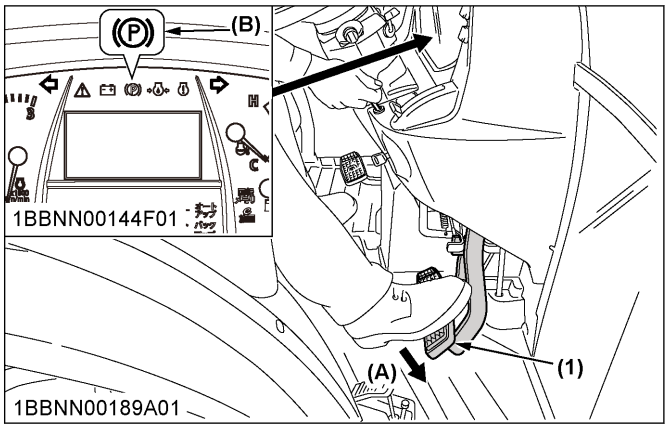
- **本機は油圧ミッションのため、変速ギヤを入れてエンジンを止めても、エンジンブレーキはききません。駐車後トラクタが動き出さないよう、必ず駐車ブレーキを“掛けて”ください。**
- **駐車するときは、平たんでトラクタが安定する場所を選び、各変速レバーを“中立”([N])、作業機を“下げ”、駐車ブレーキを“掛け”、エンジンを“停止”してキーを抜いてください。**
  やむをえず坂道で駐車する場合は、タイヤに車止めをしてください。
- **乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には駐車しないでください。**
- **格納などでトラクタにシートをかける場合は、マフラやエンジンがじゅうぶん冷えてから行ってください。火災の原因になります。**
- **トラクタから降りるときは、ロータリなどの PTO 作業機が完全に止まるまで待ってください。**

1. アクセルレバーを手前側に引いて、エンジン回転をアイドリング状態にします。
2. クラッチおよびブレーキペダルを“踏み込み”ます。
3. 完全に停止してから、シャトルレバー、主変速レバー、および PTO 変速レバーを“中立”(**[N]**)にします。あんしん PTO スイッチを**[切]**にします。
4. 作業機を取り付けている場合は、油圧レバーをゆっくり“前方に倒し”作業機を下げます。
5. 駐車ブレーキを確実に掛けます。
6. キースイッチのキーを**[切]**にして、エンジンを停止します。

1. 駐車ブレーキ

1.1 駐車ブレーキの解除

ブレーキペダルを“踏み込む”と駐車ブレーキが解除され、メータパネル内のⓅランプが消灯します。



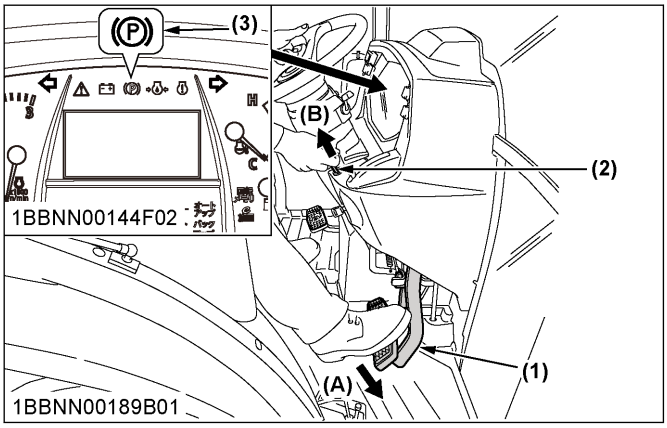
(1) ブレーキペダル
(A) 踏み込む
(B) 駐車ブレーキランプ消灯

1.2 駐車ブレーキを掛ける方法

⚠ 警告

- **駐車するときは必ずシャトルレバーを“中立”にし、確実に駐車ブレーキを“掛けて”ください。駐車ブレーキのみで駐車させると、トラクタが動き危険です。**

1. 連結解除ペダルロックレバーを“下げ”、連結解除ペダルが踏めないことを確認します。
2. ブレーキペダルを踏み込みます。
3. 駐車ブレーキグリップを引きます。



(1) ブレーキペダル
(2) 駐車ブレーキグリップ
(3) 駐車ブレーキランプ
(A) 踏み込む
(B) 引く

2. ブレーキペダル

ブレーキは、強制的に機体を停止させる装置です。

⚠ 警告

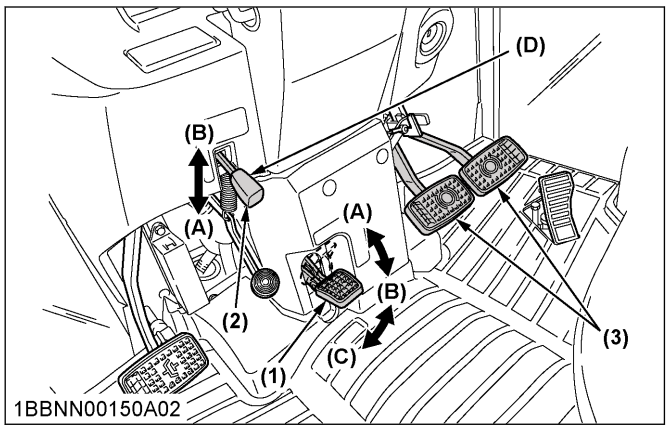
- **道路走行中、登り坂、下り坂、およびあぜ越え中は、連結解除ペダルロックレバーを下げ、連結解除ペダルが踏めないことを確認してください。**
  道路走行中に片ブレーキを踏むと車体が振られ、転倒や交通事故のおそれがあります。

本機の場合、一般車両と異なり、ブレーキペダルは左右それぞれ独立しています。連結解除ペダルを踏み込まないときは、左右のブレーキペダルは連結されており、左右両輪のブレーキが同時に働きます。
連結解除ペダルロックレバーを上げて、連結解除ペダルを解除位置まで踏み込んだときのみ、後輪の片輪だけにブレーキをかけることができます。

連結解除ペダルロックレバーを下げた状態

- 道路走行時

左右両輪のブレーキが同時に働きます。

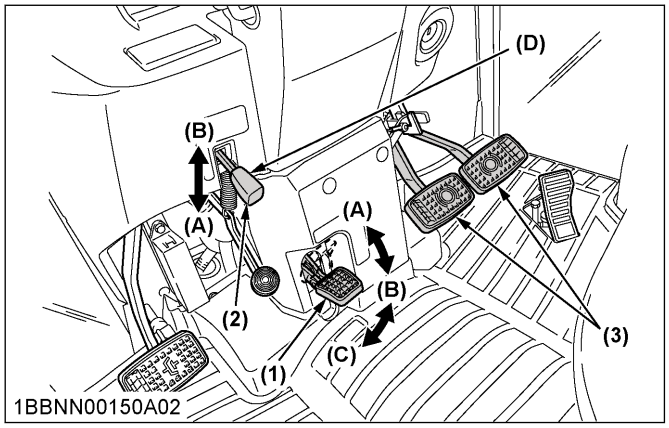


(1) 連結解除ペダル
(2) 連結解除ペダルロックレバー
(3) ブレーキペダル
(A) ロック（格納）
(B) ロック解除
(C) 連結解除
(D) 道路走行時は必ず下げる

連結解除ペダルロックレバーを上げた状態

- 農作業時

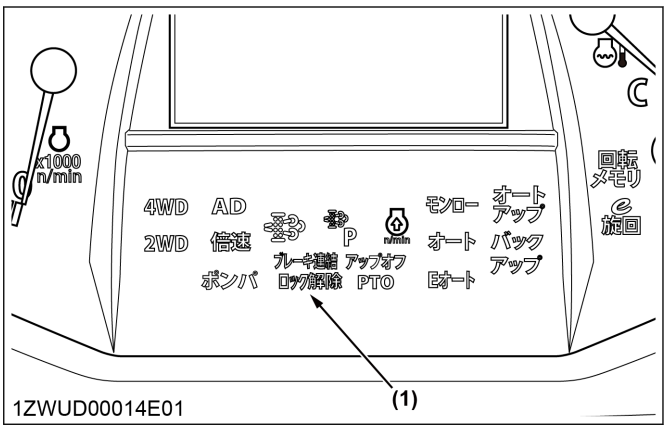
連結解除ペダルを踏み込めば、片ブレーキ操作が可能です。



(1) 連結解除ペダル
(2) 連結解除ペダルロックレバー
(3) ブレーキペダル
(A) ロック（格納）
(B) ロック解除
(C) 連結解除（踏み込む）
(D) 片ブレーキを働かせたいときは上げる

2.1 ブレーキ連結ロック解除警告灯

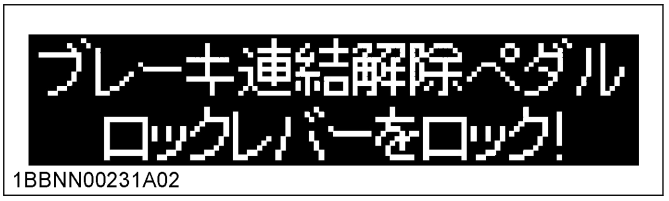
連結解除ペダルロックレバーを上げると**ブレーキ連結ロック解除警告灯**が点灯します。
道路走行時などでは連結解除ペダルロックレバーを下げて、ブレーキ連結ロック解除警告灯の消灯を確認してから、走行してください。



(1) ブレーキ連結ロック解除警告灯

電子メータメッセージ

- 連結解除ペダルロックレバーを“ロック解除”位置にしたまま、車速が 10 km/h を超えると、次図のメッセージが表示されますので、速やかにトラクタを止め、連結解除ペダルロックレバーを“ロック”位置にしてください。



3. クラッチペダル

クラッチは、エンジンの動力を各作動部に断続する装置です。

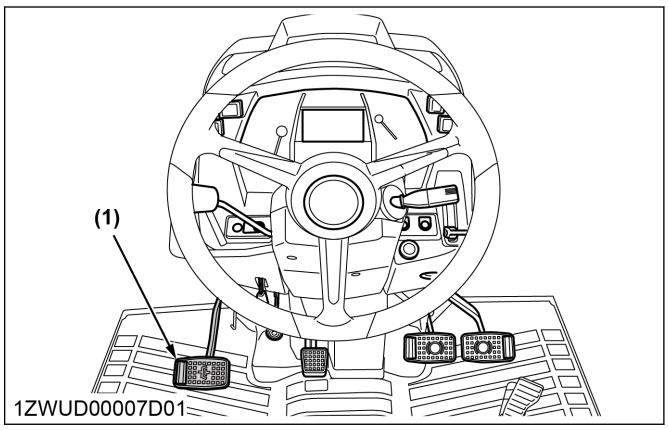
⚠ 警告

- **急にクラッチを離すと、急に飛び出すおそれがあります。**
  ゆっくり行ってください。

ペダルを踏み込む	クラッチが切れる
ペダルから足を離す	クラッチがつながる

補足：

- **次のレバーを操作するときは、必ずクラッチ ペダルを踏みトラクタを完全に停止させてから行ってください。**
  - **副変速レバー**
  - **PTO 変速レバー**



(1) クラッチペダル

重要：
- **クラッチの寿命を伸ばすため、半クラッチの使用時間、回数を少なくするように、次の点にご注意ください。**
  - **速度調節はクラッチで行わないようにしてください。**
  - **作業に応じた車速およびエンジン回転を選択してください。**
  - **クラッチペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。知らないうちに半クラッチを使用していることになります。**

各変速レバー

1. 各変速レバーの取扱い

次のレバーを組み合わせて、各作業に適した速度にします。
- 主変速レバー
- シャトルレバー
- クリープレバー

各作業に適した速度の目安

作業名	速度(km/h)
トレンチャ	～0.3
プランタ	0.2～0.6
ロータリ	0.5～3.0
代かき	2.9～4.1
プラウ	4.0～6.5
モーア	6.0～9.5
走行	10.0 ～

（走行速度表（175 ページ）を参照）

1.1 主変速（U シフト）レバー

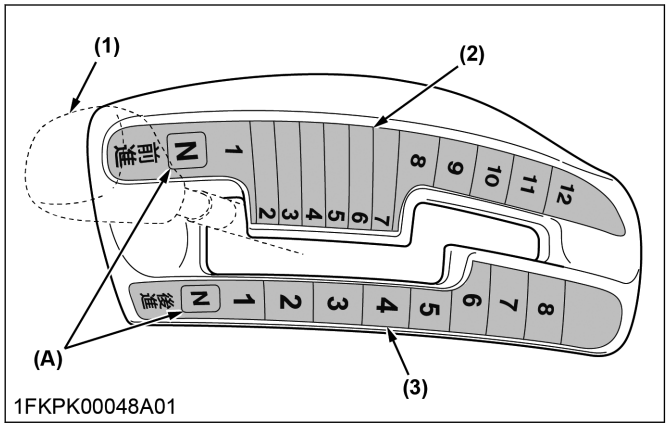
⚠ 警告
- **急発進はしないでください。**
- **安全のため、急激な変速は避けてください。変速は 1 段ずつ行ってください。**
- **緊急停止時や、作業機の取付け、取外しなど狭い場所での作業時には、クラッチを使用してください。**
- **走行中は、主変速レバーに手を置いたままにしないでください。**
- **急な坂道、車両への積み、降ろし、ほ場への出入り、あぜの乗り越えなどでは、途中で変速すると危険ですので、あらかじめ安全な遅い変速位置に入れておいてください。**
- **低温始動時、ミッションオイルが暖まるまでは、主変速レバーで発進するとき、変速レバーを入れてから発進までに時間がかかる発進遅れ状態となる場合があります。**
  - **じゅうぶんに暖機運転をしてください。もし暖機運転をする時間が無い場合は、シャトルレバーで発進するかクラッチを操作して発進してください。**
  - **低温時の発進遅れは異常ではないので、主変速レバーを変速に入れたままトラクタから降りないでください。遅れて動き出すおそれがあります。**

重要：
- **油圧クラッチ、シンクロの寿命を保つため、次の点に注意してください。**
  - **作業に合った車速とエンジン回転を選んでください。**
  - **急激なシフトダウンは避けてください。**
  - **トラクタの使い始めの変速時に、油圧クラッチのつながり音がする場合がありますが、油温が上がってくると正常になります。**

1.1.1 主変速（U シフト）レバーの変速操作

[GJE28、GJE35]
- 主変速レバーは、停止、走行中に関係無くノンクラッチで変速できます。
- シャトルレバーとクリープレバーの組合わせにより次の車速が得られます。

前進	24 段
後進	16 段



1FKPK00048A01

(1) 主変速レバー　　*(A)* 中立位置*(N)*
(2) 前進速度ラベル
(3) 後進速度ラベル

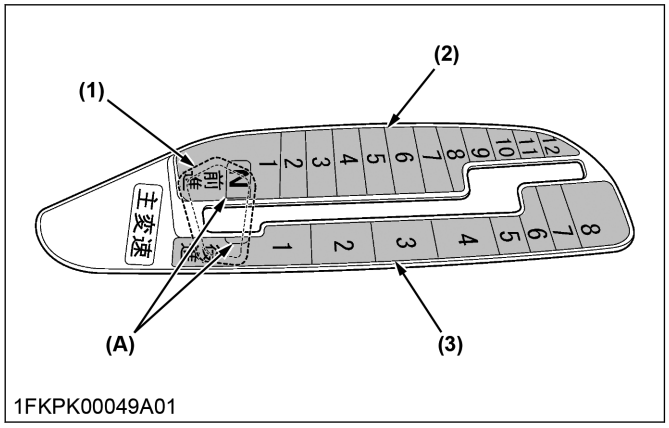
補足：

- **後進時、主変速レバーが後進ラベルの 1 速から 4 速の範囲内では、各 2 段階ありますが、後進速度は変化しません。**

[GJE28X、GJE35X]

- 主変速レバーは、停止、走行中に関係無くノンクラッチで変速できます。
- シャトルレバーとクリープレバーの組合わせにより次の車速が得られます。

前進	24 段
後進	16 段



1FKPK00049A01

(1) 主変速レバー　　*(A)* 中立位置*(N)*
(2) 前進速度ラベル
(3) 後進速度ラベル

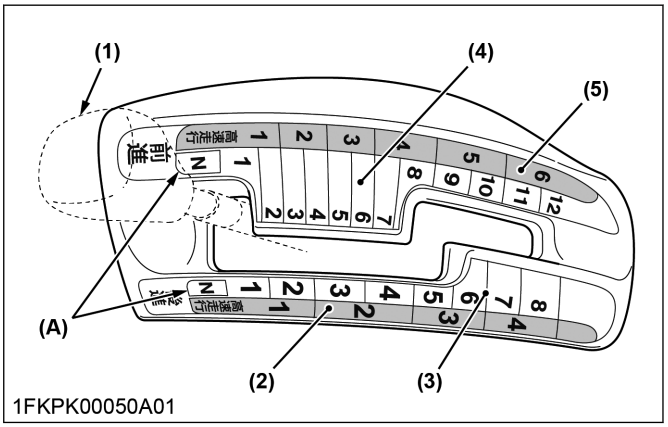
補足：

- **後進時、主変速レバーが後進ラベルの 1 速から 4 速の範囲内では、各 2 段階ありますが、後進速度は変化しません。**

[GJE35H]

- 主変速レバーは、停止、走行中に関係無くノンクラッチで変速できます。
- シャトルレバーとクリープレバーの組合わせにより次の車速が得られます。

前進	30 段
後進	20 段



1FKPK00050A01

(1) 主変速レバー　　*(A)* 中立位置*(N)*
(2) 後進速度ラベル（高速走行用）
(3) 後進速度ラベル（クリープレバー低、高速用）
(4) 前進速度ラベル（クリープレバー低、高速用）
(5) 前進速度ラベル（高速走行用）

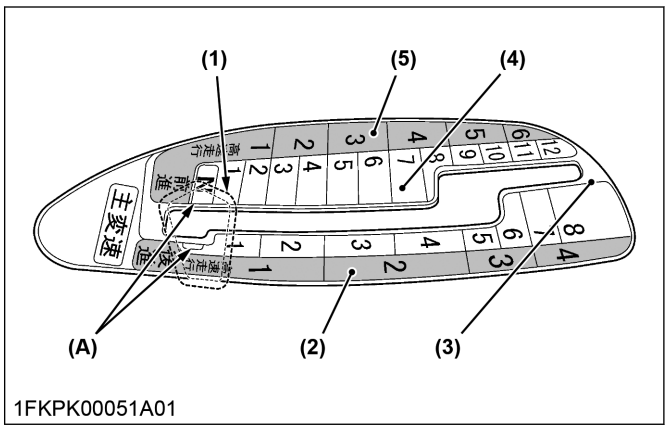
補足：

- **主変速レバーの変速段数は、クリープレバーが“低”と“高”速位置では内側ラベル(3)、(4)、“高速走行”位置では外側ラベル(2)、(5)を参考にしてください。**
- **高速走行時、主変速レバーは各変速域とも各 2 段階ありますが、速度は変化しません。**
- **後進時、主変速レバーが後進ラベルの 1 速から 4 速の範囲内では、各 2 段階ありますが、後進速度は変化しません。**

[GJE35HX、GJE35HXN、GJE35KHX]

- 主変速レバーは、停止、走行中に関係無くノンクラッチで変速できます。
- シャトルレバーとクリープレバーの組合わせにより次の車速が得られます。

前進	30 段
後進	20 段



(1) 主変速レバー
(2) 後進速度ラベル（高速走行用）
(3) 後進速度ラベル（クリープレバー低、高速用）
(4) 前進速度ラベル（クリープレバー低、高速用）
(5) 前進速度ラベル（高速走行用）
(A) 中立位置*(N)*

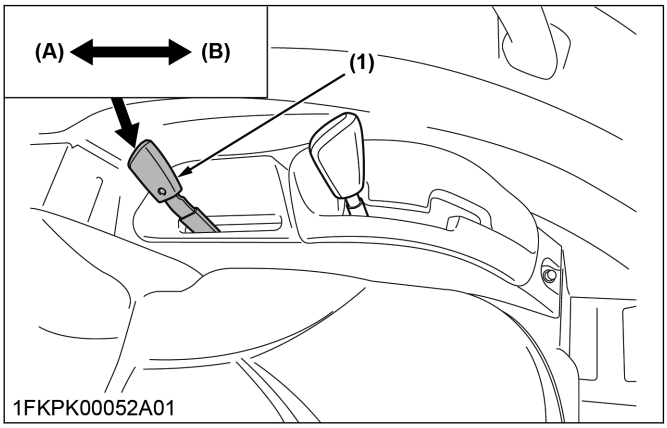
補足：
- **主変速レバーの変速段数は、クリープレバーが“低”と“高”速位置では内側ラベル(3)、(4)、“高速走行”位置では外側ラベル(2)、(5)を参考にしてください。**
- **高速走行時、主変速レバーは各変速域とも各 2 段階ありますが、速度は変化しません。**
- **後進時、主変速レバーが後進ラベルの 1 速から 4 速の範囲内では、各 2 段階ありますが、後進速度は変化しません。**

1.2 クリープレバー

⚠ 警告
- **クリープ速度では車軸の回転力が非常に強くなるので、ブレーキペダルを強く踏んだだけではブレーキはききません。**

［GJE28、GJE28X、GJE35、GJE35X］
“低”位置で超低速（クリープ速度）、“高”位置で高速が得られます。
クラッチペダルを踏み込み操作します。

安全フレーム仕様

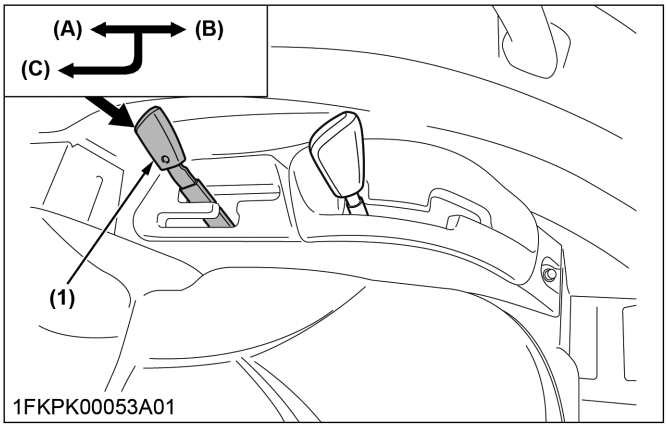


(1) クリープレバー
(A) 高
(B) 低

補足：
- **［安全キャブ仕様］のクリープレバーも同じ操作です。**

［GJE35H、GJE35HX、GJE35HXN、GJE35KHX］
“低”位置で超低速（クリープ速度）、“高”位置で高速が得られます。
“高速走行”位置では、移動走行に便利な高速が得られます。
クラッチペダルを踏み込み操作します。

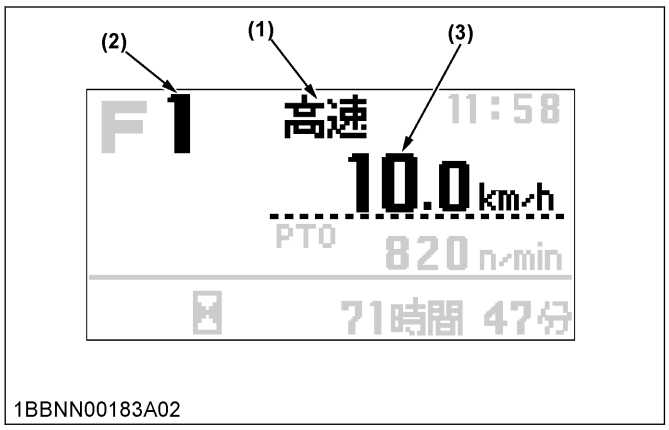
安全フレーム仕様



(1) クリープレバー
(A) 高
(B) 低
(C) 高速走行

補足：
- **［安全キャブ仕様］のクリープレバーも同じ操作です。**
- **メータパネルには、次の 3 種類のデータが表示されます。**

(1)	クリープレバーで、高速走行を選択時に表示[*1]
(2)	主変速レバーで選択した変速段数を表示 中立時は**[N]** 変速段数は仕様により異なります。
(3)	走行実車速を表示：停止時は“0.00km/h”、副変速“中立”時は“＊＊km/h”



(1) 高速走行選択表示　　*(3)* 走行実車速
(2) 変速段数

***1 ［ハイスピード(H)仕様］のみ**

1.2.1 クリープの使用方法

クリープ速度は、使用する作業と取扱い方法を誤ると故障の原因になります。
次のことに注意してお使いください。

- 使用できる作業
  - ロータリでの深耕、細土耕うん作業。
  - ロータリで、ほ場がかたく標準速度で耕うんできない場合。
  - プランタによる移植作業。
  - 農業用トレンチャによる作業。農業用に限ります。
  - 車への積み、降ろしをするとき。
- 使用できない作業
  次の作業には使用しないでください。故障の原因になります。
  - 湿田での沈没状態から脱出する作業。
  - けん引、トレーラ作業。
  - フロントローダ作業。
  - フロントブレード作業（除雪作業）。
  - 土木作業。
  - ほ場への出入り。
- クリープ速度を使用するときは、必ず次のことを守ってください。
  - 変速は、クラッチペダルをいっぱい踏み込んでから行ってください。
  - 発進は、必ず駐車ブレーキを外してから行ってください。
  - クリープ速度では車軸の回転力が非常に強くなるので、ブレーキペダルを強く踏んだだけではブレーキはききません。
    停止は、必ずクラッチを切ってからブレーキをかけてください。

重要：

- **クリープ速度でブレーキペダルをあまり強く踏むと故障の原因になります。**
- **クリープ速度では、けん引作業をしないでください。**
- **超低速で無理な負荷をかけると故障の原因になります。**

補足：

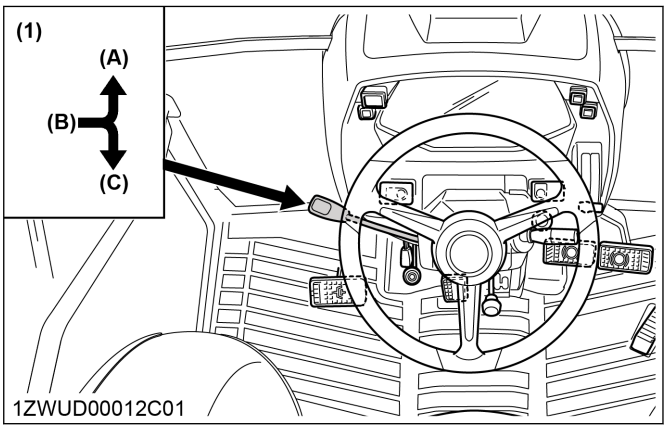
- **クリープレバー操作時、レバー操作が重くなるときがあります。**
  そのときは、クラッチペダルを踏み直し、再度クリープレバーを操作してください。
- **また、クラッチペダルを踏み直してもまだレバー操作が重いときは、いったん主変速レバーを“中立”([N])にしてから操作してください。**

1.3 シャトルレバー

⚠ 警告

- **急発進を避けるため、エンジン回転を下げてからシャトルレバーを操作してください。**
- **“前進”←→“後進”のシフト操作は、いったん“中立”位置にして、トラクタの停止を確認してから操作してください。**
- **後進は前進とほぼ同じ速度が出ます。**
  後進する場合は、周囲の状況が安全であることを確認してからシャトルレバーを“後進”位置に入れて、安全な速度で後進してください。
  また後進中は、特に周囲の状況をよく注意して運転してください。
- **急傾斜地で前進、後進の切換えをシャトルレバーのみの操作で行うと、前進、後進が切り換わるときトラクタの自重で自走し、危険な場合が予想されます。必ずクラッチペダル、ブレーキペダルを踏み込んで切換えを行い、クラッチペダルで発進してください。**

レバーを持ち上げ、前に押して“前進”、手前（後）に引いて“後進”です。レバー操作は、クラッチペダルを踏まないノンクラッチ状態でも変速することができます。



(1) シャトルレバー
(A) 前進*(F)*
(B) 中立*(N)*
(C) 後進*(R)*

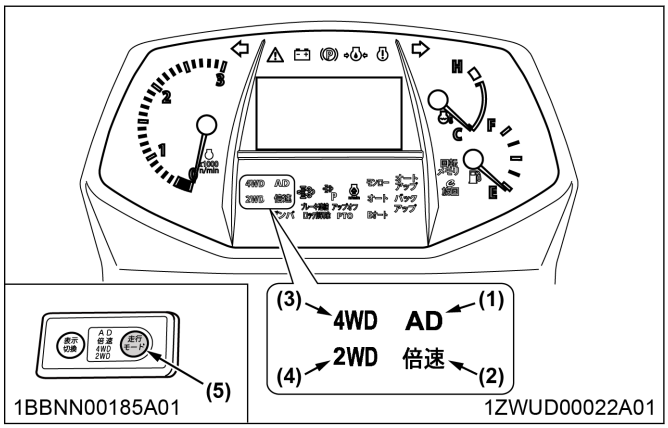
2. 走行モード切換スイッチ

スイッチを押すごとに**[AD 倍速]**⇒**[2WD]**⇒**[4WD]**⇒**[倍速]**⇒**[AD 倍速]**の順に切り換わります。
選択状態はモニタランプで表示されます。
なおスイッチは、クラッチ操作や走行、停止中に関係無く操作できます。

補足：

- **通常道路走行時は[2WD]、ほ場への出入りや作業時は作業内容に応じ適切なモードを次のスイッチで選択してください。**

	モニタランプ
AD 倍速	**[4WD]**、**[AD]**、および**[倍速]**ランプが点灯し、旋回時に倍速ターンが作動すると同時に、AD も作動します。
倍速	**[4WD]**と**[倍速]**ランプが点灯し、旋回時に倍速ターンが作動します。
4WD	**[4WD]**ランプが点灯し、４輪駆動になります。
2WD	**[2WD]**ランプが点灯し、２輪駆動になります。



(1) *AD* ランプ
(2) 倍速ランプ
(3) *4WD* ランプ
(4) *2WD* ランプ
(5) 走行モード切換スイッチ

2.1 4 輪駆動の使用方法

警告

- **舗装道路や高速走行時の 4 輪駆動は避けてください。思わぬ事故の原因にもなります。走行モード切換スイッチを[2WD]に切り換えてから走行してください。**
  また、タイヤの摩耗を早める原因にもなります。

４輪駆動は、次のような場合に威力を発揮します。

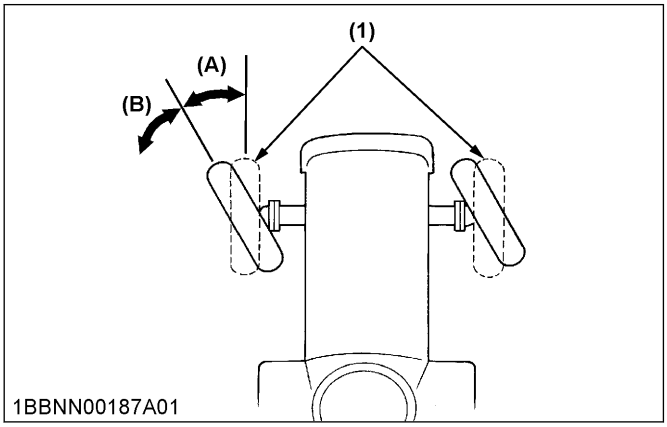
- 傾斜地、湿田、トレーラの運搬、フロントローダ作業時で、けん引力が必要な場合。
- 砂地で作業をする場合。
- 固いほ場で、ロータリ耕うん時の飛び出しを防止する場合。
- ほ場への出入り、およびあぜ越えを行う場合。

2.2 倍速ターンの使用方法

警告

- **倍速ターンに入れたままでは、ほ場以外を走行しないでください。ほ場から出る前に走行モード切換スイッチを[2WD]または[4WD]に切り換えてください。**
- **倍速ターンは、畑、水田などのロータリ耕作業に役立ちますが、使用法を誤ると転倒などのおそれや故障の原因にもなります。**

倍速ターンの作動は次図のようになっています。
“倍速”モードで旋回動作に入り、ステアリングハンドルを切っていくと、前輪の切れ角が直進状態からある一定の角度になるまでは、通常の 4 輪駆動の回転数で前輪が駆動されます。
さらにステアリングハンドルを切ると、倍速ターンが作動し、前輪の回転数がそれまでの約 2 倍の回転数で駆動され、小さくスムーズな旋回が行えます。



(1) 前輪
(A) 通常の *4* 輪駆動
(B) 倍速ターン作動

重要：

- **トレーラけん引作業などの速度の速い作業には、使用しないでください。**
- **フロントローダを装着した場合は、使用しないでください。**

補足：

- **倍速ターンは、危険防止のため、旋回開始時の車速が約 0.2 km/h～5 km/h の範囲のときのみ作動します。**
  また、倍速旋回中は車速が変わっても、倍速ターンの作動を保持します。

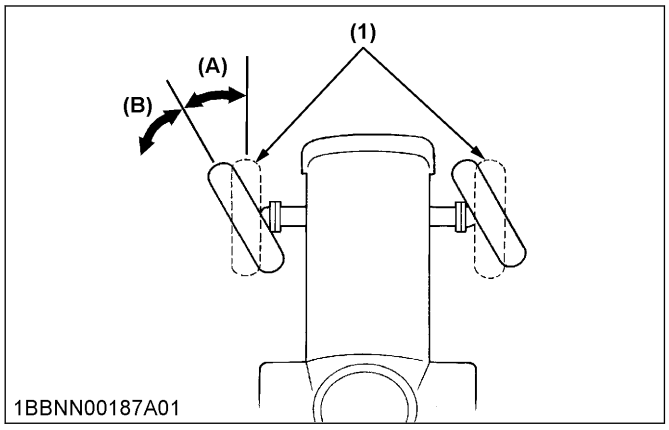
2.3 AD 倍速ターンの使用方法

隣接耕うん作業をする場合に、枕地で軽く片ブレーキを踏み、旋回を小さくする操作が行われますが、AD 倍速はこの操作を自動的に行うものです。

⚠ 警告

- **AD 倍速“入”のままでほ場以外を走行すると、旋回時急に回り事故の原因になります。ほ場から出る前に走行モード切換スイッチを[2WD]または[4WD]に切り換えてください。**

AD 倍速ターンの作動は次図のようになっています。
[AD 倍速]モードで旋回動作に入り、ステアリングハンドルを切っていくと、前輪の切れ角が直進状態からある一定の角度になるまでは、通常の 4 輪駆動の回転数で前輪が駆動されます。
さらにステアリングハンドルを切ると、AD が作動し、内側後輪に軽くブレーキがかかるとともに、倍速ターンが作動し、前輪の回転数がそれまでの約 2 倍の回転数で駆動され、小さくスムーズな旋回が行えます。



(1) 前輪
(A) 通常の *4* 輪駆動
(B) *AD* 倍速ターン作動

重要：

- **トレーラけん引作業などの速度の速い作業には、使用しないでください。**
- **フロントローダを装着した場合は、使用しないでください。**

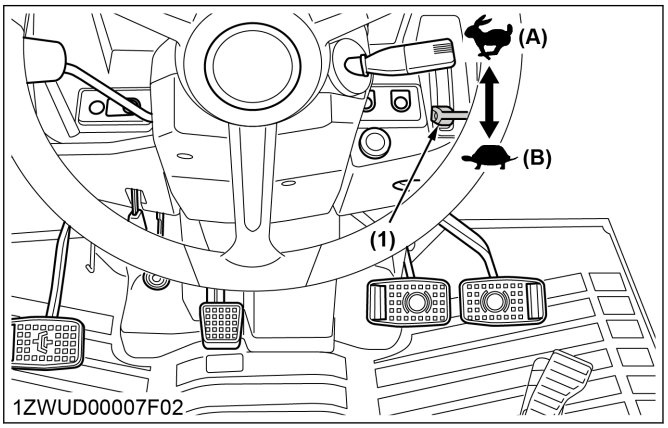
補足：

- **AD 倍速は、危険防止のため、旋回開始時の車速が約 0.2 km/h～3.5 km/h の範囲のときのみ作動します。約 3.5 km/h～5 km/h までは倍速ターンのみ作動します。**
  また、AD 倍速旋回中は車速が変わっても、AD 倍速の作動を保持します。

3. アクセルレバー

主に農作業時に使用します。

	レバーを前側に押すと、エンジン回転が上がる。
	レバーを手前側に引くと、エンジン回転が下がる。

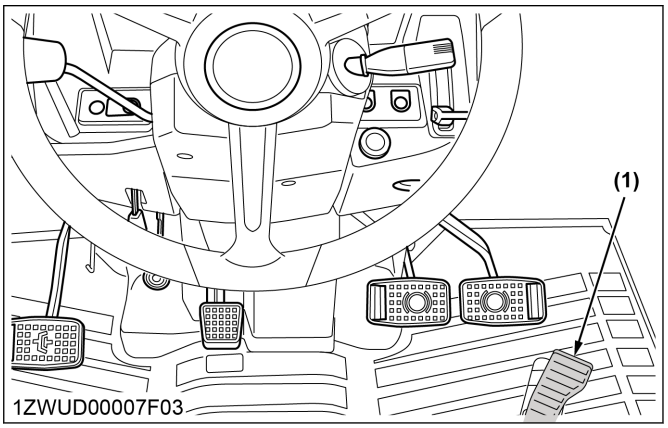


(1) アクセルレバー
(A) 高速
(B) 低速

4. アクセルペダル

主に道路走行時に使用します。

ペダルを踏み込む	エンジン回転が上がる。
ペダルから足を離す	アクセルレバーで設定したエンジン回転まで下がる。



(1) アクセルペダル

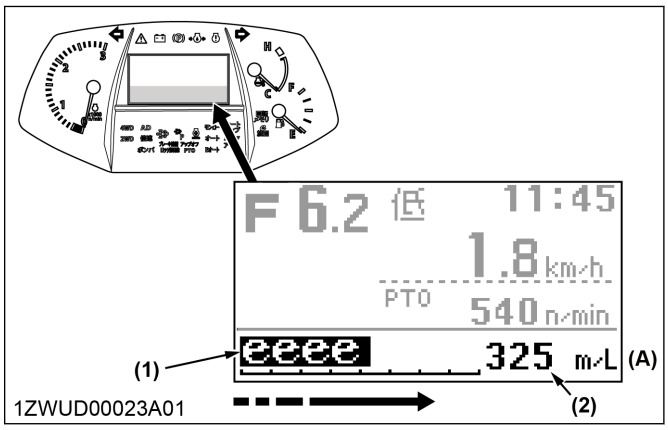
省エネ運転のしかた

メータパネルに表示される、“距離燃費”、“瞬間燃費”、“平均燃費”、“積算量”で現在の運転状態を確認することができます。
上手に取り扱い、省エネ運転に心掛けてください。

1. 省エネ運転時のメータパネル表示

1.1 距離燃費表示

燃料 1 リットル当たりの作業距離を、作業状態に応じ瞬時に“燃費グラフ”と“数値”で表示します。
燃費グラフは右方向に伸びるほど燃費が良いことを示します。



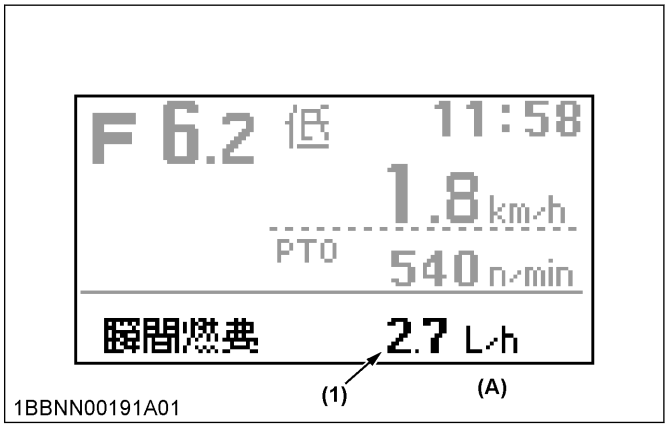
(1) 距離燃費表示グラフ　　*(A)* *m/L*
(2) 距離燃費

補足：

- **メータパネルに距離燃費を表示させたい場合は、液晶表示の切替え（78 ページ）を参照ください。**
- **トラクタが停止中のときには、距離燃費表示や瞬間燃費表示は〝*〟（アスタリスク）マークが表示されます。**
- **［ハイスピード(H)仕様］のみ**
  副変速レバーを“高速走行”に入れると、単位表示が m/L から km/L に切り換わります。

1.2 瞬間燃費表示

現在の作業状態を続けた場合、1 時間当たりの燃料消費量を“数値”で表示します。
数値が小さい程燃費が良いことを示します。



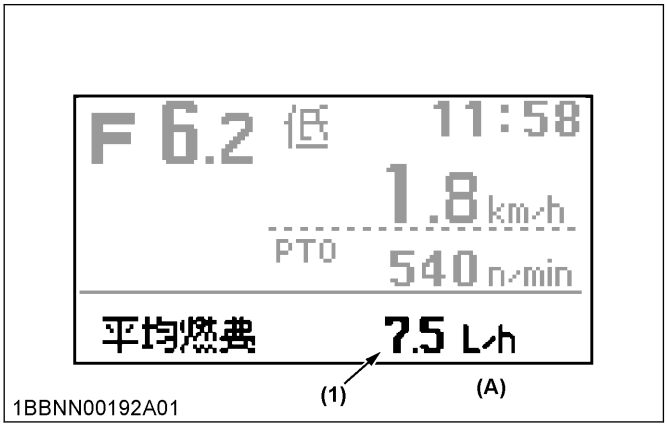
(1) 瞬間燃費　　*(A)* リットル／時間

補足：

- **瞬間燃費は給油タイミングなどの参考にしてください。燃料の節約を目的として確認するときは、距離燃費表示を参考にしてください。**
- **燃料表示は運転状態からの推定値のため、実際の燃費と誤差が生じる場合もあります。表示データは参考値として活用ください。**

1.3 平均燃費表示

リセット後、今現在までに消費した燃料を 1 時間当たりの燃料消費に換算して表示します。



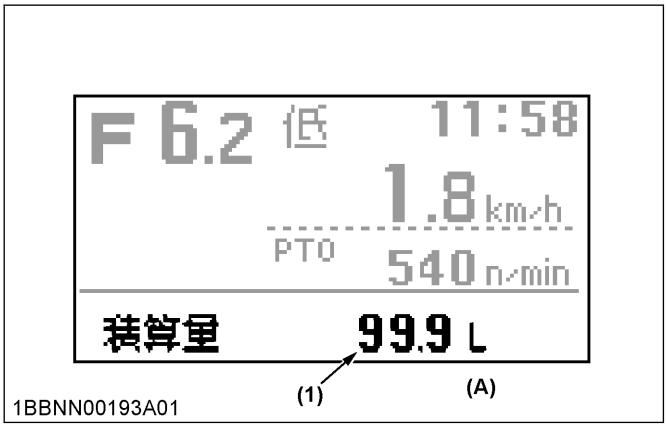
(1) 平均燃費　　*(A)* リットル／時間

補足：

- **平均燃費は、表示されているときに表示切換スイッチを 2 秒間押すとリセットされます。**

1.4 積算量表示

リセット後、今現在までに消費した総燃料を表示します。最大表示は 999.9 L まで。



(1) 積算量　　*(A)* リットル

補足：

- **積算量は、表示されているときに表示切換スイッチを 2 秒間押すとリセットされます。**

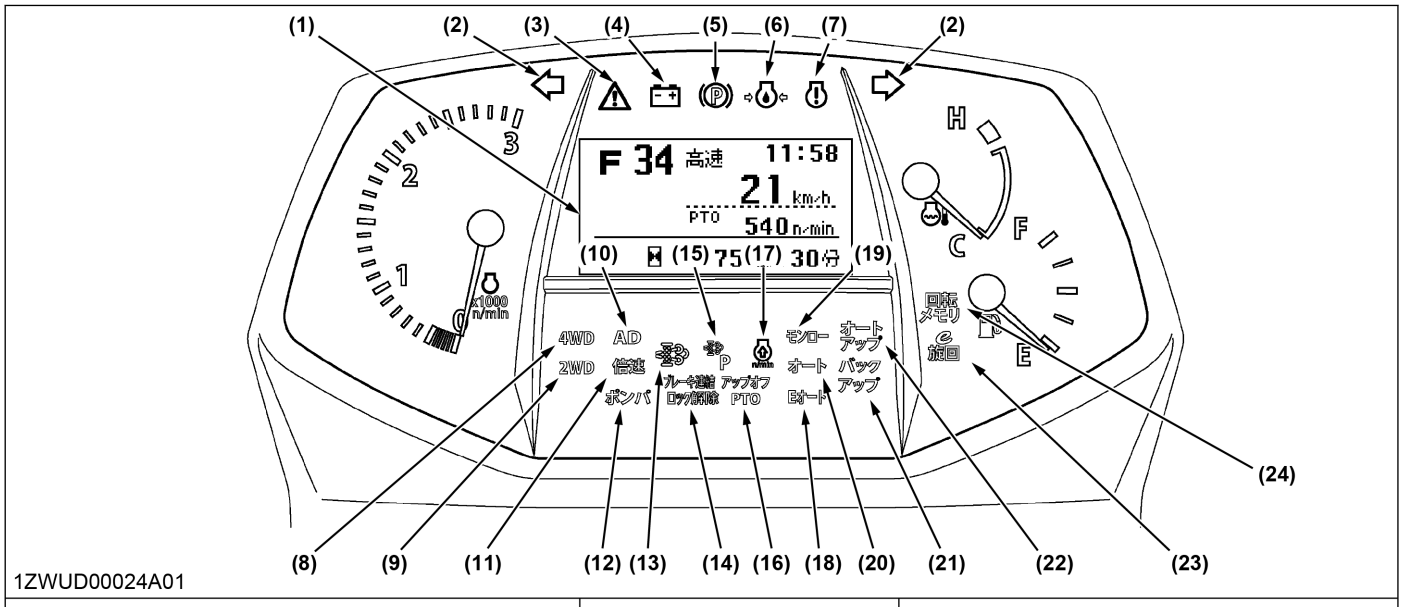
電子メータパネル

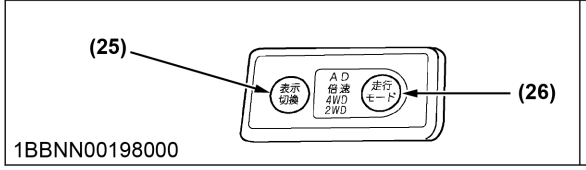
1. 電子メータ

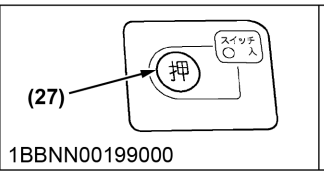
電子メータは、トラクタの運転に必要な各種情報を的確なタイミングでオペレータに提供するとともに、誤操作時の操作指示、各種警報や万一故障した場合にも故障箇所や緊急使用時の取扱いなどを、メッセージとグラフィックで表示します。
表示に従って正しく取り扱ってください。
なお、液晶表示（75 ページ）のメッセージ以外が表示された場合は、トラクタの故障と処置（168 ページ）を参照してください。

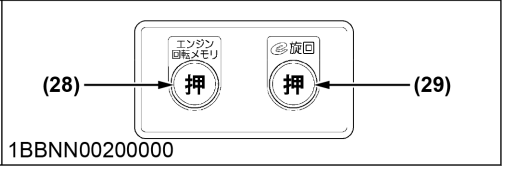
補足：

- **メータパネルカバーの透明樹脂を、市販のワックスで手入れすると表面が曇ってくる場合があります。ワックスは使用しないでください。**



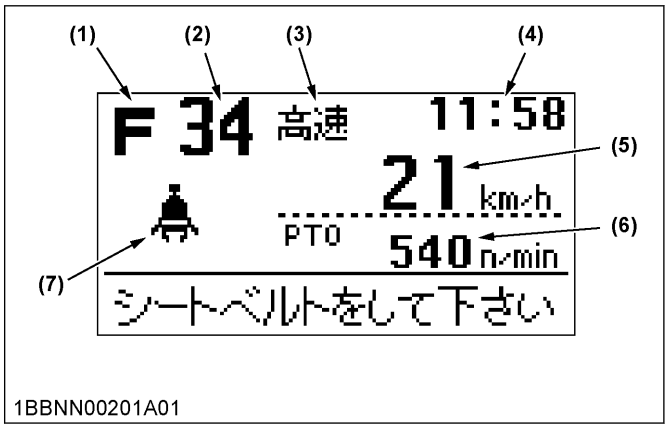






(1) 液晶（メッセージ）表示部
(2) ウインカパイロットランプ
(3) 警告灯
(4) 充電異常警告灯（チャージランプ）
(5) 駐車ブレーキ警告灯
(6) エンジンオイル油圧警告灯
(7) エンジン異常警告灯
(8) *4WD* ランプ
(9) *2WD* ランプ
(10) *AD* ランプ
(11) 倍速ランプ
(12) ポンパランプ
(13) 再生状態ランプ
(14) ブレーキ連結ロック解除警告灯
(15) 駐車再生要求ランプ
(16) アップオフ *PTO* ランプ
(17) エンジン回転上げ要求ランプ
(18) *E* オートランプ
(19) モンローランプ
(20) オートランプ
(21) バックアップランプ
(22) オートアップランプ
(23) *e* アシスト旋回ランプ
(24) 回転メモリランプ
(25) 表示切換スイッチ
(26) 走行モード切換スイッチ
(27) ワンタッチ耕うんモードスイッチ
(28) エンジン回転メモリスイッチ
(29) *e*-アシスト旋回スイッチ

2. 液晶表示



1BBNN00201A01

No.	メッセージ	内容	参照ページ
(1)	F, R 又は N 1BBNN00204A01	シャトルレバー位置が表示されます。 前進は"F"、後進は"R"、中立は"N"。	70
(2)	N 又は 1 ~ 12 1FKPK00097A01	主変速レバーで選択した変速段数が表示されます。 中立時は"N"。 変速段数は仕様により異なります。	67
(3)	高速 1FKPK00098A01	クリープレバーで高速走行を選択時表示されます。 **[ハイスピード仕様]** のみ表示されます。	69
(4)	"0:00"～"11:59"	時計モード。時刻が表示されます。 "--:--"が表示されているときは、時刻設定を行ってください。非表示に設定されているときは何も表示されません。	86
(5)	0.00 ~ 34 1BBNN00208A01	走行車速が表示されます。 けん引作業などでタイヤがスリップしている場合の車速表示は実車速と異なります。	--
(6)	540, 切 又は 停止中 1BBNN00209A01	PTO の回転数が表示されます。 PTO 停止時は"切"、アップオフ PTO モードで PTO が停止時は"停止中"と表示されます。	114
(7)	 1BBNN00220A01	冷却水温が低いとき表示されます。 表示が消えてからエンジンを始動してください。	56
	 シートベルトをして下さい 1BBNN00221A01	エンジン始動時 3 秒間表示されます。 シートベルトを装着してください。	60
	 燃料を給油して下さい 1BBNN00222A01	燃料が約 7 L 未満になると表示されます。 すぐ燃料を補給してください。 空にすると燃料系統に空気が入るので、空気抜きが必要です。 （燃料の空気抜きのしかた（162 ページ）を参照）	141
	PTOスイッチを 「切」にして下さい 1BBNN00223A01	エンジン始動時左記メッセージが表示された場合、メッセージに従って操作してください。	114

（次へ続く）

No.	メッセージ	内容	参照ページ
(7)	シャトルレバーを 「中立」にして下さい 1BBNN00224A01	エンジン始動時左記メッセージが表示された場合、メッセージに従って操作してください。	70
	PTOスイッチを「切」に シャトルレバーを 「中立」にして下さい 1BBNN00225A01		70、114
	油圧レバーを下げて 安全ロックを解除 1BBNN00226A01	油圧安全ロック作動時に表示されます。 メッセージに従って操作してください。	98
	油圧レバーを上げて 安全ロックを解除 1BBNN00227A01		98
	高さ規制を 「高」にして下さい 1BBNN00228A01	エンジン始動時、3 点リンク高さ規制ダイヤルが**[3P 手動]**にセットされていれば表示されます。メッセージに従って操作してください。	98
	3P手動モード 1BBNN00229A01	エンジン始動後、3 点リンク高さ規制ダイヤルを**[3P 手動]**にセットすると表示されます。	98
	駐車ブレーキを解除! 1BBNN00230A01	駐車ブレーキを掛けたまま走行し、車速が 0.1 km/h を超えると表示されます。メッセージに従って操作してください。	65
	ブレーキ連結解除ペダル ロックレバーをロック! 1BBNN00231A01	車速が 10 km/h 以上時、左記レバー類が正しくセットされていないとき表示されます。メッセージに従って操作してください。	65、94
	PTOスイッチを「切」に! 1BBNN00232A01		114
	油圧レバーを上げに! 1BBNN00233A01		98
	油圧レバーを下げで回転 1BBNN00234A01	アップオフ PTO モード“入”でポンパレバーを“上げ”または油圧レバーを“最上昇位置”にすると、PTO が停止しメッセージが表示されます。	98
	9 7 5 3 1 深 浅 オート 1BBNN00235A01	耕深調節ダイヤルで耕深を変更したとき、約 5 秒間表示されます。	109
	水温高温により エンジン出力制限中 1BBNN00237A01	エンジンがオーバーヒートすると、メータパネルに 警告灯が赤色に点灯し、メッセージが表示されます。メッセージに従って操作、点検してください。	92

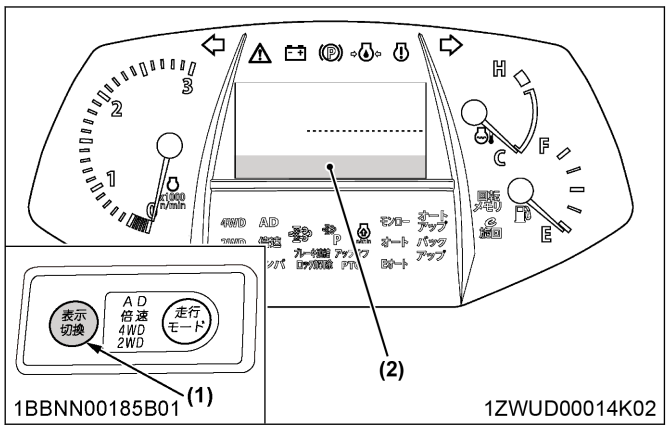
（次へ続く）

No.	メッセージ	内容	参照ページ
(7)	冷却後点検して下さい 1BBNN00238A01	エンジンがオーバーヒートすると、メータパネルに ⓘ 警告灯が赤色に点灯し、メッセージが表示されます。メッセージに従って操作、点検してください。	136
	セパレータの水を抜いて下さい 1BBNN00239A01	セパレータに分離された水が排出レベルまでたまると表示されます。水の排出が必要です。 （ウォータセパレータの水の排出（137 ページ）を参照）	137

（表のメッセージ以外が表示された場合は、エンジンの不調と処置（167 ページ）、トラクタの故障と処置（168 ページ）を参照）

3. 液晶表示の切替え

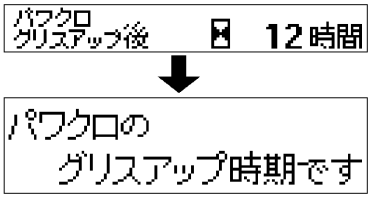
電子メータパネルの液晶（メッセージ）表示部の下部は、表示切換スイッチを押すごとに表示が次表の順に切り換わります。省エネ運転やメンテナンスの参考などに応じ、適切な表示に切り換えてください。



(1) 表示切換スイッチ　　*(2)* 液晶（メッセージ）表示部下部

表示順	表示名	メッセージ	内容	参照ページ
1	アワーメータ	75時間 30分 1BBNN00210A01	トラクタの総使用時間を表示します。リセットはできません。	--
2	トリップ時間	トリップ 71時間 47分 1BBNN00211A01	リセットしてから今現在までの使用時間を表示します。 表示切換スイッチを 2 秒間押すとトリップ時間はリセットされます。	--
3	距離燃費	325m/L 1BBNN00212A01	燃料 1 L 当たりの作業距離を表示します。	73
4	瞬間燃費	瞬間燃費 2.7 L/h 1BBNN00213A01	今現在の瞬間的に消費している燃費を 1 時間当たりの燃料消費量に換算し表示します。	73
5	平均燃費	平均燃費 7.5 L/h 1BBNN00214A01	リセット後、今現在までに消費した総燃料を 1 時間当たりの燃料消費量に換算し表示します。 表示切換スイッチを 2 秒間押すと平均燃費はリセットされます。	73
6	積算量	積算量 99.9 L 1BBNN00215A01	リセット後、今現在までに消費した総燃料を表示します。最大表示は 999.9 L まで。 表示切換スイッチを 2 秒間押すと積算量はリセットされます。	73
7	PM 堆積量表示	PM 85% PM フィルタ再生中 100% 1BBNN00240A01	DPF マフラ内の PM 堆積量の割合を表示します。 DPF 再生中は〝フィルタ再生中〟の文字が表示されます。	45
8	エンジンオイル交換用トリップ時間	エンジンオイル交換後 56時間 エンジンオイルの交換時期です 1BBNN00241A01	前回エンジンオイル交換後の運転時間を表示します。 オイルの交換時期に達すると、左記メッセージが表示されます。初回 50 時間以降 200 時間ごとに表示します。	150

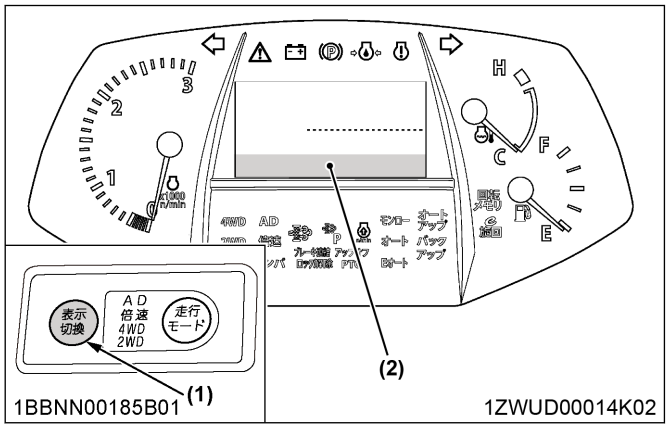
（次へ続く）

表示順	表示名	メッセージ	内容	参照ページ
9	パワクログリースアップ用トリップ時間	 1BBNN00242A01	前回グリースアップ後の運転時間を表示します。 グリースアップ時期に達すると、左記メッセージが表示されます。30 時間ごとに表示します。	143

4. 電子メータメッセージのリセット方法

エンジンオイル交換時または、パワクロのグリースアップメンテナンス時、本項の手順でメッセージ表示時間を *“0* 時間”に戻してください。
正しくリセットしておくと、オイル交換時期またはパワクロのグリースアップメンテナンス時期に達すると、表示例 1 の電子メータメッセージが表示され大変便利です。

1. 表示切換スイッチを押し、“エンジンオイル交換用トリップ時間”または、“パワクログリースアップ用トリップ時間”表示モードにします。
   表示例 2 のメッセージが表示されます。
2. 表示例 2 の状態で表示切換スイッチを 2 秒間押します。
   表示例 3 のようにメッセージ表示が 0 時間にリセットされます。



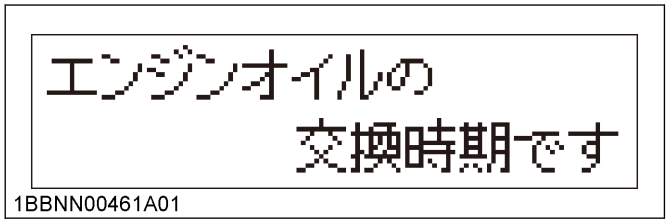
(1) 表示切換スイッチ　　*(2)* 液晶表示部

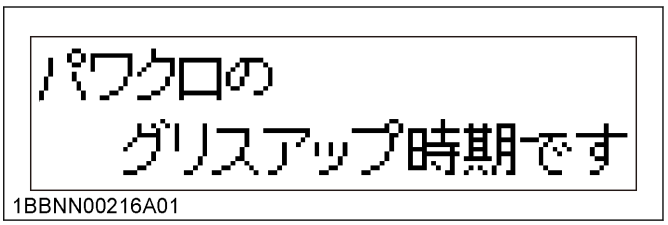
補足：

- **新車時、アワーメータの表示時間が 20 時間未満で“エンジンオイルの交換後トリップ時間”をリセットすると、50 時間運転後に表示例 1 のメッセージが表示されます。**
- **正しくリセットしないと、エンジン始動後 5 秒間、表示例 2 のメッセージが表示されます。**

電子メータメッセージ

表示例 1



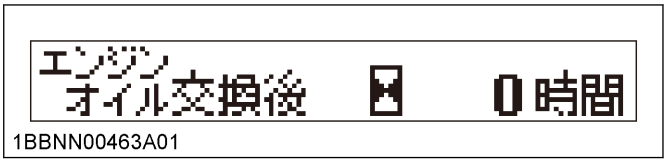


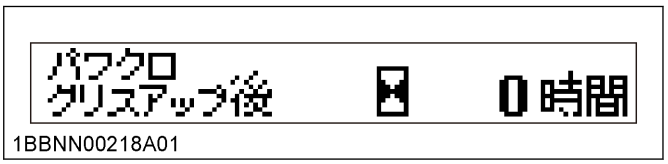
表示例 2





表示例 3





電子メータパネルの選択表示

表示切換スイッチ操作により次の設定ができます。

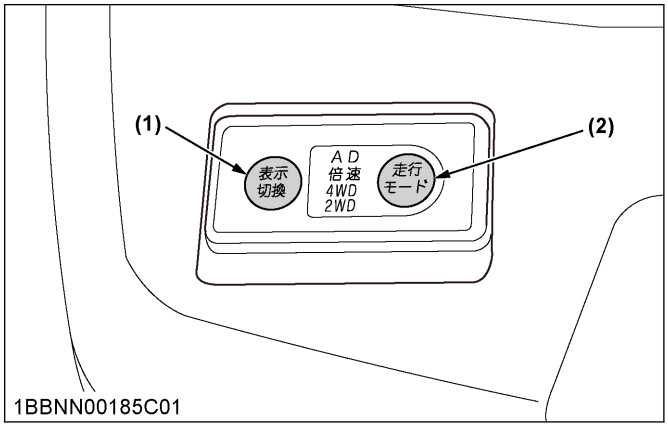
- エンジンオイルフィルタなど 6 項目のメンテナンス管理
- 運転に必要な PTO 回転や車速など作業メモの記憶
- 盗難防止機能の設定
- 時計の時刻合わせ

重要：

- **取説表記と異なる操作を行うと、これらの選択画面と異なる表示が出る場合があります。これらの設定以外の操作は行わないでください。誤って操作すると電子メータ液晶ディスプレイに正しく表示されないだけでなく、故障の原因になります。**

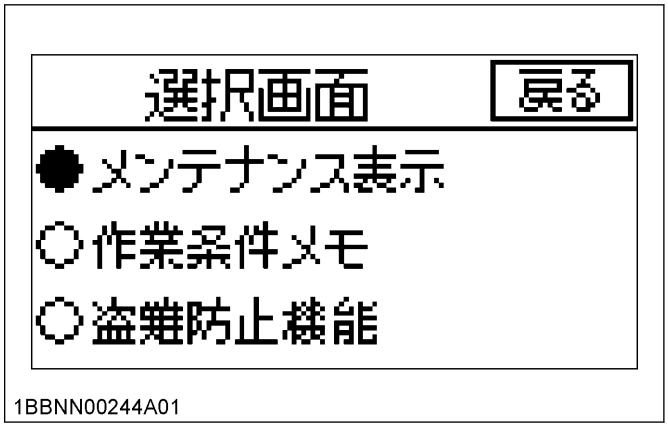
1. 電子メータパネルの選択表示の操作手順

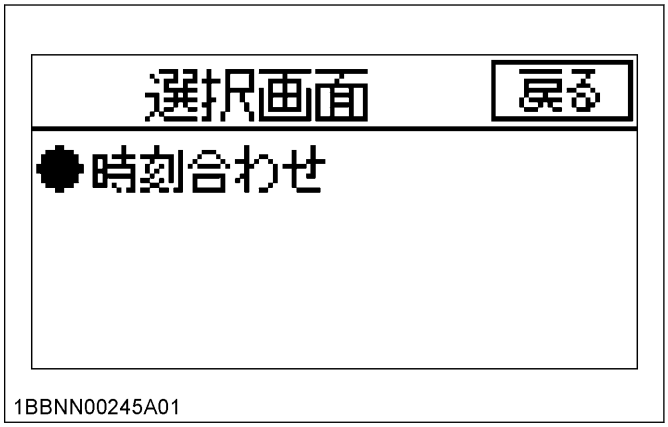
1. キースイッチ**[入]**後、次図のスイッチを同時に約 3 秒長押しします。



(1) 表示切換スイッチ　　*(2)* 走行モード切換スイッチ

液晶モニタに次図の選択画面が表示されます。





2. 表示切換スイッチで、必要項目に ● を選択後、スイッチを長押しで確定させます。
   表示切換スイッチを押すごとに ● が移動します。

   補足：
   - **スイッチを押すごとにブザーが鳴ります。**

3. リセットするには、〝戻る〟を選択後、スイッチを長押しにする、またはキースイッチを**[切]**にします。

補足：
- **バッテリを外すと時計がリセットされますので、再セットが必要です。**

2. メンテナンス表示

メンテナンス表示画面で示す 6 項目のメンテナンス時間の管理を行うことができます。

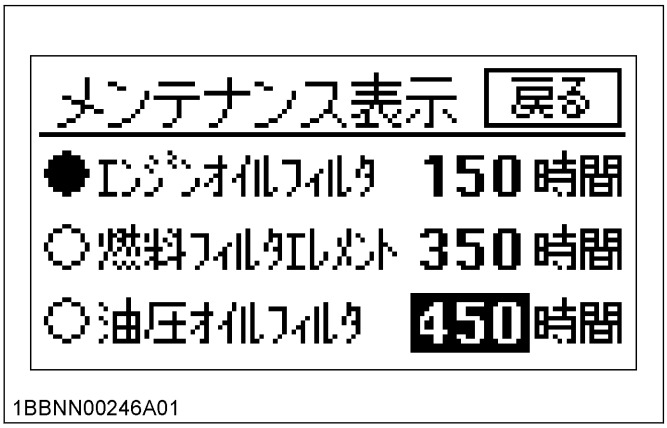
2.1 メンテナンス表示の操作手順

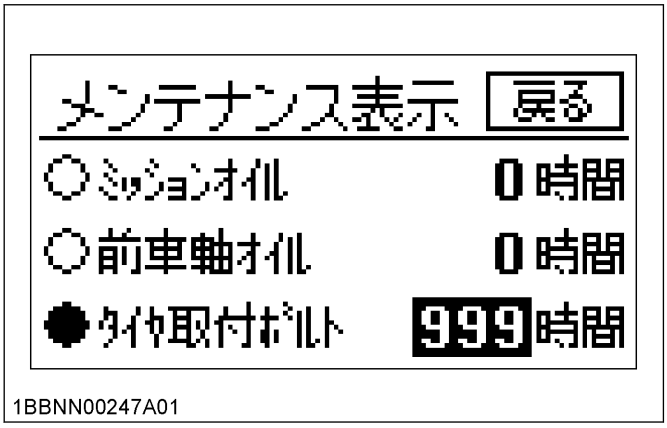
1. 選択画面で〝メンテナンス表示〟を選択後、再度表示切換スイッチを長押しで確定させます。
   メンテナンス表示画面が表示されます。
2. 表示切換スイッチで、項目に ● を移し確認していきます。
   表示切換スイッチを押すごとに ● が下方向へ移動し、項目が順次表示されます。

2.2 メンテナンス表示画面の確認方法

メンテナンス項目ごとに表示される時間は、前回交換後の使用時間です。
数字部が白黒反転している項目は、点検や交換時間に達しています。速やかに点検、交換作業を行った後、リセットしてください。

補足：
- **交換後リセットしなかった場合正しく表示されません。表示時間は〝999〟で停止します。**

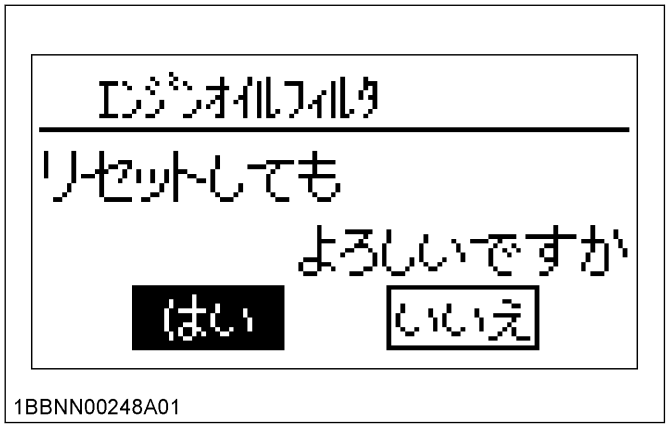




2.3 メンテナンス表示時間のリセット方法

点検や交換を行った項目は本項の手順でリセットしてください。

1. 表示切換スイッチでリセットさせる項目に ● を移し、再度スイッチを長押しで確定させます。
   次図の画面が表示されます。



1BBNN00248A01

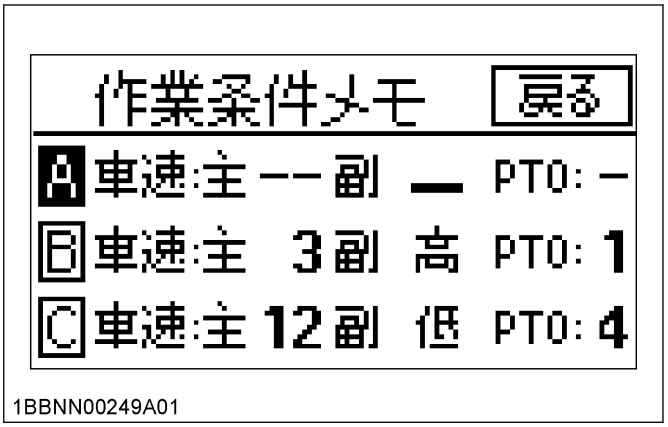
2. 表示切換スイッチで〝はい〟または〝いいえ〟を選択し、再度スイッチを長押しします。
   - 〝はい〟を選択後、再度スイッチを長押しすると、時間が〝0〟にリセットされます。
   - 〝いいえ〟を選択後、再度スイッチを長押しすると、メンテナンス画面に戻ります。

3. 作業条件メモ

トラクタでの作業条件を 3 種類記憶させることができます。
例えば、春起こし、代かき、秋起こしの作業条件を入れておけば便利です。

3.1 作業条件メモの操作手順

1. 選択画面で〝作業条件メモ〟を選択後、再度表示切換スイッチを長押しで確定させます。
   次図の画面が表示されます。
2. 表示切換スイッチで、入力したいメモに ■ を移し、再度スイッチを長押しで確定させます。
3. 表示切換スイッチで、メモの項目（主変速、副変速、PTO）を選択します。
4. 走行モード切換スイッチで、メモする値を選択します。
   後述の補足を参照してください。
5. 全てのメモを入力後、表示切換スイッチを長押しで確定させます。



1BBNN00249A01

補足：
- **作業メモは走行モード切換スイッチを押すごとに、次表の値が繰返し表示されます。**
- **主変速の作業メモは車速を表示しています。**

メモの項目	初期状態	選択値
主変速	--	1～35、--
副変速	-	低、高、高速、-
PTO	-	1、2、3、4、逆、-

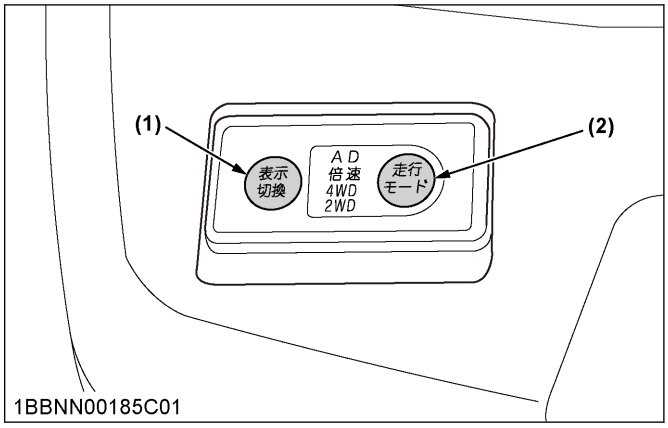
4. エンジン始動セキュリティ機能

本機能はお客様があらかじめ設定した暗証番号を入力しないとエンジンが始動しないシステムで、トラクタを自走させての盗難を抑制するのに効果があります。

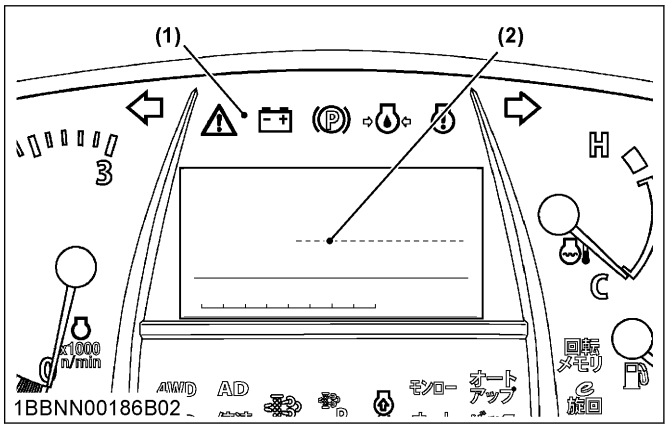
重要：
- **本機能はトラクタ盗難そのものを防止するものではありません。本機能が作動している（“入”）にも関わらず、トラクタ盗難が発生したとしても当社では責任を一切負いかねますのでご了承ください。**
- **本機能は“入”／“切”の切替えが可能であるため、“切”状態ではトラクタを自走させての盗難を抑制する効果はありません。**
- **暗証番号を連続して 10 回誤入力すると、暗証番号入力を拒否しエンジンを始動することができなくなります。この状態になったり、暗証番号を忘れた場合は、お客様では対応できませんので、購入先に連絡してください。**
- **暗証番号の入力によってエンジン始動セキュリティを解除したあとは、キースイッチを[切]にしても 10 分間は本機能が解除状態になり、暗証番号を入力しなくても再始動が可能となります。ただし、バッテリを取り外した場合は 10 分以内でも暗証番号の入力が必要です。**
- **本機能の“入”／“切”を確認する場合は、エンジン始動セキュリティ機能の入／切設定方法（84 ページ）を参照してください。**
- **暗証番号は定期的に変更し、他者から類推されやすい数字を避けるなどしていただくと、盗難を抑制するのに効果的です。また暗証番号そのものや簡単**

に推測できるものをトラクタに貼り付けるなどの表示をしないように注意してください。

操作や設定は表示切換スイッチと走行モード切換スイッチで行い、暗証番号やメッセージは電子メータパネルの液晶（メッセージ）表示部に表示されます。



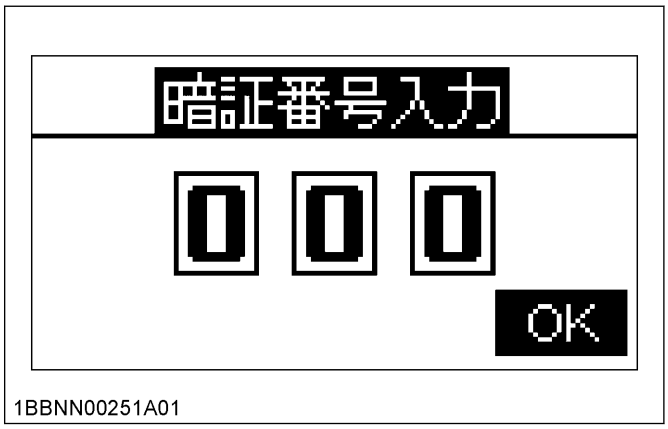
(1) 表示切換スイッチ　　*(2)* 走行モード切換スイッチ



(1) 電子メータパネル　　*(2)* 液晶（メッセージ）表示部

4.1 暗証番号の入力方法

1. キースイッチを**[入]**にします。
   暗証番号入力画面が液晶表示部に表示されます。



2. 暗証番号を 100 の位から順番に入力します。
   なお、暗証番号は 3 桁の数字になります。

走行モード切換スイッチの短押し
数字の入力
スイッチを 1 回押すたびに、数字が 1 つ繰り上がります。

表示切換スイッチの短押し
位の送り
スイッチを 1 回押すたびに、入力できる位が変わります。

例として、暗証番号を*"123"*に設定している場合について述べます。

a. 走行モード切換スイッチを短押しして 100 の位に"1"を入力します。



b. 表示切換スイッチを短押しして、10 の位に送ります。
c. 走行モード切換スイッチを短押しして 10 の位に"2"を入力します。



d. 表示切換スイッチを短押しして、1 の位に送ります。
e. 走行モード切換スイッチを短押しして 1 の位に"3"を入力します。



1BBNN00254A01

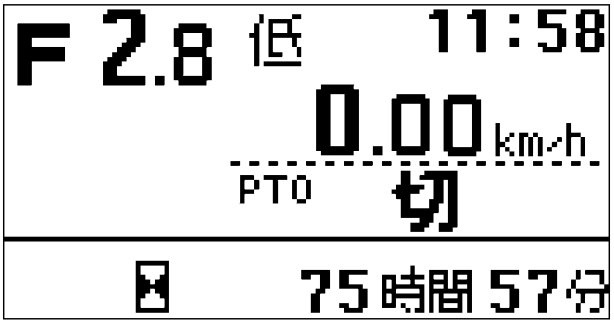
3. 表示切換スイッチを短押しして〝OK〞を選択し、走行モード切換スイッチを短押しして、暗証番号を確定します。



1BBNN00255A01

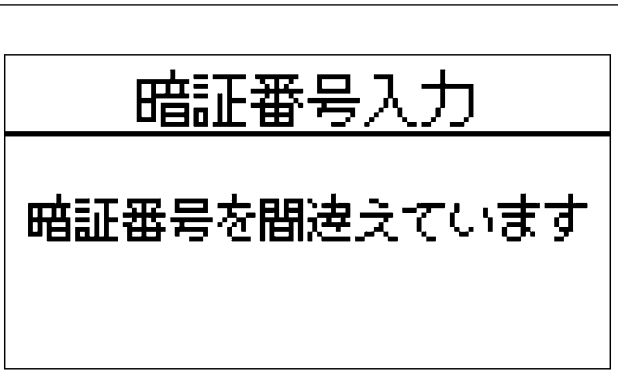
暗証番号が一致すると、通常表示に戻り、エンジンを始動することができます。
暗証番号が一致しないと、〝暗証番号を間違えています〞と表示され、その後液晶表示部は手順 1.の状態になります。表示された数字は誤入力した数字です。暗証番号が一致するまで手順 2.以降の操作を繰り返してください。
なお、暗証番号は初回を含めて 10 回入力が可能ですが、連続して 10 回間違えると、暗証番号入力を拒否しエンジンを始動することができなくなり、液晶表示部は〝暗証番号エラー　購入先へ連絡して下さい〞と表示されます。この場合お客様では対応できませんので、購入先に連絡してください。

暗証番号が正しい場合



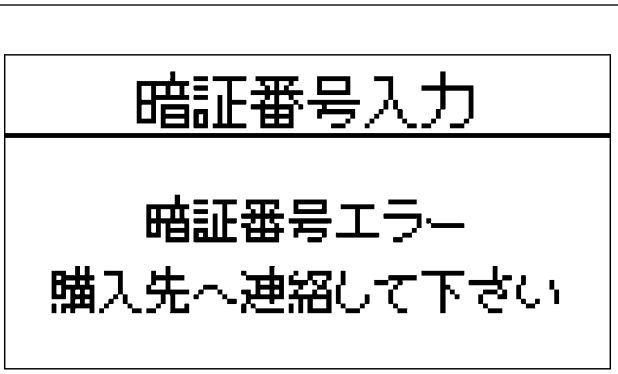
1BBNN00256A01

暗証番号が正しくない場合



1BBNN00257A01

暗証番号を連続して 10 回間違った場合



1BBNN00258A01

4.2 エンジン始動セキュリティ機能の入／切設定方法

エンジン始動セキュリティ機能の“入”と“切”は次の状態となります。

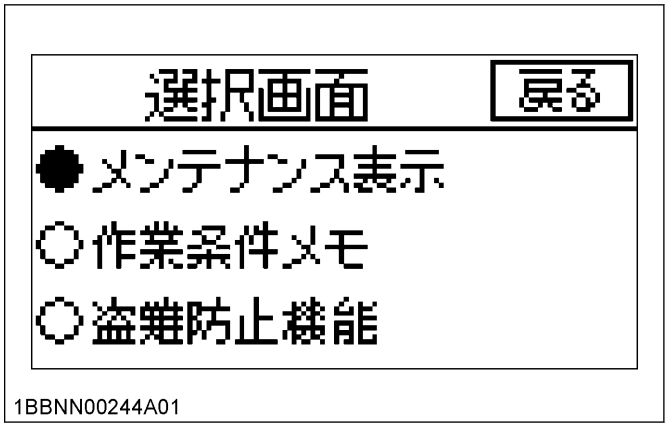
“入”の場合

暗証番号を入力しないとエンジンは始動しません。ただし、キースイッチを**[切]**にしてから 10 分以内であれば暗証番号を入力しなくても再始動が可能です。

“切”の場合
暗証番号入力を必要とせず、キースイッチを**[入]**にしてからすぐにエンジンの始動が可能です。

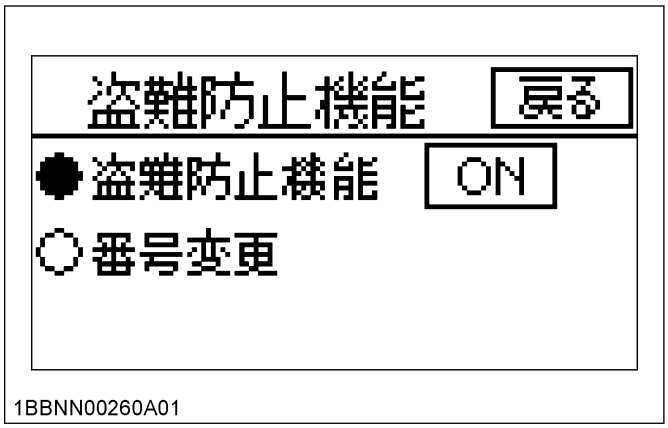
補足：
- **工場出荷時はエンジン始動セキュリティ機能“切”に設定されています。**

1. 暗証番号入力後の電子メータパネル通常画面にて、表示切換スイッチと走行モード切換スイッチを同時に長押しし、機能選択画面を表示させます。



1BBNN00244A01

2. 表示切換スイッチを短押しして、〝盗難防止機能〞を選択します。表示切換スイッチを長押しして、盗難防止機能画面を表示させます。



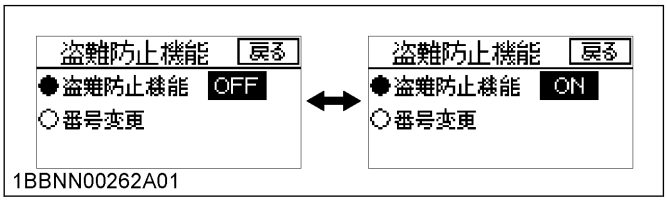
1BBNN00260A01

3. 〝盗難防止機能〞を選択している状態で、表示切換スイッチを長押しします。
暗証番号入力画面になります。



1BBNN00261A01

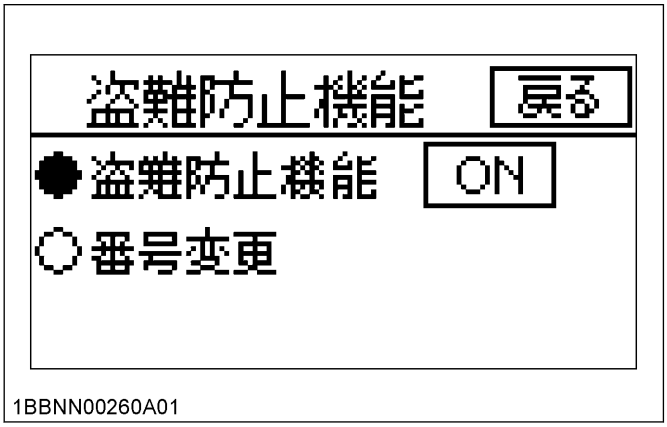
4. 暗証番号の入力方法（83 ページ）の手順に従って暗証番号を入力します。
盗難防止画面になり、〝ON〞または〝OFF〞が白抜き反転し、切換え機能が有効になります。
5. 〝ON〞または〝OFF〞の選択を、走行モードスイッチを短押しで行います。
   - セキュリティ機能を“切”にするときは、〝OFF〞の点灯を確認します。
   - セキュリティ機能を“入”にするときは，〝ON〞の点灯を確認します。



1BBNN00262A01

6. 決定は、表示切換スイッチを長押しします。

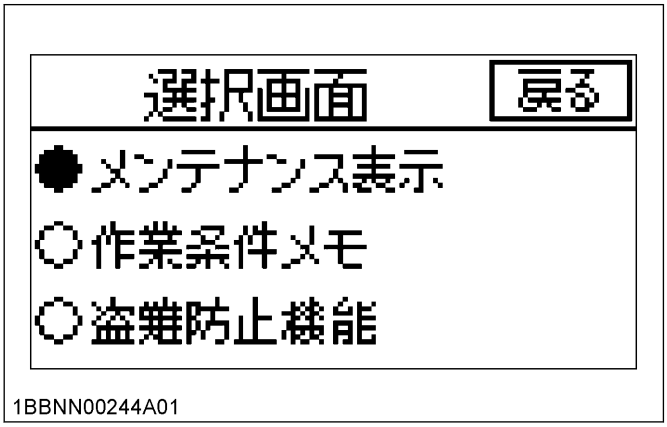
設定が完了すると、盗難防止機能画面に戻ります。



1BBNN00260A01

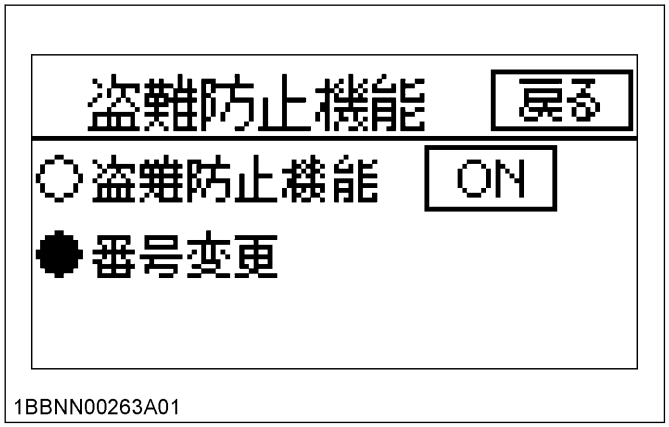
4.3 暗証番号の変更方法

1. 暗証番号入力後の電子メータパネル通常画面にて、表示切換スイッチと走行モード切換スイッチを同時に長押しし、機能選択画面を表示させます。



1BBNN00244A01

2. 表示切換スイッチを短押しして、盗難防止機能を選択します。表示切換スイッチを長押しして、盗難防止機能画面を表示させます。



1BBNN00263A01

3. 番号変更を選択して、表示切換スイッチを長押しします。
旧暗証番号の入力画面になります。



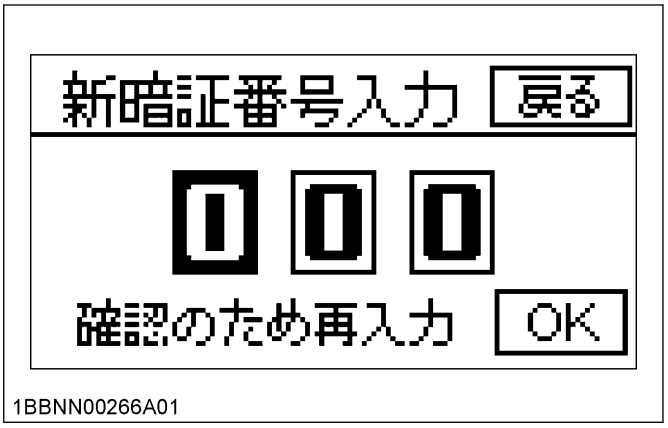
1BBNN00264A01

4. 暗証番号の入力方法（83 ページ）の手順に従って暗証番号を入力し確定します。
新暗証番号入力画面になります。



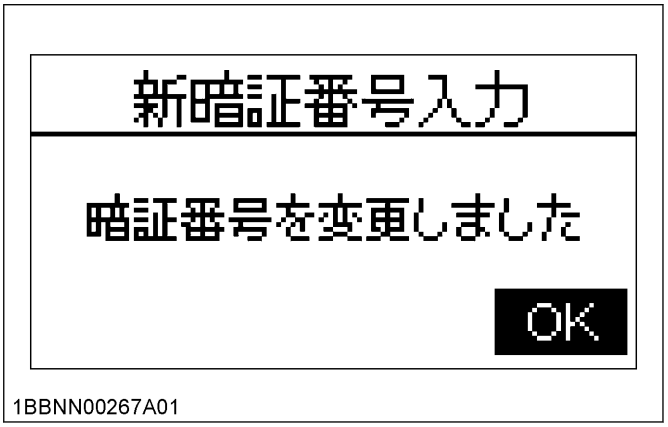
1BBNN00265A01

5. 暗証番号の入力方法（83 ページ）の手順に従って暗証番号を入力します。
確認のため、新暗証番号を再入力する画面が表示されます。



1BBNN00266A01

6. 暗証番号の入力方法（83 ページ）の手順に従って暗証番号を入力し確定します。
1 回目、2 回目の番号が同一となれば、変更完了画面が表示されます。



1BBNN00267A01

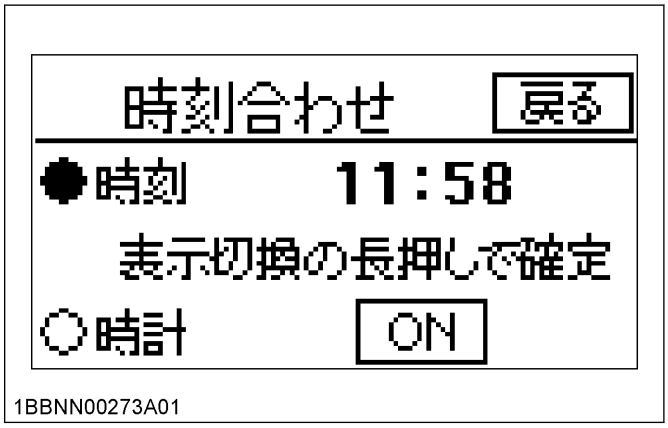
7. 走行モード切換スイッチを短押しして、盗難防止機能画面に戻ります。

5. 時刻合わせと表示、非表示の設定

5.1 時刻合わせ

1. 選択画面で〝時刻合わせ〟を選択後、再度表示切換スイッチを長押しで確定させます。
次図の画面が表示されます。
2. 表示切換スイッチで〝時刻〟に ● を合わせ、再度スイッチを長押しで確定させます。
“時”表示部が反転します。
3. 走行モード切換スイッチで値を選択します。
4. 表示切換スイッチで“分”を選択後、走行モード切換スイッチで値を選択します。

5. 表示切換スイッチを長押しで確定させます。



5.2 時刻の表示、非表示の切換え

1. 選択画面で〝時刻合わせ〞を選択後、再度表示切換スイッチを長押しで確定させます。
   時刻合わせ画面が表示されます。
2. 表示切換スイッチで〝時計〞に ● を合わせ、再度スイッチを長押しで確定させます。
   確定すると、〝ON〞または〝OFF〞が反転表示します。
3. 走行モード切換スイッチを押し〝ON〞（表示）／〝OFF〞（非表示）のどちらかを選択します。
4. 表示切換スイッチを長押しで確定させます。

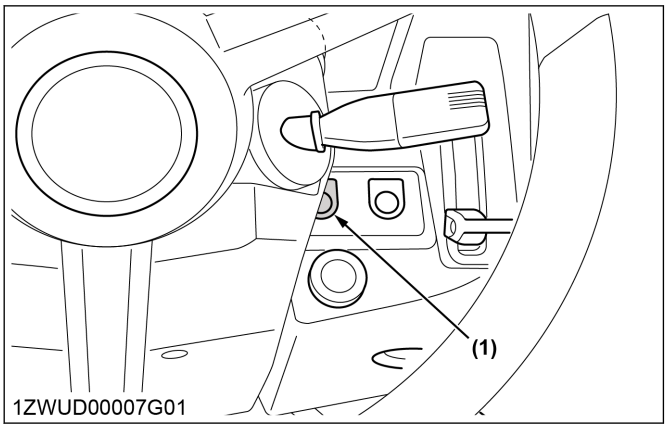
補足：
- **設定完了後、キースイッチを[切]にし再度[入]にすると、表示／非表示が切り換わります。**

電子エンジン制御

このトラクタに搭載している電子制御式エンジンは次の制御を行っています。
必要に応じ正しく設定のうえご使用ください。
- エンジン回転メモリ設定
- e-アシスト旋回

1. エンジン回転メモリ設定

エンジン回転メモリスイッチに、エンジン回転数をワンタッチで設定することができ、面倒なアクセル操作が不要となります。

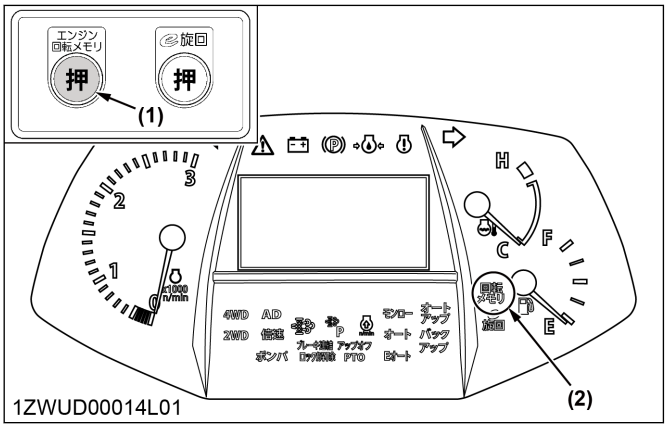


(1) エンジン回転メモリスイッチ

1.1 エンジン回転数の設定方法

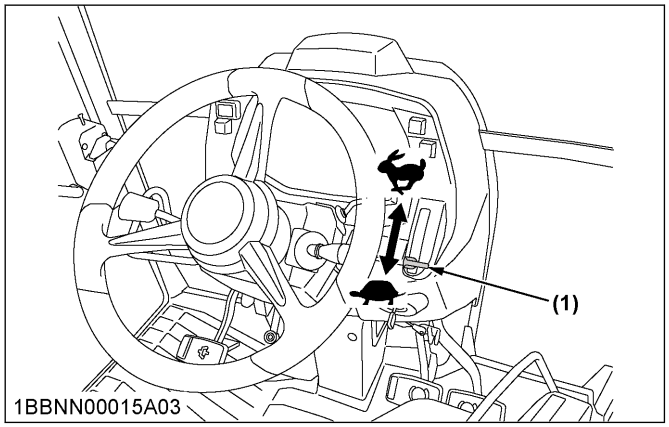
エンジン回転メモリ設定の設定回転数の変更を行います。
1. シャトルレバーを“中立”位置にします。
2. 各変速レバーを“中立”位置にします。

   補足：
   - **［ハイスピード仕様］の場合は、クリープレバーを“高速走行”位置以外の位置にしてください。**
3. エンジンを始動します。
4. メータパネル内のランプが消灯し、エンジン回転メモリスイッチが“切”の状態であることを確認します。



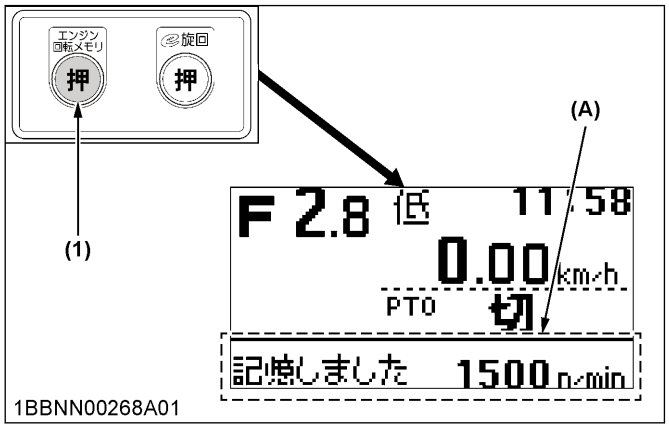
(1) エンジン回転メモリスイッチ　*(2)* ランプ

5. アクセルレバーを操作して、設定したいエンジン回転数にセットします。



(1) アクセルレバー

6. エンジン回転メモリスイッチを長押しします。
液晶モニタに設定回転数が表示され、設定が完了します。



(1) エンジン回転メモリスイッチ　*(A)* 設定数値

補足：
- **キースイッチを[切]にしても、設定回転数を記憶しています。**

1.2 エンジン回転メモリ操作方法

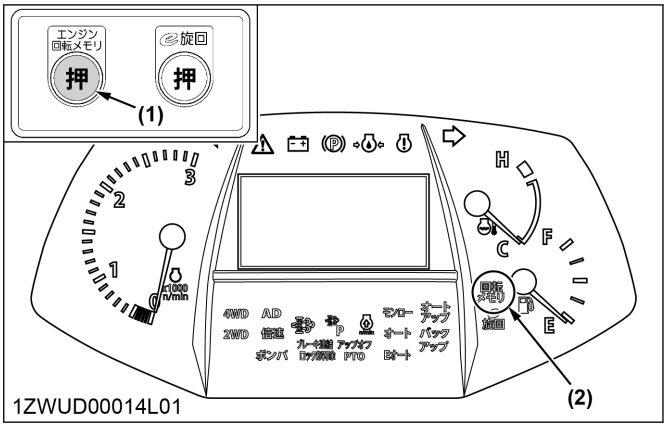
1.2.1 エンジン回転メモリ操作の設定条件

- エンジンを始動状態にしてください。
- アクセルレバーはアイドリングより少し高くしてください。アイドリング位置付近では設定できない場合があります。
- **［ハイスピード(H)仕様］**の場合は、クリープレバーを“高速走行”位置以外の位置にしてください。

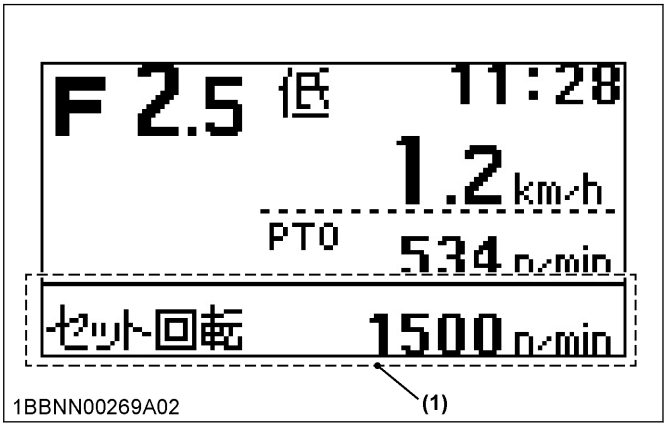
1.2.2 エンジン回転メモリの実行（エンジン回転メモリスイッチに 1500 回転をセットした場合）

1. エンジン回転メモリスイッチを押します。
それだけで、自動的に 1500 回転にセットされます。
メータパネル内のランプが点灯し、液晶モニタに設定回転数が表示されます。

補足：
- **アクセルレバーが設定した回転より高い位置にセットされていると、回転メモリランプが点滅します。**
- **アクセルペダルを踏み込んで、設定回転数以上に回転を上げることもできます。**
- **工場出荷時の設定は 1200 回転です。**



(1) エンジン回転メモリスイッチ　*(2)* ランプ



(1) セット回転表示

1.2.3 エンジン回転メモリを切る方法

1. エンジン回転メモリスイッチを押すか、アクセルレバーをアイドリング位置にします。
メモリが解除されます。メータパネル内のランプが消灯します。

2. e-アシスト旋回

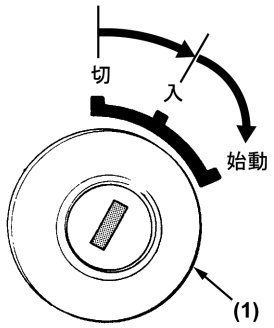
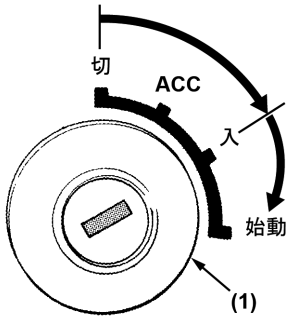
e-アシスト旋回は“エンジン回転メモリ”を 3 点リンク昇降と連動させ自動で“入”、“切”する機能です。
ポンパ“下げ”で作業機を下降させると、エンジン回転数がメモリ設定回転数まで上がります。
ポンパ“上げ”または、オートアップ、バックアップで作業機を上昇させると、エンジン回転数がアクセルレバー

または、アクセルペダルでの設定回転数まで下がり、低速で旋回が行えます。

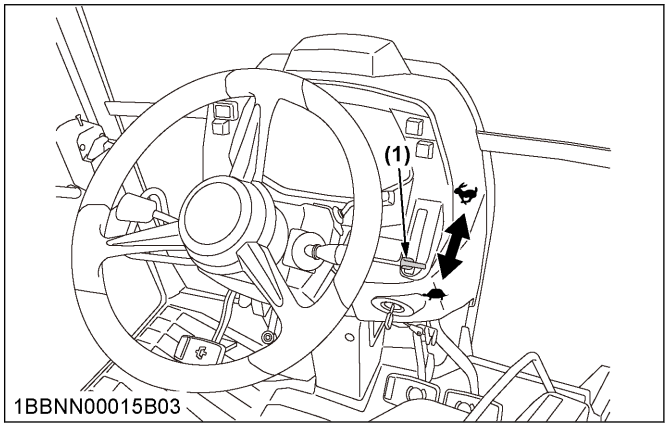
2.1 e-アシスト旋回の設定方法

例えば、作業時は 2600 回転、旋回時は 1500 回転に設定したい場合の設定について述べます。

1. エンジンを始動します。

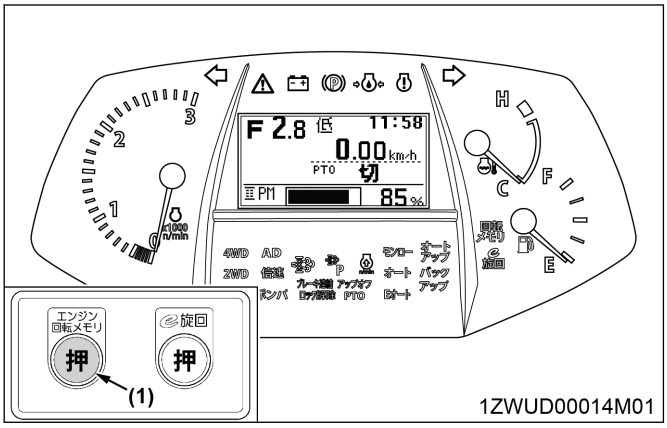
安全フレーム仕様	安全キャブ仕様
	
1FKPK00039B03 *(1)* キースイッチ	1FKPK00039C03 *(1)* キースイッチ

2. アクセルレバーを、作業時設定したい 2600 回転になるように、エンジン回転計を確認しながら調整します。



(1) アクセルレバー

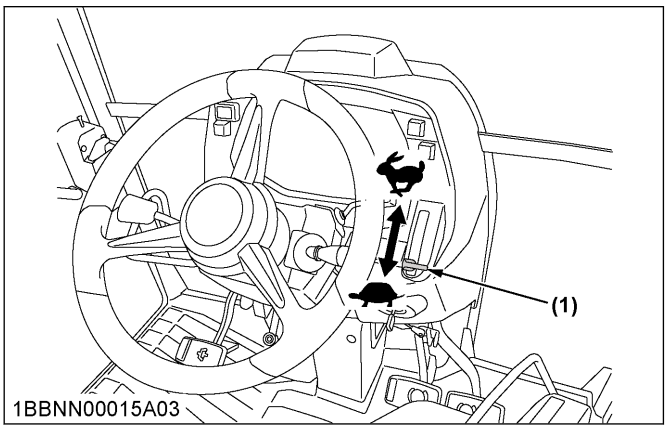
3. エンジン回転メモリスイッチを長押しして、作業時のエンジン回転数（2600 回転）をトラクタに記録させます。



(1) エンジン回転メモリスイッチ

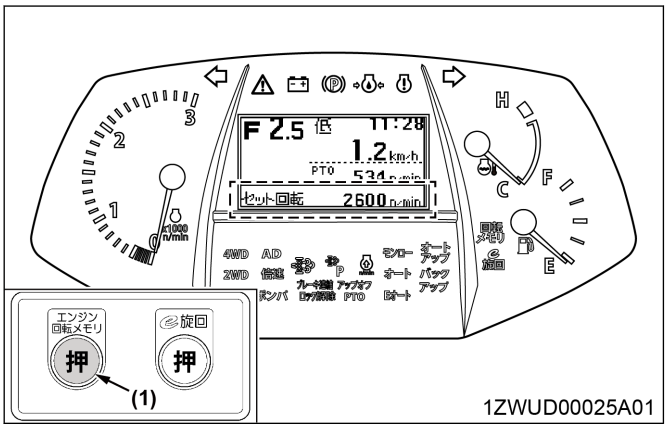
- 〝記憶しました〟とメータパネル上に表示されれば正常に記録完了です。

4. アクセルレバーを、旋回時設定したい 1500 回転になるように調整します。



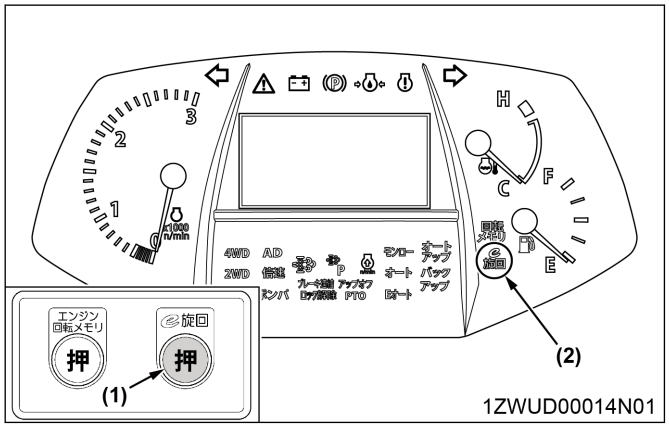
(1) アクセルレバー

5. エンジン回転メモリスイッチを“入”にして、エンジン回転を 2600 回転にします。



(1) エンジン回転メモリスイッチ

6. e-アシスト旋回スイッチを押して、メータパネル内のランプを点灯させます。



(1) e-アシスト旋回スイッチ　　*(2)* ランプ

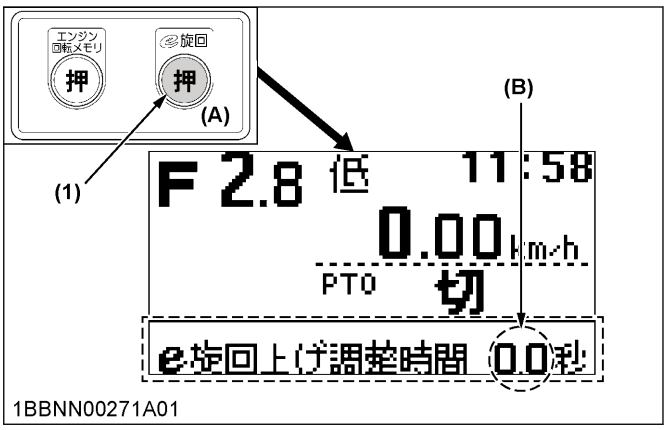
補足：

- **アクセルレバーをアイドリング状態より少し高くしないと、メモリ回転になりません。**
- **アクセルレバーがアイドリング状態であっても、アクセルペダルを踏み込んでいる場合はメモリ回転になりますが、アクセルペダルから足を離すと、メモリ回転は解除されます。**
- **e-アシスト旋回ランプが点滅時、3 点リンクの安全ロックを解除してください。**
  安全ロックを解除すると、e-アシスト旋回ランプが点灯に変わり、e-アシスト旋回モードになります。

2.2 e-アシスト旋回の応答時間変更方法

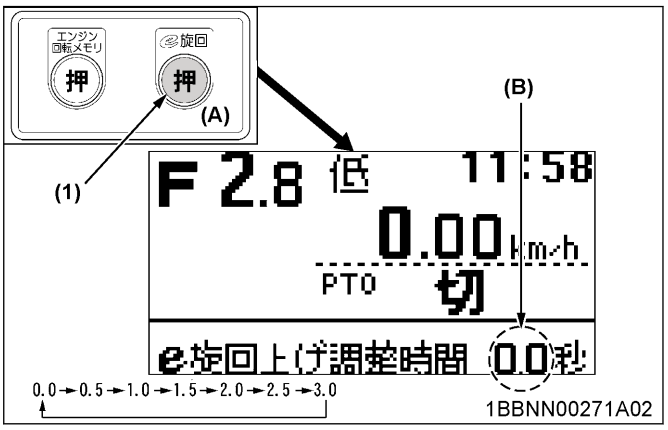
作業や好みによって、ポンパ操作に対するエンジン回転メモリの入切応答時間を変更することができます。
上昇、下降とも応答時間を 0～3 秒の間で 7 段階に設定できます。
例として、上昇を 1.5 秒、下降を 2 秒に設定します。

1. キースイッチを**[入]**にするか、エンジンを始動します。
2. エンジン回転メモリスイッチを“切”および、e-アシスト旋回スイッチが“入”の場合は、“切”にします。
3. e-アシスト旋回スイッチを 2 秒以上長押しします。
   ポンパ上昇連動時の設定モードに入り、メータパネルに設定数値が表示されます。



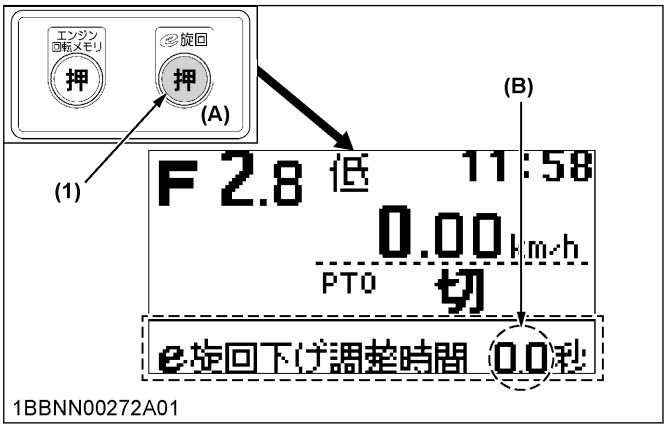
(1) e-アシスト旋回スイッチ　　*(A)* 長押し
(B) 設定数値

4. e-アシスト旋回スイッチを短押しします。
   “0.0 秒”の数値が“0.0”から 0.5 刻みで“0.0”→“0.5”→“1.0”→“1.5”...と上昇します。0 秒→3 秒の 7 段階あります。“3.0”の次は“0.0”に戻ります。



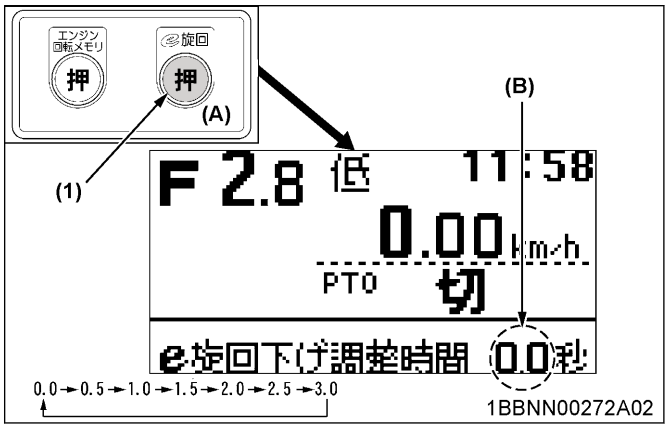
(1) e-アシスト旋回スイッチ　　*(A)* 短押し
(B) 設定数値

5. e-アシスト旋回スイッチを 2 秒以上長押しします。
   ポンパ上昇連動時の設定が確定し、次にポンパ下降連動時の設定モードに入り、メータパネルに設定数値が表示されます。



(1) e-アシスト旋回スイッチ　　*(A)* 長押し
(B) 設定数値

6. e-アシスト旋回スイッチを短押しします。
"0.0 秒"の数値が"0.0"から 0.5 刻みで"0.0"→"0.5"→"1.0"→"1.5"...と上昇します。0 秒→3 秒の 7 段階あります。"3.0"の次は"0.0"に戻ります。



(1) *e*-アシスト旋回スイッチ　*(A)* 短押し　*(B)* 設定数値

7. e-アシスト旋回スイッチを 2 秒以上長押しします。ポンパ下降連動時の設定が確定し、メータパネルがもとの通常表示に戻ります。

補足：
- **工場出荷時の設定は、上昇連動時間は 0 秒、下降連動時間は 0 秒です。**
- **上昇連動時間を確定した後、下降連動時間を約 5 秒以上設定しないと、下降連動時間は設定前の連動時間になります。**
- **上昇連動時間を確定させずに、約 5 秒経過すると、設定前の連動時間になります。**
- **オートアップ、バックアップ時は上昇連動時間と連動せず、すぐに応答します。**

運転中の作動確認

トラクタの運転中は、各部が円滑に作動しているかどうかを、たえず注意してください。

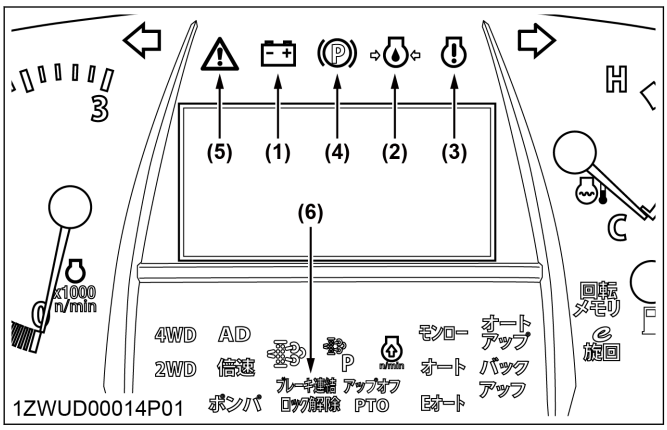
直ちにエンジンを止めるべき事例

次の場合は、直ちにエンジンを止めてください。
- 回転が急に下降したり上昇したりする。
- 突然、異常な音をたてた。
- 排気色が急に黒くなった。

重要：
- **運転中、メータ類に異常が無いか、またイージーチェッカランプが点灯していないかを、たえず注意してください。**

1. イージーチェッカ

運転中イージーチェッカ内の次図の警告ランプが点灯したとき、速やかにエンジンを止め、点灯した箇所の点検をしてください。もし原因がわからないときは、購入先にご相談ください。



(1) 充電異常警告灯（チャージランプ）　*(4)* 駐車ブレーキ警告灯
(2) エンジンオイル油圧警告灯　*(5)* 警告灯
(3) エンジン異常警告灯　*(6)* ブレーキ連結ロック解除警告灯

充電異常警告灯（チャージランプ）

充電系統に異常があれば、エンジン回転中にランプが点灯して警告します。

エンジン異常警告灯

エンジン異常警告灯が点灯した場合、いったんエンジンを止め、再始動を行ってください。警告灯が消灯しない場合、購入先へご相談ください。

重要：

警告灯が点灯時、エンジンの故障箇所により次の現象が現れます。
- **エンジンが突然止まった。**
- **エンジンが再始動できない。または始動してもすぐ止まる。**
- **エンジン出力がじゅうぶんでない。**
- **エンジン出力はじゅうぶんあるが、警告灯が点灯する。**

エンジン出力がじゅうぶんでない場合、ただちに作業を中断し、安全な場所にトラクタを移動させ、エンジンを止めてください。

ブレーキ連結ロック解除警告灯

連結解除ペダルロックレバーが"解除"位置の場合、警告灯が点灯します。
道路走行時などは連結解除ペダルロックレバーを"ロック"位置にして、警告灯の消灯を確認してから走行してください。

駐車ブレーキ警告灯

駐車ブレーキが掛かっているとき、点灯して警告します。
点灯したままのときは、駐車ブレーキが掛かった状態になっていないか確認してください。

エンジンオイル油圧警告灯

エンジン回転中、潤滑系統が異常のとき点灯して警告します。
点灯したままのときは、直ちにエンジンを止めてエンジンオイル量および潤滑油系統を点検してください。

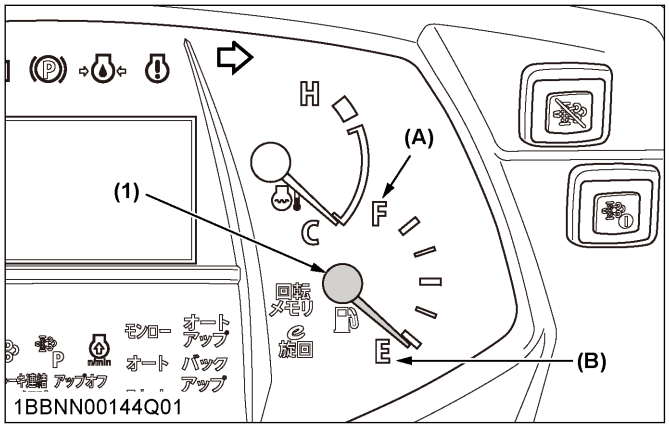
⚠ 警告灯
エンジンのオーバーヒートやエンジン、ミッションなどの制御部品関係に異常が生じるとランプが点滅して警告します。
再始動を行っても回復しない場合、購入先にご相談ください。

2. 燃料計

指針が“下方向”に近づいたら早めに燃料を補給してください。
燃料タンクを空にすると燃料系統に空気が入るので、空気抜きが必要です。
（空気抜きは、燃料の空気抜き手順（162 ページ）を参照）

補足：

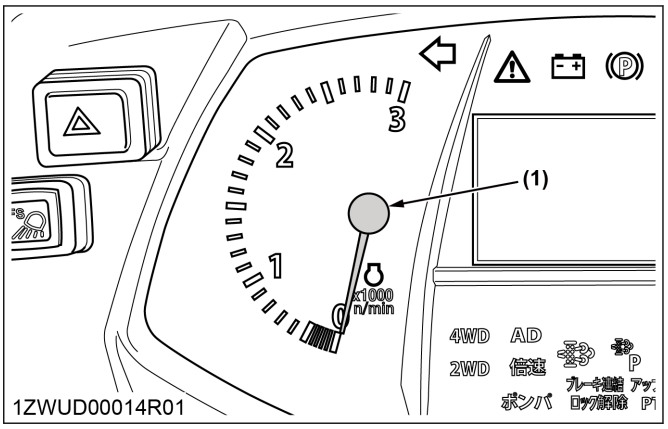
- **指針の表示は、指針が早く動く“敏感モード”とゆっくり動く“鈍感モード”を自動で切り替えて表示しています。**
  走行しているときは、燃料液面の揺れによる指針への影響を抑えるために“鈍感モード”になります。
  条件によっては、燃料液面の揺れにより、液晶に給油メッセージが表示される場合があります。



(1) 燃料計
(A) 満タン
(B) 空

3. エンジン回転計

1 分間のエンジン回転数を示します。



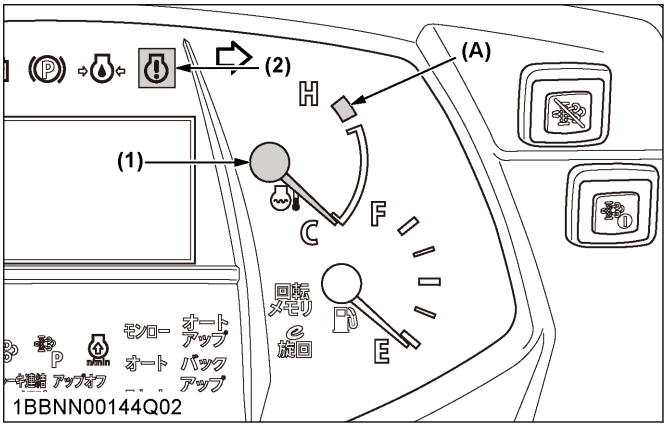
(1) エンジン回転計

4. 水温計

⚠ 警告

- **ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けると、熱湯が噴出しヤケドをするおそれがあります。停止後 30 分以上たって、冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し、余圧を抜いてからキャップを外してください。**

指針が“レッドゾーン”を示すときは、オーバーヒート状態であるためオーバーヒートしたときの処置（92 ページ）に従って点検してください。



(1) 水温計
(2) エンジン異常警告灯
(A) レッドゾーン

4.1 オーバーヒートしたときの処置

水温計の針が“レッドゾーン”を示し、“エンジン異常警告灯”が点灯したらオーバーヒートです。オーバーヒートしたときは、本項の手順に従って処置してください。

重要：

- **ラジエータのオーバーフローパイプから蒸気が噴き出たら、本項の処置を行ってください。**

1. 作業を中止します。
2. エンジンを約 5 分間アイドリング回転にします。

3. エンジンを停止し、停止後 30 分以上たって冷えてから、次の点検、整備をします。
   - リザーブタンク、ラジエータの冷却水の量が不足していないか、および水漏れが無いか。
   - フロントグリル、防虫網およびラジエータフィンとチューブの間に、泥やごみが付着していないか。
   - ファンベルトのゆるみが無いか。

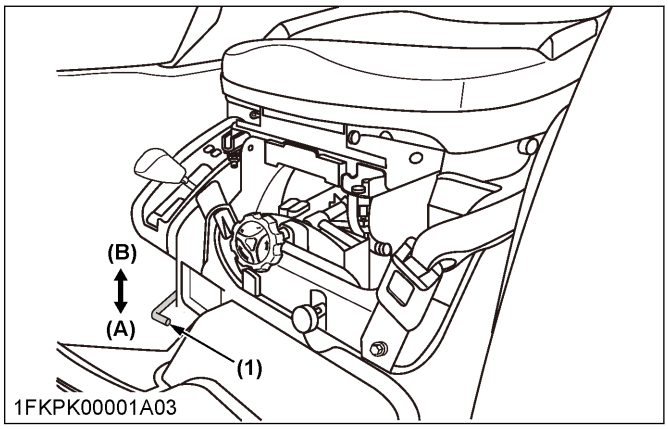
状況に応じた操作

1. デフロック

1.1 デフロックペダル

左右の後輪が同じ回転速度で駆動される装置で、スリップ防止に効果があります。

ペダルを踏み込む	ロックされる。
ペダルから足を離す	自動的に外れる。



(1) デフロックペダル
(A) 踏む（ロック）
(B) 離す（解除）

1.2 デフロックの使用方法

⚠ 警告
- **デフロックを入れたままで旋回できません。旋回の前に必ず解除してください。**
- **道路走行時には絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。**

デフロックは、次のような場合に役立ちます。
- 農場への出入りやフロントローダ作業時など、片車輪がスリップして直進できないとき。
- 農場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み、スリップして走行がしにくくなったとき。
- プラウ作業などけん引力を必要とする作業で、片側車輪がスリップしたとき。

重要：
- **デフロックを入れるときは、エンジン回転を下げてから行ってください。**
- **抜けにくいときは、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。**
- **使用しないときは、足をペダルにのせないでください。**

2. 旋回のしかた

⚠ 警告
- **高速で旋回すると、横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して、できるだけエンジン回転を落とし、ゆっくりと旋回してください。**

3. 坂道での運転

⚠ 警告
- **必ず連結解除ペダルロックレバーを“ロック”位置にするとともに、デフロックの解除を確認してください。**
- **坂道では変速を“中立”にしたり、クラッチを切ったりして惰性で走行する惰性運転をしないでください。**
- **急な坂では途中で変速しないでください。あらかじめ安全な車速に変速してから走行してください。**

- 坂道状況に応じた安全なスピードで、エンジンにできるだけ負担をかけないように走行しましょう。
- 登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしましょう。
- 下り坂ではエンジンブレーキを活用しましょう。車速を下げるほどエンジンブレーキはよくききます。

4. ほ場への出入り時の注意

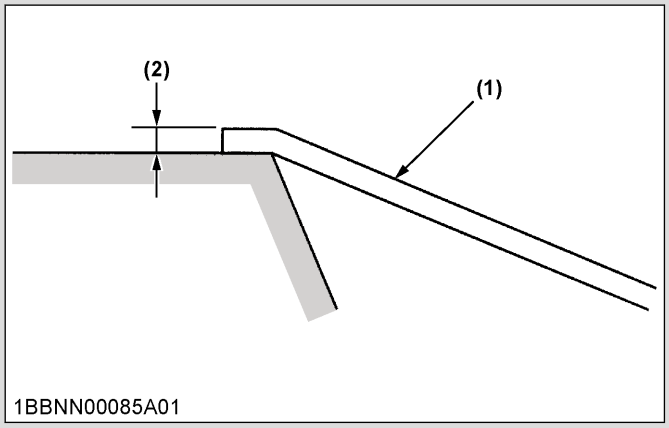
⚠ 警告
- **必ず連結解除ペダルロックレバーを“ロック”位置にするとともに、デフロックの解除を確認してください。**
- **ほ場への出入りは、高低差が大きいと危険です。あゆみ板などを利用してください。**
- **ほ場への出入りは、あぜと直角にして行ってください。**
- **ほ場への出入りの際は、あらかじめ遅い車速で運転し、途中で変速しないでください。**
- **走行モード切換スイッチは[2WD]または[4WD]にしてください。**

- 作業機を下げて進むと、前輪が浮き上がりません。常に前、後輪のバランスを考えながら操作してください。
- あぜを上がるとき、4 輪駆動の特色を生かして、バックで上がると格段に上がる能力が増します。

4.1 パワクロ仕様の場合のほ場出入り時の注意

警告

- **クローラの片側だけが段差に引っかかり乗り上がらない状態になった場合、いったん車両をもとに戻し、あゆみ板をかけ直してはじめからやり直してください。**

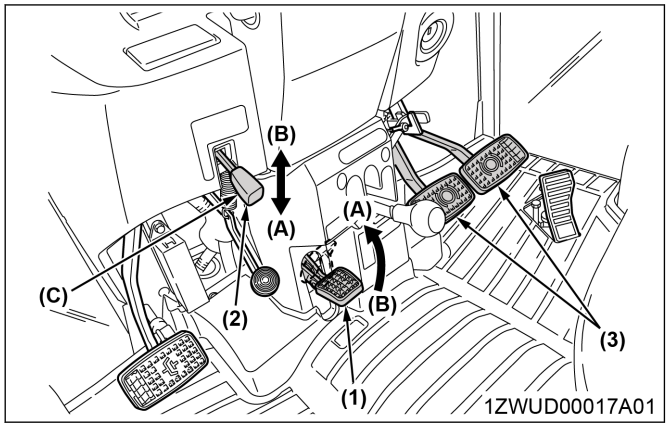


(1) あゆみ板　　*(2)* 段差

5. 道路走行中の注意

警告

- **道路を走行するときは、連結解除ペダルロックレバーを下げ、連結解除ペダルが踏めないことを確認してください。**
  連結しないと、ブレーキが片ぎきになり、車体が急旋回して、転倒、転落、衝突などの事故を引き起こすおそれがあります。



(1) 連結解除ペダル
(2) 連結解除ペダルロックレバー
(3) ブレーキペダル
(A) ロック（格納）
(B) ロック解除
(C) 道路走行時は必ず下げる

警告

- **道路を走行するときは、関係法規を守り安全運転をしてください。**
- **運転者のほかは乗せないようにしてください。**
  転落事故の原因になります。
- **溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは、特に路肩に注意してください。**
- **インプルメントやアタッチメントを装着した状態では、[道路運送車両法の保安基準] を満たしていなければ道路走行することはできません。インプルメントやアタッチメントと、トラクタとの組み合わせごとに、[保安基準] を満たしていることの確認が必要です。**
- **道路走行時にはモンロー・オートスイッチを必ず "切" にして走行してください。**
- **ポンパランプの消灯を確認してください。**
- **信号待ちなどの一時停止時はブレーキペダルを踏んだままにしてください。**

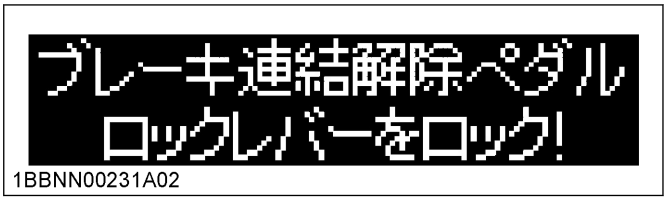
- 公道走行中進路方向を変えるときは、方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせてくだ さい。
- 夜間走行中、対向車とすれちがうときは、ヘッドライトを下向き照射にし、対向車の妨害にならないように注意しましょう。
- 踏切では、必ずいったん停止し、左右の確認をしてから、速やかに渡ってください。
- 公道走行中は作業灯を消灯してください。

補足：

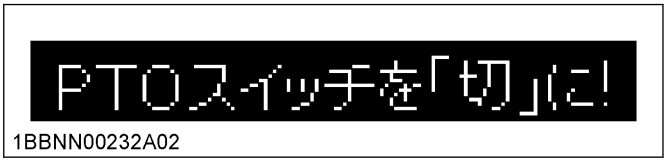
- **作業灯は [道路運送車両法の保安基準] 第 42 条（灯火の色等の制限）において、"走行中に使用しない灯火" とされ、点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。**

電子メータメッセージ

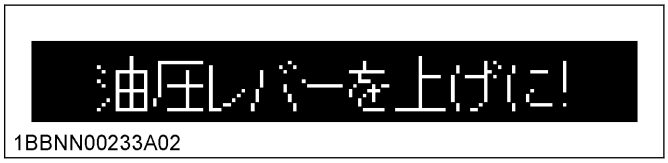
- 走行中、次図のメッセージが表示されたときは、速やかにトラクタを止め、メッセージに従って処置してください。
  メッセージは車速が 10 km/h を超えたとき表示されます。また、表示要因が 2 個以上の場合は、交互に表示されます。
  - **連結解除ロックレバーがロックされていないとき**



  - **あんしん PTO スイッチが[切]でないとき**

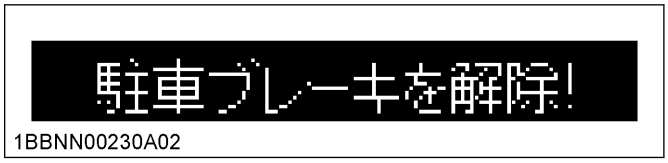


– **ポンパで作業機を持ち上げているとき**



1BBNN00233A02

- 次図のメッセージは車速が 0.1 km/h を超えたとき表示されます。
  – **駐車ブレーキが解除されていないとき**



1BBNN00230A02

6. トラックへの積み、降ろし

[ホイール仕様、パワクロ仕様]

警告
- **トラックは荷台後部にあゆみ板の爪を掛けるフックが付いた物を使用してください。**
- **あゆみ板は、じゅうぶんな強度、幅、傾斜が 15 度以下になる長さのあるすべり止め付きの物を使用し、トラクタの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。**

傾斜が 15 度以下になる長さ	トラック荷台高さの 4 倍以上

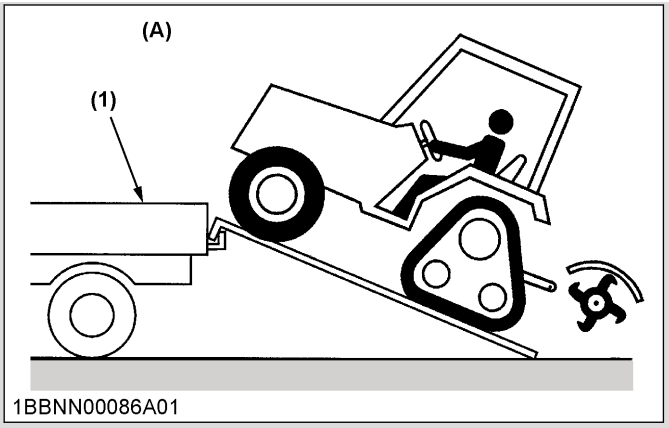
- **積み、降ろしはあらかじめ遅い車速で運転し、途中での変速はしないでください。**
- **万一、途中でエンストした場合は、すぐブレーキペダルを踏み込み、その後徐々にブレーキをゆるめ、いったん道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してから行ってください。**

[ホイール仕様のみ]

警告
- **トラックへの積込みは、必ず左右のブレーキペダルを“連結”しバックで行ってください。**

[パワクロ仕様のみ]

警告
- **トラックへの積み、降ろしは、必ず左右のブレーキペダルを“連結”し、“前進”で積み込み、“後進”で降ろしてください。前進で降りると、クローラがあゆみ板の段差ですべり、前輪が浮いて車体が旋回し、転倒事故につながるおそれがあります。**



1BBNN00086A01

(1) トラック
(A) 前進で積み込み、後進で降ろす［パワクロ仕様のみ］

7. パワーステアリングの取扱い

警告
- **パワーステアリングはエンジン運転中、ハンドル操作が大変軽くなりますので、走行は慎重に行ってください。**

重要：
- **パワーステアリングは、エンジン運転中だけ作動します。ただし、エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。なお、エンジン停止時は、ハンドルの遊びが大きくなりますが、機能上問題はありません。**
- **ローダなどの前部装着作業機を使用し、トラクタを止めたままハンドルを操作すると、途中重くなることがあります。このときは、低速でトラクタを移動させながらハンドルを操作してください。**
- **ハンドルをいっぱい切ると、安全弁の作動音（リリーフ音）が出ます。この音が鳴ったまま使用しないでください。ただし短い時間ではかまいません。また、ハンドルのフル回転状態での連続使用は、できるだけ避けてください。**
- **走行しないで不必要にハンドルを切るスエ切り行為は、タイヤおよびリムなどの損耗を早めるので避けてください。**
- **冬期は暖機運転をじゅうぶん行ってから使用してください。**

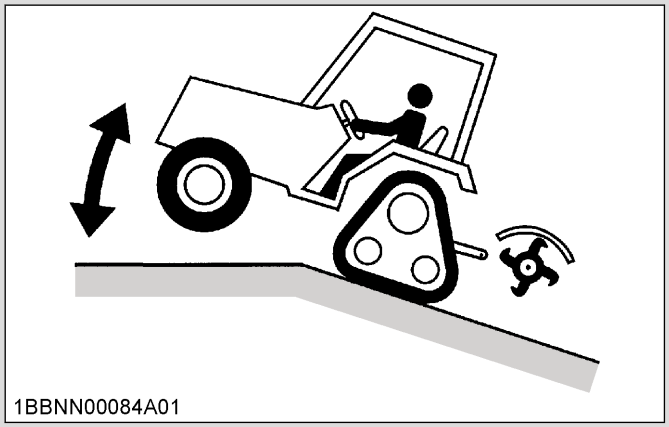
8. パワクロ仕様の運転のしかた

[パワクロ仕様] の特別な運転のしかたを記載しています。これ以外の取扱い操作は **[ホイール仕様]** のトラクタと同じです。

8.1 パワクロ仕様の運転操作

警告
- **凹凸やカーブの多い所では絶対に高速走行をしないでください。ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。**

- **クローラ部が凸部を乗り越えるときは、急に姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。**


1BBNN00084A01

- **［パワクロ仕様］**の走行速度は、**［ホイール仕様］**とは異なります。走行速度表（175 ページ）を確認してください。
- ほ場での旋回は速度を下げ、ハンドルと片ブレーキを併用してください。片側クローラをロックしての急旋回は、ほ場を荒らしますので、切返しでの旋回をお奨めします。

重要：

- **プラウ作業など片側のクローラを溝に落として行う作業の場合は、クローラの張りを確認してください。また段差から無理に出ようとしないでください。**
- **溝引きプラウ作業ではクローラが完全に溝から上がった状態で旋回してください。**
  片側のクローラが溝に落ちた状態で旋回すると、ゴムクローラが外れる可能性があります。
- **あぜごえはあぜに対して垂直方向に走行し、途中で旋回しないでください。ゴムクローラが外れるおそれがあります。**
- **道路走行でカーブを曲がったり、右左折する場合は速度を落してください。**
  クローラは直進性が優れるために、曲がりきれなくなる場合があります。
- **標準パワクロにて、うねや排水溝があるほ場を耕うんする場合は、うねの上を走行しながら耕うんしてください。溝を走行すると、クローラを傷める場合があります。**

補足：

- **パワクロは直進性に優れる分、旋回半径は大きくなります。ほ場での作業中は、必要に応じ旋回する側のブレーキを操作すれば、小さい旋回半径で旋回できます。**
- **長距離の移動の際には、前輪タイヤおよびゴムクローラの早期摩耗防止のためにトラックやトレーラに積んで輸送することをお奨めします。**
- **クローラ部分に土がたまらないよう、定期的に清掃してください。**
  固まった土が遊輪、転輪のシールをいためる可能性があります。

8.2 あゆみ板の使用［パワクロ仕様］

⚠ 警告

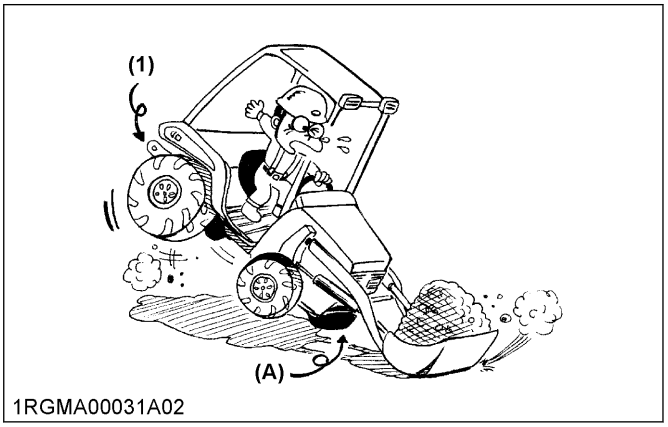
- **あゆみ板は左右の先端をそろえ、前後にずれないように確実に固定してください。**
- **あゆみ板とあゆみ板をかけた面との段差が大きい場合、運転には特に注意してください。**
- **途中で変速すると危険ですので、あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて低速で運転してください。**
- **あゆみ板は、じゅうぶんな強度、幅、傾斜が 15 度以下になる長さのあるすべり止めおよび爪付きの物を使用し、パワクロの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。**

傾斜が 15 度以下になる長さ	トラックの荷台高さ、あるいはほ場乗入れ部高さの 4 倍以上

9. ローダ作業

ローダ作業を安全に行うために！
ローダ作業時の転倒事故を防止するために、次の事がらを必ず守ってください。

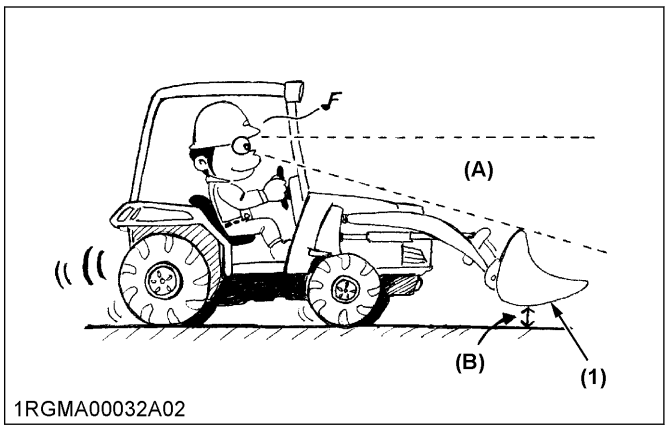
- **トラクタ後部にカウンタウエイトを取り付ける！**
  トラクタ後部に、3 点リンクを利用して適性量のカウンタウエイトを取り付け、前後のバランスを保つようにしてください。



1RGMA00031A02

(1) カウンタウエイト　　*(A)* ウエイトを外す

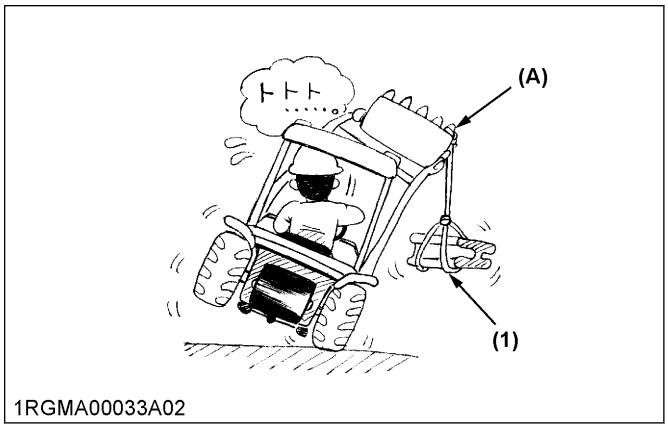
- **運搬はローダを低く下げてゆっくり走行する！**
  運搬、走行するときは、積荷の高さを地上から 30 cm～50 cm にし、速度も 5 km/時以下で走行してください。
  特に傾斜地、悪路では、速度をひかえめに慎重に走行してください。



1RGMA00032A02

(1) ローダ
(A) 視界良好
(B) *30 cm～50 cm*

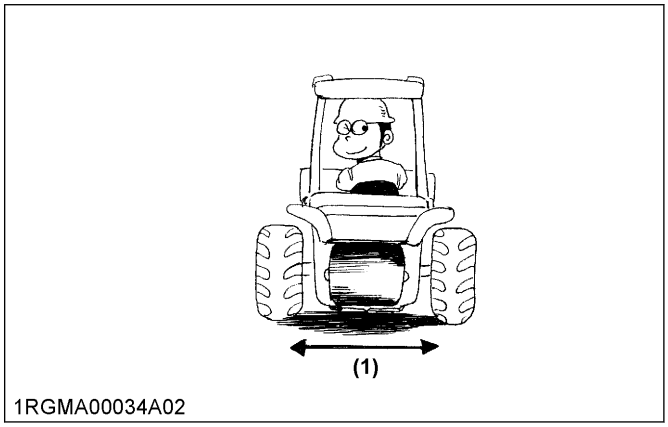
- **片持ち作業をしない！**
  片持ち作業はトラクタ横転の原因になりますので、荷物は左、右片寄らないようにバランスよく載せてください。



1RGMA00033A02

(1) 積荷
(A) 片持ち作業禁止

- **後輪トレッドはできるだけ広げる！**
  作業時はトラクタの安全性を増すため、後輪トレッドはできるだけ広げてください。



1RGMA00034A02

(1) 後輪トレッド

- **AD や倍速ターンを使用しない！**
  フロントローダ作業中は AD や倍速ターンを絶対に使用しないでください。

以上、ローダ作業での転倒事故を未然に防いでいただくために、主だった注意事項を挙げました。これ以外にもローダの取扱説明書をよく読んで安全に作業をしてください。

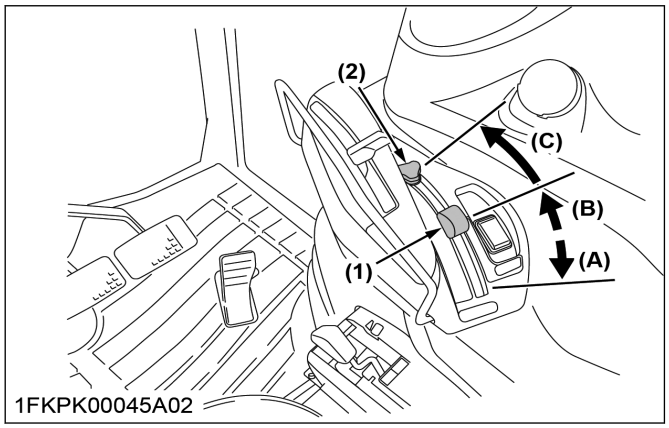
作業のしかた

作業機昇降装置

油圧装置は、クラッチの断続に関係無くエンジン回転中は常に作動します。

1. 油圧（ポジションコントロール）レバー

- ポジション範囲(A)、(B)では、作業機が任意の位置に保たれます。
- フローティング範囲(C)では、作業機はいっぱいに下がります。



(1) 油圧レバー
(2) レバーストッパ
(A) 上がる
(B) 下がる
(C) フローティング

1.1 レバーストッパの使用方法

レバーストッパは油圧レバーの下降側にあり、作業機の下がる範囲を決めることができます。

1. 油圧レバーで、希望する作業位置を決めます。
2. その位置にレバーストッパを固定します。
3. その後は、油圧レバーをレバーストッパに当たるまで動かします。
   それにより、レバーストッパと同一の作業位置が得られます。

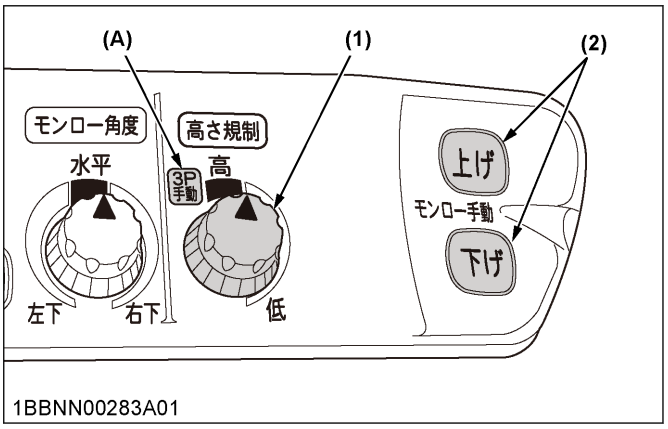
1.2 油圧レバーの取扱い特性

- エンジン停止後、キースイッチを**[入]**にして、油圧レバーを“前方に倒す”と、作業機が下降します。ただしポンパランプ点滅時は下がりません。電子メータメッセージに従って油圧レバーを操作し、ポンパランプの点滅を解除してください。
- 3 点リンク高さ規制ダイヤルで上昇上限位置を規制しているときは、制限位置までしか上昇しません。

2. 3 点リンク高さ規制ダイヤル

3 点リンクの上昇上限位置を変えるときに使用します。

- ダイヤルを**[高]**にすると、3 点リンクの上昇上限位置が高くなります。
- ダイヤルを**[低]**方向に回すと、3 点リンクの上昇上限位置が低くなります。



(1) *3* 点リンク高さ規制ダイヤル *(A)* *3P* 手動
(2) モンロー手動スイッチ

補足：

- **3 点リンク高さ規制ダイヤルにより、ポンパレバー、油圧レバー、オートアップ、およびバックアップでの上げ位置を任意の高さに規制できます。**

2.1 3P 手動の使用方法

3 点リンク高さ規制ダイヤルを**[3P 手動]**にすると各種制御に関係無く、モンロー手動スイッチにて作業機を上げ下げできます。

1. ポンパレバーまたは、油圧レバーで 3 点リンクを最上位置にし、モンローマチックを“平行停止”させます。
2. 3 点リンク高さ規制ダイヤルを**[3P 手動]**位置にします。

3. 3 点リンクの“上げ”– “下げ”を、モンロー手動スイッチで行います。

電子メータメッセージ

- エンジンを始動後、3 点リンク高さ規制ダイヤルを**[3P 手動]**位置にすると、次図のメッセージが表示されます。



1BBNN00229A02

- 3P 手動作業終了後は、**[3P 手動]**を解除し、メッセージの消灯を確認してくださ い。

補足：

- **3 点リンク高さ規制ダイヤルを[3P 手動]位置にすると、[モンロー]、[オート]、[E オート]、[ポンパ]、[バックアップ]、[オートアップ]の各ランプが消灯します。**
- **[3P 手動]位置では、油圧レバー、ポンパレバー、モンローマチックオート、バックアップ、オートアップ、E オートは作動しません。**
- **[3P 手動]位置でエンジンを停止し、再度*“3P* 手動”作業を行う場合は、エンジン始動後、ダイヤルを[3P 手動]位置から[高]または[低]の方向へ回して*“3P* 手動”を解除し、再度[3P 手動]位置にしてください。**
- **3P 手動作業の終了後は、*“3P* 手動”を解除してください。**

3. ポンパレバー／ポンパスイッチ[安全キャブ仕様]

⚠ 警告

- **ほ場内作業以外では、ポンパレバー、ポンパスイッチを使用しないでください。**
- **ポンパアップ状態で道路走行しないでください。移動中などほ場外では油圧レバーを使用してください。**

補足：

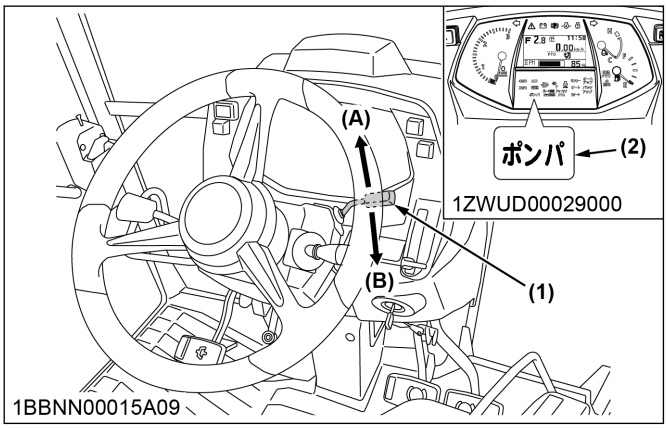
- **ポンパレバーはスイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。**
- **新しい作業機を装着したときは、ポンパレバー、ポンパスイッチではなく、油圧レバーを使って作業機を上げて、作業機がトラクタに当たらないことを確認してください。**
- **ポンパレバー、ポンパスイッチ操作時、ブザー音が 1 回鳴ります。**

3.1 ポンパレバー

レバーのワンタッチ操作で作業機を上下させる装置です。ほ場内での旋回操作が便利になります。

ポンパレバー	ポンパランプ	作業機
上げる	点灯	上昇
下げる	消灯	下降

ポンパレバーで作業機上昇後、油圧レバーを最上位置にすると、ポンパ制御が解除されポンパランプが消灯し、ポジション制御になります。



(1) ポンパレバー　*(A)* 上げる
(2) ポンパランプ　*(B)* 下げる

補足：

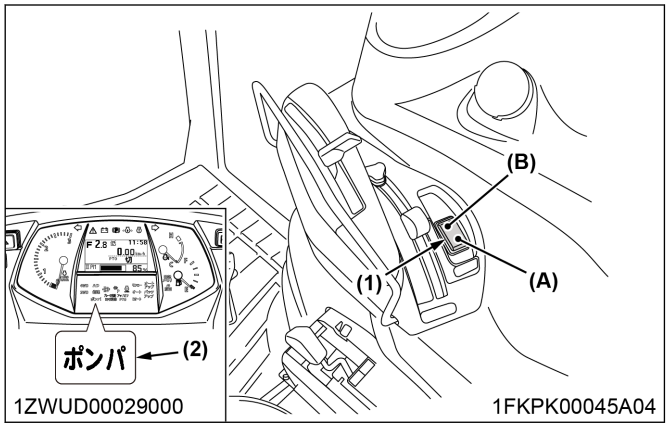
- **ポンパランプが点滅している場合、油圧レバーまたはポンパレバーを操作し、ポンパランプの“点滅を解除”してから使用してください。**
- **あぜぎわなどほ場が平たんではないところでポンパを使用すると、ロータリなどの作業機に衝撃がかかり損傷するおそれがあります。このような場合は油圧レバーでゆっくりと作業機を下降させてください。**

3.2 ポンパスイッチ［安全キャブ仕様］

ポンパスイッチのワンタッチ操作で作業機を上下させる装置です。ほ場内での旋回操作が便利になります。

ポンパスイッチ	ポンパランプ	作業機
“上げ”側を押す	点灯	上昇
“下げ”側を押す	消灯	下降

ポンパスイッチで作業機上昇後、油圧レバーを最上位置にすると、ポンパ制御が解除されポンパランプが消灯し、ポジション制御になります。



(1) ポンパスイッチ
(2) ポンパランプ
(A) 上げる
(B) 下げる

補足：
- **ポンパランプが点滅している場合、油圧レバーまたはポンパスイッチを操作し、ポンパランプの“点滅を解除”してから使用してください。**
- **あぜぎわなどほ場が平たんではないところでポンパを使用すると、ロータリなどの作業機に衝撃がかかり損傷するおそれがあります。このような場合は油圧レバーでゆっくりと作業機を下降させてください。**

3.3 ポンパレバー、ポンパスイッチの上手な使用方法

[安全キャブ仕様] のみポンパスイッチが使えます。
ポンパレバー、ポンパスイッチを解除したときの下降位置は油圧レバーで設定した位置になります。

耕深位置制御

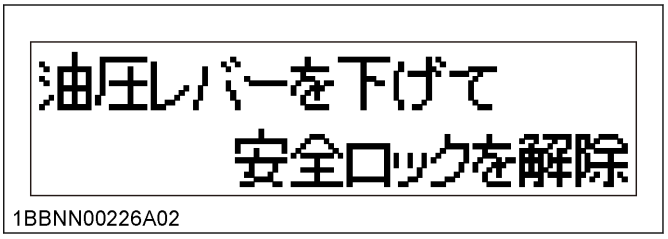
例えば代かきハローなど、作業機の位置を固定して昇降させる場合、油圧レバー位置をセットしたまま、ポンパレバー、ポンパスイッチにより昇降させることができます。

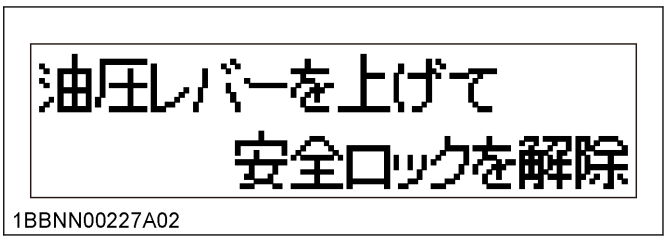
3.4 3 点リンクの安全ロック機能

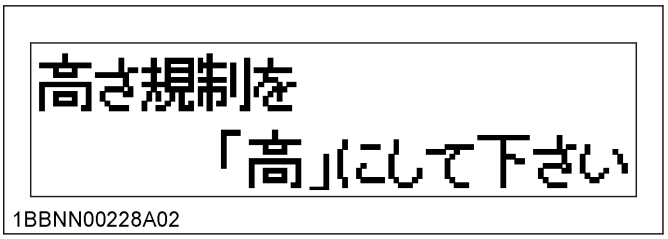
次の状態でエンジンを始動すると、安全ロックが作動し作業機は昇降しなくなります。
- エンジン停止時の作業機の高さと油圧レバー位置が異なっているとき。
- 3 点リンク高さ規制ダイヤルが**[3P 手動]**位置になっているとき。

安全ロックが作動すると、ポンパランプが点滅状態となり、解除方法は電子メータメッセージとして表示されます。

電子メータメッセージ
- 安全ロックの解除は、次図の表示メッセージに従って解除してください。
  安全ロック解除時、ブザー音が 2 回鳴ります。







3 点リンク高さ規制ダイヤルを**[3P 手動]**位置から**[高]**に戻してください。

補足：
- **安全ロックは、ポンパレバーで作業機を上げても解除できます。**
- **電子メータメッセージの〝油圧レバー下げて安全ロックを解除〟は、車速が約 10 km/h 以上のときは表示されません。**

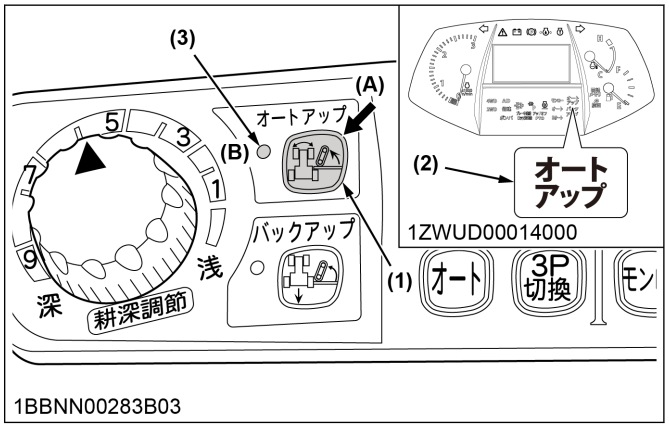
4. オートアップスイッチ

⚠ 警告
- **危険防止のため、オートアップの使用は、ほ場内作業のみにしてください。**
- **オートアップで作業する場合は、ランプが点灯していることを確認してください。ランプが消灯しているときは、作業機は自動で上昇しません。この状態で旋回すると、作業機を引きずり、障害事故を引き起すおそれがあります。**

4.1 オートアップの使用方法

1. オートアップスイッチを押し“入”にします。
   オートアップ“入”のとき、メータパネルのオートアップランプが点灯します。
2. 隣接耕うん作業での旋回時、ステアリングハンドルを回します。
   作業機が自動で上昇し、ほ場内での旋回操作が簡単にできます。上昇時ブザー音が 1 回鳴ります
3. 作業機を下げるときは、ポンパレバーまたは油圧レバーで行います。

4. オートアップスイッチを再度押します。
   オートアップが“切”となりオートアップランプが消灯します。



(1) オートアップスイッチ
(2) オートアップランプ
(3) スイッチランプ
(A) 押す
(B) オートアップ入時点灯

補足：

- **オートアップが点灯中でもシャトルレバーが“中立”、“後進”、およびあんしん PTO スイッチが[切]の場合、オートアップは作動しません。**
- **隣接耕うん作業以外では、オートアップスイッチを“切”にしてください。**
- **オートアップが作動するステアリングハンドルの操作角度は、条件により異なります。ハンドル操作の速さ、車速などからマイコンが判断し、適切に制御しています。**
- **スイッチの操作はエンジンを始動したあとに行ってください。エンジン始動によりバッテリ電圧が一瞬下がりますので、スイッチの操作が無効になる場合があります。**

5. バックアップスイッチ

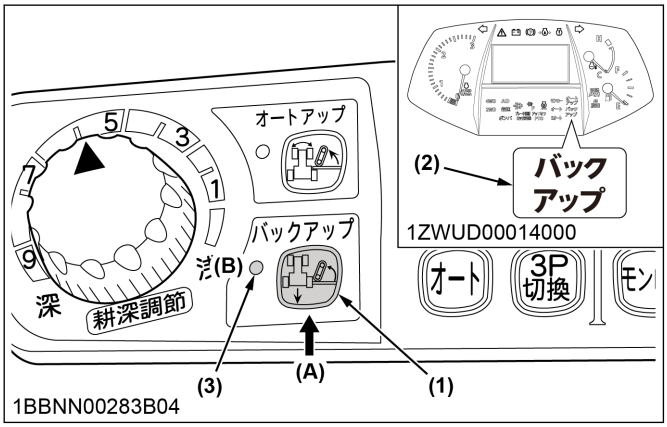
バックアップを“入”にしておくと、後進時、作業機が自動的に上昇し、“うっかりバック”からの作業機の損傷を防ぎます。

補足：

- **スイッチの操作はエンジンを始動したあとに行ってください。エンジン始動によりバッテリ電圧が一瞬下がりますので、スイッチの操作が無効になる場合があります。**

5.1 バックアップの使用方法

1. バックアップスイッチを押し、“入”にします。
   バックアップ“入”のとき、メータパネルのバックアップランプが点灯します。
2. シャトルレバーを“後進”に入れます。
   作業機が自動で上昇します。
3. 作業機を下げるときは、ポンパレバーまたは油圧レバーで行います。
4. バックアップスイッチを再度押します。
   バックアップが“切”となります（バックアップランプ消灯）。



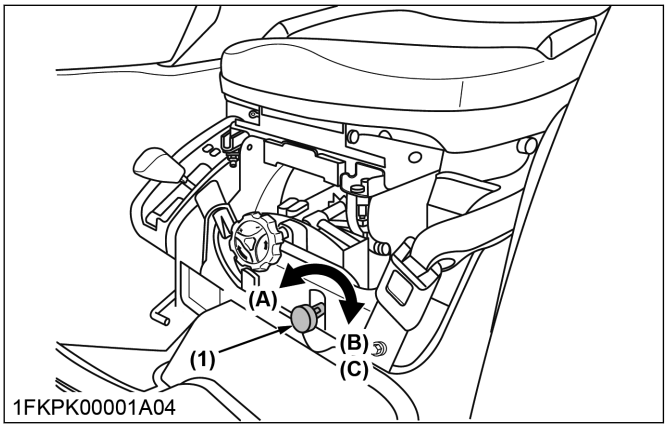
(1) バックアップスイッチ
(2) バックアップランプ
(3) スイッチランプ
(A) 押す
(B) バックアップ入時点灯

6. 作業機落下速度の調整

落下速度調整グリップを回すことにより作業機落下速度が調整できます。グリップの回転角は 90°です。

⚠ 警告

- **ロータリなど作業機を点検する場合は、必ず落下速度調整グリップで、作業機が落下しないようにロック（停止）してください。**
- **落下速度調整グリップでロックした後、油圧レバーを“前方に倒して”、作業機が落下しないことを必ず確認してください。**
- **ロックするとともに適切なジャッキまたはブロックで歯止めをし、落下防止を行ってください。**



(1) 落下速度調整グリップ
(A) 速
(B) 遅
(C) 停止

“速”方向に回す
油圧回路が開き、作業機の落下速度が速くなります。

“遅”方向に回す
油圧回路が閉じ、作業機の落下速度が遅くなります。

“停止”位置まで回す
　油圧がロック（停止）します。
ロータリの落下速度は、上昇位置から接地するまで 1 秒～2 秒が適当です。
特にオート耕うん時、落下速度が速すぎると滑らかな耕うんができない場合があります。

重要：
- **グリップは軽く回すだけで油圧がロックされますので無理に回さないでください。グリップの回転角は 90°です。**

6.1 油圧ロックの取扱い

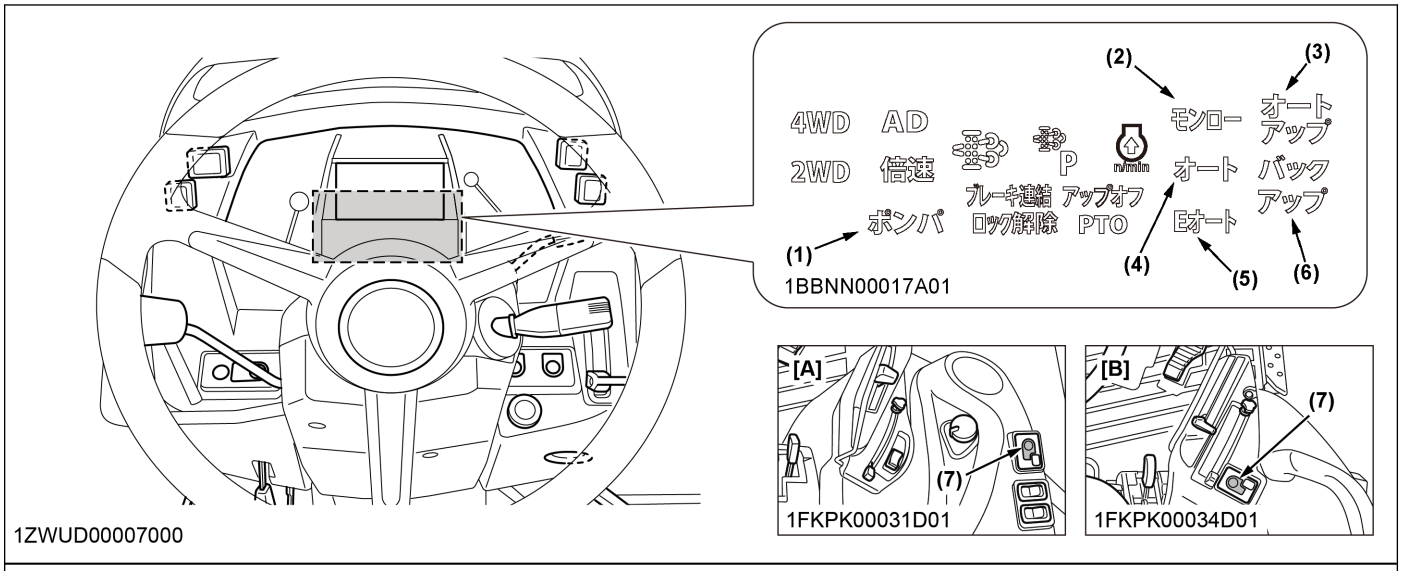
- トラクタの格納は、作業機を降ろした状態で保管してください。
  作業機を上げた状態で長時間保管すると、油圧ロックしていても下降することがあります。
- 作業機を上げた状態で保管する場合は、次の要領で行ってください。
  1. エンジンをかけた状態で落下速度調整グリップを“停止”位置まで回してください。
  2. 油圧レバーを前方に倒し、作業機が下がらないことを確認してください。
     この操作を行うことで、油圧ロックの作動がより確実になります。
  3. エンジンを停止してください。
  4. 再度油圧レバーを上げてください。

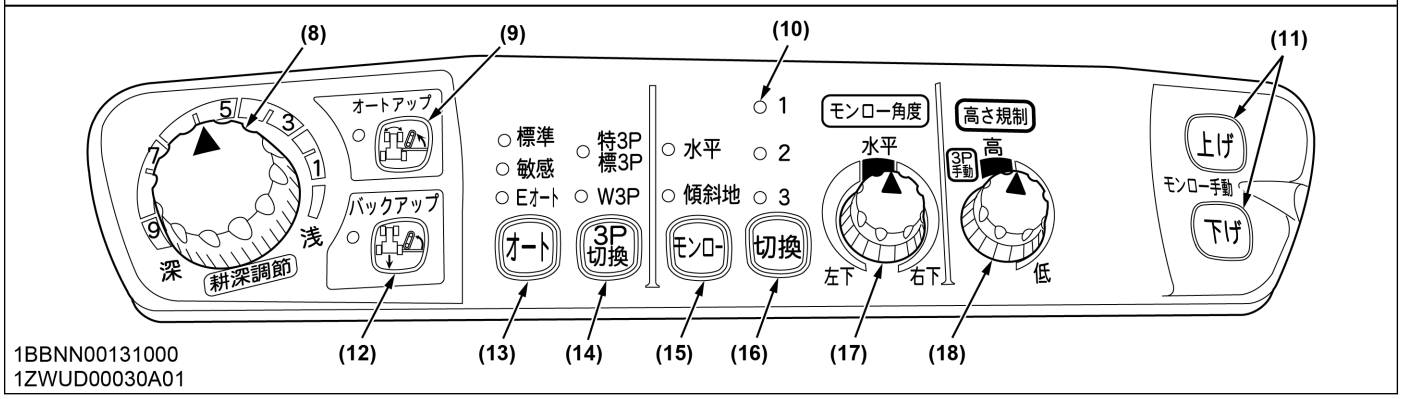
モンローマチック・オート

補足：
- **各スイッチの操作はエンジンを始動した後に行ってください。**
  エンジンの始動によりバッテリ電圧が一瞬下がりますので、スイッチ操作が無効になる場合があります。

1. モンローマチック・オートの各部の名称

各操作スイッチには、スイッチ上部を指先で軽く押すごとにモードが切り換わるタッチ式スイッチを用いています。また、スイッチでの選択状態を、メータパネル内のモニタランプと各スイッチランプで表示します。



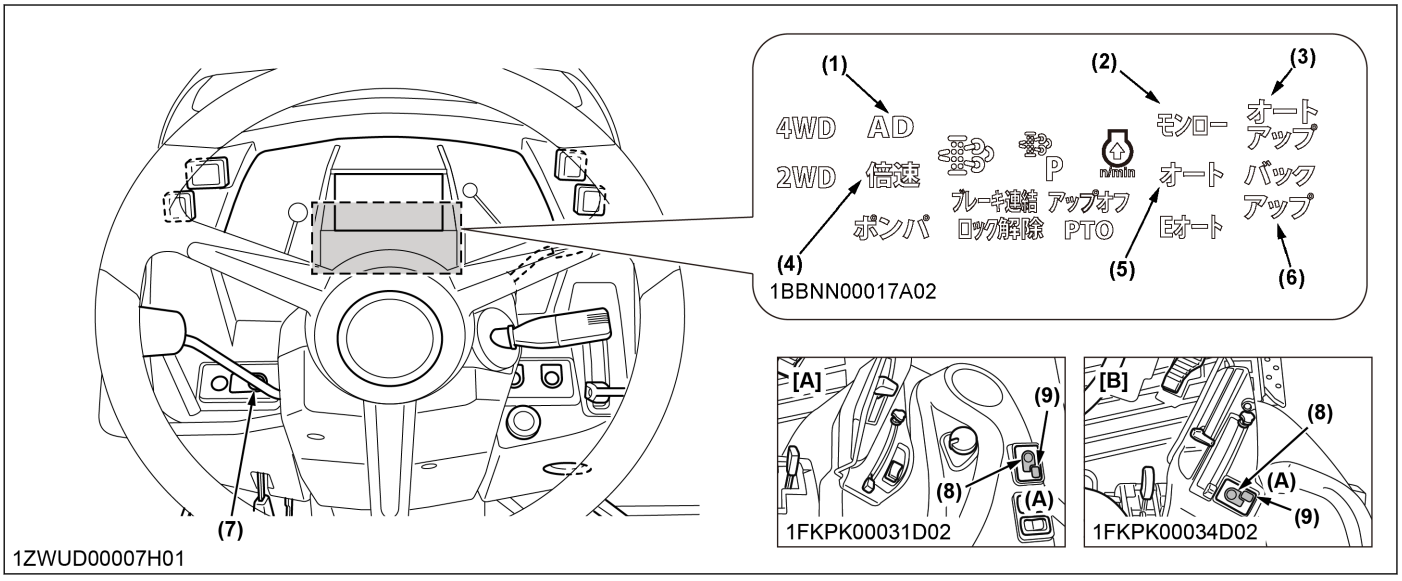


(1) ポンパランプ
(2) モンローランプ
(3) オートアップランプ
(4) オートランプ
(5) *E* オートランプ
(6) バックアップランプ
(7) ワンタッチ耕うんモードスイッチ
(8) 耕深調節ダイヤル
(9) オートアップスイッチ
(10) スイッチランプ
(11) モンロー手動スイッチ
(12) バックアップスイッチ
(13) オートスイッチ
(14) *3P* 切換スイッチ
(15) モンロースイッチ
(16) 切換スイッチ
(17) モンロー角度調節ダイヤル
(18) *3* 点リンク高さ規制ダイヤル
[A] 安全キャブ仕様
[B] 安全フレーム仕様

2. ワンタッチ耕うんモードスイッチ

1. ワンタッチ耕うんモードスイッチを押すとスイッチランプが点灯し、一般的なほ場で耕うん作業を行う標準的な設定“モンロー水平”、“オート標準”、“オートアップ入り”、“バックアップ入り”、“*AD* 倍速”になります。
2. 作業終了後、再度スイッチを押すとスイッチランプが消灯し、自動装置はすべて“切”となり“*2WD*”の状態となります。

- ワンタッチ耕うんモードの設定は、任意変更も行えます。
  （ワンタッチ耕うんモードの任意変更（105 ページ）を参照）



(1) *AD* 倍速ランプ
(2) モンローランプ
(3) オートアップランプ
(4) 倍速ランプ
(5) オートランプ
(6) バックアップランプ
(7) 走行モード切換スイッチ
(8) ワンタッチ耕うんモードスイッチ
(9) スイッチランプ
[A] 安全キャブ仕様
[B] 安全フレーム仕様
(A) ワンタッチ耕うんモード選択時点灯

2.1 ワンタッチ耕うんモードの任意変更

1. 作業に応じ各操作スイッチで、ワンタッチ耕うんモードの設定変更を行います。
   次表に示す自動装置の設定変更ができます。

	操作スイッチ	**操作方法**
片ブレーキをかけたくない。 倍速を効かせたくない。	走行モード切換スイッチ	希望の状態に切り換える。
オートを使用しない。	オートスイッチ	“切”にする。
オートを敏感にしたい。	オートスイッチ	**[敏感]**に切り換える。
カバーを上げて耕うんしたい。	オートスイッチ	**[E オート]**に切り換える。
モンローを使用しない。	モンロースイッチ	“切”にする。
傾斜地モンローを使用する。	モンロースイッチ	**[傾斜地]**に切り換える。
オートアップ不要のとき。	オートアップスイッチ	“切”にする。
バックアップ不要のとき。	バックアップスイッチ	“切”にする。

   設定を変更すると、ワンタッチ耕うんモードスイッチのランプが消灯します。
2. 初期設定状態に戻したいときは、ワンタッチ耕うんモードスイッチを押します。

補足：
- **作業後または作業中にエンジンを停止しても、停止前の状態を記憶しています。**

2.2 ワンタッチ耕うんモードの設定変更方法

よく使用する設定をワンタッチ耕うんモードとして記憶させることができます。

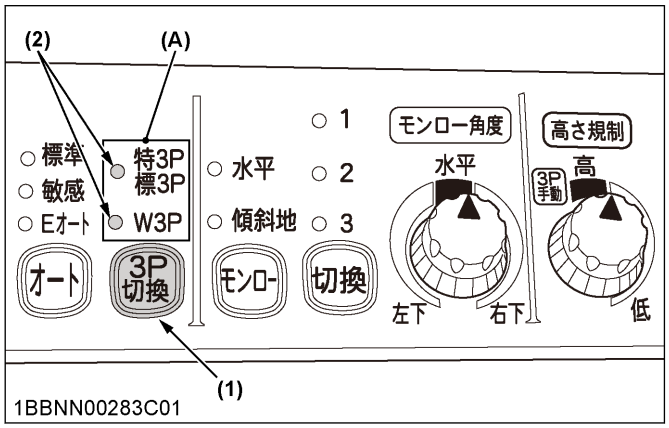
1. ワンタッチ耕うんモードスイッチを押し、スイッチランプを“点灯”状態にします。
2. ワンタッチ耕うんモードの設定を変更します。
   例えばバックアップが不要な場合はバックアップスイッチを押して“切”にします。
3. ワンタッチ耕うんモードスイッチを 5 秒間長押しします。
   5 秒後メータから「ピ」音が鳴れば設定が記憶されます。

- ワンタッチ耕うんモードの設定を工場出荷設定に戻したい場合：
  1. ワンタッチ耕うんモードスイッチを押し、スイッチランプを“点灯”状態にします。
  2. スイッチを約 5 秒間押します。
     「ピ」音が鳴ります。
  3. さらにスイッチを押し続けます。
     約 5 秒後、2 回目の「ピ」音が鳴り、初期設定の状態に戻ります。

3. 3P 切換スイッチ

スイッチを押すごとに**[特 3P]**、**[標 3P]**⇒**[W3P]**⇒**[特 3P]**、**[標 3P]**に切り換わります。
作業機装着時、次表を参考にスイッチを切り換えてください。

特殊 3P 用オートヒッチフレーム付き作業機	**[特 3P]**、**[標 3P]**を選択
標準 3P 用作業機 インプルメントメーカ製オートヒッチフレーム付き含む	
W3P 用オートヒッチフレーム付き作業機	**[W3P]**を選択



(1) *3P* 切換スイッチ
(2) スイッチランプ
(A) 選択時点灯

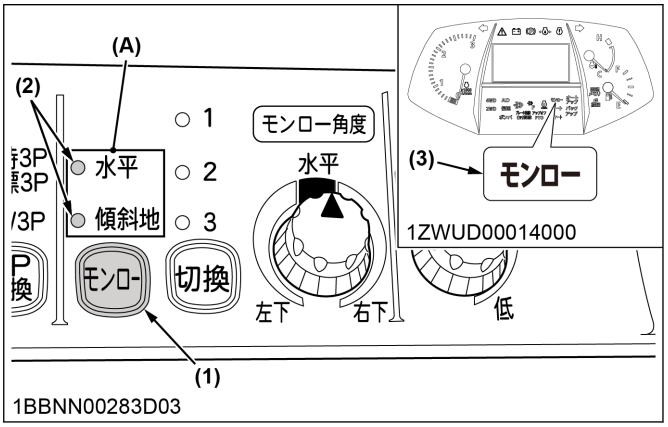
補足：

- **［W3P 仕様］で、オートヒッチフレーム付き標準 3 点リンク式作業機を装着時、ジョイントの取付け位置やトップリンク長さなどを変更してください。（ロータリの取扱説明書を参照）**
- **モンローおよびオートを“切”にすると、3P 切換スイッチは操作できません。スイッチランプも消灯します。**

4. モンロースイッチ

スイッチを押すごとに**[水平]**⇒**[傾斜地]**⇒“切（手動）”⇒**[水平]**の順に切り換わります。
作業に応じ、いずれかを選択してください。

	メータパネル	適応作業
[水平]選択時	モンローランプ点灯	106
[傾斜地]選択時		107
“切（手動）”選択時	モンローランプ消灯	107



(1) モンロースイッチ
(2) スイッチランプ
(3) モンローランプ
(A) 水平、傾斜地選択時点灯、切時消灯

4.1 モンロー水平

トラクタ本体の傾きにかかわらず作業機を常に水平または地面に対し一定の角度に保ちたいとき使用します。

- **モンロー角度調節ダイヤルが[水平]位置の場合**
  作業機は常に水平に保たれます。
  - 水田でのあぜ際耕うん、枕地、凸凹地での均平耕うん
  - 整地板、代かきロータリなどによる均平作業
  - 畑での畝立て、畝崩し作業、その他
- **モンロー角度調節ダイヤルが[水平]位置以外の場合**
  作業機は水平面に対して常に一定の角度に保たれます。
  - 広幅畝立て、その他

補足：

- **モンロースイッチが[水平]の場合、作業機を上端付近まで上げたときは、作業機の姿勢は本機に平行に保持されます。**
- **左右のオフセット量が大きく、左右の重量バランスが悪い作業機の場合は、モンロースイッチ“切”で使用してください。**

4.2 モンロー傾斜地

傾斜のあるほ場で、作業機を常にほ場面と平行に保ちたいとき使用します。

- 適応作業：傾斜のある畑の耕うん、仕上げ作業（マルチ、リッジャなど）

補足：

- **モンロースイッチが[傾斜地]の場合、作業機を上端付近まで上げたときは、作業機の姿勢は本機に平行に保持されます。**
- **[傾斜地]選択時、凹凸の激しいほ場でじゅうぶんな精度が得られない場合は“切（手動）”で使用してください。**
- **[傾斜地]選択時、斜面と作業機の傾きの差が著しく大きいときは、モンロー手動スイッチにより、傾きの差が小さくなるように補正できます。トラクタが水平状態にあるときは調整できません。**
  調整幅いっぱいまで動かしても傾きの差が大きいときは、“切”または[水平]で使用してください。エンジンを再始動すると、補正量は標準値に戻ります。
- **左右のオフセット量が大きく、左右の重量バランスが悪い作業機の場合は、モンロースイッチ“切”で使用してください。**

4.3 モンロー切（手動）

モンローマチックの“自動制御が解除”され、“位置制御”になります。

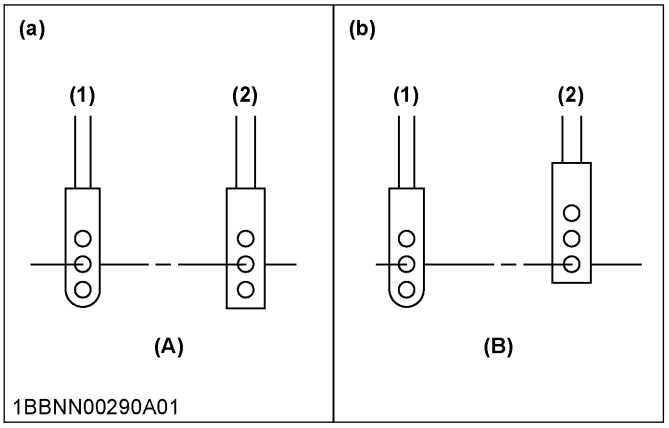
補足：

- **モンロースイッチが“切（手動）”では、作業機を上端付近まで上げても、作業機の姿勢は本機と平行にはなりません。**
  したがって、取り付けている作業機を上げるときは注意してください。
- **“位置制御”とは**
  このモードは、プラウ作業などで、常にリフトシリンダの位置すなわち長さを一定に保ちたい場合に使用します。モンロースイッチを“切（手動）”にすると、リフトシリンダの長さをモンロー手動スイッチで設定した長さに保つ制御をします。したがって、車体が傾いても長さは、変化しません。
  リバーシブルプラウでの口開け作業などでは、リフトシリンダをモンロー手動スイッチで適当な長さに合せて、耕起します。通常に耕起する場合には、モンロースイッチを[水平]に入れ、油圧レバーを上げると、リバーシブルプラウは車体と平行になります。その状態でモンロースイッチを“切”にしてください。
- **モンロースイッチを“切（手動）”でエンジンを停止させた場合、トラクタはそのときの作業機の傾きを記憶しており、次のエンジン始動時に、記憶した作業機の傾きに戻ります。**

重要：

- **モンローマチックが不要の場合（フロントローダ作業などの場合）には、“切”で作業してください。**
- **“切（手動）”で作業機を傾斜させているとき、作業機を上端に上げると、ジョイントからの騒音が大きくなる場合がありますので注意してください。**
- **チェックチェーンを張りすぎますと、モンローマチック作動時に 3 点リンクに無理な力が加わりますので、チェックチェーンは手で軽く締める程度にしてください。**

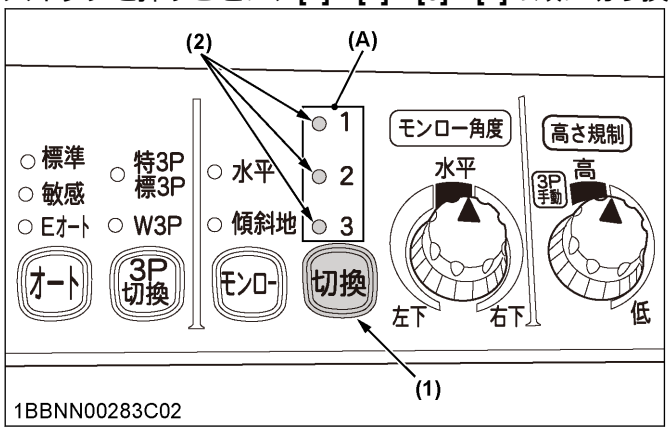
リフトロッドとリフトシリンダ先端部の取付け穴は、左右対称になるようにしてください。



(1) リフトロッド
(2) リフトシリンダ
(A) 同じ位置の穴
(B) 異なる位置の穴
(a) 良い例
(b) 悪い例

5. 切換スイッチ

スイッチを押すごとに、**[1]⇒[2]⇒[3]⇒[1]**の順に切り換わります。



(1) 切換スイッチ
(2) スイッチランプ
(A) 選択時点灯

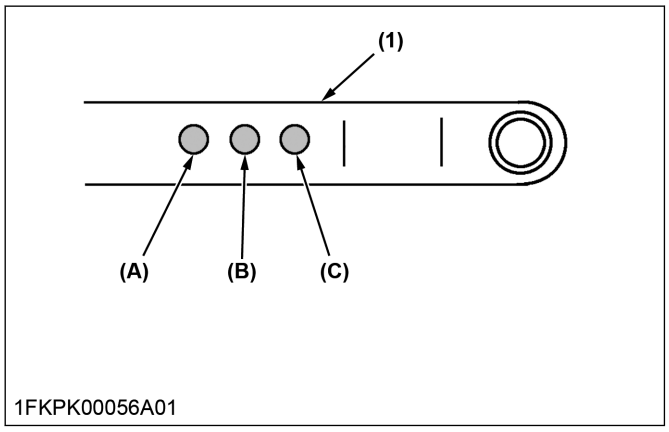
作業機によって定まる 3 点リンクの取付け状態すなわちロアーリンク幅およびロアーリンク穴に応じて、次表を参考にスイッチを切り換えてください。選択状態はスイッチランプにより表示されます。

補足：

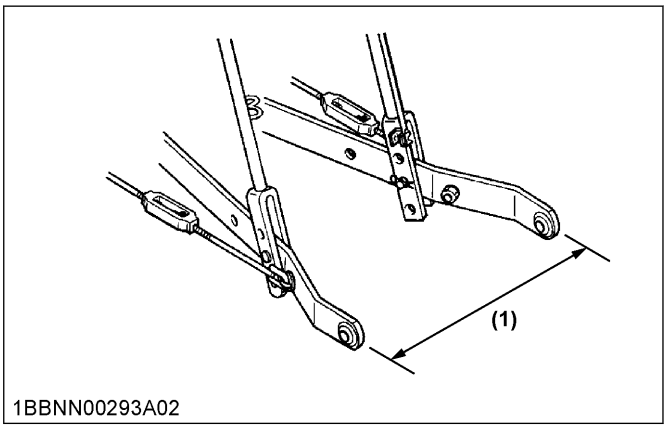
- **3P 切換スイッチが[W3P]を選択時、自動的に[1]～[2]のいずれかのランプが点灯します。このとき、切換スイッチを押しても切換えできません。**
- **モンロー“切”でスイッチランプが消灯しているとき、切換スイッチは、操作できません。**

切換スイッチ	ロアーリンクの幅		ロアーリンク穴位置	作業機例
1	広	718 mm*1	(B)穴	**[特殊 3P 仕様]** オートヒッチフレーム付きロータリ
			(B)穴または(C)穴	–
2	広	718 mm*1	(A)穴	–
3	狭	590 mm*2	(A)穴	–

*1 JIS
*2 参考



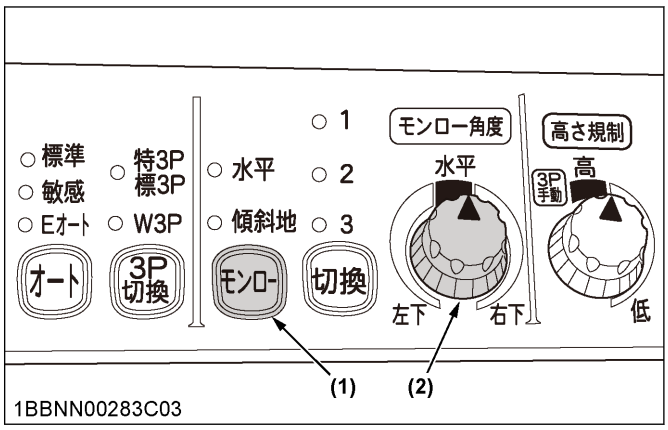
(1) ロアーリンク



(1) ロアーリンクの幅

6. モンロー角度調節ダイヤル

モンロースイッチが**[水平]**の場合、作業機の姿勢を調節するときにモンロー角度調節ダイヤルを使用します。



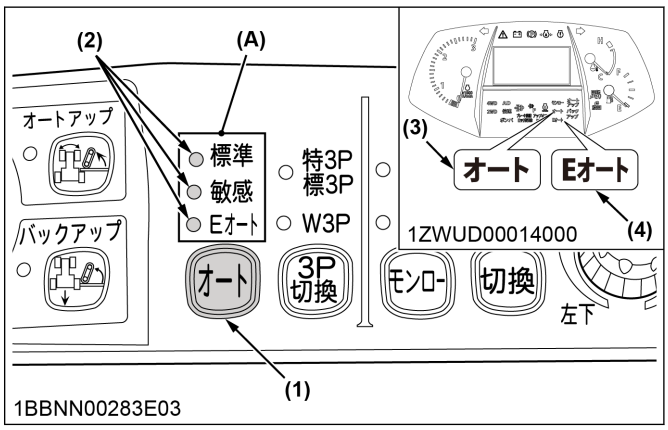
(1) モンロースイッチ　*(2)* モンロー角度調節ダイヤル

- ダイヤルを**[水平]**位置にすると、作業機は水平に保持されます。
- ダイヤルを**[左下]**方向に回すと、作業機が左下りに保持されます。
- ダイヤルを**[右下]**方向に回すと、作業機が右下りに保持されます。

7. オートスイッチ

スイッチを押すごとに**[標準]**⇒**[敏感]**⇒**[E オート]**⇒“切”⇒**[標準]**の順に切り換わります。
次にあげた作業に応じ、いずれかを選択してください。

	メータパネル
[標準]、**[敏感]**選択時	**[オート]**ランプ点灯
[E オート]選択時	**[E オート]**ランプ点灯
“切”選択時	**[オート]**、**[E オート]**ランプ消灯



(1) オートスイッチ
(2) スイッチランプ
(3) オートランプ
(4) *E* オートランプ
(A) 選択時点灯、切時消灯

[標準]
浅起しから深起しまで、一般的な作業に使用します。

[敏感]
湿田での作業、代かき作業、その他仕上がりに応じて使用します。

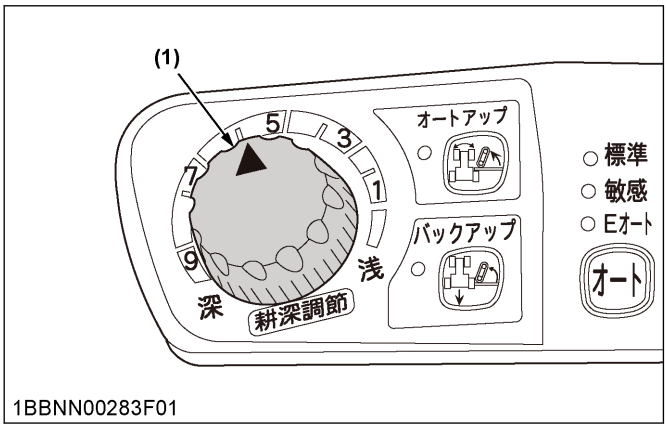
[E オート]
ロータリカバーを上げたまま荒起こしなどの作業を後 2 輪無しで行うオート作業に使用します。

“切”
オートの自動制御が解除されます。

補足：
- **ロータリカバーを上げて作業するときは、[E オート]または“切”にしてください。**
- **[標準]、[敏感]選択時でも、ロータリなどの作業機が付いていない場合は、オートランプは消灯します。**

8. 耕深調節ダイヤル

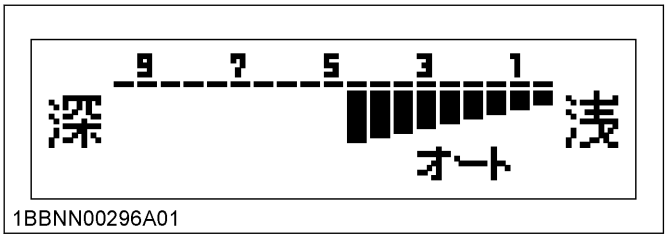
オートスイッチが、**[標準]**、**[敏感]**、**[E オート]**の場合、浅起しから深起しまで希望の耕深になるよう、このダイヤルで設定してください。



(1) 耕深調節ダイヤル

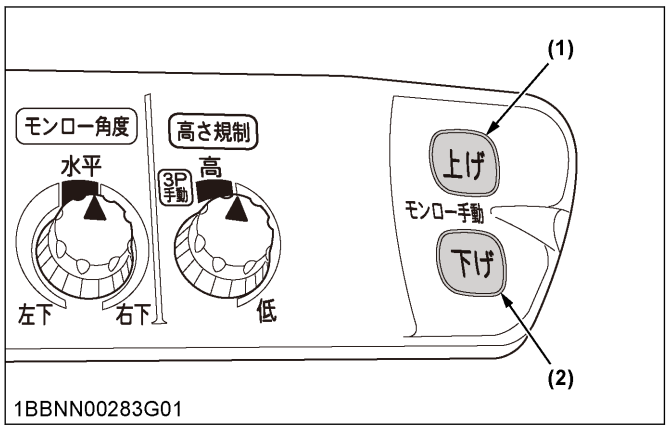
補足：
- **[浅]から[1]付近まで作業機を吊り上げる制御となります。湿田や代かき作業に利用してください。**
- **ほ場内で、部分的にタイヤの沈下量が大きく変わり、耕深が変化する場合は、ダイヤルで調節してください。**

電子メータメッセージ
- 耕深調節ダイヤルで耕深を変更したとき、ブザーが鳴りダイヤル調節に応じて次図のメッセージが表示されます。操作終了後、約 5 秒間でもとの表示にもどります。



9. モンロー手動スイッチ

モンロースイッチが“切（手動）”の場合、作業機を左右に傾斜させるときに使用します。



(1) モンロー手動スイッチ（上げ）　*(2)* モンロー手動スイッチ（下げ）

- **[上げ]**スイッチを押している間、作業機の右側が上がります。
- **[下げ]**スイッチを押している間、作業機の右側が下がります。

補足：

- **モンロースイッチが[傾斜地]の場合、このスイッチにより斜面と作業機の傾きの差を補正できます。**

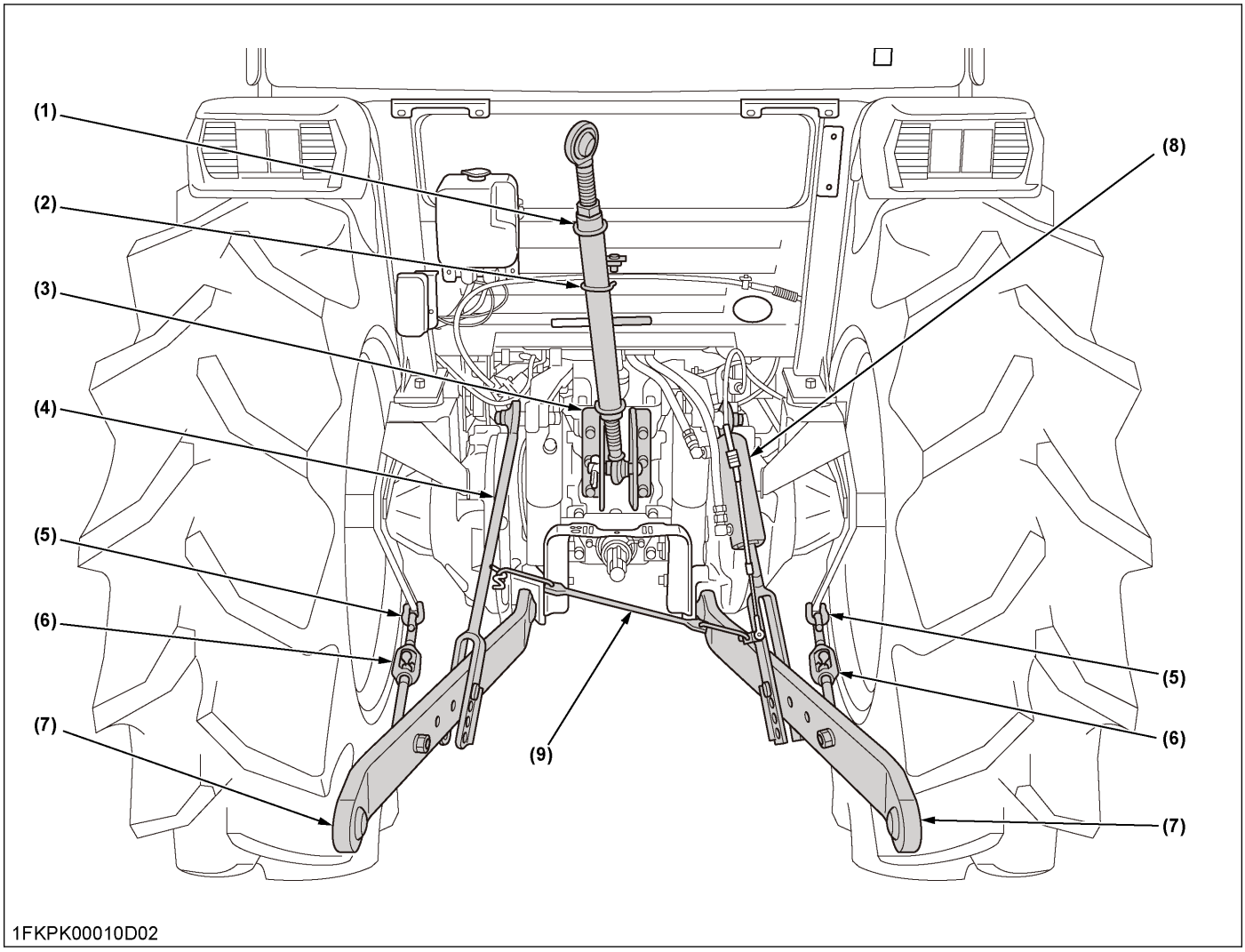
10. 作業機の取扱い

10.1 リフトシリンダを取付け、取外しする場合

購入先にご相談ください。

3 点リンク

1. 3 点リンクの各部の名称



1FKPK00010D02

(1) トップリンク
(2) トップリンクフック
(3) トップリンクブラケット
(4) リフトロッド左
(5) チェックチェーン
(6) ターンバックル
(7) ロアーリンク
(8) リフトシリンダ
(9) 振止めゴム

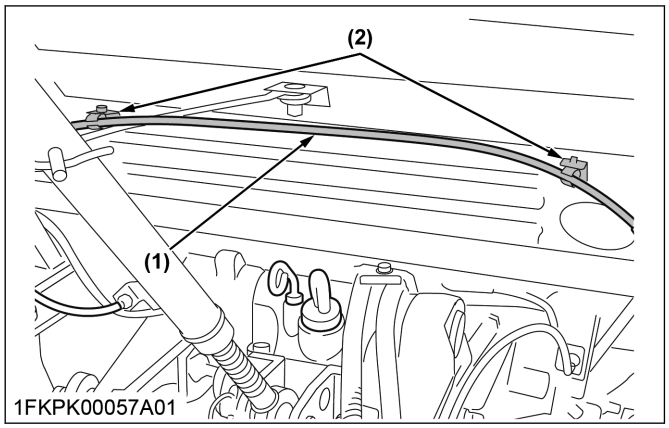
- 3 点リンクは、JIS 1 形です。
- 3 点リンク用作業機を装着したとき、チェックチェーンやロアーリンクがタイヤと接触するおそれのある場合は、後輪輪距を広げてください。
  （後輪輪距（117 ページ）を参照）

2. インプルメント取付け前の準備

2.1 オートワイヤ

2.1.1 オートワイヤの格納

1. オートワイヤを外しているときは、外したワイヤを次図のように格納します。



(1) オートワイヤ　　*(2)* ホルダ

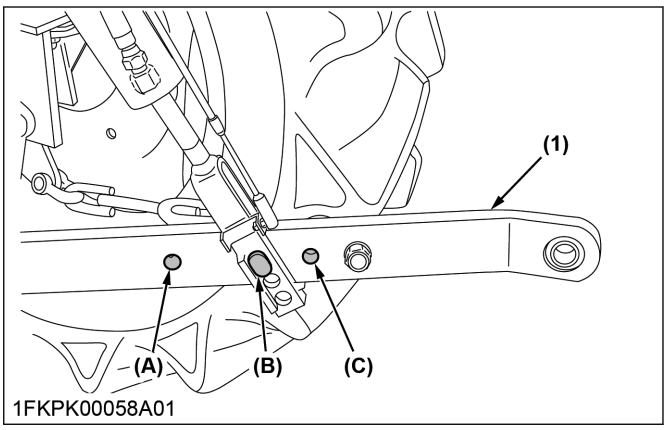
2.2 ロアーリンク取付け穴の選択

1. 次表を参考に正しい取付け穴を選択します。
   - **［ホイール仕様］**

	ロアーリンク穴位置
オートヒッチフレーム無しの一般作業機装着時	(A)穴
特殊 3 点リンク用オートヒッチフレーム付きのロータリ	(B)穴 播種機装着時必要に応じ(C)穴
［W3P 仕様］ W3P 用オートヒッチフレーム付きのロータリ	**［GJE28］** (B)穴
	［GJE35 (H)］ (A)穴

   - **［パワクロ仕様］**

	ロアーリンク穴位置
オートヒッチフレーム無しの一般作業機装着時	(A)穴
特殊 3 点リンク用オートヒッチフレーム付きのロータリ	(B)穴
［W3P 仕様］ W3P 用オートヒッチフレーム付きのロータリ	(B)穴



(1) ロアーリンク

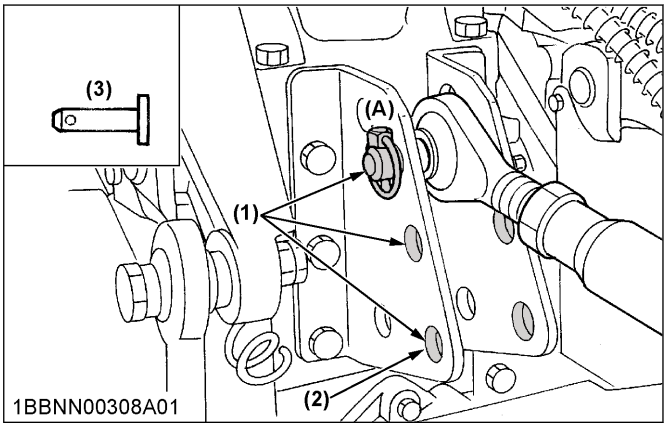
補足：
- **［ホイール仕様］のトラクタでロータリを使用する場合のリフトロッド穴位置は、“ロータリ”の取扱説明書を参照してください。**
- **他社インプルメントを使用する場合のリフトロッド穴位置は購入先に相談してください。**

3. 作業機の着脱

3.1 トップリンク

3.1.1 トップリンク取付け穴の選択

1. 使用する作業機によって取付け穴を選択します。指定された取付け穴以外は使用しないでください。



(1) トップリンク取付け穴　　*(A)* 頭付きピン使用
(2) *W3P* 用オートヒッチフレーム使用時取付け穴
(3) 頭付きピン

3.1.2 トップリンク長さの調整

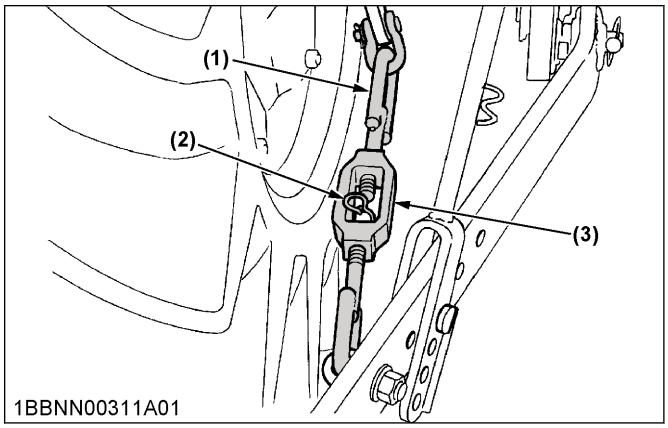
1. トップリンクを伸縮させて、作業機の傾きを調整します。
2. 調整後はトップリンクナットでロックします。

補足：
- **トップリンクの取付け穴および長さは、取り付ける作業機の取扱説明書をご覧ください。**

3.2 チェックチェーンの調整

1. スナップピンを抜き、ターンバックルを回して、作業機の横振れを制限します。

作業機	作業機チェーンの張り具合
ロータリ	ロータリが横方向に 1 cm～2 cm 動く程度
プラウ、ハロー、サブソイラ、ディガー	ゆるめる 作業機が横方向に 5 cm～6 cm 動く程度 ロアーリンク、リフトロッドなどがタイヤと接触しないことを確認してください。
モーア、ヘイレーキ、テッダ、リッジャ、カルチベータ	軽く締める

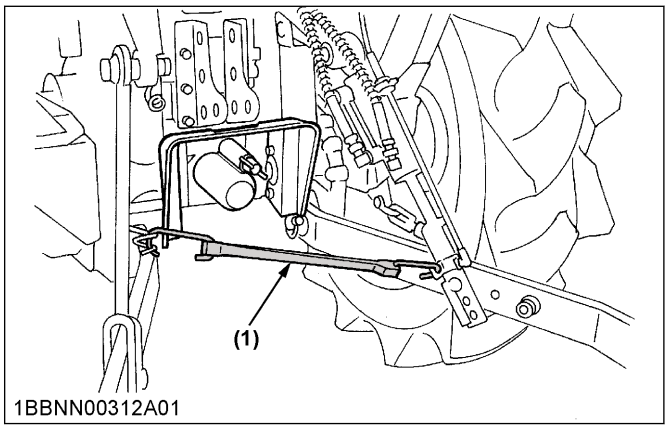


(1) チェックチェーン
(2) スナップピン
(3) ターンバックル

- 調整後はスナップピンで、ターンバックルを固定します。

3.3 作業機を取り付けないときの注意

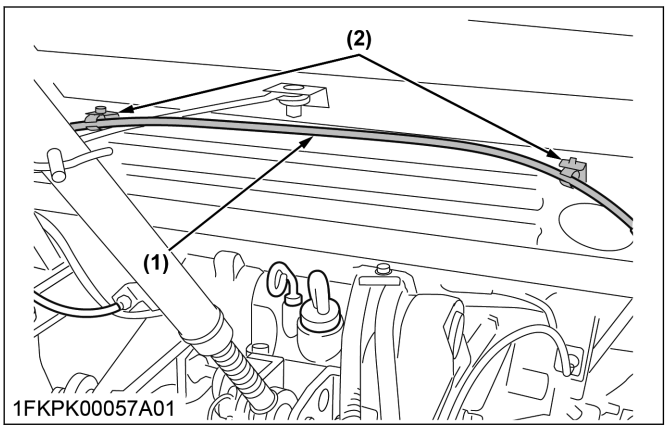
作業機を取り付けないときは、ロアーリンクが後輪に当たらないように、左右振止めゴムをしてください。



(1) 振止めゴム

3.3.1 オートワイヤの格納

1. オートワイヤを外しているときは、外したワイヤを次図のように格納します。



(1) オートワイヤ
(2) ホルダ

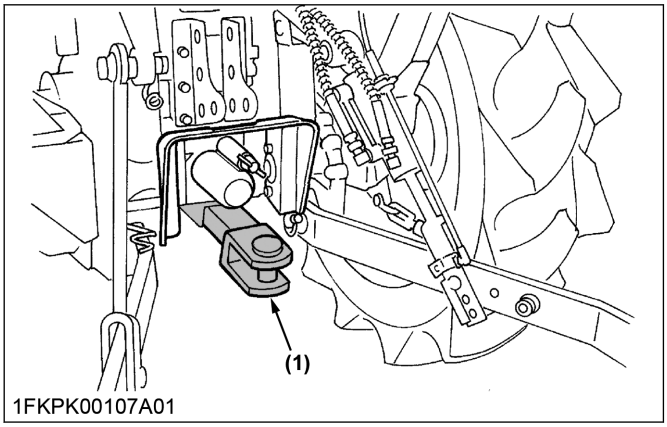
けん引ヒッチ

けん引作業は、別売のけん引ヒッチを使用してください。

⚠ 警告

- **けん引作業をするときは、必ず別売のけん引ヒッチを使用し、トップリンクブラケットや車軸などで引っ張らないようにしてください。転倒事故を引き起こすおそれがあります。**
- **3 点リンクに取り付け、PTO 軸からユニバーサルジョイントで動力を取り出すインプルメント（ロータリ、ブロードキャスタなど）を使用するときは、けん引ヒッチを外してください。そうしないと、ユニバーサルジョイントがけん引ヒッチにあたって破損し、事故を起こすおそれがあります。**

けん引は、このトラクタ用に採用しているインプルメントのみにしてください。
他の物をけん引する場合は、必ず購入先にご相談ください。



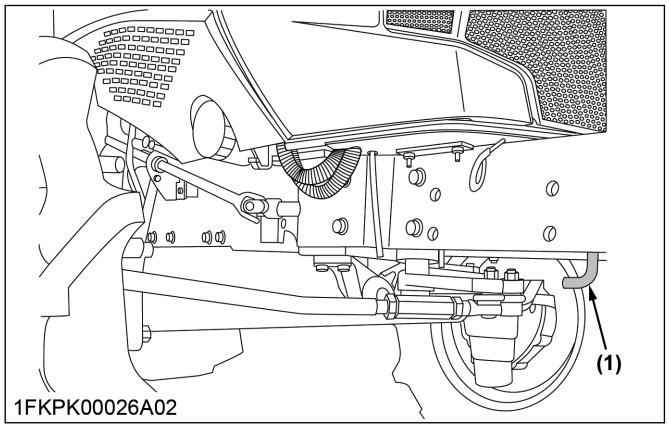
(1) けん引ヒッチ

1. けん引フック

補足：

- **けん引フックは、横方向へは絶対に引かないようにしてください。**

横に引っ張ると、外れやすくフレームが曲がるおそれがあります。



(1) けん引フック

PTO

1. あんしん PTO スイッチ

⚠ 警告

- **巻き込まれによる死傷事故を防ぐため、あんしん PTO スイッチが[入]のときは作業機に近づかないでください。**
- **アップオフ PTO モードは、ほ場作業以外のときは[切]にしてください。**
- **アップオフ PTO モードは、ロータリ、ハロー作業のみで使用してください。**
- **アップオフ PTO モードをロータリ、ハロー以外の作業に使うと作業機の破損、思わぬトラブル（ハーベスタの草わらつまり、バイブロサブソイラの地中でのロックなど）が起こるおそれがあるので使わないでください。**
- **あんしん PTO スイッチが[入]のときは、PTO 軸には触れないでください。レバー操作などで PTO 軸が回転し巻き込まれによる傷害事故を引き起こすおそれがあります。**
- **〝油圧レバー下げで回転〟のメッセージが表示されているときは、ポンパ含む作業機の昇降操作で PTO が回転します。周囲の確認をじゅうぶんに行って作業をしてください。**

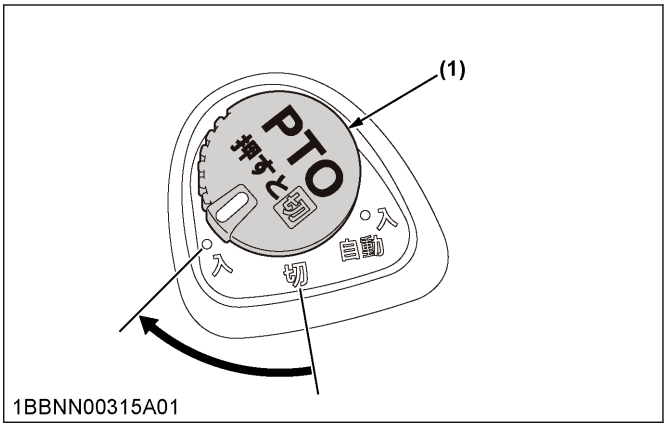
補足：

- **あんしん PTO スイッチが[切]の位置でないとエンジンは始動できません。**
- **走行クラッチを踏むと PTO は停止します。PTO を止めずに走行を停止したい場合は、クラッチを踏まずにシャトルレバーを操作してください。**

1.1 あんしん PTO スイッチの操作

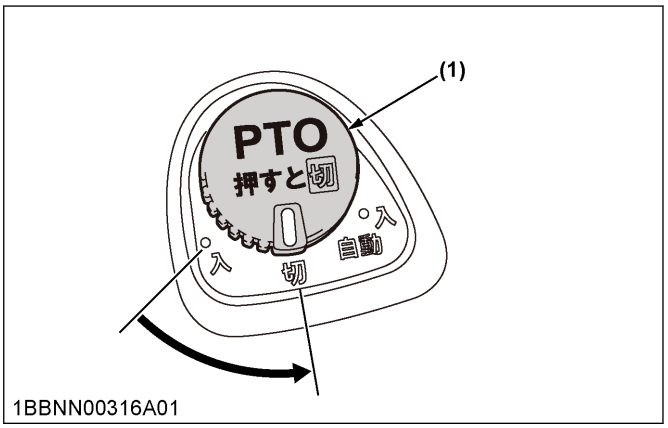
PTO – “入”

1. スイッチを押しながら**[入]**方向に回します。
   PTO が**[入]**になります。



(1) あんしん *PTO* スイッチ

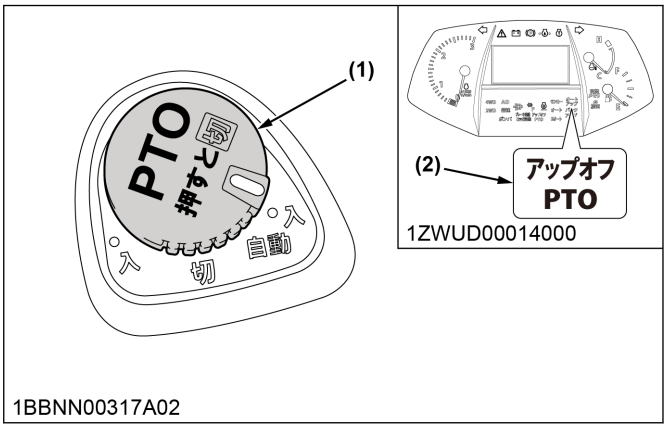
2. 再度スイッチを押します。
   [切]に戻ります。



(1) あんしん *PTO* スイッチ

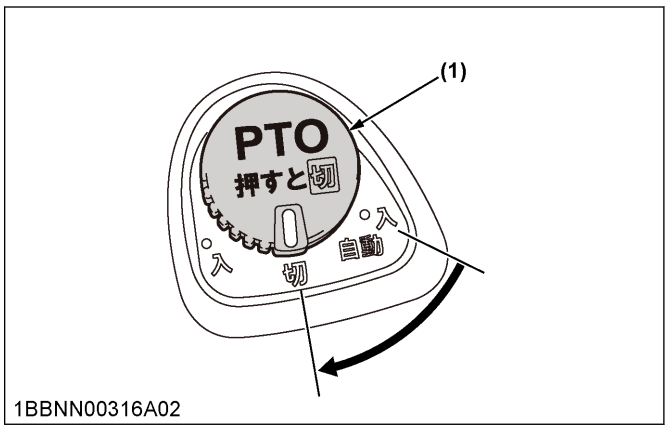
アップオフ PTO モード – “入”

1. スイッチを押しながら**[入 自動]**方向に回します。
   アップオフ PTO モードが“入”になり、メータのアップオフ PTO ランプが点灯します。

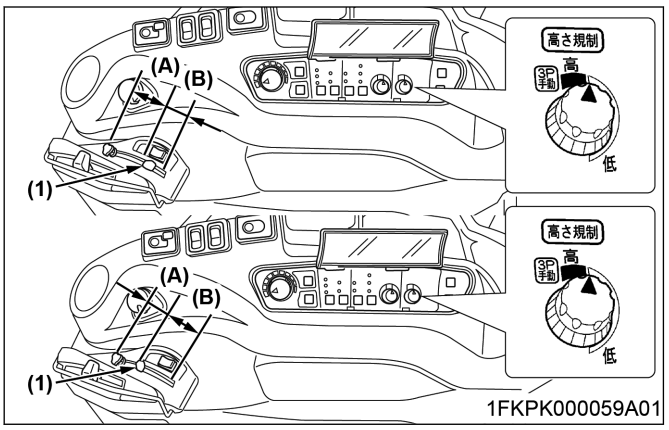


(1) あんしん *PTO* スイッチ *(2)* アップオフ *PTO* ランプ

2. 再度スイッチを押します。
   [切]に戻ります。



(1) あんしん *PTO* スイッチ



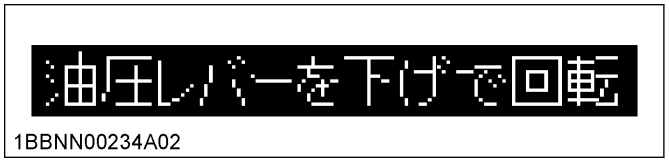
(1) 油圧レバー
(A) *PTO* 回転
(B) *PTO* 停止

1.2 アップオフ PTO モード

ポンパレバーまたは油圧レバーの“上げ”操作により PTO 回転が自動停止し、ロータリ、ハロー作業での旋回時における泥、ほこりの飛散、うっかりミスによる障害物の破損を軽減させることができます。
また、ポンパレバーまたは油圧レバーの“下げ”操作により PTO 回転が始まります。

電子メータメッセージ

- アップオフ PTO 機能により PTO 回転が停止している間は、次図のメッセージが表示されるとともに、ブザーが鳴り続けます。



- ポンパレバーまたは油圧レバー“下げ”操作により、PTO 回転が始まります。

補足：

- **油圧レバーの位置によってはポンパレバーによる PTO の停止、回転が行えない場合があります。**

重要：

- **アップオフ PTO モードが“入”で油圧ロックをしている場合、ポンパレバーまたは油圧レバーの“下げ”操作により作業機が下がらなくても、PTO は回転します。**
  （作業機落下速度の調整（101 ページ）を参照）
- **アップオフ PTO の動作タイミングは、高さ規制ダイヤルにより次のように変化します。**

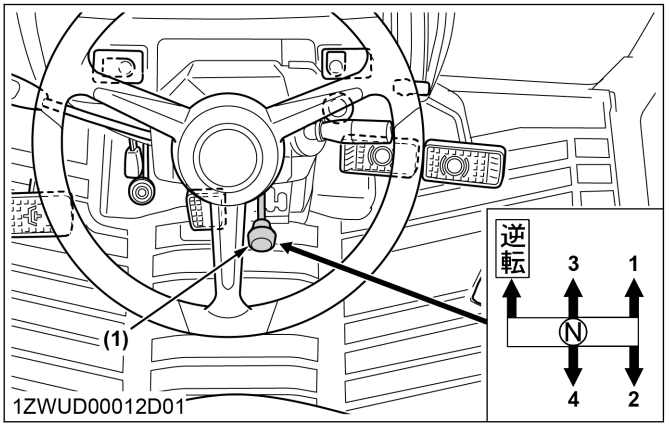
油圧レバーが図のように“*PTO* 回転”位置にあるときのみポンパレバーの“上げ”操作により PTO 回転が停止し、“下げ”操作により PTO 回転が始まります。
エンジン始動後、アップオフ PTO モードを“入”にしたときに PTO が回転するか停止するかは、エンジン始動時の 3 点リンクの高さで決まります。高さ規制ダイヤルを**[低]**にすると、PTO 回転が始まる油圧レバー高さも低くなります。

2. PTO 変速レバー

⚠ 警告

- **作業機に指定された PTO 回転速度を厳守してください。低速回転で使用すべき作業機を、高速回転で使用しないでください。**

PTO 軸（動力取出し軸）の回転速度は、正転 4 段、逆転 1 段に変速できます。
変速操作は、必ずクラッチペダルをいっぱい踏み込んでから行ってください。



(1) *PTO* 変速レバー

2.1 PTO 逆転の使用方法

- **使用できる作業機**
  – メーカ指定のロータリに限ります。

  重要：
  – メーカ指定以外のロータリ、インプルメントで使用すると、作業機の故障の原因になります。
- **使用できる作業**
  – 土寄せ作業
  – 草やわらなどの巻きつきをほぐすとき

  重要：
  – オートスイッチは“切”にして油圧（ポジションコントロール）レバーで作業してください。

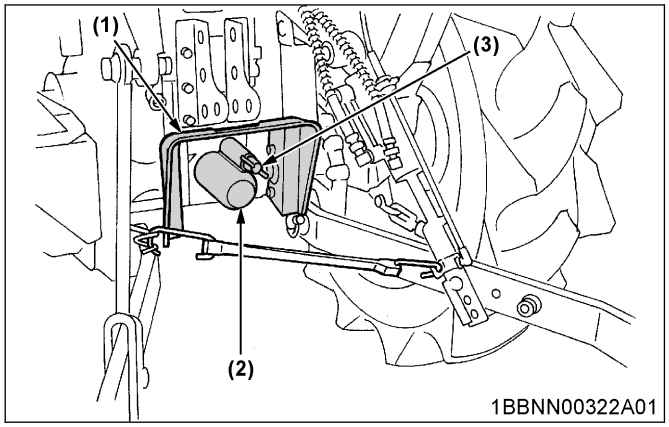
（オートスイッチ（109 ページ）を参照）

- **使用できない作業**
  - 未耕地での耕うん作業
  - ロータリの爪を逆に取り付けて行う耕うん作業

3. PTO 軸カバー、PTO 軸キャップ

⚠ 警告

- **PTO 軸を使わないときは、PTO 軸にグリースを塗布した後、PTO 軸キャップを取り付けておいてください。そうしないと、巻き込まれによる傷害事故を引き起こすおそれがあります。**
- **PTO 軸キャップを使用しないときは、PTO 軸キャップを紛失しないように大切に保管してください。**
- **PTO 軸カバーは常に取り付けておいてください。**
- **PTO 軸カバーの上に乗らないでください。**



(1) *PTO* 軸カバー
(2) *PTO* 軸キャップ
(3) 蝶ボルト

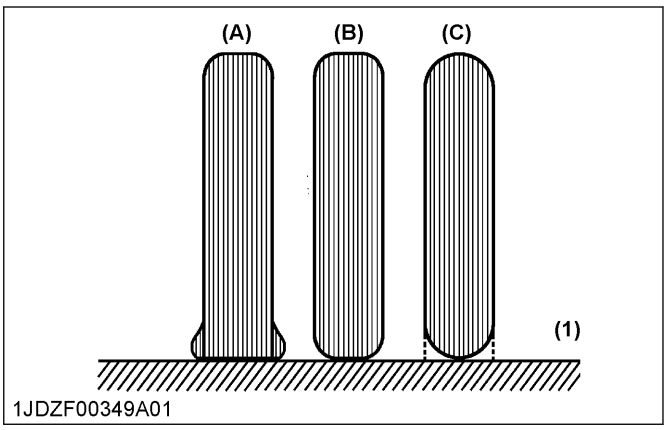
タイヤ

⚠ 警告

- **タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは、タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。**
- **タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。**
- **タイヤ、チューブ、リムなどの交換、修理は、必ず購入先にご相談ください。**
  特別教育を受けた人が行うように、法で決められています。

1. タイヤの空気圧

前輪、後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安は次のとおりです。



(1) 接地面

(A) 空気が不足
(B) 標準
(C) 空気が多い

1.1 標準空気圧

	空気圧(kPa (kgf/cm^2))
前輪	157 (1.6) [196 (2.0)]
後輪	98 (1.0)

[ ]内はフロントローダ装着時

輪距の調整

⚠ 警告

- **けん引作業、傾斜地作業、フロントローダ作業などの場合は、左右の安定を良くするため、支障の無い範囲で輪距を広くして使用してください。**

1. 前輪輪距

前輪の輪距は変更できません。

2. 後輪輪距の調整

リムとディスクの取付け位置変更により、輪距の調整が行えます。輪距はタイヤの仕様により異なります。

重要：

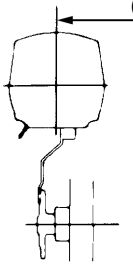
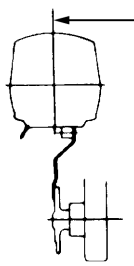
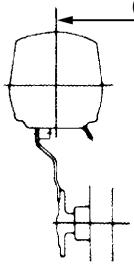
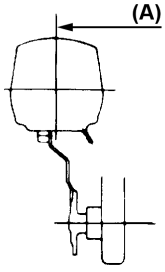
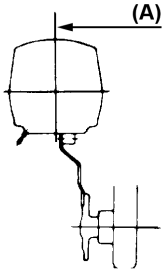
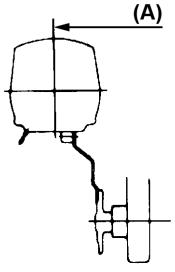
- **決められた輪距以外では使用しないでください。**

補足：

- **タイヤは、側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取り付けてください。**
- **ストレークは、最小輪距のときだけ取り付けられます。**
- **後輪ウエイトは、すべての輪距で取り付けられます。**

3. 後輪輪距

標準タイヤ

型式		 1FKPK00060A01 *(A)* 輪距	 1FKPK00102A01 *(A)* 輪距	 1FKPK00103A01 *(A)* 輪距	 1FKPK00104A01 *(A)* 輪距	 1FKPK00105A01 *(A)* 輪距	 1FKPK00106A01 *(A)* 輪距
GJE28 (H)	11.2-24	1050 mm*1	–	–	1165 mm	–	–
GJE35HKN	11.2-28	1105 mm*1	1205 mm	1235 mm	1335 mm	1400 mm	1495 mm
GJE35 (H)	13.6-24	1110 mm*1	–	–	1330 mm	–	–

N 仕様
幅狭タイヤ仕様

*1 出荷状態

補足：
- **輪距によりディスクの組換えも併せて行ってください。**

ウエイト（オプション）

⚠ 警告

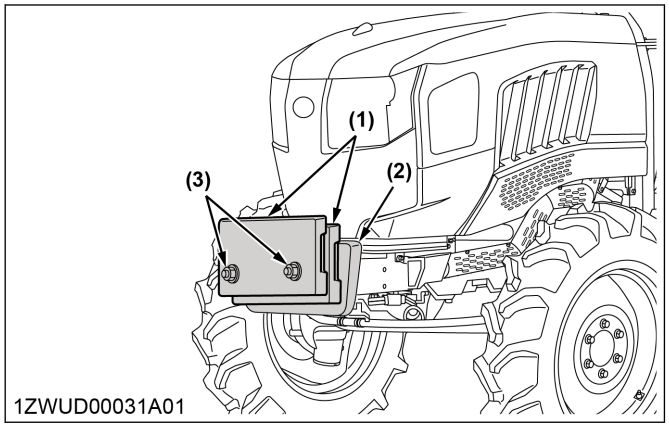
- **トラクタ後部用作業機を装備したとき、かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20%以上になるようにバランスウエイトを装備し、使用してください。**
- **装着可能な最大ウエイトを装備してもかじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20%以上を確保できない作業機は装着しないでください。前部が軽くなりすぎると、操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります。**
- **フロントローダを使用するときは、安定性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装着してください。詳細は購入先にご相談ください。**

1. 前部ウエイト（オプション）

ウエイトの必要枚数は使用するインプルメントの取扱説明書や購入先にご相談ください。

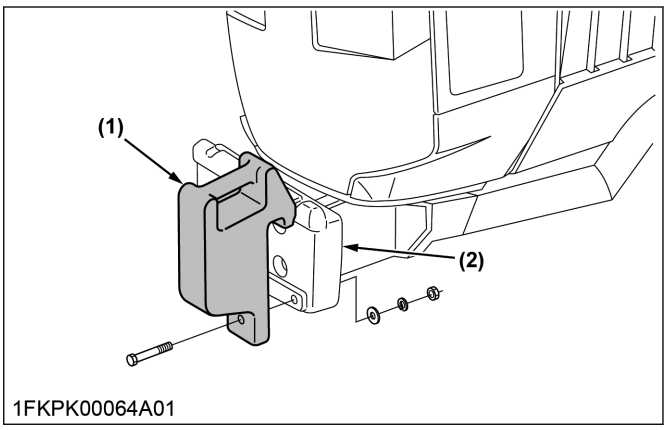
1.1 前部ウエイトの取付け方法

1. トラクタのフロントバンパに付属のボルト、ナットで固定します。
   - **［ホイール仕様］**
     ウエイト 1 枚の重量は 28 kg で 1 枚～3 枚取付けできます。



(1) 前部ウエイト
(2) フロントバンパ
(3) ボルト、ナット、座金

   - **［パワクロ仕様］**
     ウエイト 1 枚の重量は 25 kg で 1 枚～4 枚取付けできます。



(1) ハンガウエイト
(2) フロントバンパ

ハンガウエイト	99891-1100-1	ウエイト、キット

［ホイール仕様］にハンガウエイトを取り付けるには次の部品が必要です。

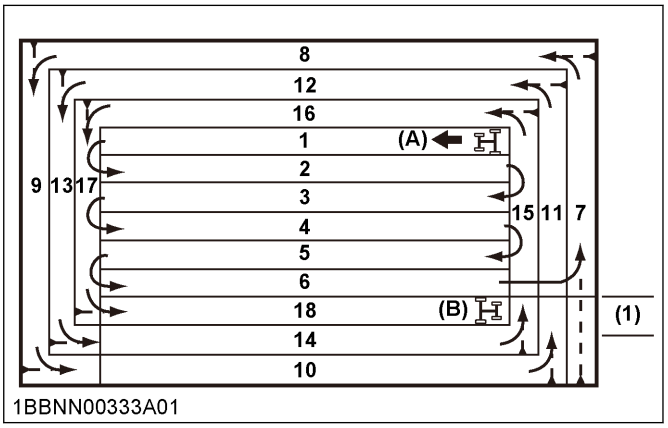
フロントバンパ(20)	95340000800
フロントバンパ取付け用ボルト×4 個	99580000210
フロントバンパ取付け用ナット×4 個	99660001670

一般的な耕うん要領

1. 隣接耕うんのしかた

作業条件により、車速および PTO 回転速度を決めて耕うんを始めます。

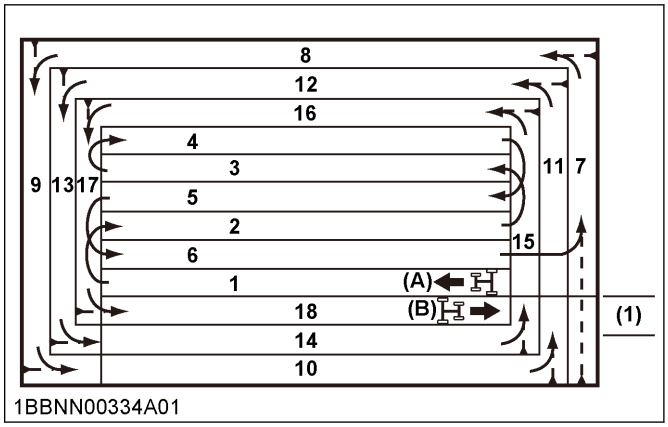
- 図の長方形部分 1 枚が、直進 1 回で耕うんされる耕作地を示しています。
- 図のような順序をとるのは、1 度耕うんしたところを後輪タイヤで押さえないための最善の方法です。
- 枕地耕うんの開始点“7”は、トラクタが最後に外に出る出入口場所によって決まります。
- 直進が終わって、次の直進に移るまでは、ロータリを上げて旋回します。
- サイドドライブロータリは、サイドフレーム側があぜぎわになるようにして、あぜぎわ耕うんを行います。



(1) 出入口
(A) 出発
(B) 終わり

2. ーうねおき耕うんのしかた

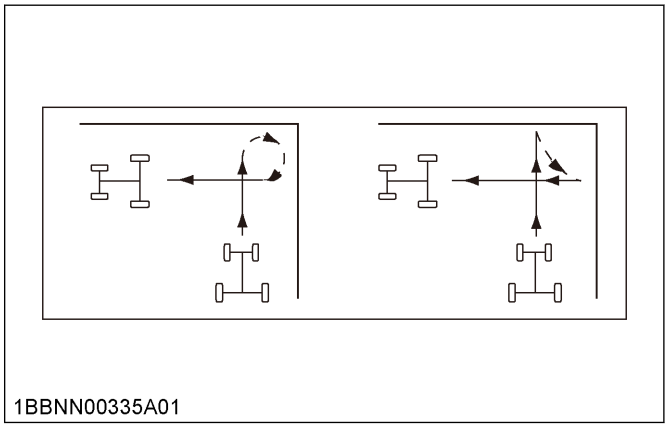
ーうねおき耕うんは、小回りの難しい場所に用いる方法で、そのほかは隣接耕うんと同じです。



(1) 出入口

(A) 出発
(B) 終わり

3. トラクタの方向転換のしかた



安全キャブ装備品の取扱い

ドア、窓の開閉とロック

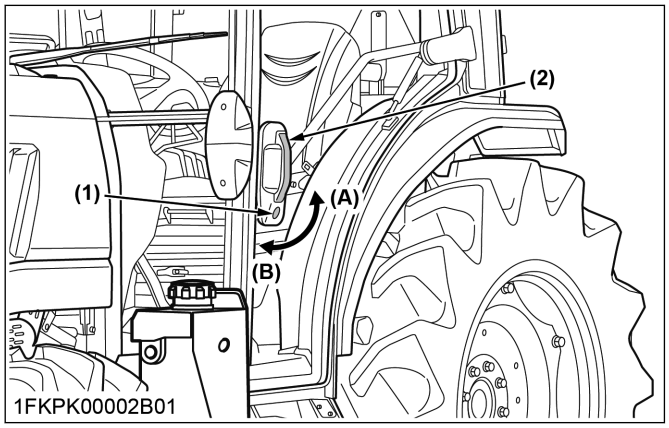
⚠ 警告
- **リヤウインド後方で作業機を着脱、調整する場合は、リヤウインドの開閉に注意してください。開放時頭などを打つおそれがあります。**
- **ガラスを破損させるおそれがありますので安全キャブ内には物を載せないでください。**
- **ガラスの取扱いはていねいに行ってください。**

1. ドア

1.1 ドアの開閉とロック

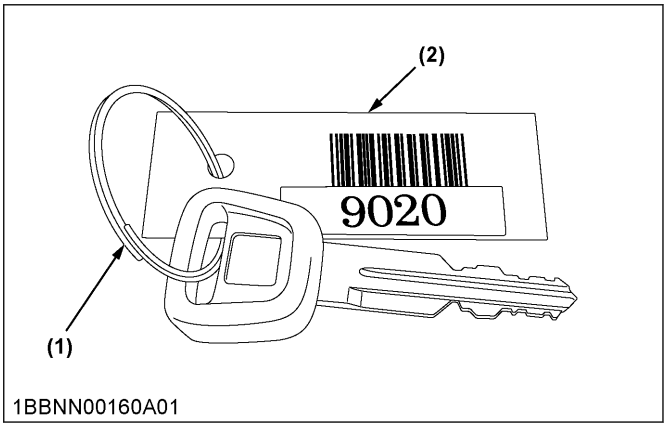
補足：
- **ドアにぶらさがったり、作動範囲以上に無理に押し開かないでください。**

車外から
1. キーを回すして“解錠”します。
   キーを回すと“施錠”または“解錠”されます。
2. ドアアウタハンドルを引き、開けます。



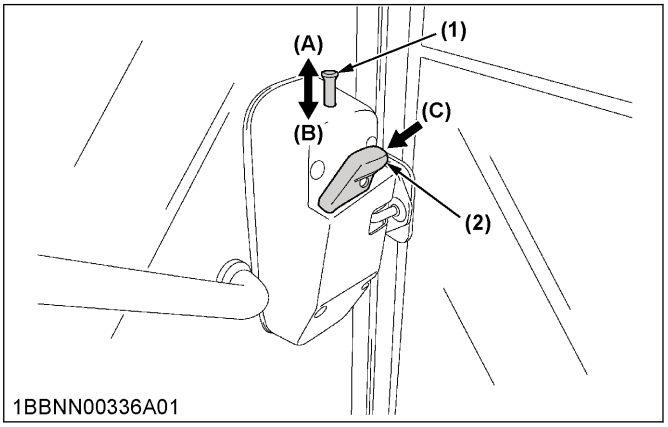
(1) ドアキー
(2) ドアアウタハンドル
(A) 施錠
(B) 解錠

重要：
- **キーリングに付属しているキーナンバー票は、キーを紛失した際必要となります。キーナンバーを裏表紙のおぼえに記入し控えておくか、キーナンバー票を大切に保管してください。**



(1) キーリング
(2) キーナンバー票

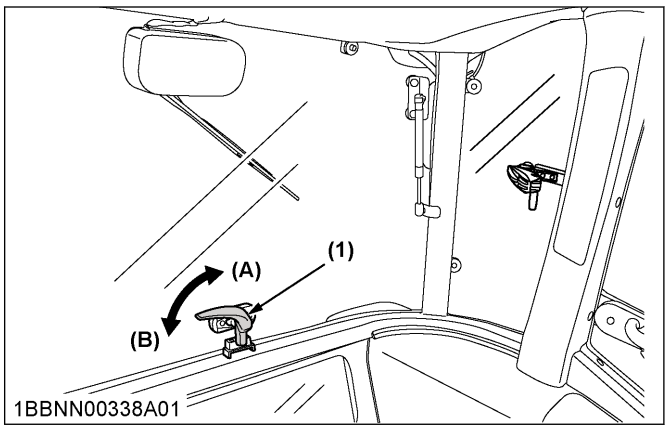
車内から
1. ロックノブを上げて“解錠”します。
   ロックノブを下げると“施錠”、上げると“解錠”されます。
2. インナハンドルを引き、開けます。



(1) ロックノブ
(2) インナハンドル
(A) 解錠
(B) 施錠
(C) 開く

2. リヤウインド

リヤウインドハンドルを時計方向に回し、そのまま押すと、ダンパの作用で容易に開くことができます。

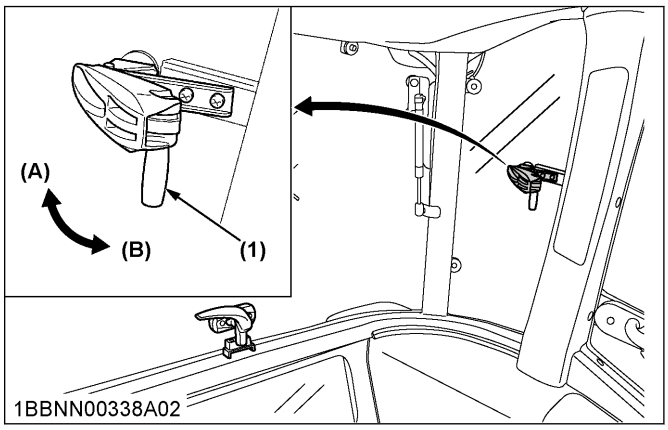


(1) リヤウインドハンドル　*(A)* 開　*(B)* 閉

重要：
- **作業機によってはリヤウインドの開閉ができない場合がありますので、開閉するときにはじゅうぶん確認して行ってください。**
- **リヤウインドを開放したままで、作業機を上げるとリヤウインドを破損するおそれがありますので、作業機を上げるときには安全をじゅうぶん確認してください。**
- **リヤウインドを開放したままで、高速走行や悪路走行をしないでください。**

3. クォータウインド

ハンドル部を矢印方向に回し、窓を開閉してください。



(1) ハンドル　*(A)* 開　*(B)* 閉

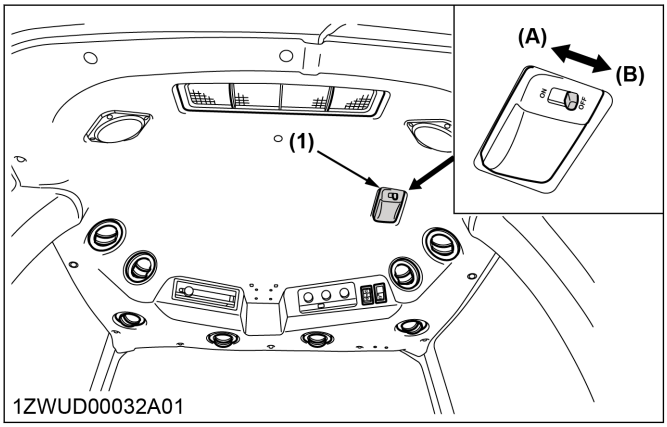
重要：
- **クォータウインドを開放したままで、悪路走行をしないでください。**

ルームランプ

ルームランプのスイッチを**[ON]**にすると点灯します。

[OFF]
ドアの開閉に関係無く、ランプは点灯しません。

[ON]
ドアの開閉に関係無く、ランプが点灯します。



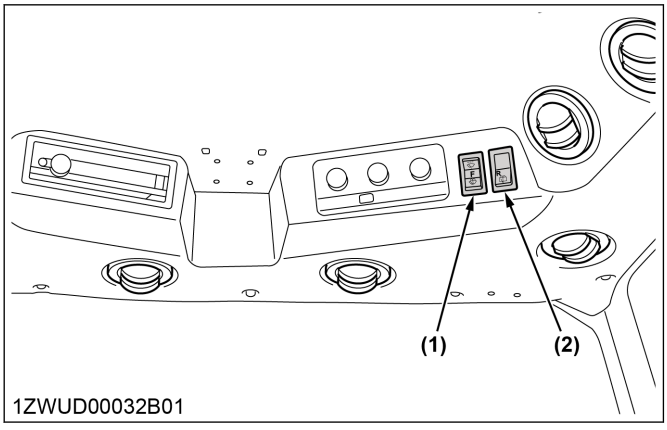
(1) ルームランプ　*(A)* ON　*(B)* OFF

重要：
- **バッテリあがりの原因になりますので、キースイッチ[切]のとき、ルームランプのスイッチが[OFF]の位置にあるか確認してください。**

ワイパ

1. フロント／リヤワイパ･ウォッシャスイッチ

重要：
- **から拭きはガラスを傷つけることがあります。必ずウォッシャ液を噴射してからワイパを作動させてください。**



(1) フロントワイパ・ウォッシャスイッチ　*(2)* リヤワイパ・ウォッシャスイッチ

フロントワイパ・ウォッシャスイッチ
- **スイッチの下側**
  1. 1 段押すとワイパが作動します。
  2. さらに 2 段目を押すと、押している間のみ、ワイパが作動したままウォッシャ液が噴射します。

- **スイッチの上側**
  1. 1 段押すと、間欠ワイパが作動します。少雨時に使用します。
  2. さらに 2 段目を押すと、押している間のみワイパが作動したまま、ウォッシャ液が噴射します。

リヤワイパ・ウォッシャスイッチ

- **スイッチの下側**
  1. 1 段押すとワイパが作動します。
  2. さらに 2 段目を押すと、押している間のみ、ワイパが作動したままウォッシャ液が噴射します。
- **スイッチの上側**
  押し込むと、ウォッシャ液が噴射します。

2. 寒冷時のワイパの使用

- 寒冷時には、ワイパブレードを立ててガラスとの氷着をさけてください。
- ガラスに雪が積もっているときには、雪を取り除いてからワイパを使用してください。
- ワイパブレードがガラスに氷着して作動しなかったときは、必ずキースイッチを**[切]**にしてブレード部の氷を取り除いてから再度起動させてください。
- 市販の寒冷地用ワイパブレードを使用する際は、標準装着品と同サイズか、それ以下のサイズの物を使用してください。

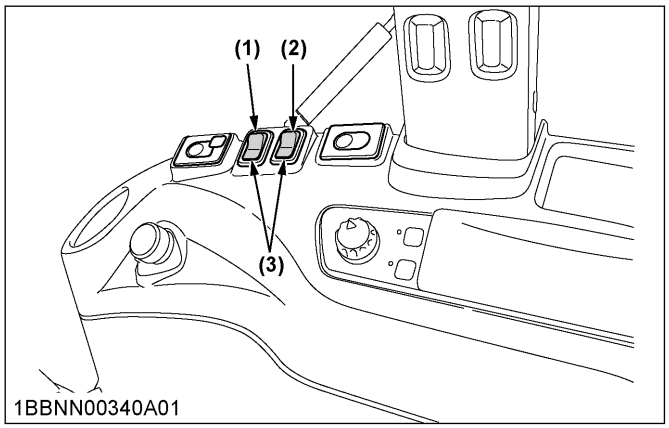
重要：

- **寒冷時には、ワイパブレードおよびワイパモータに過大な負担がかかることがあります。そのため、ワイパブレードおよびワイパモータの故障につながるおそれがあります。このような事をなくすため、これらの事を必ず守ってください。**

作業灯

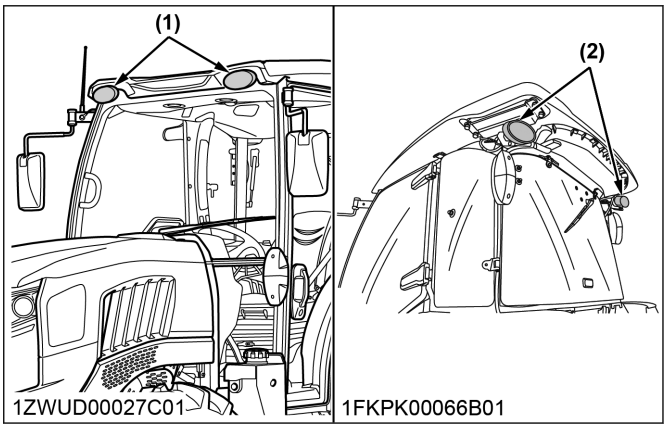
1. 作業灯スイッチ

作業灯スイッチの上側を押すと作業灯が点灯し、スイッチの下側を押すと消灯します。
またスイッチには、作業灯の点灯を示すインジケータランプが内蔵されています。



(1) 作業灯（前）スイッチ　　*(3)* インジケータランプ
(2) 作業灯（後）スイッチ

2. 作業灯（前、後）



(1) 作業灯（前）　　*(2)* 作業灯（後）

重要：

- **バッテリがあがりますので、ヒータ、作業灯、ヘッドライトなど電装品を使用する場合は、エンジン回転を 1800 rpm 以上にしてください。**

補足：

- **作業灯は［道路運送車両法の保安基準］第 42 条（灯火の色等の制限）において、“走行中に使用しない灯火”とされ、点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。**

その他のアクセサリ

1. サンバイザ（オプション）

直射日光などでまぶしいときに使用します。

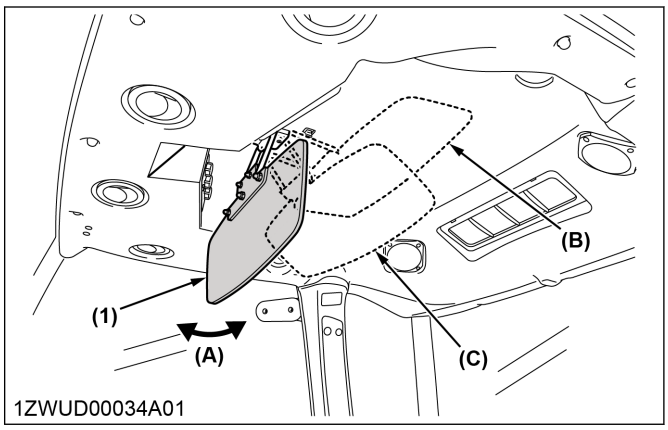
⚠ 注意

- **サンバイザを適切な位置で使用しないと、前方視界がさえぎられたり、頭に当たったりするおそれがあります。**
- **サンバイザと天井の間に物をはさまないでください。発進、停止時に物が落ちるおそれがあります。**

サンバイザは、収納位置より前へ押し下げて使用してください。
中間位置(C)では頭に当たるおそれがあるので使用しないでください。

補足：

- **サンバイザは部品購入することで装着可能です。詳しくは購入先にご相談ください。**



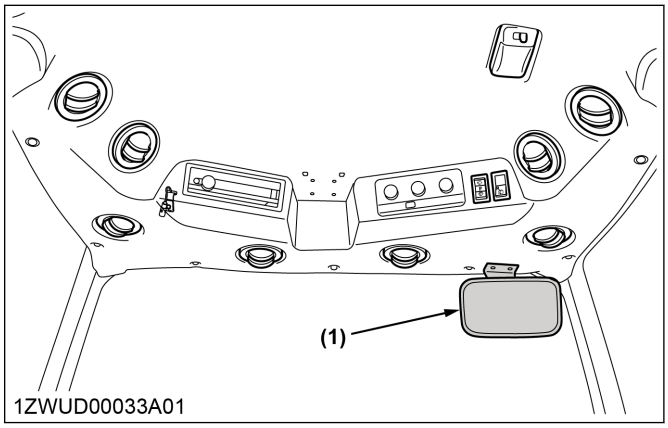
(1) サンバイザ
(A) 使用位置
(B) 収納位置
(C) 中間位置

2. ルームミラー（オプション）

ルームミラー全体を動かして、後方視界を確認しながら調節してください。
ルームミラーの調節は、必ずトラクタを運転する前に行い、走行中には行わないでください。

補足：

- **ルームミラーは部品購入することで装着可能です。詳しくは購入先にご相談ください。**



(1) ルームミラー

オートエアコン

このエアコンは、マイコン制御により風量調整、温度調整を自動的に行います。
コントロールパネルのファンスイッチを**[AUTO]**位置に回すだけの操作でオールシーズン車内を快適に保ちます。

1. フロンの取扱いの注意

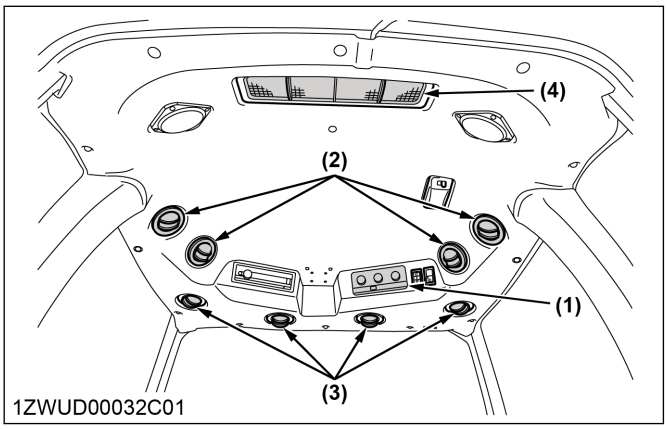
このエアコンは、フロン排出抑制法に定める第一種特定製品です。
地球環境を保護するため、次のことが法律で決められており、違反した場合は罰せられます。

- この製品に封入されている冷媒をみだりに大気中に放出してはいけません。
- この製品を廃棄、整備する場合にはフロン類の回収が必要となります。
  回収業者に依頼のうえ、回収済の証明をもらってください。
- フロン回収済の証明がなければ、廃棄物およびリサイクル業者による製品の引取りは禁止されています。
- 冷媒の種類および量

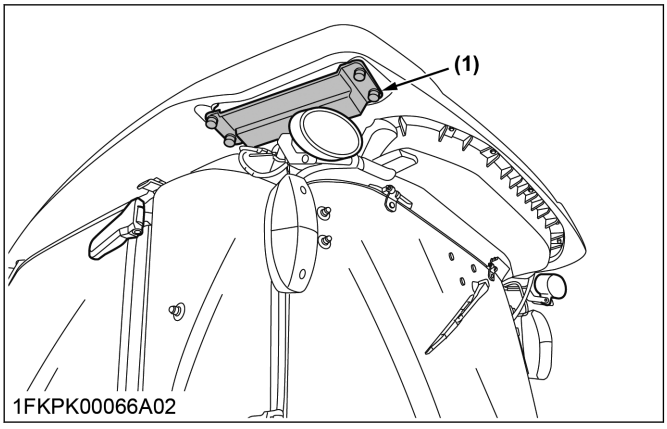
種類	冷媒番号	GWP 値	数量(kg)
HFC	R134a	1430	0.8

2. 空気の流れ

安全キャブ内の空気の流れは次図の通りです。
8 カ所の吹出口の調節により、最適のコンディションが得られます。



(1) コントロールパネル
(2) サイド吹出口
(3) フロント吹出口
(4) 内気循環導入口



(1) 外気導入口

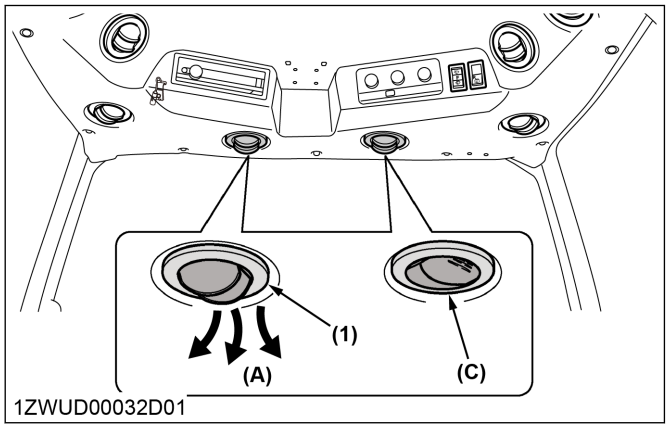
重要：

- **洗車時は外気導入口に、直接放水しないでください。**

3. 風向調整

3.1 フロント吹出口

- 風の方向は、吹出口により自由に調整できます。フロントガラスの曇りおよび凍結を除去するデフロスタとして使用する場合、吹出口をフロントガラスの方向に向けてください。
- サイド吹出口からの風量を増したいときは、“閉”にしてください。



(1) フロント吹出口

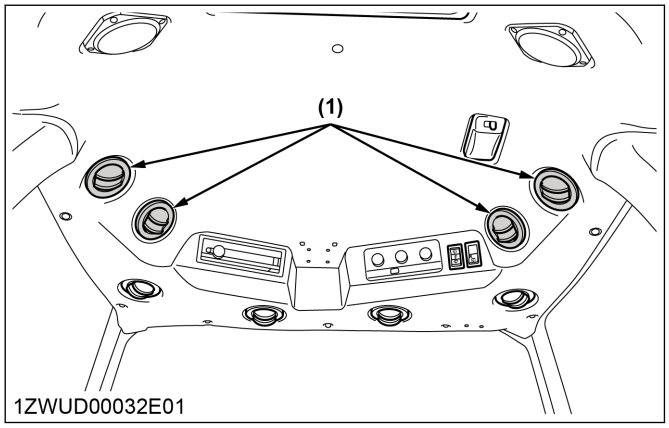
(A) 開
(B) 閉
(C) フロントガラス、足元方向

補足：

- **フロント吹出口からの冷風がメータパネルに当たると、メータパネルが曇ることがあります。そのときは、フロント吹出口の向きを変えて、メータパネルに冷風が当たらないようにしてください。**

3.2 サイド吹出口

風の方向は、吹出口により自由に調整できます。

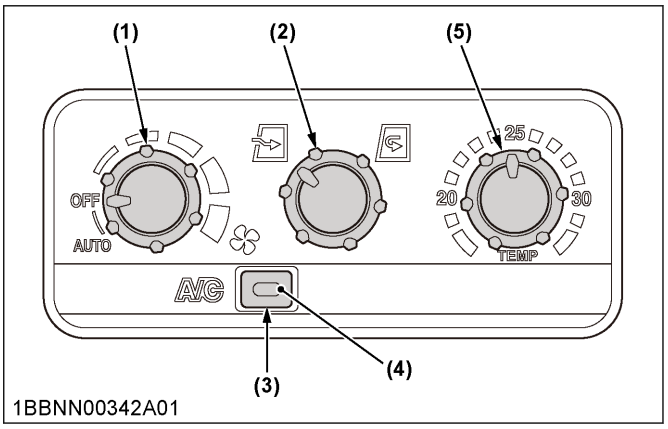


(1) サイド吹出口

重要：

- **ドアの曇り止めのため、ドアへの風量を増したいときは、サイド吹出口をドアガラスに向けてください。**

4. コントロールパネル



(1) ファンスイッチ
(2) 内外気切換えスイッチ
(3) エアコンスイッチ
(4) インジケータランプ
(5) 温度コントロールつまみ

4.1 内外気切換えスイッチ

外気導入



スイッチを“外気”位置にすると、安全キャブ室内に外気が入ってきます。
ほこりが多い作業やガラスが曇る場合に使用します。

内気循環



スイッチを“内気”位置にすると、外気は入りません。早く冷暖房をきかせたいときや強くきかせたいときに使用します。

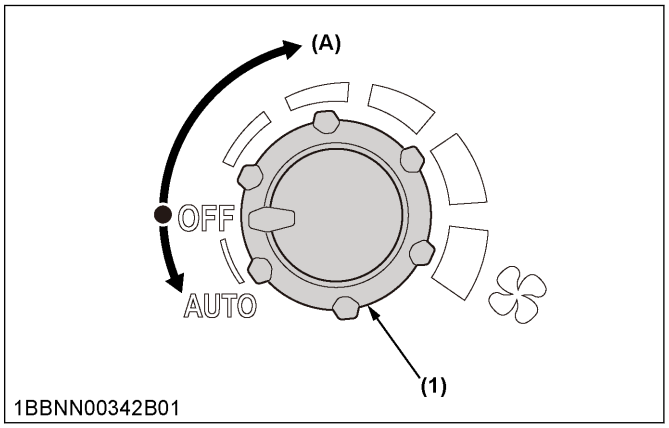
補足：

- **内気循環での長時間暖房は避けてください。ガラスが曇りやすくなります。**
- **ほこりが多発する作業では、外気導入で使用してください。外気を取り入れることにより室内の圧力が上昇し、安全キャブ室内にほこりが入りにくくなります。**

4.2 温度コントロールつまみ

温度を調節するためのつまみです。
好みの位置にセットして適宜調節します。
設定温度は 1 ℃刻みで調節できます。

4.3 ファンスイッチ



(1) ファンスイッチ　　*(A)* 風量切換

[AUTO]位置
オートエアコンが作動します。

“風量切換”位置
風量を 5 段階に調節できます。
右端は最も風量の多い位置です。

補足：
- **[AUTO]位置で暖房の際、エンジンが冷えているときは冷風が出るのを防ぐため、しばらくの間ファンが作動しないことがあります。**

4.4 エアコンスイッチ

エアコンを使うときは、このスイッチを押して“入”にします。
“入”のとき、インジケータランプが点灯します。

重要：
- **トラクタを 1 週間以上、長期放置後にエアコンを使うときは、エンジン回転をアイドリングにして A/C エアコンスイッチを“入”にし、1 分間運転してください。**
  エンジン回転が高いままで、A/C エアコンスイッチを“入”にするとコンプレッサが故障するおそれがあります。

4.5 暖房、冷房、除湿暖房

1. 内外気切換えスイッチを“外気”位置にします。早く冷暖房にしたいときは“内気”位置にします。
2. エアコンスイッチを押し“入”にします。
3. ファンスイッチを**[AUTO]**位置にします。
4. 温度コントロールつまみを調節し、快適な温度にします。

4.6 デフロスト

フロントガラスの曇りおよび凍結除去をするときは、本項の手順を行ってください。
1. フロント吹出口を開き、フロントガラスの方向に向けます。
2. 必要に応じサイド吹出口を閉じます。
3. 内外気切換えスイッチを“外気”位置にします。
4. ファンスイッチを“右端”、温度コントロールつまみを“右端”にします。

5. ヒータ使用上の注意

⚠ 警告
- **ウォータホースおよびヒータユニットに直接触れないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。**
- **異常を認めたとき、修理をおこたるとヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。**

- 冬期は外気温に適した濃度の不凍液を使用してください。
  また、有効期限の切れた不凍液を使用しないでください。
- 冬期において不凍液を使用しない場合は、運転終了時トラクタ本体から冷却水を排水してください。
  （冷却水の交換（160 ページ）を参照）
- ウォータホースは 2 シーズンごとに交換を受けてください。
- **日常点検**
  次のような異常を認めたときは速やかに修理を受けてください。
  ヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。
  - ウォータホースの傷付き、ひびわれ、ふくらみ
  - ウォータホースジョイント部の水漏れ
  - ウォータホースの保護ブッシュおよびグロメットの外れ、破損
  - 本体取付けボルトの緩み、ブラケットの破損

オーディオ機器の取扱いについて

別冊の『取扱説明書』をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
また、パイオニア（株）のホームページから取扱説明書を PDF ファイルでダウンロードしてご覧いただけます。

⚠ 警告
- **安全のため、運転中はオーディオ操作をしないでください。**
- **安全のため、運転中は車外の音が聞こえる音量にしてください。**

重要：
- **オーディオ機器を本機から取り外したり、分解、改造したりすると保証の対象外となりますのでご注意ください。**

補足：
- **オーディオ機器の付属品については、別冊の『取扱説明書』に記載している内容とは異なる場合があります。**

1. オーディオ機器のお問合せについて

- オーディオ機器の修理故障に関しては、本機をお買上げいただいた購入先にご相談ください。
- また、オーディオ機器の取扱いに関するお問合せは、メーカ窓口でもご相談いただけます。

パイオニア（株）カスタマーサポートセンター

固定電話から	0120-944-111 無料
携帯電話、PHS から	0570-037-600 ナビダイヤル、有料
	ナビダイヤルがご利用いただけない場合 050-3820-7540 IP 電話、有料
ファックス	0570-037-602 ナビダイヤル、有料

電話受付時間

月曜～金曜	9:30～18:00
土曜	9:30～12:00 13:00～17:00
日曜、祝日、パイオニア（株）休業日	休業

2. オーディオ機器の電源が入らないときの対処

本機のヒューズボックスの中に、オーディオ(ACC)用ヒューズがあります。このヒューズが切れていないか確認してください：
- 切れている場合はヒューズを交換してください。
- 本機のヒューズは切れていないが、オーディオ機器の電源が入らない場合、本機をお買上げいただいた購入先にご相談ください。

3. 本機で利用できないオーディオ機器の機能について

本機の仕様上、別冊の『取扱説明書』に記載している機能の一部にはご利用いただけない機能がありますので、あらかじめご了承ください。

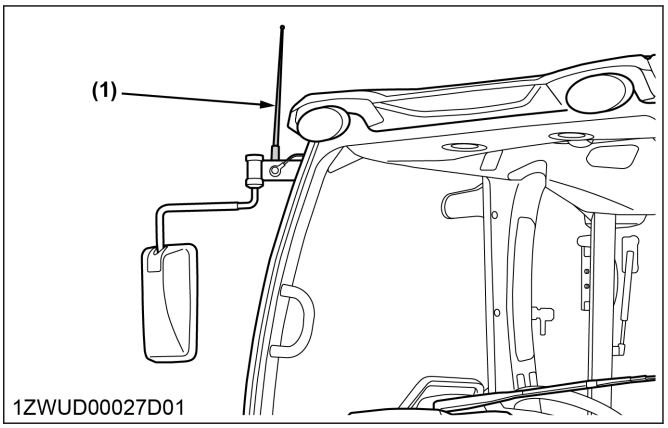
ご利用いただけない機能例
- 前後スピーカーの音量バランス調整
- ステアリングリモコンの設定

など

その他、ご不明点がありましたら、本機をお買上げいただいた購入先もしくは、メーカ窓口へご相談ください。

4. アンテナ

重要：
- **アンテナは角度調節ができませんので動かさないでください。**



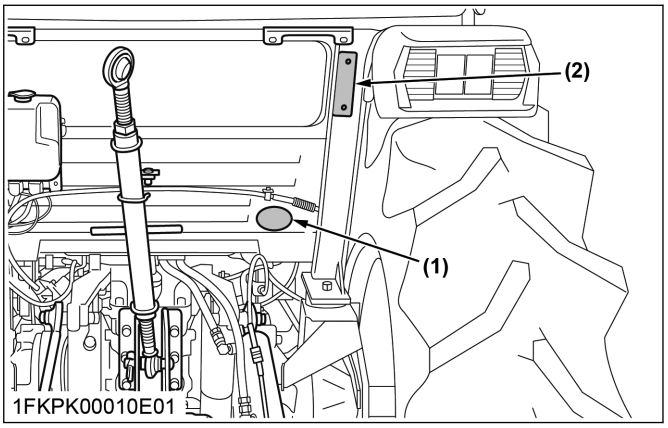
(1) アンテナ

作業機の装着

1. 作業機用操作ボックスの取付け

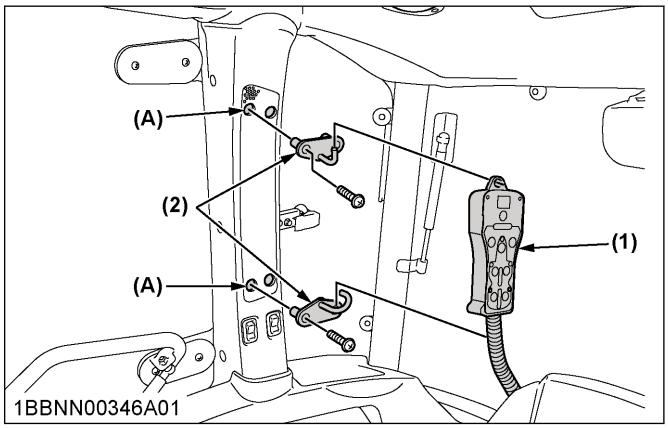
⚠ 注意
- **コントローラを装着しない場合は、掛け金具を外してください。**

1. ゴムキャップに穴または切り込みを開けます。
2. そこから作業機用操作コードなどを安全キャブ室内に導入します。



(1) ゴムキャップ　*(2)* 外部取出し油圧バルブ取付け位置

3. (A) 部に操作ボックスなどを取り付ける場合は、樹脂キャップを取り外して、掛け金具を取り付けます。作業機のコントローラなどを装着することができます。



(1) コントローラ
(2) 掛け金具
(A) 取付け位置

トラクタの簡単な手入れと処置

トラクタの手入れ、処置時の注意

⚠ 警告

給油および点検整備するときは、次の手順に従って行ってください。
そうしないと死傷事故を引き起こすおそれがあります。

1. **トラクタを平たんな広い場所に置きます。**
2. **作業機を降ろします。**
3. **駐車ブレーキを掛けます。**
4. **エンジンを止めます。**
5. **キーを抜き、安全を確認してから給油および点検整備を行います。**

廃棄物の処理について

⚠ 警告

廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは、次の事項を守ってください。

- **機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。**
- **地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。**
- **廃油、燃料、冷却水（不凍液）、尿素水(AdBlue)、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先、または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。**

洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり、機械を破損、損傷、故障させることがありますので、高圧洗車機の取扱説明書、ラベルに従って、正しく使用してください。

⚠ 注意

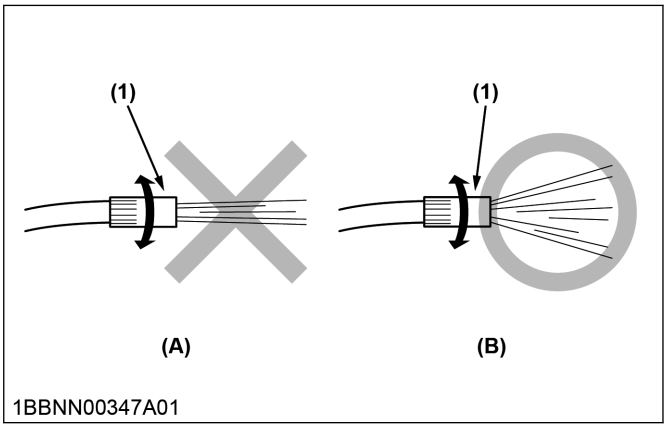
洗浄ノズルを拡散にし、2 m 以上離して洗車してください。
もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、次のような問題を引き起こすおそれがあります。

- **電気配線部被覆の損傷、断線により、火災を引き起こすおそれがあります。**
- **油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。**

重要：

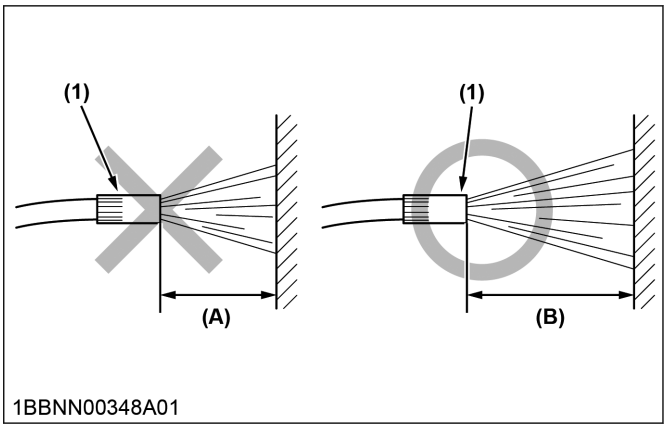
- **洗車のしかたが不適切な場合、次のような機械の破損、損傷、故障の原因になります。**
  - **シール、ラベルの剥がれ**
  - **電子部品、エンジン、トランスミッション室内、安全キャブ室内などへの浸入による故障**
  - **クローラ、タイヤ、オイルシールなどのゴム類、化粧カバーなどの樹脂部品、ガラスなどの破損**
  - **塗装、メッキ面の皮膜剥がれ**

直射洗車厳禁



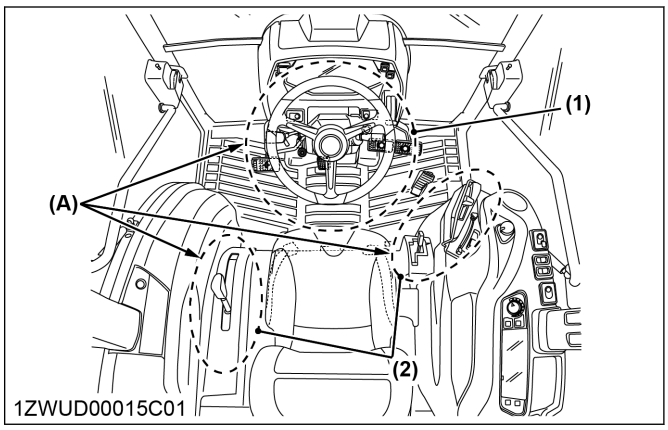
(1) 洗浄ノズル
(A) 直射
(B) 拡散

近距離洗車厳禁



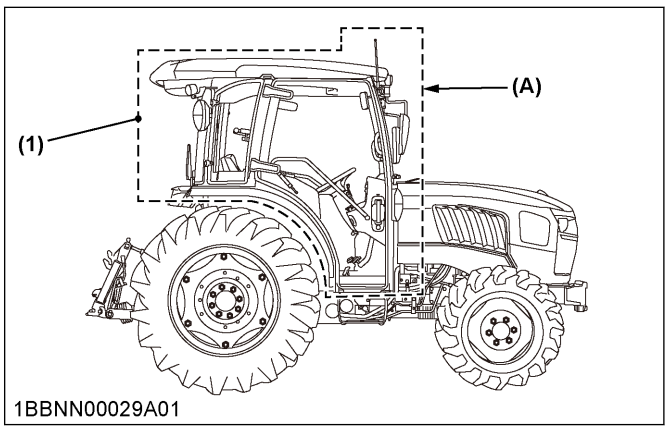
(1) 洗浄ノズル
(A) *2 m* 未満
(B) *2 m* 以上

- **高圧洗車機などによる洗車の際には、メータパネル、ステアリングポスト周り、ポンパレバー、ホーンボタン周り、バッテリ、エンジン周りの電気配線、電装品および電子油圧操作部には、圧力水をかけないでください。電気部品の故障の原因になります。**



(1) メータパネル、ポンパレバー、ホーンボタン周り
(2) ステアリングポスト周り
(A) 高圧洗車禁止

- **安全キャブのガラス部、ルーフ部の洗車の際には、圧力水をかけないでください。圧力を下げるか水流を広げてください。**
  安全キャブ室内の水漏れ、電気部品の故障の原因になります。



(1) 安全キャブ
(A) 高圧洗車禁止

補足：

- **市販のワックスを樹脂部品に使用すると樹脂の変形、割れ、曇りが発生する場合があります。特に電子メータなどの透明樹脂部にはワックスを使用しないでください。**

定期点検箇所一覧表

重要：

- **◎はならし運転の 50 時間後または 100 時間後に必ず行ってください。**
- **バッテリ電解液は年間使用時間が 100 時間以内の場合、1 年ごとに点検を行ってください。**

次の定期点検箇所に従って、定期点検を実施しましょう。

No.	時期		アワーメータ表示時間														それ以降	参照ページ
	項目		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
1	エンジンオイル	交換	◎				○				○				○		200 時間ごと	150
2	エンジンオイルフィルタ	交換	◎				○				○				○		200 時間ごと	151
3	トランスミッションオイルフィルタ	交換	◎				○				○				○		200 時間ごと	153
4	ミッションオイル	交換	◎								○						400 時間ごと	156
5	前車軸ケースオイル	交換						○						○			300 時間ごと	156
6	グリースの注入	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	145
7	エンジン始動システム	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	145
8	タイヤ取付けボルト	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	146
9	クラッチハウジング	排水	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	146
10	パワーステアリングホース	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	146
		交換															2 年ごと	161
11	燃料ホース	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	147
		交換															2 年ごと	161
12	クラッチペダル	調整	◎		○		○		○		○		○		○		100 時間ごと	150
13	ファンベルト	調整		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	149
14	ブレーキペダル	調整		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	149
15	エキゾーストパイプおよびマフラの状態	点検		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	150
16	バッテリ電解液	点検		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	147
17	エアクリーナエレメント	清掃		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	149
		交換															1 年ごと	160
18	ステアリングジョイント部	点検				○				○				○			200 時間ごと	153
19	ラジエータホース	点検				○				○				○			200 時間ごと	152
		交換															2 年ごと	161
20	オイルクーラホース	点検				○				○				○			200 時間ごと	152
		交換															2 年ごと	162
21	吸気ホース	点検				○				○				○			200 時間ごと	152
		交換															2 年ごと	161
22	トーイン、タイロッド	点検				○				○				○			200 時間ごと	154
23	燃料フィルタカートリッジ	交換								○							400 時間ごと	157
24	ウォータセパレータ	清掃								○							400 時間ごと	158
25	前部デフケース前後遊び	調整												○			600 時間ごと	158
26	エンジンバルブクリアランス	点検															800 時間ごと	159
27	燃料インジェクタ	点検															1500 時間ごと	159
28	オイルセパレータエレメント	交換															1500 時間ごと	159

（次へ続く）

No.	時期		アワーメータ表示時間														それ以降	参照ページ
	項目		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
29	EGR クーラー	点検 清掃															1500 時間ごと	159
30	サプライポンプ	点検															3000 時間ごと	159
31	EGR システム	点検 清掃															3000 時間ごと	159
32	DPF マフラ	清掃															3000 時間ごと	159
33	エキゾーストマニフォールド	点検															1 年ごと	160
34	DPF 差圧センサパイプ	点検															1 年ごと	160
35	EGR パイプ	点検															1 年ごと	160
36	ラジエータ（クーリングシステム）	洗浄															2 年ごと	161
37	冷却水	交換															2 年ごと	160
38	メインシリンダホース	交換															2 年ごと	162
39	モンローシリンダホース	交換															2 年ごと	162
40	オイルセパレータホース	点検				○				○				○			200 時間ごと	152
		交換															2 年ごと	162
41	DPF 差圧センサホース	交換															2 年ごと	162
42	燃料の空気抜き	–															必要に応じて	162
43	ヒューズ類	交換															必要に応じて	162、162
44	ランプ類	交換															必要に応じて	163、163
45	ホーン接点のグリース塗布	–															必要に応じて	163

- 専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、購入先にご相談ください。

［安全キャブ仕様］

No.	時期		アワーメータ表示時間														それ以降	参照ページ
	項目		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
1	内気フィルタ	清掃				○				○				○			200 時間ごと	154
2	外気フィルタ	清掃				○				○				○			200 時間ごと	155
3	エアコンコンデンサ	清掃				○				○				○			200 時間ごと	155
4	エアコンベルト	調整				○				○				○			200 時間ごと	156
5	エアコンの簡易点検	点検															3 か月ごと	159
6	ヒータ配管、ホース	点検															1 年ごと	160
7	エアコン配管、ホース	点検															1 年ごと	160
8	ウォッシャ液	補充															必要に応じて	164
9	ドアヒンジ部、リヤウインドヒンジ部への注油	–															必要に応じて	163
10	冷媒（ガス）量	点検															必要に応じて	164

- 専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、購入先にご相談ください。

[パワクロ仕様]

No.	時期		アワーメータ表示時間														それ以降	参照ページ
	項目		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
1	揺動軸部のグリース注入	–	30 時間ごと															143
2	転輪、遊輪のグリース注入	–	30 時間ごと															143
3	クローラガイド	点検	◎			○				○				○			200 時間ごと	156
4	転輪、遊輪	点検	◎			○				○				○			200 時間ごと	156
5	スプロケット	点検	◎			○				○				○			200 時間ごと	156
6	ゴムクローラ	点検	◎			○				○				○			200 時間ごと	156

- 日常点検と併せて、3～6 項目について表中の時間でディーラ点検をお願いします。必要に応じて部品交換をお願いします。
- 専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、購入先にご相談ください。

給油、給水一覧表

1. トラクタの給油、給水一覧表

No.	給油、給水項目			容量(L)	備考
1	燃料	**［GJE28］**		36	超低硫黄ディーゼル軽油（サルファーフリー軽油）
		［GJE35］		40	
2	冷却水	ラジエータ	**［安全フレーム仕様］**	6.3	清水 不凍液を入れた場合は、その量だけ少なく清水を入れてください。
			［安全キャブ仕様］	7.2	
		リザーブタンク		1.0	
3	エンジンオイル			4.5〔5.7〕	指定オイル （詳細は、エンジンオイル、ミッションオイル一覧表（134 ページ）を参照）
4	ミッションオイル（油圧オイル）	**［ホイール仕様］**		30〔32〕	指定オイル スーパー UDT-2
		［パワクロ仕様］		27〔42〕	
5	前車軸ケースオイル			3.9〔5.5〕	
6	各操作レバー、ペダル支点			注油	
7	3 点リンク			注入、塗布	極圧（万能）グリース
8	バッテリーターミナル			塗布	
9	油圧シリンダ			注入	
10	ウォッシャ液	**［安全キャブ仕様］**		2	自動車用ウォッシャ液

〔 〕内は分解、修理した場合の給油量です。

［パワクロ仕様］
次表以外の給油、給水は、同じエンジン出力の**［ホイール仕様機種］**と同じです。

No.	給油項目	容量(L)	備考
1	転輪	注入	極圧（万能）グリース
2	前遊輪		
3	後遊輪		

推奨オイル、グリース一覧表

必ず指定オイルを使ってください。

1. エンジンオイル、ミッションオイル一覧表

型式名	エンジンオイル	ミッションオイル、前車軸ケースオイル、各操作レバー支点
GJE28、GJE35 (H)	指定オイル（DPF 搭載機専用ディーゼルエンジンオイル）D10W-30 DH-2	指定オイル スーパー UDT-2

重要：

- **エンジンオイルについて**
  DPF 搭載のディーゼルエンジンには、指定ディーゼルエンジンオイル D10W-30 DH-2 を必ず使用してください。他のオイルを使用するとオイルに含まれる金属系添加剤の燃え残り（灰分）が DPF に堆積してフィルタの詰まりが助長され、DPF が機能しなくなるまでの時間が極端に早まります。

2. グリース一覧表

極圧（万能）グリース	推奨グリース No.2 **重要：** • **入手できない場合は、次表のメーカ製品、または JCMAS GK 規格品をご使用ください。**
ホーン接点用グリース	協同油脂マルテンプ PS2

メーカ	製品
JX 日鉱日石エネルギー	エピノックグリース AP2、リゾニックス EP2
コスモ石油ルブリカンツ	ダイナマックス No.2
出光興産	ダフニーエポネックス SR2

ボンネットの開閉およびサイドカバーの取外し

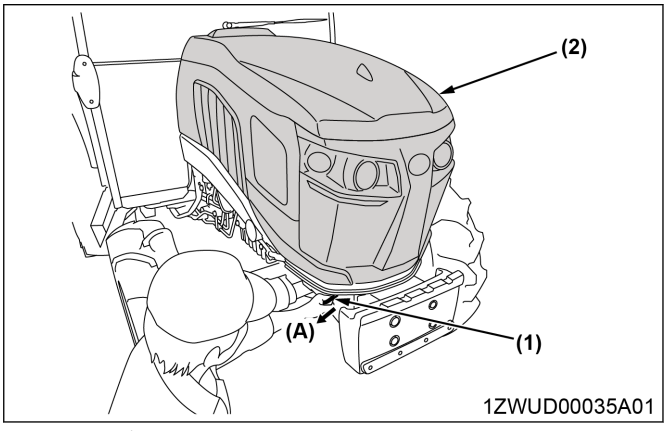
⚠ 警告

- **エンジン回転中は絶対にボンネットを開けないでください。**
- **マフラが熱いときは触らないでください。ヤケドすることがあります。**

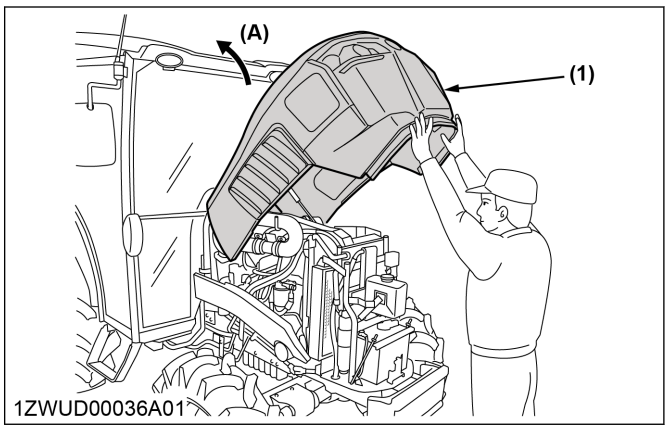
1. ボンネットの開閉

1.1 ボンネットを開ける方法

1. ロック解除レバーを引きロックを解除します。
2. 両手でボンネットを持ち上げます。



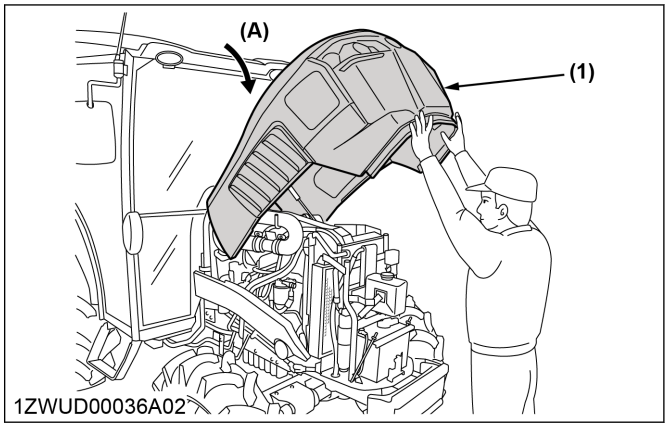
(1) 解除レバー
(2) ボンネット
(A) 引く



(1) ボンネット *(A)* 上げる

1.2 ボンネットを閉める方法

1. ボンネットを閉め、両手でボンネットを上から押え、ロックします。
2. ボンネットを持ち上げロックされているか確認します。

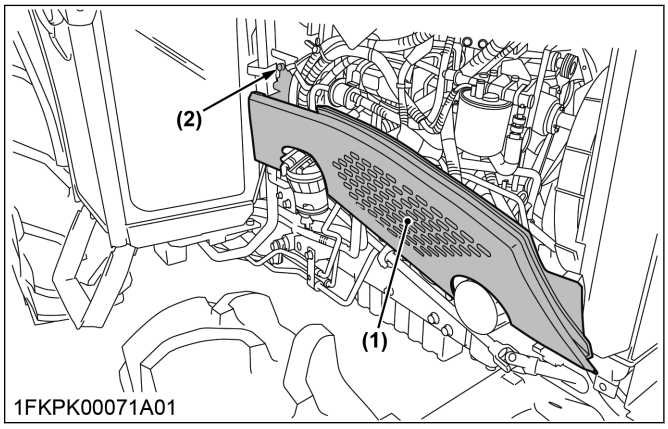


(1) ボンネット *(A)* 下げる

2. サイドカバーの取外し

2.1 右サイドカバーの取外し

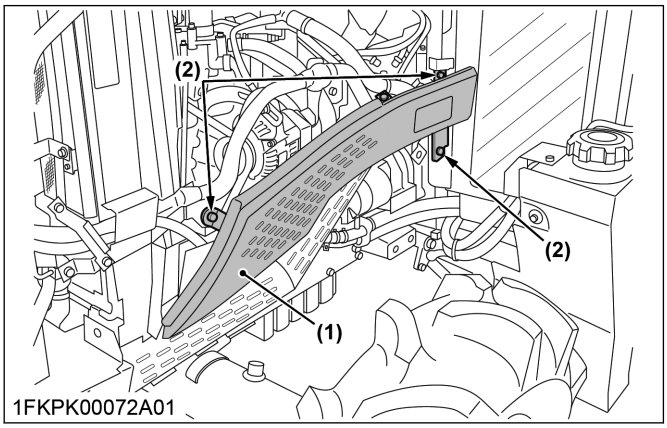
1. 図で示す蝶ボルトをゆるめてカバーを取り外します。



(1) サイドカバー *(2)* 蝶ボルト

2.2 左サイドカバーの取外し

1. 図で示すボルトをゆるめてカバーを取り外します。



(1) サイドカバー *(2)* ボルト

日常点検

警告

- **火気厳禁。**
- **点検をするときは、必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行ってください。**
- **燃料、オイルがこぼれた場合は、きれいに拭き取ってください。**
- **トラクタは常に清掃しておいてください。バッテリ、配線、マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着などがあると、火災の原因になります。**
- **運転中および停止直後は、ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをすることがあります。**
- **エンジン周囲のカバー類を開けて点検、整備するときは、内部がじゅうぶんに冷え、ヤケドのおそれが無いことを確認してから行ってください。**

1. 前日の異常箇所の点検

1. 前日の作業中に異常を感じたところがあれば、使用前に支障が無いか点検します。

2. トラクタの周囲の点検

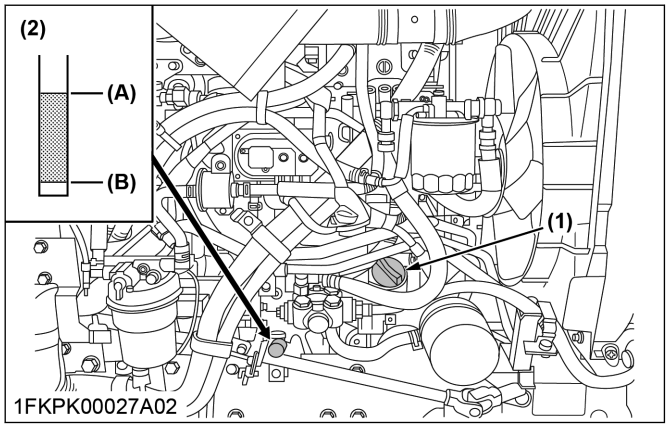
1. トラクタの周りを歩いて、次の異常などが無いか点検します。
   - ボルトやナットのゆるみおよび作業機取付けピンの脱落
   - 車体各部の変形や損傷
   - 油漏れや水漏れ

3. エンジンオイルの量および汚れの点検

⚠ 警告
- **点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。**

重要：
- **点検するときは、トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。**
- **オイル量はエンジン始動前か、エンジンを止めてから約 5 分以上たってから点検してください。そうでないと、オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。**

1. オイルゲージを抜いて先端をきれいに拭き、差し込んでから再び抜き“下限と上限の間”にオイルがあるかを調べます。
2. “下限”以下の場合は補給します。
   ただし、“上限”以上には入れないでください。エンジンオイルの入れすぎは出力不足につながります。

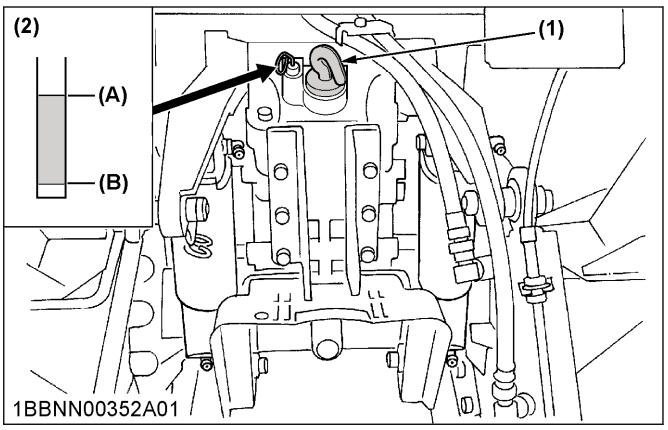


(1) 給油口
(2) オイルゲージ
(A) 上限
(B) 下限

4. ミッションオイルの量および汚れの点検

⚠ 警告
- **点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。**

1. オイルゲージを抜いて先端をきれいに拭き、差し込んでから再び抜き“下限と上限の間”にオイルがあるかを調べます。
   作業機（ロータリ）付きの場合は、作業機（ロータリ）を下げて確認してください。
2. “下限”以下の場合は補給します。
   ただし、“上限”以上には入れないでください。



(1) 給油口
(2) オイルゲージ
(A) 上限
(B) 下限

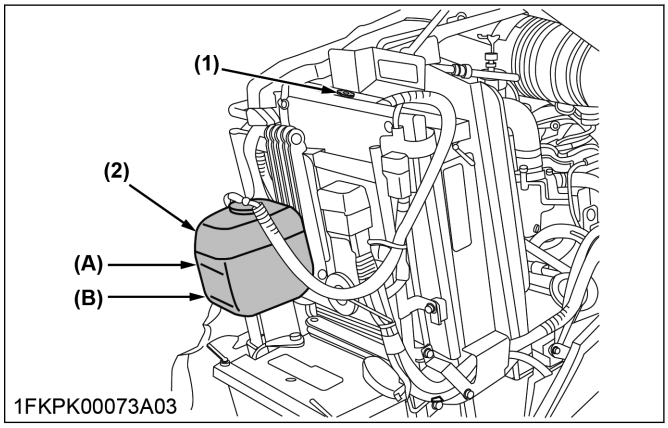
5. 冷却水の量の点検

⚠ 警告
- **ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けると、熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後 30 分以上たって、冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し、余圧を抜いてからキャップを外してください。**

ラジエータには、リザーブタンクが付いており、ラジエータ内の冷却水が少なくなると、リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。

1. 冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検します。
   “FULL から *LOW”*の範囲であれば正常です。
2. リザーブタンクの冷却水が *“LOW”*以下の場合は、*“FULL”*のレベルまで補給します。
   *“FULL”*以上は入れないでください。
3. またリザーブタンクの冷却水量が *“LOW”*以下の場合は、ラジエータキャップを外してラジエータの口元まで冷却水が入っているか確認します。

4. 冷却水が少ない場合は口元まで補給します。



(1) ラジエータキャップ
(2) リザーブタンク
(A) 上限*(FULL)*
(B) 下限*(LOW)*

補足：
- **ラジエータ本体のキャップは、冷却水点検および交換するとき以外開けないでください。**

6. ウォータセパレータの確認

1. ウォータセパレータに水がたまっていないか確認します。
2. 水がたまっている場合は、水を排出します。
（ウォータセパレータの水の排出（137 ページ）を参照）

7. ウォータセパレータの水の排出

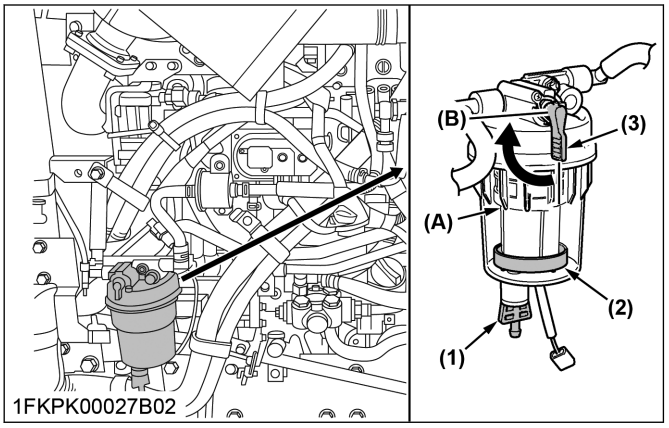
重要：
- **電子メータメッセージ**
フロートが排出レベルに達すると、液晶表示部に次図のメッセージが表示されるとともに、ブザーが鳴り続けます。



- **ブザーが鳴ったときは、直ちにエンジンを止めて、セパレータの水の排出、燃料の空気抜きをしてください。**

分離された水がたまると赤色のフロート（浮き輪）が浮き上がります。

1. 水がたまっている場合は、燃料コックを閉めセパレータ下部のドレーンプラグをゆるめて水を排出します。



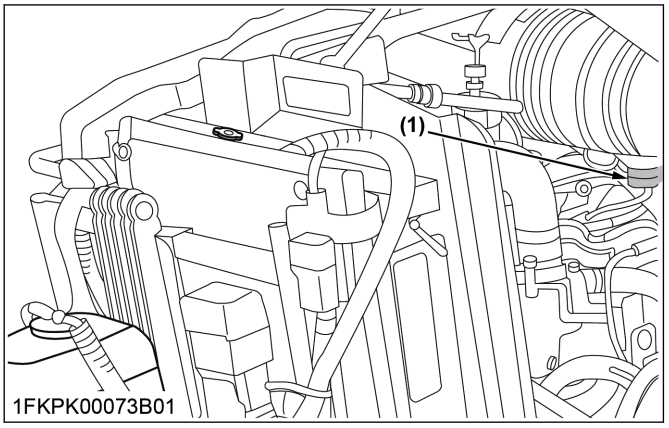
(1) ドレーンプラグ
(2) フロート
(3) 燃料コック
(A) 排出レベル
(B) 閉

2. 水の排出後、空気抜きをします。
排出後は必ず空気抜きをしてください。
（燃料の空気抜き手順（162 ページ）を参照）

重要：
- **エンジンを始動させたとき液晶表示メッセージと警告ブザーが消えれば処置は完了です。**

8. エバキュエータバルブの清掃

1. エバキュエータバルブを開き、ごみを取り除きます。
2. 水分があるときは、エアクリーナを掃除します。



(1) エバキュエータバルブ

9. ワイヤハーネス、バッテリ（+）コードの点検

⚠ 警告
- **配線の端子や接続部のゆるみおよび配線の損傷は、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）、漏電の原因となり、火災事故になるおそれがあり大変危険です。傷んだ配線は、早めに交換、修理してください。**

ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、針金などで代用せず、購入先に点検、整備を依頼してください。
- **また、本機の配線は、防水性などじゅうぶん考慮して配線してありますのでむやみに修理して使用せず、購入先に点検、整備を依頼してください。**
- **バッテリおよび電気配線の周辺部は、マフラやエンジン周辺部と同様、ワラくず、ごみ、燃料の付着があると火災の原因になるので、毎日作業前に清掃してください。**

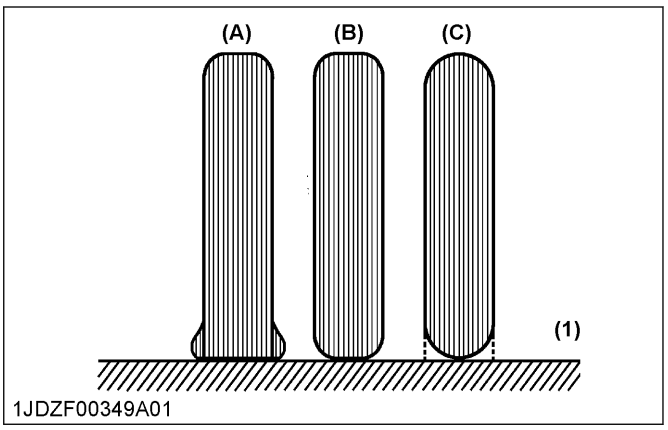
1. 次の項目を点検します。
   - 配線の損傷が無いこと。
     配線被覆が破れているときは、購入先に点検、整備を依頼してください。
   - 配線のクランプのゆるみが無いこと。
     配線がクランプより外れているときは、所定のクランプに配線をセットしてください。
   - ターミナルの端子、カプラのソケットの接続部にゆるみが無いこと。
   - 各スイッチ、メータが確実に作動すること。

   重要：
   - **高圧洗車機などによる洗車の際には、メータパネル、ステアリングポスト周り、ポンパレバー、ホーンボタン周り、バッテリ、エンジン周りの電気配線、電装品および電子油圧操作部には、圧力水をかけないでください。電気部品の故障の原因になります。**
   - **1 年に 1 回は､購入先で定期点検を受けてください。**
   - **スローブローヒューズの点検、交換は必ず購入先で行ってください。**

10. タイヤの空気圧、および摩耗、損傷の点検

⚠ 警告
- **タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは、タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。**
- **タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。**
- **タイヤ、チューブ、リムなどの交換、修理は、必ず購入先にご相談ください。特別教育を受けた人が行うように、法で決められています。**

1. 前輪、後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
   外観から判断する目安は次のとおりです。



(1) 接地面

(A) 空気が不足
(B) 標準
(C) 空気が多い

10.1 標準空気圧の確認

タイヤの空気圧は次のとおりです。

	空気圧(kPa (kgf/cm^2))
前輪	157 (1.6) [196 (2.0)]
後輪	98 (1.0)

[ ]内はフロントローダ装着時

11. 防虫網の清掃

⚠ 警告
- **エンジンを必ず停止して清掃してください。**
- **エアコン使用時コンデンサやレシーバは熱くなります。じゅうぶん冷えてから点検、清掃を行ってください。**

水田や夜間作業に使用すると、防虫網に実や昆虫が付着し詰まることがあります。

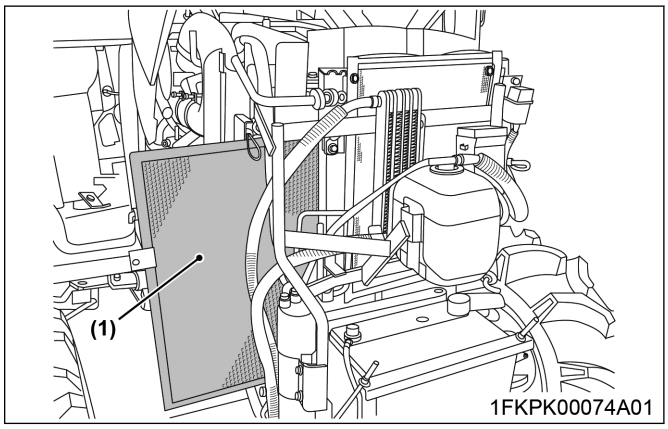
1. 防虫網に目詰まりが無いよう点検、清掃します。
2. 防虫網を外したとき、ラジエータ、コンデンサなどのフィンにゴミが詰まっていれば、エアブローまたは水道水などで取り除きます。

   重要：
   - **高圧洗車機を使用する場合には、コンデンサ、ラジエータ、オイルクーラのフィンを損傷させないように、注意してください。**

11.1 ラジエータ用防虫網の清掃

1. 防虫網を取り外して清掃します。

2. ゴミが詰まっていれば水道水などで取り除きます。

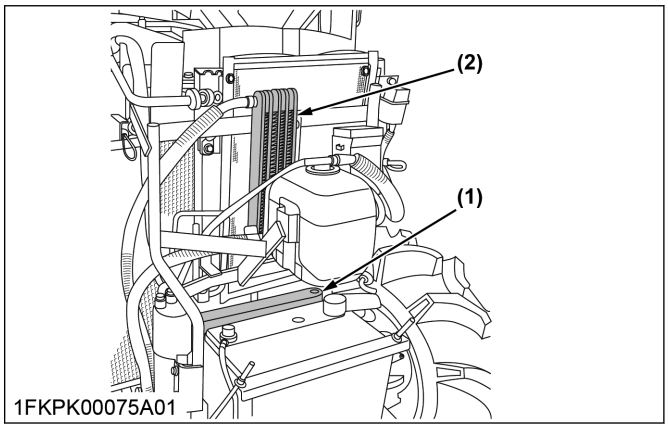


(1) 防虫網

11.2 エアコンコンデンサ用防虫網、燃料クーラの清掃

［安全キャブ仕様］のみ、エアコンコンデンサ用防虫網が取り付けられています。

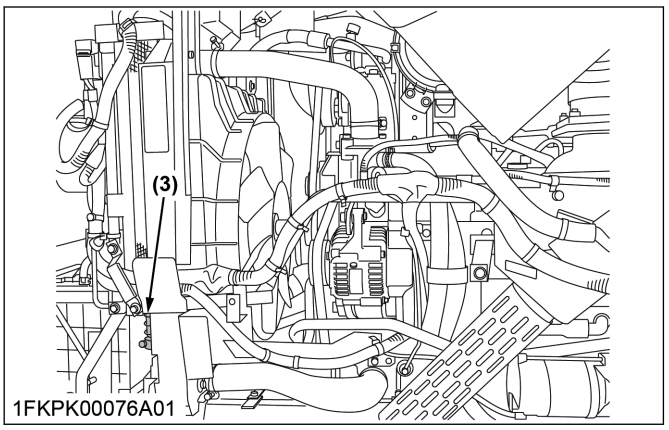
1. 目詰まりが無いよう点検清掃します。
2. ゴミが詰まっていれば水道水などで取り除きます。



(1) コンデンサ用防虫網［安全キャブ仕様］ *(2)* 燃料クーラ

11.3 オイルクーラの清掃

1. 目詰まりが無いよう点検清掃します。
2. ゴミが詰まっていれば水道水などで取り除きます。



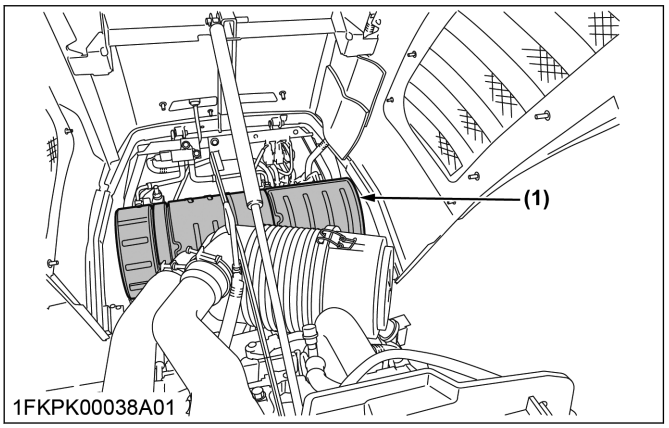
(1) オイルクーラ

12. DPF の点検

警告

- **点検、清掃を行うときは、必ずエンジンを停止してじゅうぶん冷えてから行ってください。**

1. DPF マフラの周辺に可燃物が堆積していないか点検します。
   可燃物が堆積すると火災のおそれがあります。



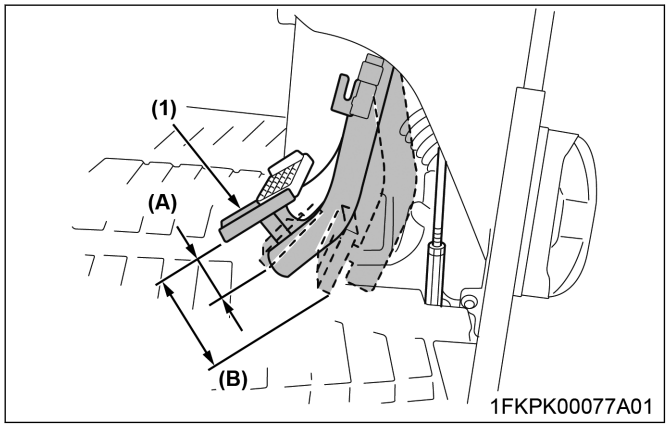
(1) *DPF* マフラ

13. ブレーキペダルの遊びの点検

警告

- **ブレーキの調整が悪いと、人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。**

1. ペダルを踏んで遊び量が適正かどうか、また左右ブレーキの踏込み量の差が適正範囲内かどうかを調べます。



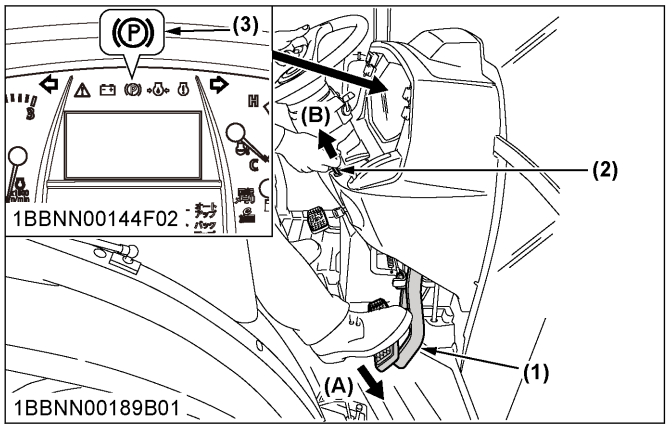
(1) ブレーキペダル
(A) 遊び
(B) 踏込み量

遊び(A)	基準値	15 mm～20 mm
踏込み量(B)	適正範囲	図の位置での左右差 5 mm 以内

2. 適正でない場合は調整します。
（ブレーキペダルの調整方法（150 ページ）を参照）

14. 駐車ブレーキの作動点検

1. ブレーキペダルを左右連結して踏み込み、グリップを“引い”たまま足をはなします。
駐車ブレーキがかかります。
2. キースイッチ**[入]**時、駐車ブレーキを掛けます。
メータパネル内の Ⓟ ランプが点灯します。

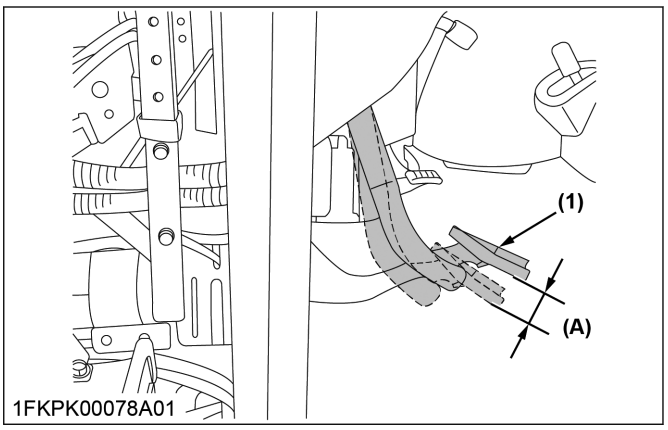


(1) ブレーキペダル
(2) 駐車ブレーキグリップ
(3) 駐車ブレーキランプ
(A) 踏み込む
(B) 引く

3. 駐車ブレーキを外すときは、ペダルを踏み込みます。
駐車ブレーキが外れます。

15. クラッチペダルの遊びの点検

1. ペダルの遊び量が適正であるか確認します。



(1) クラッチペダル
(A) 遊び

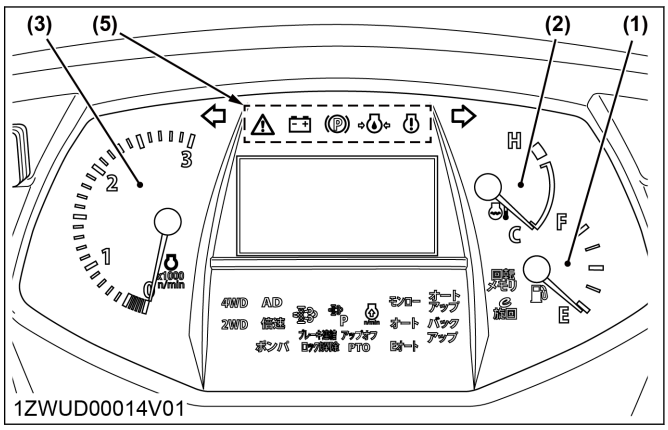
遊び(A)	基準値	20 mm～30 mm

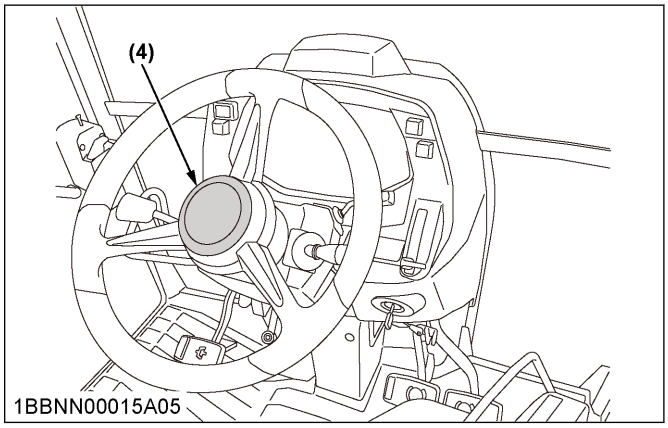
2. 適正でない場合は調整します。
（クラッチペダルの点検、調整（150 ページ）を参照）

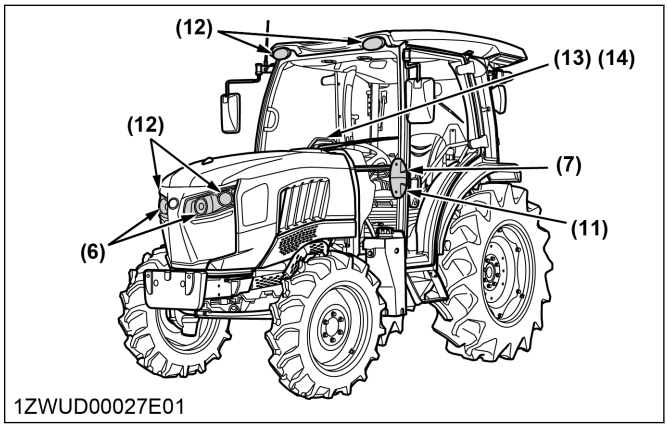
重要：
- **クラッチの調整が悪いと、クラッチ切れ不良、すべりを起こし損傷につながります。**

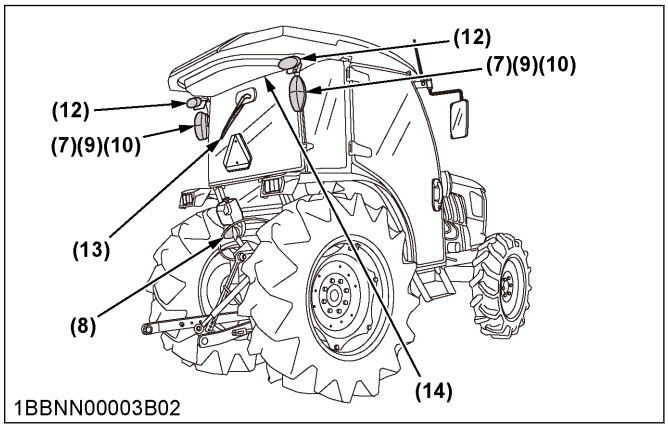
16. メータ、ランプ類の作動点検

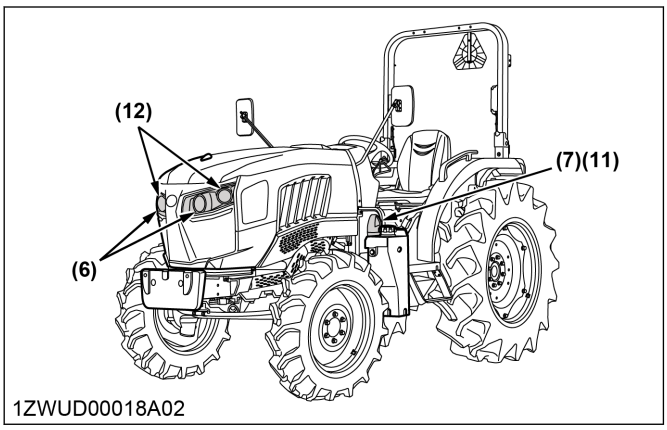
1. 次のメータおよびランプ類が正しく作動するか点検します。

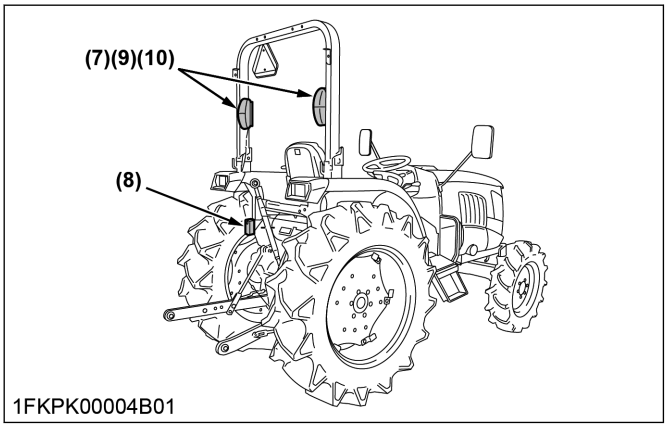












(1) 燃料計
(2) 水温計
(3) エンジン回転計
(4) ホーン
(5) イージーチェッカ
(6) ヘッドライト
(7) ウインカ（前、後）
(8) バックランプ
(9) 尾灯
(10) ブレーキランプ
(11) 車幅灯
(12) 作業灯
(13) ワイパ
(14) ウォッシャ

公道走行に関連する灯火器を追加した場合は、それらも含めて正しく作動するか点検してください。

17. 燃料の補給

⚠ 警告

- **燃料を補給するときは、エンジンを必ず停止してください。**
- **火気厳禁。**

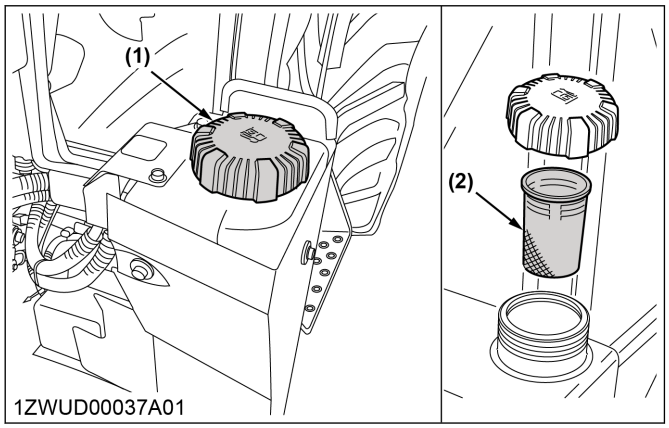
燃料には、指定の物を使用してください。

指定燃料	**超低硫黄ディーゼル軽油（サルファーフリー軽油）**

ディーゼル軽油には次表の種類があります。地域、季節に見合った物を使用してください。

種類	ディーゼル軽油の流動点(℃)
特 1 号	+ 5 以下
1 号	−2.5 以下
2 号	−7.5 以下
3 号	−20 以下
特 3 号	−30 以下

流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり、始動が困難になります。



(1) 燃料タンクキャップ *(2)* こし網

重要：

- **コモンレール仕様エンジンの燃料噴射部品は超精密仕上げになっています。これらの部品の作動不良を防ぐため、ドラム缶やホームタンクなどから燃料を補給される場合、水や砂など異物が混入しないようじゅうぶん注意してください。**
  また補給時は、こし網を外さないでください。
- **補給後は、燃料キャップが締まっているか確認してください。**

18. エンジンの始動確認

1. エンジンを始動し、かかり具合、異音が無いかを確認します。
2. アクセルペダルを操作し、加速、減速がスムーズか確認します。

19. エンジンの排気の状態の確認

1. エンジンを始動し、排気色に異常が無いか確認します。
2. 異常がある場合は、適切な処置をします。
   （エンジンの不調と処置（167 ページ）を参照）

燃料給油時の便利な機能と装置

1. 満タンお知らせブザーの取扱い

燃料給油時、ブザーが作動します。

1. キースイッチを**[入]**にします。
   エンジンは始動しないでください。
2. 燃料を給油します。
   給油を検知して「ピ…ピ…」と電子メータパネルから断続音が作動します。
   燃料が満タンに近づくにつれ、断続音の間隔が短くなります。
3. 満タンになると「ピー」という連続音に変わるので給油を停止します。

補足：

- **オーバーフローを防ぐため、満タン警報ブザーは満タンの手前で作動するように設定しています。**
- **給油中はキースイッチを[切]にしないでください。一度[切]にすると、再び[入]にしても、ブザーが鳴らないことがあります。**
- **燃料計の指針が[F]付近を示している状態で給油した場合、ブザーが鳴らないことがあります。**

日常点検［パワクロ仕様］

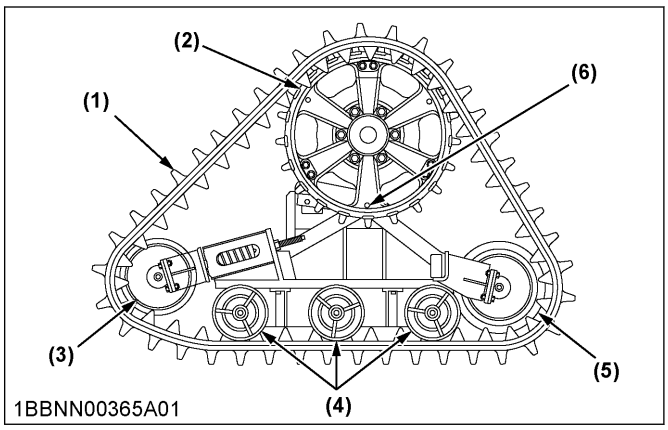
メンテナンスを行うことで、パワクロ機の寿命アップと当用機のトラブルを未然に防ぐことができます。

1. 日常点検箇所一覧［パワクロ仕様］（142 ページ）に従ってメンテナンスを実施します。
   交換要領の詳細についてや、不具合があれば、購入先にご連絡ください。

また、パワクロ機を安心してご使用いただくため、1 年に 1 度の入庫定期点検をおすすめします。

1. 日常点検箇所一覧［パワクロ仕様］

点検箇所	点検内容
転輪	• グリースアップを適宜行ってください。目安は 30 時間使用ごとおよびシーズン終了後です。 • 草の巻付き、石のかみこみ、泥の付着はありませんか。
遊輪	• 極端な摩耗、偏摩耗はしていませんか。 • グリースアップを適宜行ってください。目安は 30 時間使用ごとおよびシーズン終了後です。
スプロケット	• 草の巻付き、石のかみこみ、泥の付着はありませんか。
ゴムクローラ	• クローラに大きな損傷はありませんか。 • クローラの張りは適正ですか。
揺動軸部	• グリースアップを適宜行ってください。目安は 30 時間使用ごとおよびシーズン終了後です。

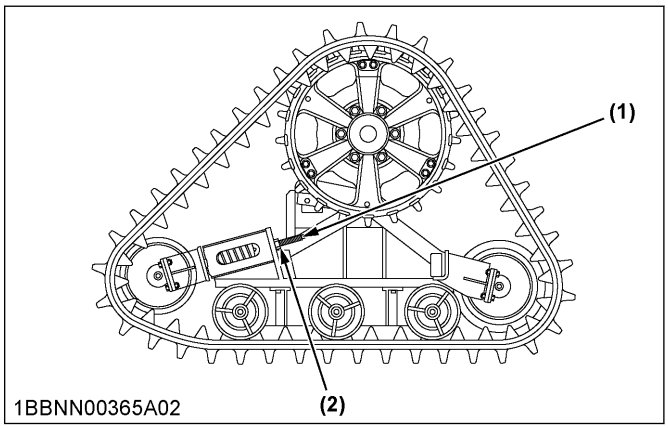


(1) ゴムクローラ
(2) スプロケット
(3) 前遊輪
(4) 転輪
(5) 後遊輪
(6) 揺動軸

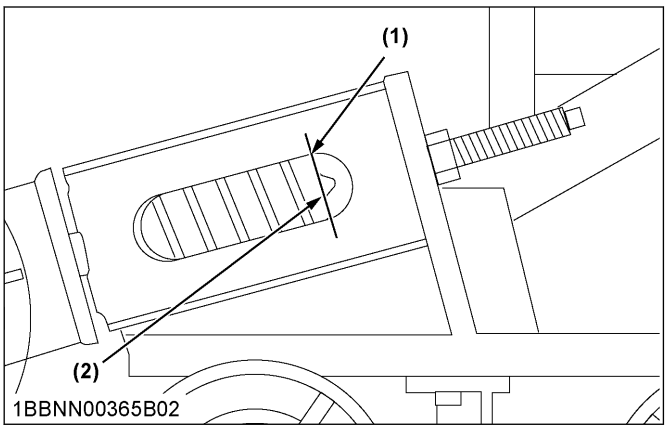
2. ゴムクローラの張り調整[パワクロ仕様]

ゴムクローラがゆるんだままで使用すると、走行中にクローラが外れるおそれがありますので、定期的に点検を行ってください。

1. ゴムクローラがゆるんでいる場合は、張り調整を行います。
   a. 調整ボルトを回してスプリング端がインジケータに一致するように調整します。
   b. 調整後は確実にロックナットで固定します。



(1) 調整ボルト
(2) ロックナット



(1) インジケータ
(2) スプリング端

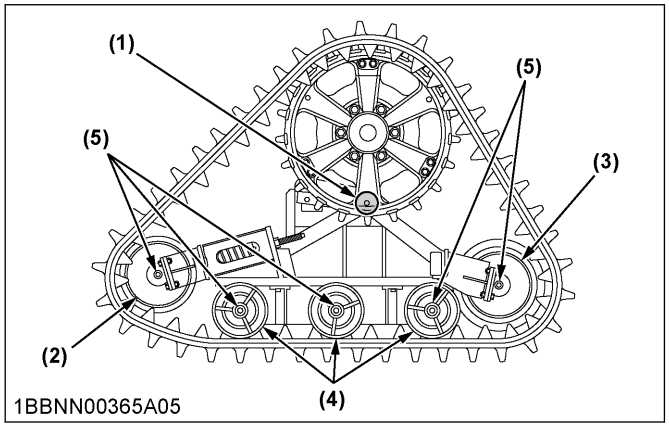
30 時間ごとの点検、整備

1. グリースの注入［パワクロ仕様］

代かき作業などで泥水の中に入ったときは、1 日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。グリースは、**推奨グリース**を使用してください。

1. グリースニップルからグリースを注入します。
   • 転輪および遊輪部はフクロナットを外すとグリースニップルがあります。

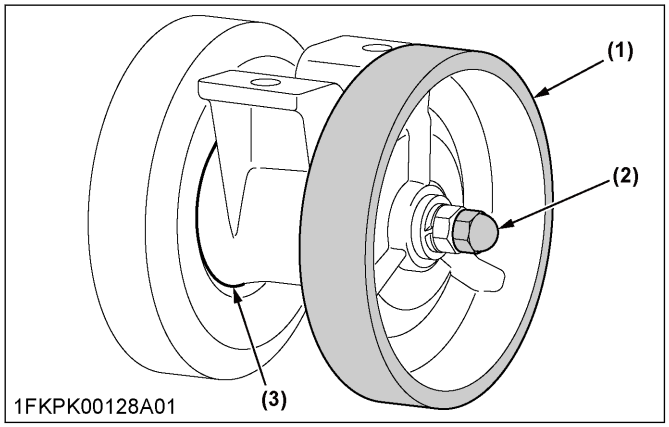
[グリース注入箇所]



(1) 揺動軸
(2) 前遊輪
(3) 後遊輪
(4) 転輪
(5) フクロナット（グリースニップル）

重要：
• 転輪のグリースの注入は、フクロナットを外してグリースを注入し、転輪の内側からグリースがはみ出るまで行ってください。

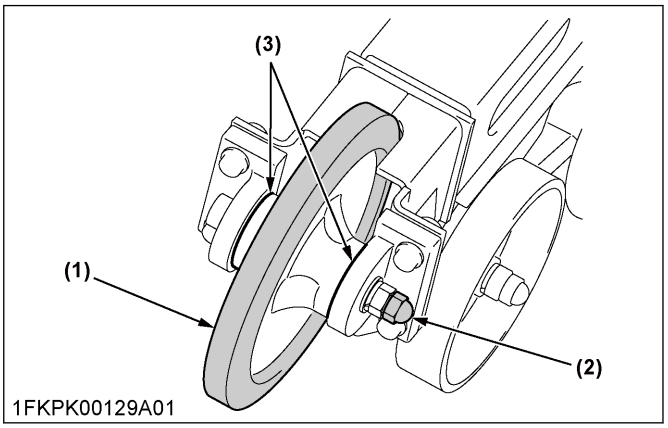
[転輪]



(1) 転輪
(2) フクロナット
(3) 転輪の内側

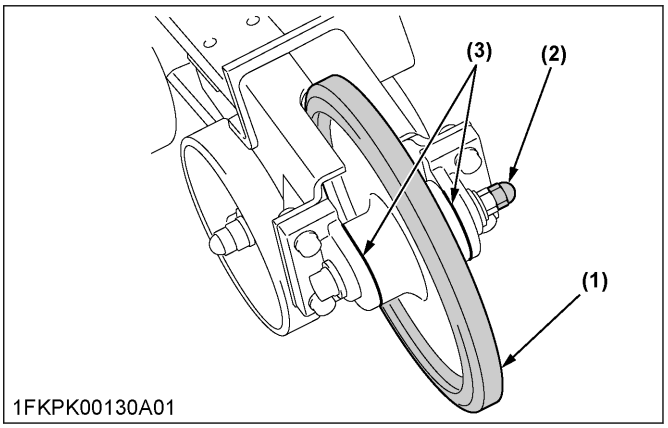
重要：
• 前遊輪、後遊輪のグリースの注入は、フクロナットを外してグリースを注入し、遊輪とフレームのすきまからグリースがはみ出るまで行ってください。

[前遊輪]



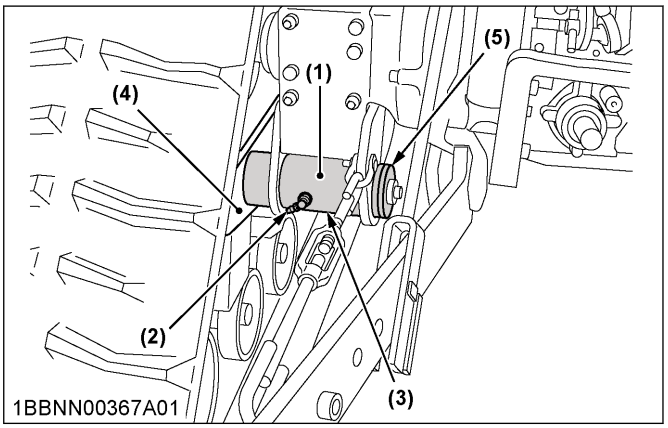
(1) 前遊輪
(2) フクロナット
(3) 遊輪とフレームのすきま

[後遊輪]



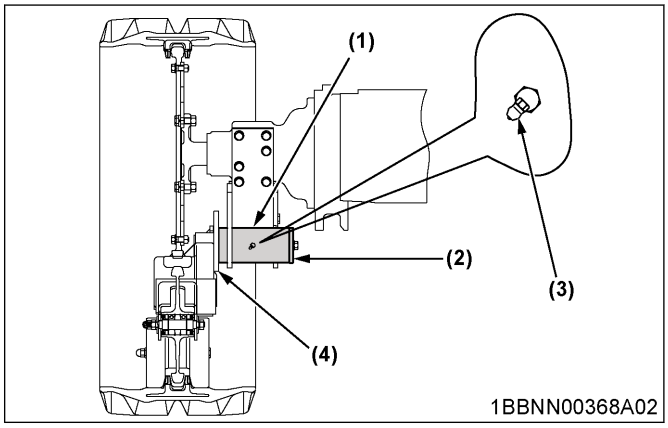
(1) 後遊輪
(2) フクロナット
(3) 遊輪とフレームのすきま

補足：
• 転輪、前遊輪、後遊輪のグリース注入の仕方についてよくわからない場合は、ご購入先に相談してください。



(1) 揺動軸
(2) グリースニップル
(3) パイプ
(4) フレーム
(5) 座金

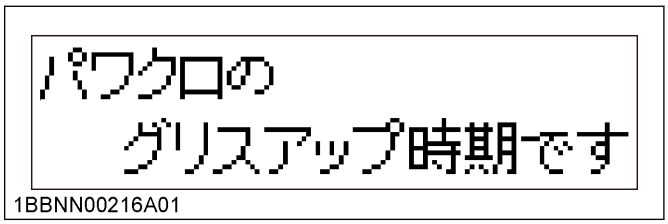
重要：
- **揺動軸のグリースの注入は、パイプとフレームあるいはパイプと座金のすきまからグリースが出るまで行ってください。**



(1) パイプ
(2) 座金
(3) グリースニップル
(4) フレーム

1.1 グリースアップ時の電子メータメッセージのリセット［パワクロ仕様］

グリースアップ時、電子メータメッセージのグリースアップ後時間をゼロにリセットしてください。
リセットしておくと、次回のグリースアップ時間に達すると、電子メータメッセージとして次図のように表示されます。



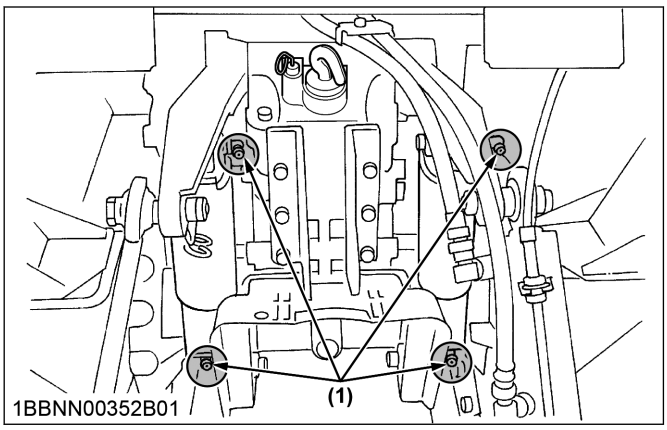
また、リセットしないと、エンジン始動後 5 秒間、このメッセージが表示されます。
（電子メータメッセージのリセット方法（80 ページ）を参照）

50 時間ごとの点検、整備

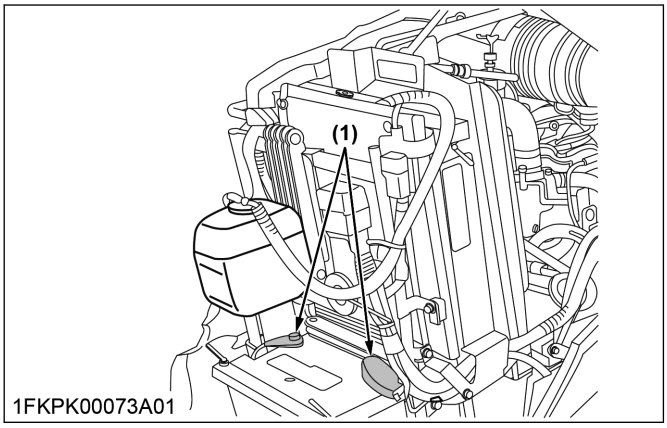
1. グリースの注入

代かき作業などで泥水の中に入ったときは、1 日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。
グリースは、**推奨グリース**を使用してください。
グリースポンプは手動のハンドガン式の物を使用してください。高圧のエアーポンプ式の物は使用しないでください。

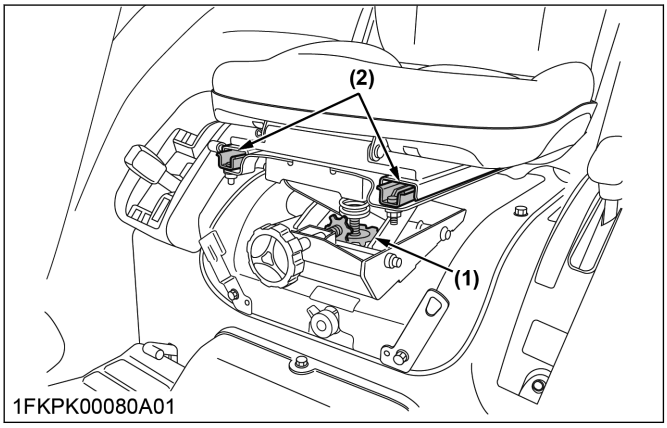
1. 図で示された場所にグリースを注入します。



(1) 油圧シリンダ



(1) バッテリターミナル



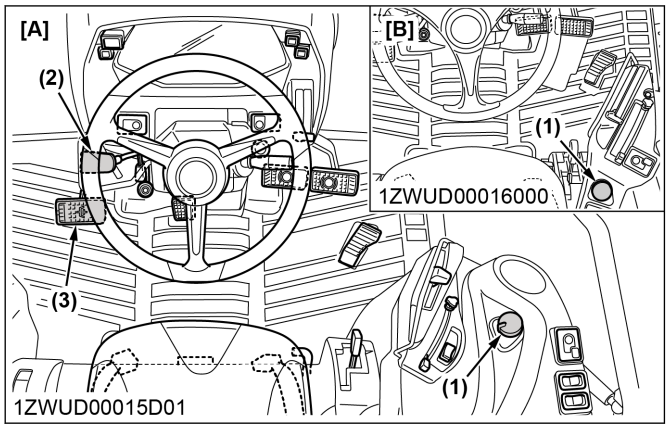
(1) サスペンション部
(2) スライド部

2. エンジン始動システムの点検

⚠ 警告
- **点検中、トラクタに人を近づけないようにしてください。**
- **装置に異常があれば必ず整備をした後、ご使用ください。**

1. 運転席に座り、シャトルレバーを“中立”(**[N]**)、あんしん PTO スイッチを**[切]**にします。
2. 駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止します。

3. アクセルレバーを“最低速”位置にします。
4. クラッチペダルをいっぱい踏み込み、キースイッチを瞬時**[始動]**位置に回します。
   このとき、エンジンが回れば正常です。
5. シャトルレバーを“前進”（**[F]**）または“後進”（**[R]**）、またはあんしん PTO スイッチを**[入]**にし、キースイッチを瞬時**[始動]**位置に回します。
   このとき、エンジンが回らなければ正常です。



(1) あんしん *PTO* スイッチ
(2) シャトルレバー
(3) クラッチペダル
[A] 安全キャブ仕様
[B] 安全フレーム仕様

もし、不良の場合は、購入先へご相談ください。

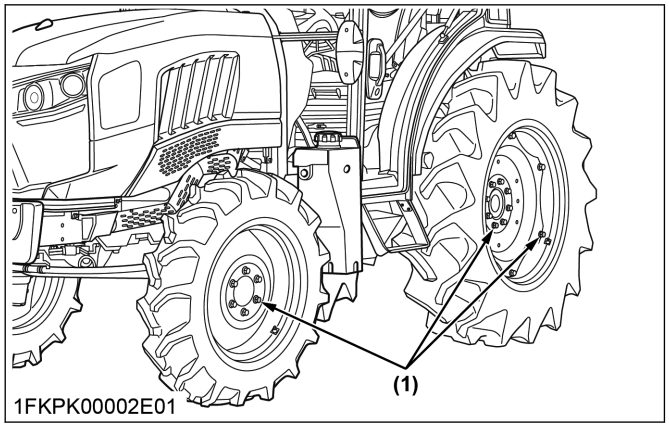
3. タイヤ取付けボルトの点検

⚠ 警告

- **タイヤ取付けボルトやナットがゆるんだ状態でトラクタを運転しないでください。ゆるんだまま走行すると、死傷事故を引き起こすおそれがあります。**

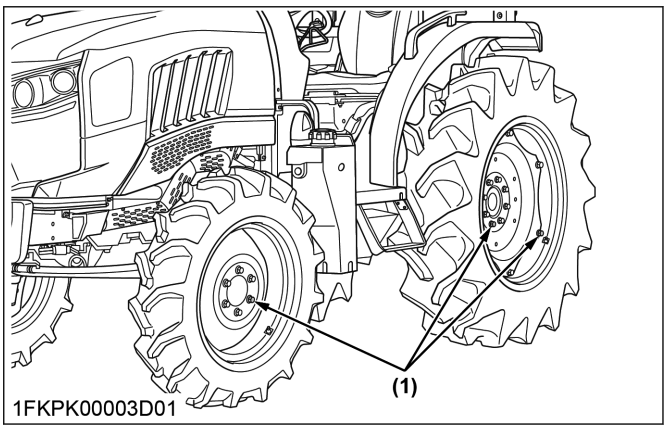
1. 図のタイヤ取付けボルトやナットがゆるんでいないかを点検します。

安全キャブ仕様



(1) ボルト、ナット

安全フレーム仕様



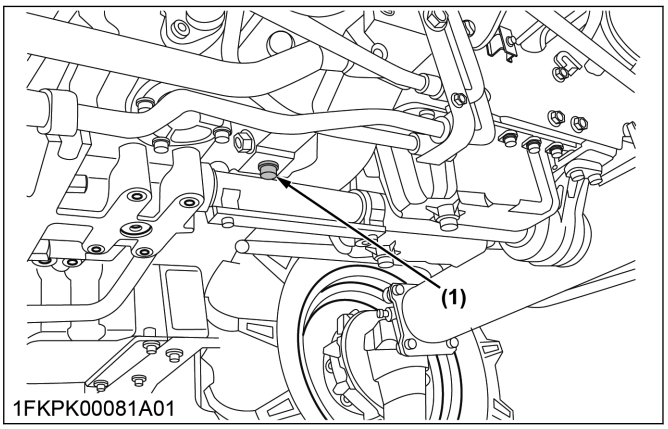
(1) ボルト、ナット

2. ゆるんでいるボルト、ナットは締め付けます。

4. クラッチハウジングの水抜き

代かき作業、洗車、雨降りなど、クラッチハウジングに多量の水が掛かる状況になった場合、または 50 時間使用ごとにクラッチハウジングの水抜きをしてください。

1. クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して、水が浸入してないことを確認します。



(1) ドレーンプラグ

2. もし水が入っていれば、完全に抜いて、内部をよく乾燥します。
3. ドレーンプラグを取り付けます。

締付けトルク	31.3 N·m～36.2 N·m （3.2 kgf·m～3.7 kgf·m）

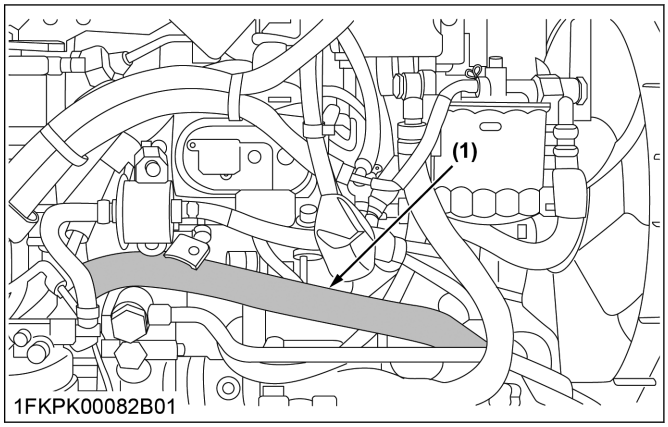
5. パワーステアリングホースの点検

⚠ 警告

- **ホースの傷みは、必ず点検してください。**
  ホースが破損しハンドル操作ができなくなり、死傷事故を引き起こすおそれがあります。

パワーステアリングホースは、使わなくても劣化する消耗品です。2 年ごとにまたは傷んだときには、ホースを新品と交換する必要があります。
ホースが傷んでいないか常に注意してください。

1. パワーステアリングホースに傷みが無いか点検します。
2. 異常があれば交換します。
   交換する場合は、購入先で交換および点検をしてもらってください。



(1) パワーステアリングホース

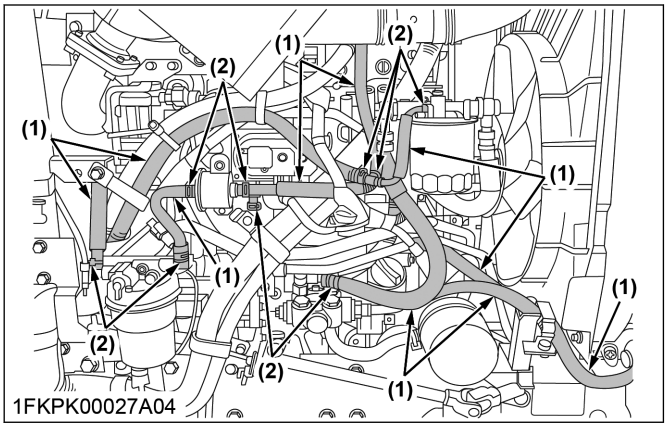
6. 燃料ホースの点検

⚠ 警告

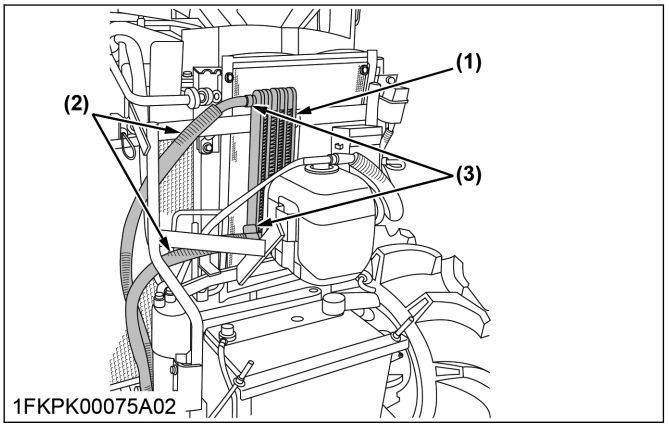
- **ホース類の傷みや締付けバンドのゆるみは、必ず点検してください。異常があれば交換、整備を行ってください。**
  燃料漏れなどによる火災や傷害事故などの原因になります。

燃料ホースなどのゴム製品は、使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドとともに 2 年ごとにまたは傷んだときには新品と交換する必要があります。
ホース類や締付けバンドがゆるんだり、傷んでいないか常に注意してください。

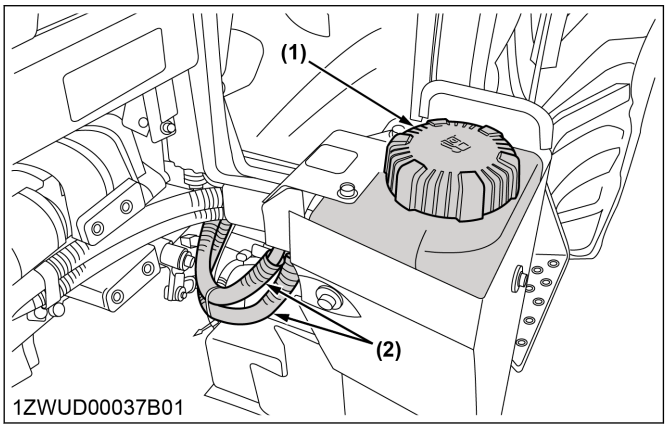
1. 燃料ホースに傷みや締付けバンドにゆるみが無いか点検します。
2. 異常があれば交換します。
   交換する場合は、購入先で交換および点検をしてもらってください。



(1) 燃料ホース　*(2)* 締付けバンド



(1) 燃料クーラ　*(3)* 締付けバンド
(2) 燃料ホース



(1) 燃料タンク　*(2)* 燃料ホース

100 時間ごとの点検、整備

1. バッテリ電解液の点検、バッテリの補充電

⚠ 危険

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの 2 種類があります。補水が必要なバッテリについては、次の事を守ってください。

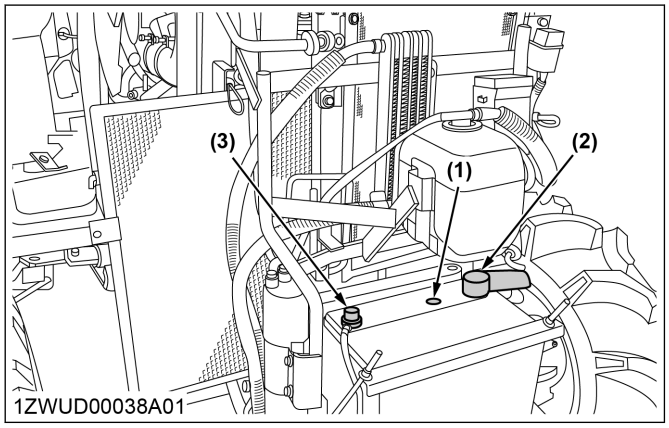
- **バッテリは液面が*“LOWER”*（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。*“LOWER”*以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。すぐに*“UPPER LEVEL”*と*“LOWER LEVEL”*の間に補水してください。**

⚠ 警告

- **バッテリ液は希硫酸なので扱いにはじゅうぶん注意し、身体や衣服に付けないようにしてください。もし付着した場合は、すぐに水で洗い流してください。状況により医師の診断を受けてください。**
- **バッテリの点検および取外し時は、エンジンを必ず停止し、キースイッチを[切]位置にしておいてください。**
- **バッテリを取り外すときは、短絡（ショート）事故を防ぐため、最初にバッテリ（−）コードを外し、接続するときは、最後にバッテリ（−）コードを接続してください。**
- **バッテリを充電しているときは、タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中、可燃性ガスが発生し、引火爆発のおそれがあります。**

1.1 バッテリ液の点検

1. バッテリは補水不要のタイプを使用しています。上面のインジケータの表示状態により補充電してください。



(1) インジケータ
(2) （−）コード
(3) （+）コード

インジケータの見方

インジケータ表示状態	緑	電解液比重、電解液量ともに良好です。
	黒	要充電です。 6 A〜7 A の普通充電電流で補充充電を行ってください。
	白	交換が必要です。

1.2 バッテリの取付け、取外し

⚠ 警告

- **バッテリを取り外すときは、バッテリ（−）コードを最初に外し、次に（+）コードを外してください。**
- **取り付けるときは、必ず（+）側から取り付けます。逆にすると、工具が当たった場合にショートします。**

重要：

- **バッテリ電解液が不足するとバッテリを傷め、多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。**
- **新品のバッテリと交換する場合には必ず指定した型式のバッテリを使用してください。**

バッテリ型式	80D26R
	85D26R

- **バッテリを外し、再度取り付けるときにはバッテリの（+）、（−）のコードをもとどおりに配線し、まわりに接触しないように締め付けてください。**

1.3 補充電のしかた

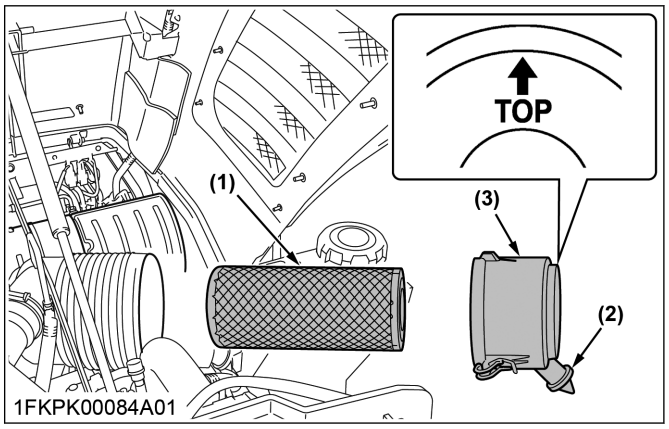
⚠ 警告

- **バッテリを充電しているときは、タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中、可燃性ガスが発生し、引火爆発のおそれがあります。**

- バッテリは必ず車体から取り外して充電してください。電装品の損傷のほかに配線などを傷めることがあります。なお急速充電は行わないでください。

1. バッテリコードをバッテリに接続します。
   バッテリコードを接続するときは、（+）と（−）を間違えないようにしてください。間違えるとバッテリが故障します。
2. バッテリコードを充電器に接続して補充電します。
   充電は、バッテリの（+）を充電器の（+）に、バッテリの（−）を充電器の（−）にそれぞれ接続して行ってください。コードの接続を間違えないように注意してください。

2. エアクリーナエレメントの清掃､交換



(1) エレメント
(2) エバキュエータバルブ
(3) ダストカップ

重要：
- **エレメントは、清掃、交換以外は不必要に触らないでください。**
- **エレメントの清掃、交換後、ダストカップの ⬆ マークが必ず上向きになるように取り付けてください。**

2.1 エアクリーナエレメントの清掃

1. 乾いたちりやほこりの場合は、エレメントを傷めないように注意しながら、エアで吹き飛ばします。エアの圧力は次の数値を超えないように注意し、ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。

エアの圧力	205 kPa (2.1 kgf/cm^2)

2. エレメントがカーボンや油分で汚れている場合は、中性洗浄剤をご使用して洗浄します。

   重要：
   - **乾式エレメントを使用していますので、オイルを使用しないでください。**
   - **清掃時、エレメントをたたいて変形させないでください。変形するとほこりがエンジンに侵入し、エンジンを損傷することがあります。変形したときは、すぐに新しいエレメントと交換してください。**

2.2 エアクリーナエレメントの交換について

エレメントは 1 年間使用後､または 6 回掃除ごとに交換が必要です。

2.3 エバキュエータバルブの清掃

- 清掃、交換をするときは必ずエンジンを止めて、じゅうぶんに冷えてから行ってくださ い。

1. エバキュエータバルブを開き、大きなごみを取り除きます。

3. ファンベルトの点検、調整

⚠ 警告
- **点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。**

1. ファンベルトの張り強さが適正か点検します。

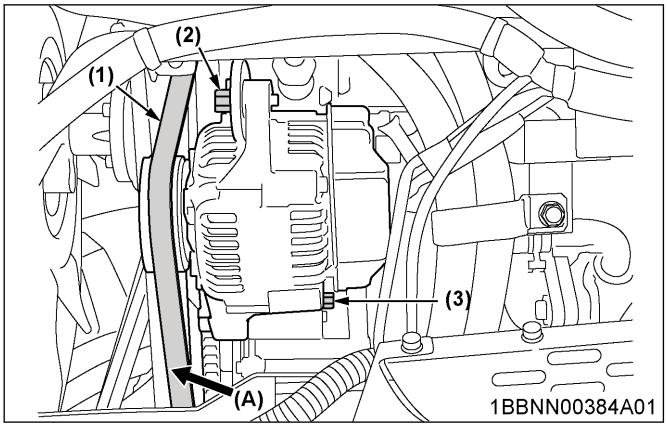
適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約 69 N (7 kgf)の力で押さえて、約 12 mm たわむ程度

2. 張り強さが適正でない場合は、ファンベルトの張りを調整します。

   重要：
   - **ベルトの張りがゆるいと、オーバーヒートや充電不足の原因になります。**
   - **ファンベルトにき裂やはがれがあれば交換してください。**

3.1 ファンベルトの調整方法

1. オルタネータを取り付けているボルトをゆるめて、オルタネータの取付け位置を動かして調整します。
2. 調整後はボルトを確実に締め付けます。



(1) ファンベルト
(2) ボルト
(3) ボルト、ナット
(A) 押す

4. ブレーキペダルの点検、調整

⚠ 警告
- **点検、調整をするときは、必ずエンジンを止めて行ってください。**
- **ブレーキの調整が悪いと、人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。**
- **調整時左右のペダルの踏込み量の差を必ず *"5 mm* 以内*"*にしてください。差が大きいとブレーキが片ぎきになります。ブレーキが片ぎきになると、死傷事故を引き起こすおそれがあります。**

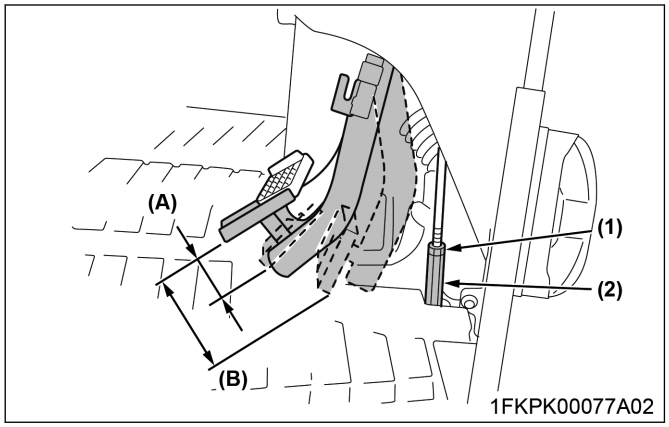
1. ブレーキペダルの遊び量が適正か点検します。

適正遊び量	ペダルで 15 mm～20 mm

2. 遊び量が適正でないときはブレーキペダルを調整します。

4.1 ブレーキペダルの調整方法

1. 駐車ブレーキを解除します。
2. ロックナットをゆるめターンバックルを回して、ペダルの遊びを調整します。
3. 調整後はロックナットを確実に締め付けておきます。
4. ブレーキペダルを踏み込んだとき、駐車ブレーキレバーが確実に作動するか確認します。



(1) ロックナット
(2) ターンバックル
(A) 遊び
(B) 踏込み量

踏込み量(B)	適正範囲	図の位置でのペダルの左右差 5 mm 以内

5. クラッチペダルの点検、調整

1. クラッチペダルの遊び量が適正か点検します。

適正遊び量	ペダルで 20 mm～30 mm

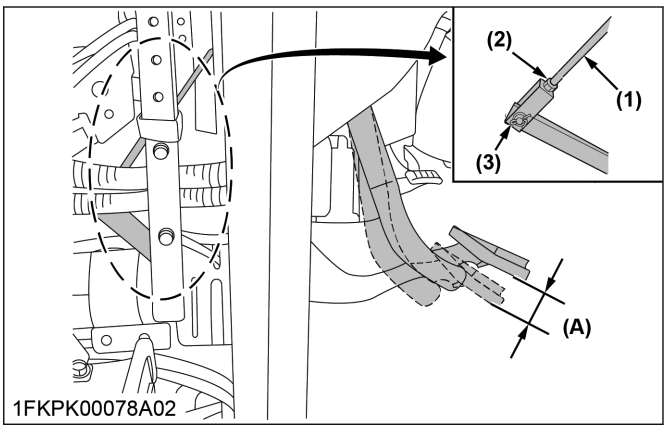
2. 遊び量が適正でないときはクラッチペダルを調整します。

5.1 クラッチペダルの調整方法

1. ロックナットをゆるめ頭付きピンを外してクラッチロッドで、ペダルの遊びを調整します。

   重要 :
   - **クラッチの調整が悪いと、クラッチ切れ不良、スリップを起こし損傷につながります。**

2. 調整後はロックナットを確実に締め付け、さらに割ピンは確実に折り曲げます。



(1) クラッチロッド
(2) ロックナット
(3) 頭付きピン
(A) 遊び

6. エキゾーストパイプおよびマフラの状態の確認

- エキゾーストパイプ、マフラに破損、取付けボルトのゆるみなどが無いか確認します。
- 排気音に異常が無いか確認します。

200 時間ごとの点検、整備

1. エンジンオイルの交換

⚠ 警告
- **交換をするときは、必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行ってください。**
  ヤケドのおそれがあります。

重要 :
- **今まで使用していたオイルと異なるメーカ、あるいは粘度 NO.の異なる物を使用する場合は、オイルを全部容器に排出してから、新しいオイルと交換してください。**
  注ぎ足し使用は絶対しないでください。
- **オイルは次の純正オイルを使用してください。**

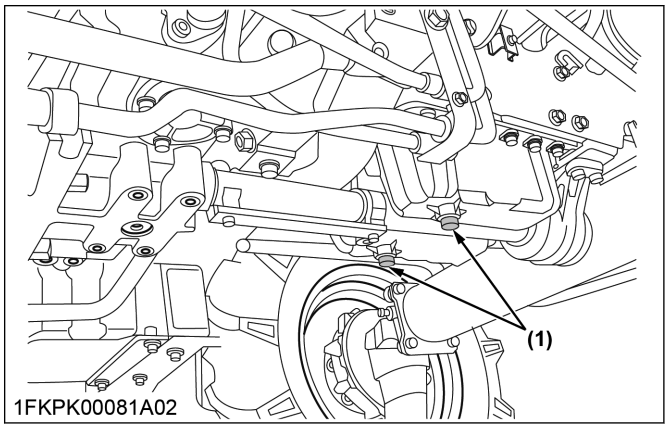
使用オイル	D10W-30 DH-2（DPF 搭載コモンレールエンジン）

- **点検するときは、トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。**
- **オイル量はエンジン始動前か、エンジンを止めてから約 5 分以上たってから点検してください。そうでないと、オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。**

1. 床面に容器を置き、ドレーンプラグを外してオイルを排出します。

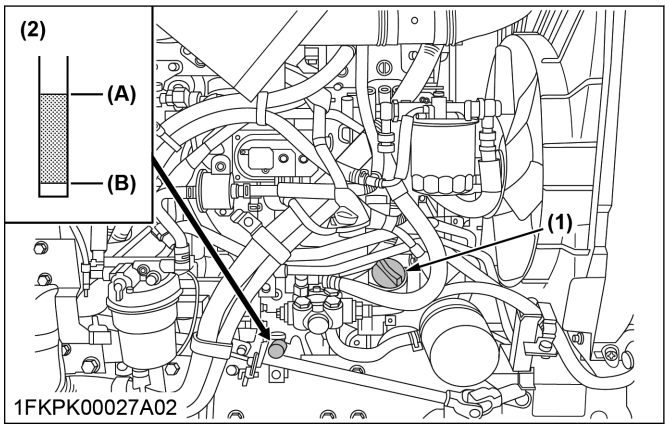
2. エンジンオイルの排出後は確実にドレーンプラグを締めます。

締付けトルク	32.4 N·m～37.2 N·m (3.3 kgf·m～3.8 kgf·m)



(1) ドレーンプラグ

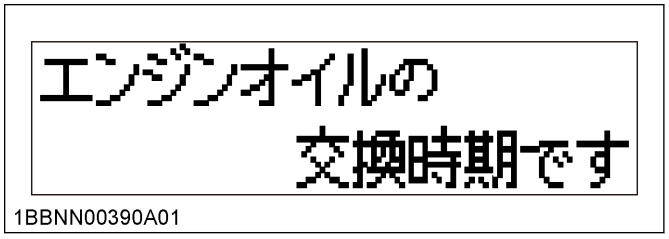
3. エンジンオイルを給油口から、規定量まで入れます。このときオイルをこぼさないように注意してください。



(1) 給油口
(2) オイルゲージ
(A) 上限
(B) 下限

1.1 エンジンオイル交換時の電子メータメッセージのリセット

エンジンオイル交換時、電子メータメッセージのエンジンオイル交換後時間をゼロにリセットしてください。リセットしておくと、次回のエンジンオイル交換時間に達すると、電子メータメッセージとして次図のように表示されます。



また、リセットしないと、エンジン始動後 5 秒間、このメッセージが表示されます。
（電子メータメッセージのリセット方法（80 ページ）を参照）

2. エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

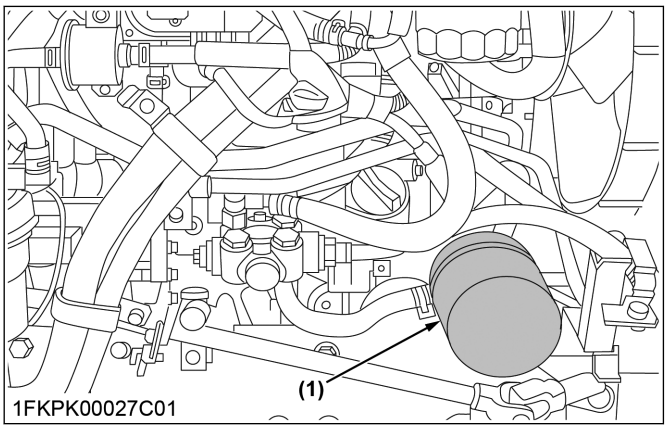
⚠ 警告

- **交換をするときは、必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行ってください。ヤケドのおそれがあります。**

補足：

- **オイルフィルタは、カートリッジタイプです。このオイルフィルタが詰まると、バイパスバルブが作動して、オイル系統からこのオイルフィルタを通らずに送油されるので、ろ過されないオイルで潤滑が行われます。これを防ぐため、オイルフィルタの詰まりが無いように、規定時間で、新しい純正部品のカートリッジと交換してください。**

1. フィルタレンチでフィルタカートリッジを取り外します。
2. 新しいカートリッジの O リングにオイルを薄く塗布してから、フィルタレンチを使用せず手で確実に締め付けます。
3. エンジンオイルを規定量まで補給します。
4. 約 5 分間運転し、オイルランプの作動に異常が無いか、また油漏れが無いか確認してからエンジンを止めます。
5. 再びオイルゲージで油量を確認し、不足していれば補給します。



(1) エンジンオイルフィルタカートリッジ

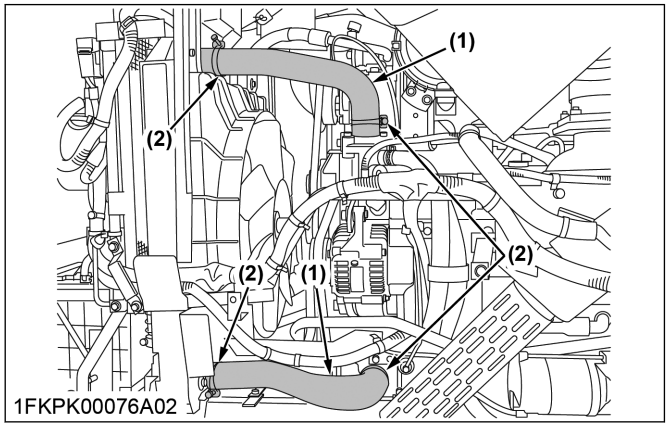
3. ラジエータホースの点検

⚠ 警告

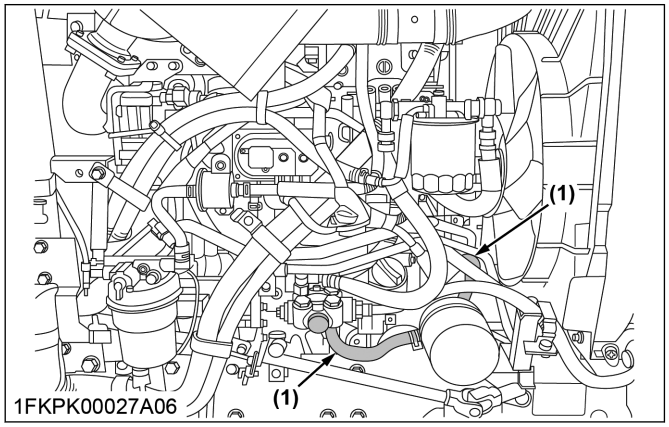
- **ラジエータホースの傷みや締付けバンドのゆるみが無いか点検してください。異常があれば交換、整備を行ってください。熱湯漏れによるヤケドなどの原因になります。**

ラジエータホースなどのゴム製品は、使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドとともに 2 年ごとにまたは傷んだときには新品と交換する必要があります。

1. ラジエータホースに傷みや締付けバンドにゆるみが無いか点検します。
2. 異常があれば交換します。
   交換する場合は、購入先で交換および点検をしてもらってください。



(1) ラジエータホース　　*(2)* 締付けバンド

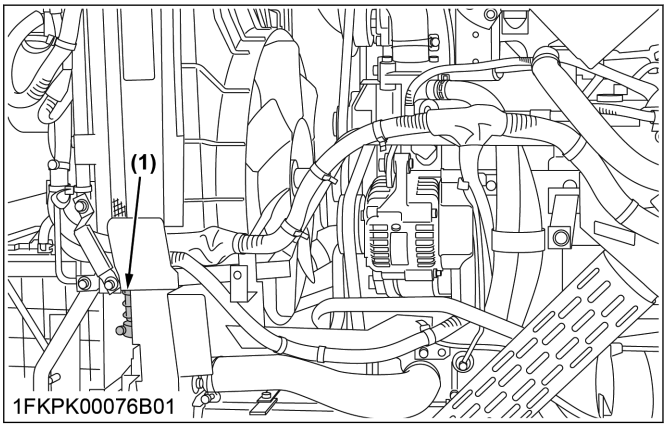


(1) ラジエータホース

4. オイルクーラホースの点検

オイルクーラホースなどのゴム製品は、使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドとともに 2 年ごとにまたは傷んだときには新品と交換する必要があります。ホース類や締付けバンドがゆるんだり、傷んでいないか常に注意してください。

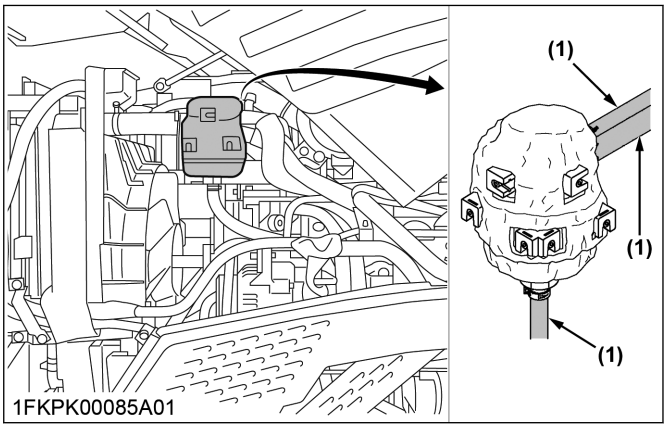
1. オイルクーラホースに傷みや締付けバンドにゆるみが無いか点検します。
2. 異常があれば交換します。
   交換する場合は、購入先で交換および点検をしてもらってください。



(1) オイルクーラホース

5. オイルセパレータホースの点検

1. オイルセパレータホースに傷みや締付けバンドにゆるみが無いか点検します。
2. 異常があれば交換します。
   交換する場合は、購入先で交換および点検をしてもらってください。

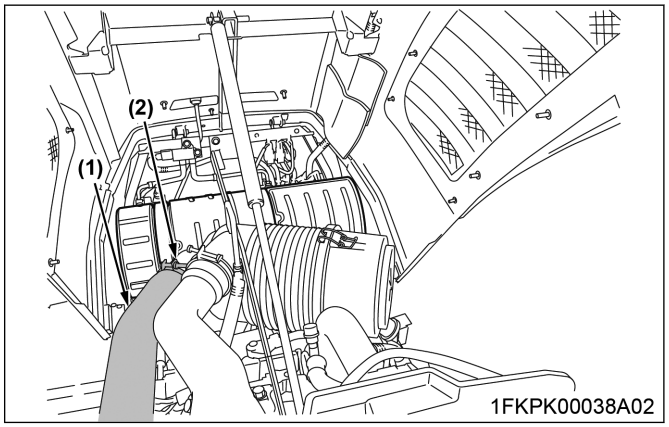


(1) オイルセパレータホース

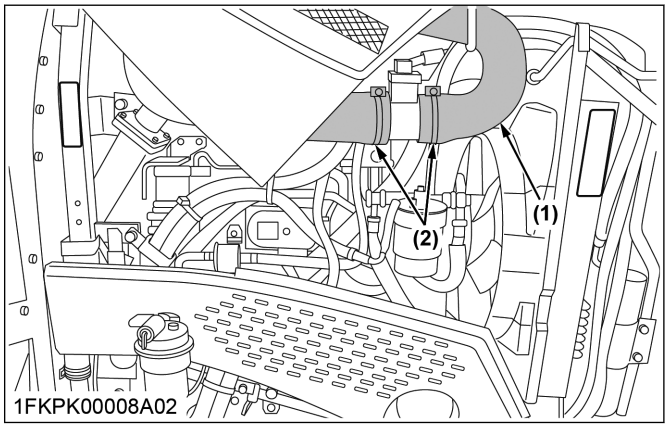
6. 吸気ホースの点検

1. 吸気ホースに傷みや締付けバンドにゆるみが無いか点検します。

2. 異常があれば交換します。
   交換する場合は、購入先で交換および点検をしてもらってください。



(1) 吸気ホース　　*(2)* 締付けバンド



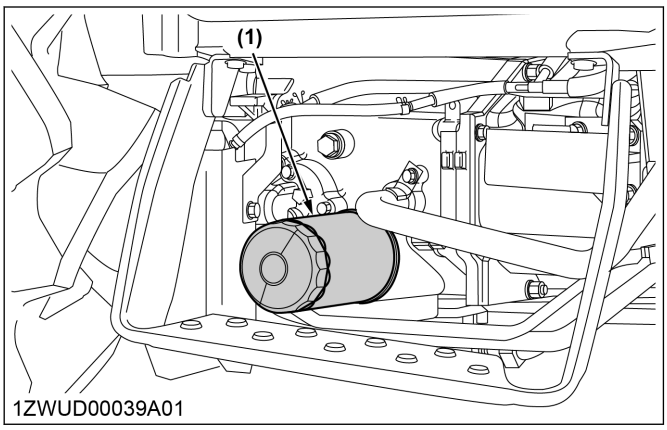
(1) 吸気ホース　　*(2)* 締付けバンド

7. トランスミッションオイルフィルタカートリッジの交換

⚠ 警告

- **交換をするときは、必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行ってください。**
  ヤケドのおそれがあります。

純正部品のカートリッジと交換してください。



(1) トランスミッションオイル
フィルタカートリッジ

1. オイルフィルタの下部にオイルパン（容器）を受けます。
2. フィルタレンチでフィルタを取り外します。
   間違って油圧オイルフィルタを外さないでください。外すとトランスミッションオイルが流出します。
3. 新しいカートリッジの O リングにオイルを薄く塗布します。
4. フィルタのOリングが取付け面に接した位置から、フィルタレンチでさらに約 3/5 回転増締めします。
5. エンジンを始動し、フィルタ取付け部より油漏れが無いか確認します。
6. エンジンを止め、オイルゲージで油面を確認し、不足していれば補給します。
   （ミッションオイルを抜く方法、補給のしかたは、ミッションオイルの交換（156 ページ）を参照）

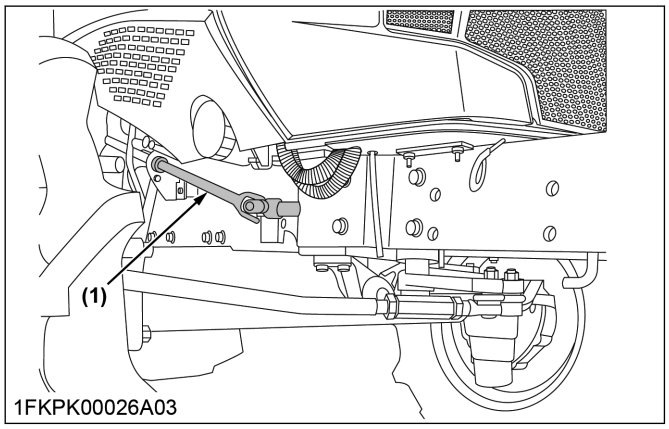
重要：

- **ミッションオイルやフィルタ交換後、すぐに走行しないでください。数分間低速でエンジンを回し、各部にオイルが行き渡ってから発進してください。**

8. ステアリングジョイント部の点検

1. エンジンを停止します。
2. ステアリングジョイントを手で触って、ステアリングジョイントにガタや変形が無いか点検します。

3. もし、異常があれば購入先へ点検整備依頼します。



(1) ステアリングジョイント

9. トーイン、タイロッドの点検、調整

⚠ 警告

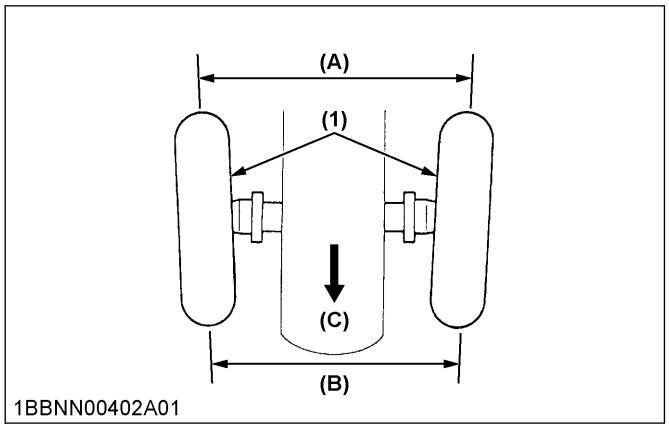
- **トーインの調整が悪いと、ハンドルを取られたり、異常に振れることがあります。**

補足：

- **トーインの点検、調整時、タイロッドエンド（関節球）やリンクに摩耗や変形が無いか調べてください。**
- **標準空気圧で、トーインの点検、調整を行ってください。**
- **測定はタイヤ高さの 1/2、タイヤ幅の中央部間を測ります。**

9.1 トーインの点検

1. 前輪の前幅(B)と後幅(A)を測ります。
2. (A)－(B)が次の基準値になっているかを調べます。

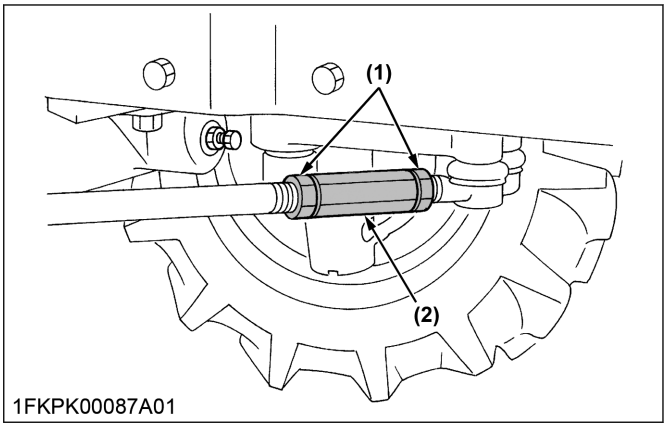


(1) 前輪　　*(A)* 後幅
(B) 前幅
(C) 前

トーインの基準値	(A)－(B)=2 mm～8 mm

9.2 トーイン、タイロッドの調整方法

1. ロックナットをゆるめ、ターンバックルを回してトーインが 2 mm～8 mm になるように調整します。
2. 調整後はロックナットを確実に締め付けます。



(1) ロックナット　　*(2)* ターンバックル

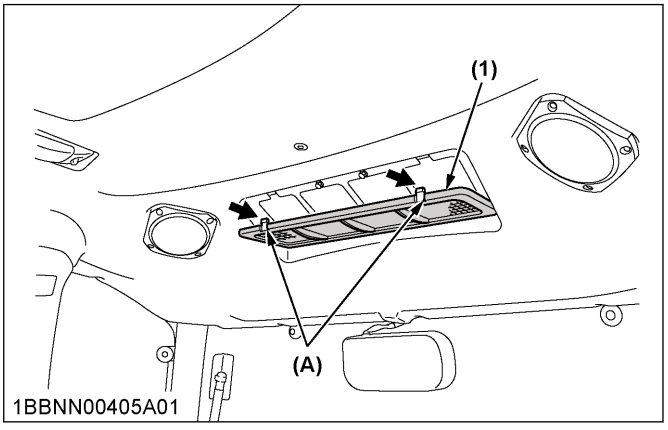
10. 内気フィルタの清掃［安全キャブ仕様］

フィルタが目詰まりするとエアコンの効率が低下します。
フィルタの網目を損傷させないように清掃をしてください。

10.1 内気フィルタの取付け、取外し［安全キャブ仕様］

取外し方法

1. 内気フィルタのくぼみを図の矢印方向に押さえながら外します。



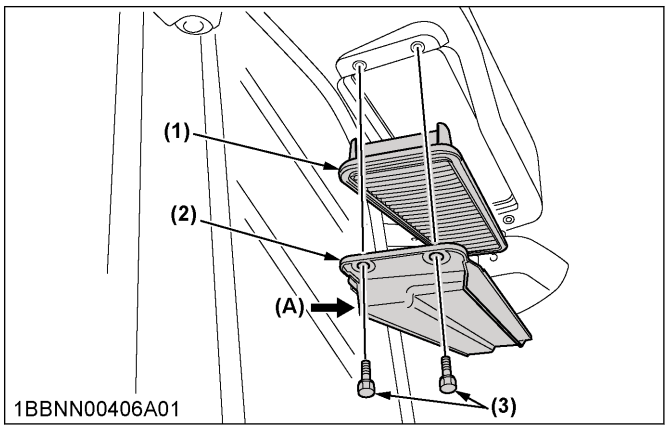
(1) 内気フィルタ　　*(A)* くぼみ

取付け方法

1. 内気フィルタを差し込みます。
   ワンタッチで取付けできます。

11. 外気フィルタの清掃［安全キャブ仕様］

1. ノブボルトを外し、カバーとフィルタをいっしょに外します。



(1) 外気フィルタ　　*(A)* 空気導入口
(2) カバー
(3) ノブボルト

2. フィルタを清掃します。

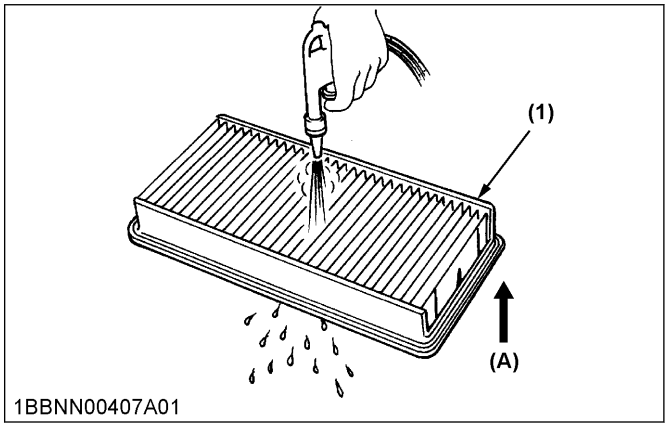
補足：
- **カバーを組み付けるときは、カバーの空気導入口を内側に向けて組み付けてください。**

11.1 外気フィルタの清掃方法［安全キャブ仕様］

通常

1. 風の流れ方向の逆方向よりエアブローします。
   エアの圧力は次の数値を超えないように注意し、ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。

エアの圧力	205 kPa (2.1 kgf/cm^2)



(1) 外気フィルタ　　*(A)* 風の流れ

重要：
- **エレメントをたたかないでください。**

エレメントが変形すると、エアコンユニットにほこりが浸入し、エアコンを損傷する場合があります。

汚れが著しいとき

1. 家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄します。

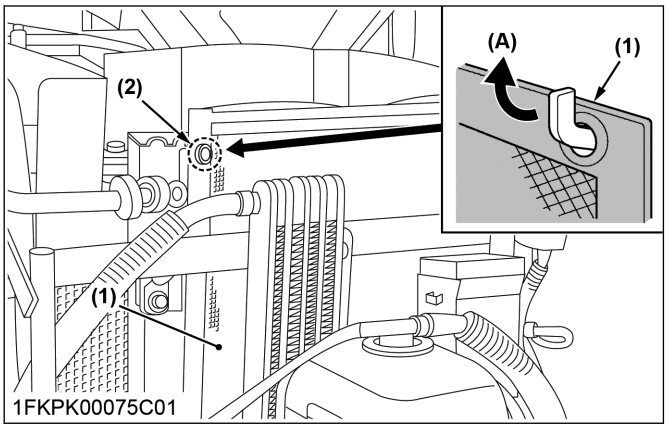
重要：
- **洗浄にガソリン、シンナなどを使用しないでください。**

2. 清水でよくすすぎます。
3. 洗浄後、完全に自然乾燥させます。

12. エアコンコンデンサの詰まり除去［安全キャブ仕様］

⚠ 警告
- **点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。**
- **エアコン使用時コンデンサやレシーバは熱くなります。じゅうぶん冷えてから点検、清掃を行ってください。**

1. 防虫網を外し、エアコンコンデンサを点検します。
2. コンデンサフィンにごみが詰まっていればエアブローまたは水道水などで取り除きます。



(1) 防虫網　　*(A)* 外す
(2) コンデンサ

重要：
- **高圧洗車機を使用する場合には、コンデンサのフィンを損傷させないように、注意してください。**

13. エアコンベルトの張り調整［安全キャブ仕様］

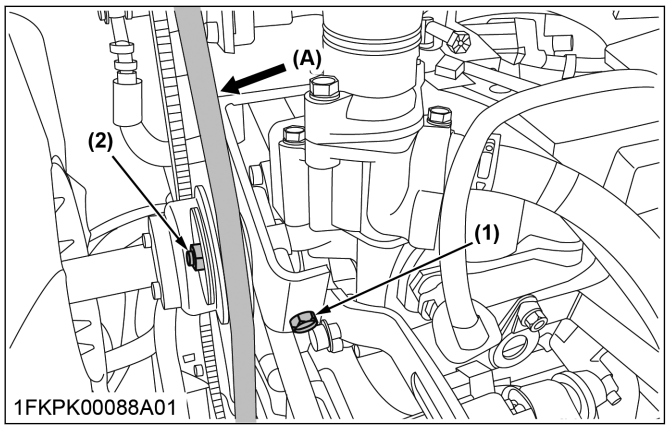
⚠ 警告

- **点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。**

1. エアコンベルトの張り強さが適正か点検します。

適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約 98 N (10 kgf)の力で押えて、10 mm～12 mm たわむ程度

2. 張り強さが適正でない場合は、エアコンベルトの張りを調整します。
   a. ナットをゆるめ、調整ボルトで張ります。



(1) 調整ボルト
(2) テンションプーリ取付けナット
(A) 押す

14. クローラガイドの点検［パワクロ仕様］

- 購入先で点検および交換をしてもらいます。

15. 転輪、遊輪の点検［パワクロ仕様］

- 購入先で点検および交換をしてもらいます。

16. スプロケットの点検［パワクロ仕様］

- 購入先で点検および交換をしてもらいます。

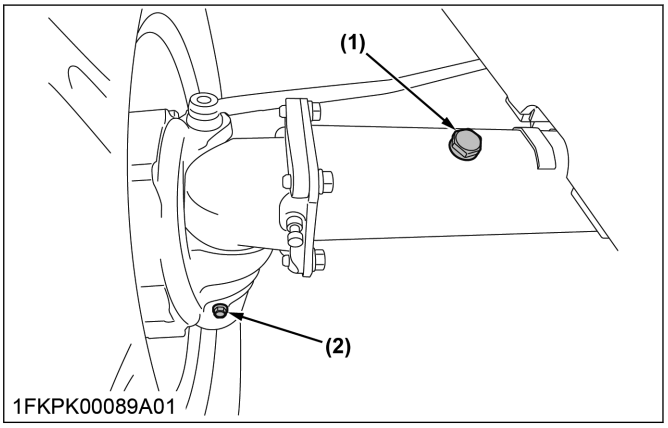
17. ゴムクローラの点検［パワクロ仕様］

- 購入先で点検および交換をしてもらいます。

300 時間ごとの点検、整備

1. 前車軸ケースオイルの交換

1. 床面に容器を置き、給油プラグとドレーンプラグを外してオイルを排出します。



(1) 給油口
(2) ドレーンプラグ

補足：

- **給油プラグを外さないと、空気が入らないのでオイルの排出に時間がかかります。**

2. ドレーンプラグを締めます。

締付けトルク	21.6 N·m～25.4 N·m (2.2 kgf·m～2.6 kgf·m)

3. 給油口から新しいオイルを入れます。
4. 給油プラグを締めます。

400 時間ごとの点検、整備

1. ミッションオイルの交換

⚠ 警告

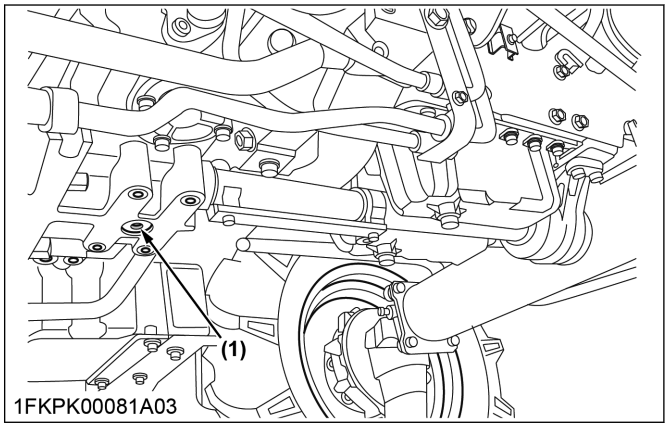
- **交換をするときは、必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行ってください。**
  ヤケドのおそれがあります。

1. 床面に容器を置き、給油プラグとドレーンプラグを外してオイルを排出します。

2. ミッションオイルの排出後は確実にドレーンプラグを締めます。

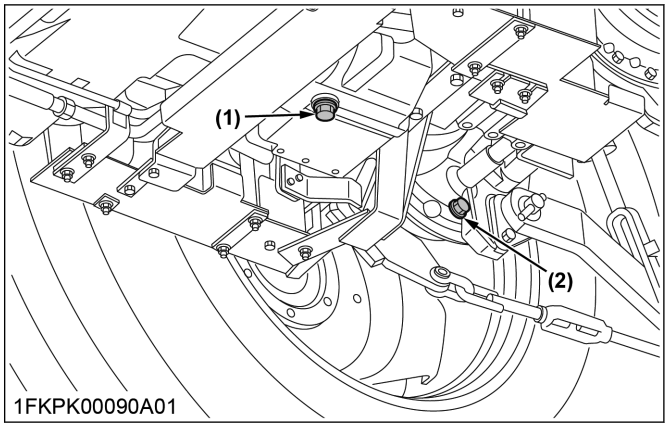
締付けトルク

ドレーンプラグ（前）	69.6 N·m （7.1 kgf·m）
ドレーンプラグ（後）	69.6 N·m （7.1 kgf·m）
ドレーンプラグ（左右）	40.2 N·m （4.1 kgf·m）



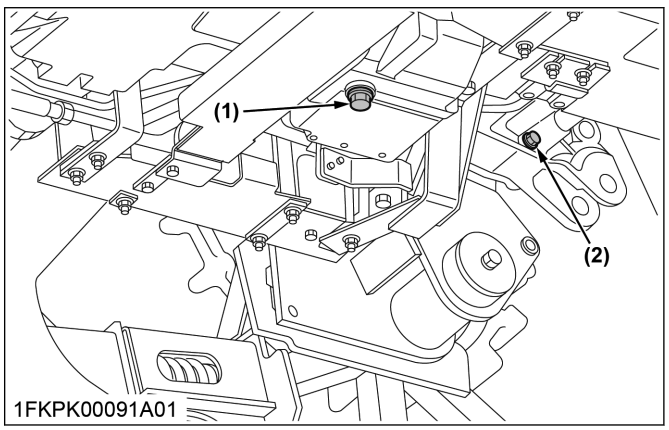
(1) ドレーンプラグ（前）

ホイール仕様



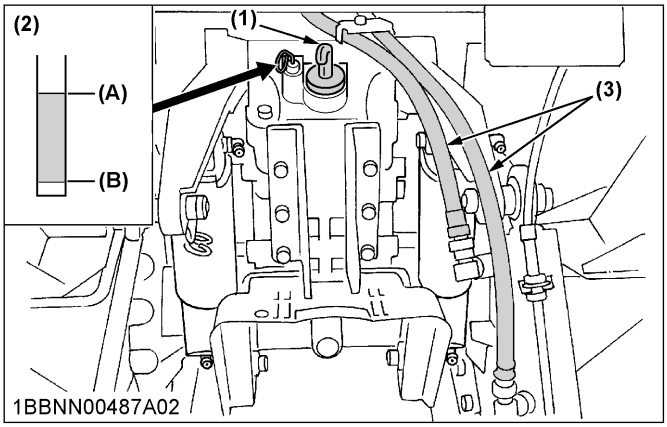
(1) ドレーンプラグ（後）　*(2)* ドレーンプラグ（左右）

パワクロ仕様



(1) ドレーンプラグ（後）　*(2)* ドレーンプラグ（左右）

3. ミッションオイルを給油口から、規定量まで入れます。



(1) 給油プラグ
(2) オイルゲージ
(3) 油圧ホース
(A) 上限
(B) 下限

4. 給油後、給油プラグを取り付けます。

重要：
- **給油プラグのフックの向きが正面に来るように取り付けてください。**
  フックを横に向けて取り付けると、油圧ホースと干渉し破損するおそれがあります。

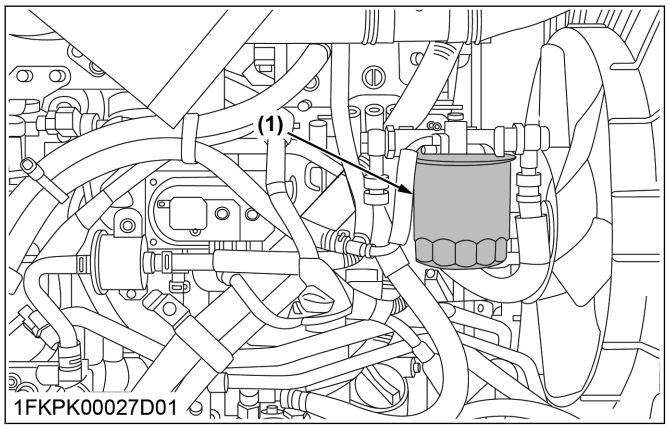
5. エンジンを始動して 2 分～3 分運転してから止め、再度油量を点検して規定量まで補給します。
6. 一度オイルゲージの油を拭き取り再びオイルゲージで油面を確認し、不足していれば補給します。
   作業機（ロータリ）付きの場合は、作業機（ロータリ）を下げて確認してください。

重要：
- **ミッションオイルやフィルタ交換後、すぐに走行しないでください。数分間低速でエンジンを回し、各部にオイルが行き渡ってから発進してください。**

2. 燃料フィルタカートリッジの交換

1. フィルタレンチでフィルタを外します。

2. 新しいフィルタカートリッジを組み付けます。
   a. パッキンに燃料を薄く塗布します。
   b. フィルタレンチを使用せず手で確実に締め付けます。



(1) 燃料フィルタカートリッジ

重要 :
- **組み付けるときは、チリやホコリが付着しないように注意しましょう。**

3. 空気抜きを行います。
（詳細は、燃料の空気抜き手順（162 ページ）を参照）

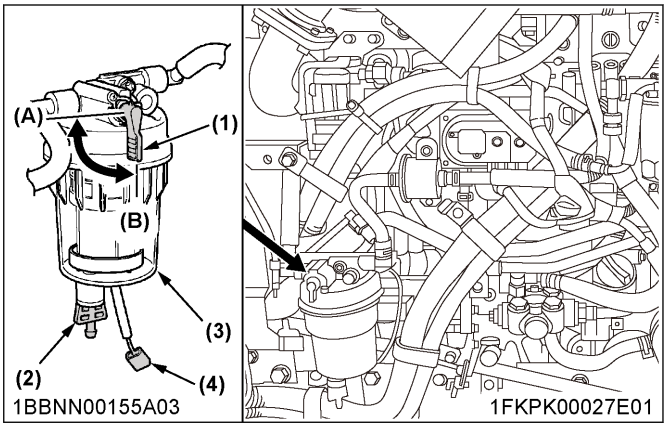
重要 :
- **カートリッジ交換後は、必ず空気抜きをしてください。**

3. ウォータセパレータの清掃

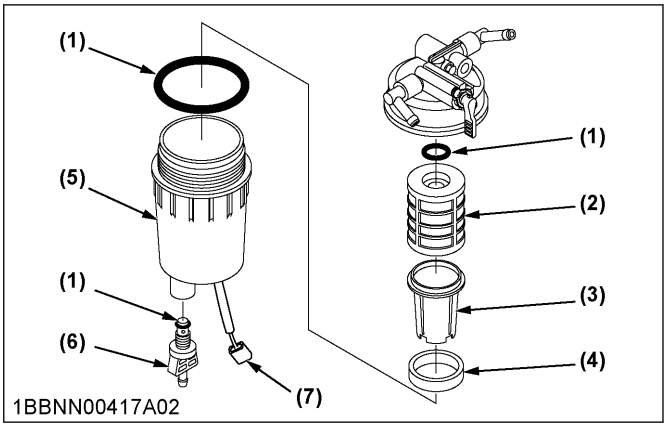
1. 水位センサのコネクタを外します。
2. 燃料コックを“閉”にします。
3. 下部ドレーンプラグをゆるめて燃料を排出後、カップを外します。
4. カップやエレメントなどを軽油で洗浄します。
5. 次図を参考にもとどおりに組み付けます。

重要 :
- **組み付けるときは、チリやホコリが付着しないようにほ場などでは実施せず、きれいな場所で行ってください。**

6. 水位センサのコネクタを取り付けます。
7. 燃料コックを“開”にします。



(1) 燃料コック
(2) ドレーンプラグ
(3) カップ
(4) 水位センサのコネクタ
(A) 閉
(B) 開



(1) O リング
(2) エレメント
(3) エレメントカップ
(4) 赤フロート
(5) カップ
(6) ドレーンプラグ
(7) 水位センサのコネクタ

重要 :
- **組付け後コックを“開”にし、必ず空気抜きをしてください。**
（燃料の空気抜き手順（162 ページ）を参照）

600 時間ごとの点検、整備

1. 前部デフケースの前後遊びの点検、調整

前部デフケース支持部の調整が悪いと、前輪が著しく振れたり、ハンドルに振動が伝わってきます。

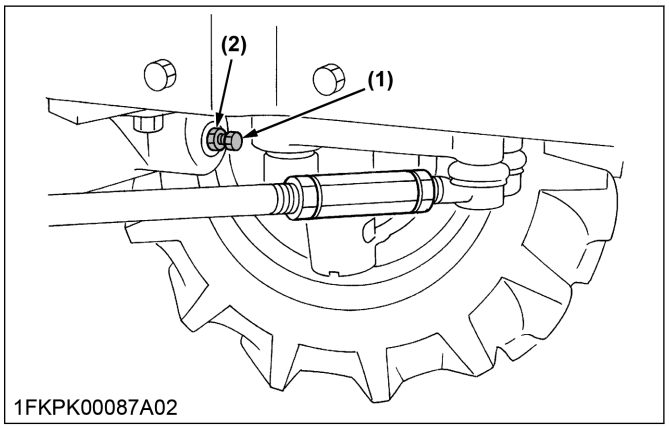
1.1 前部デフケースの前後遊びの点検

1. 前後方向のガタを点検します。
2. ガタがあれば調整します。

1.2 前部デフケースの前後遊びの調整

1. 前輪タイヤの両輪を持ち上げて、ロックナットをゆるめます。

2. 調整ボルトを締め込みガタを調整します。



(1) 調整ボルト　*(2)* ロックナット

3. ロックナットを締めます。

800 時間ごとの点検、整備

1. エンジンバルブクリアランスの点検

- 購入先で点検および交換をしてもらいます。

1500 時間ごとの点検、整備

1. 燃料インジェクタの点検

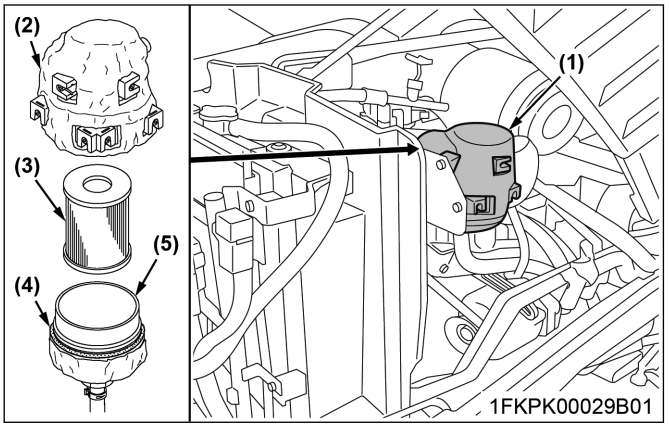
- 購入先で点検および交換をしてもらいます。

2. オイルセパレータエレメントの交換

警告

- **交換をするときは、必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行ってください。ヤケドのおそれがあります。**

1. カバーを外します。
2. オイルセパレータエレメントを外し、きれいな布でケース内の油や汚れを拭きます。
3. 新しいオイルセパレータエレメントを取り付けます。
4. カバーを取り付けます。



(1) オイルセパレータ
(2) 本体
(3) オイルセパレータエレメント
(4) ガスケット
(5) カバー

3. EGR クーラの点検、清掃

- 購入先で点検および交換をしてもらいます。

3000 時間ごとの点検、整備

1. サプライポンプの点検

- 購入先で点検および交換をしてもらいます。

2. EGR システムの点検、清掃

- 購入先で点検および交換をしてもらいます。

3. DPF マフラの清掃

3.1 DPF マフラの灰（燃えカス）の除去

DPF には灰（燃えカス）が堆積していきます。堆積した灰は DPF の性能を低下させます。

- 購入先で点検および交換をしてもらいます。

  重要：
  - **DPF は専用機での洗浄が必要です。分解したりせず購入先で専用機による洗浄をしてもらってください。**

3 か月ごとの点検、整備

1. エアコン機器の簡易点検[安全キャブ仕様]

当機搭載のエアコン機器は、フロン排出抑制法により 3 か月に 1 回以上の簡易点検が義務付けられています。
点検を行い、その記録を残してください。点検記録は、当機を使用中および廃棄後 3 年間は保存してください。
当機を譲渡する場合は、譲渡先に点検記録を渡してください。
冷媒（ガス）の漏えいを発見した場合は、速やかに購入先に漏えい箇所の修理を依頼してください。

1 年ごとの点検、整備

1. エアクリーナエレメントの交換

エレメントの交換は 1 年間使用後、または 6 回掃除ごとに交換が必要です。

1. 交換時期が来たらエアクリーナエレメントを交換します。
（エアクリーナエレメントの清掃、交換（149 ページ）を参照）

2. ヒータ配管、ウォータホースの点検 [安全キャブ仕様]

1. 各配管およびホースの損傷を点検します。

3. エアコン配管、ホースの点検 [安全キャブ仕様]

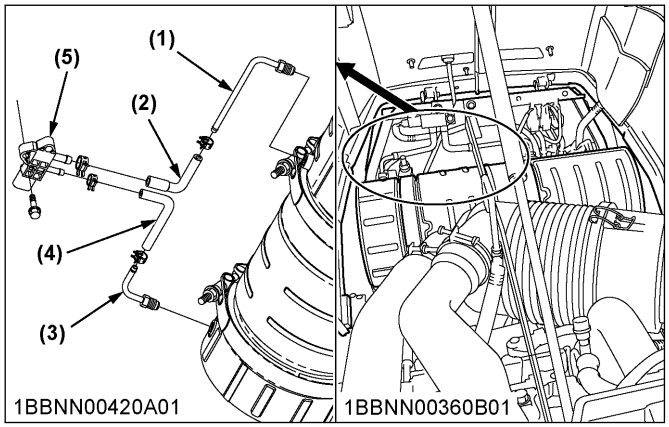
1. 各配管およびホースの損傷を点検します。

4. エキゾーストマニフォールドの点検

- 購入先で点検および交換をしてもらいます。

5. DPF 差圧センサパイプの点検

- 購入先で点検および交換をしてもらいます。



(1) DPF 差圧センサパイプ 1（*DPF* 入口側）
(2) DPF 差圧センサホース 1（*DPF* 入口側）
(3) DPF 差圧センサパイプ 2（*DPF* 出口側）
(4) DPF 差圧センサホース 2（*DPF* 出口側）
(5) DPF 差圧センサ

6. EGR パイプの点検

- 購入先で点検および交換をしてもらいます。

2 年ごとの点検、整備

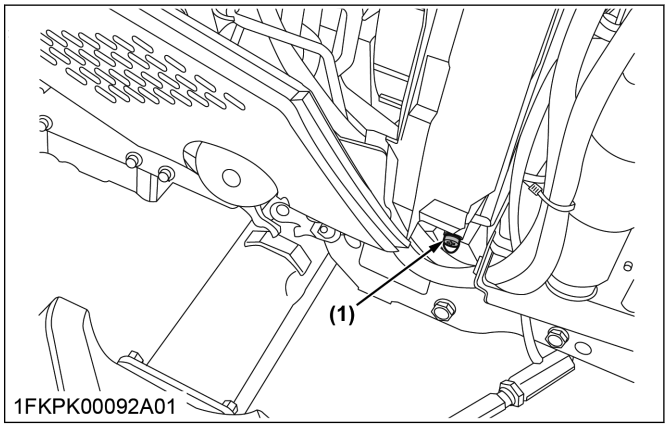
1. 冷却水の交換

⚠ 警告

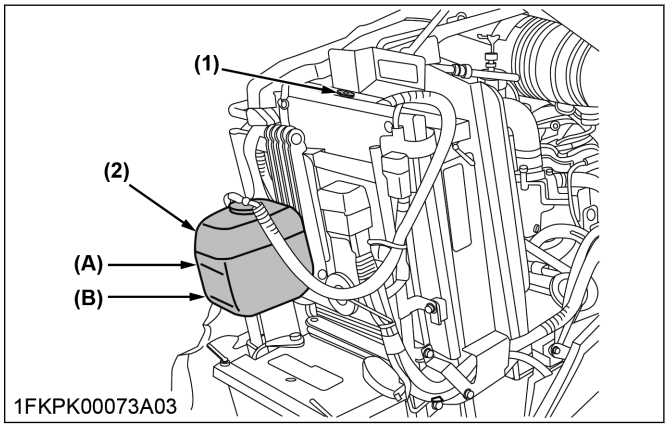
- **ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けると、熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後 30 分以上たって、冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し、余圧を抜いてからキャップを外してください。**

1. 床面に容器を置き、ラジエータの排水コックとラジエータキャップを開き、冷却水を全部出します。
2. ポンプなどを用いリザーブタンクより排水します。
3. 水道の水でラジエータ内を洗浄し、排水コックを取り付けます。

4. ラジエータおよびリザーブタンクに冷却水を注入したのち、ラジエータキャップを確実に閉めます。



(1) 排水コック



(1) ラジエータキャップ
(2) リザーブタンク
(A) 上限
(B) 下限

重要：

- **冷却水補給後エンジンを運転し、リザーブタンク内の量およびラジエータの給水口のすぐ下まで冷却水があることを確認してください。そうでないと、冷却水の量が不足しエンジンの破損につながるおそれがあります。**
- **冷却水交換作業では、エアかみをおこす可能性があります。交換時は、購入先にご相談ください。**

- **［安全キャブ仕様］**はヒータに冷却水が循環するため、冷却水が約 1.5 L ヒータ部に必要となります。
  冷却水を交換した場合、冷却水をリザーブタンクの注入口までいっぱいにし、温度コントロールつまみを*"WARM"*（右端）に回してヒータ*"ON"*にして、しばらくエンジンを回し、冷却水を暖め、エンジンを止めてください。
  このとき吹出口より温風が出ることを確認してください。温風が出ない場合は購入先にご相談ください。
  冷却水が冷えると、リザーブタンクの冷却水が吸い込まれ、リザーブタンクの冷却水が適量になります。

1.1 不凍液の使用方法

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており、冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。冬期気温が 0 ℃以下になるようなときは、必ず不凍液（ロングライフクーラント）を清水と混合しラジエータおよびリザーブタンクに補給するか、または冷却水を完全に排水してください。工場出荷時は、不凍液（ロングライフクーラント）が入っています。

重要：

- **冷却水には、不凍液（ロングライフクーラント）を 50%入れ、よく水と混ぜ合せてからお使いください。**
- **不凍液の混合比を誤ると、冬期には冷却水の凍結、夏期にはオーバーヒートの原因になります。**
- **不凍液を使用する場合は、ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので、保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり、エンジン部品に悪影響を与えます。**
- **不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は 2 年間です。必ず 2 年で交換してください。**

不凍液の保証不凍結温度

原液混合比 (%)	15	20	25	30	35	40	45	50	55
保証不凍結温度(℃)	-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-43

2. ラジエータの洗浄

1. 次のような場合はラジエータを洗浄します。
   - 2 年使用ごと
   - 不凍液を混入するとき
   - 不凍液混入から水だけに変えるとき

   洗浄には、ラジエータ洗浄剤を使用すれば、水アカなどきれいに洗浄できます。

3. ラジエータホースの交換

- 購入先で点検および交換をしてもらいます。

4. パワーステアリングホースの交換

- 購入先で点検および交換をしてもらいます。

5. 吸気ホースの交換

- 購入先で点検および交換をしてもらいます。

6. 燃料ホースの交換

- 購入先で点検および交換をしてもらいます。

7. モンローシリンダホースの交換

- 購入先で点検および交換をしてもらいます。

8. メインシリンダホースの交換

- 購入先で点検および交換をしてもらいます。

9. オイルクーラホースの交換

- 購入先で点検および交換をしてもらいます。

10. オイルセパレータホースの交換

- 購入先で点検および交換をしてもらいます。

11. DPF 差圧センサホースの交換

- 購入先で点検および交換をしてもらいます。

必要に応じた点検、整備

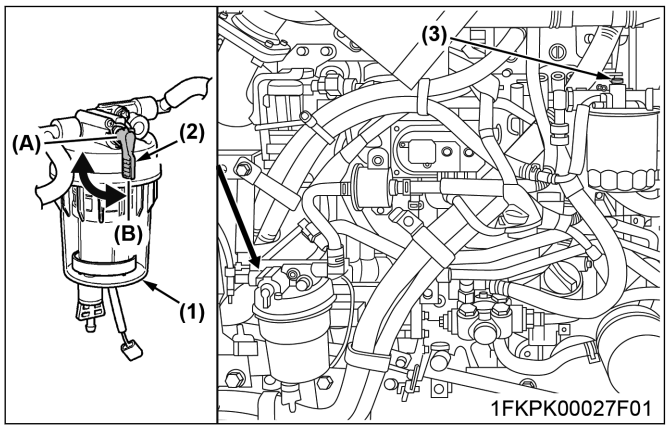
1. 燃料の空気抜きのしかた

燃料の空気抜きは、次のようなときに行う必要があります。

- セパレータより排水および分解洗浄したとき
- 燃料フィルタおよび配管を取り外したとき
- 燃料切れが起きたとき
- トラクタを長時間使用しなかったとき

1.1 燃料の空気抜き手順

1. タンクに燃料を満たし、燃料コックを"開"にします。
2. 燃料フィルタの空気抜きプラグを約 2 回転ゆるめます。



(1) ウォータセパレータ
(2) 燃料コック
(3) 空気抜きプラグ
(A) 閉
(B) 開

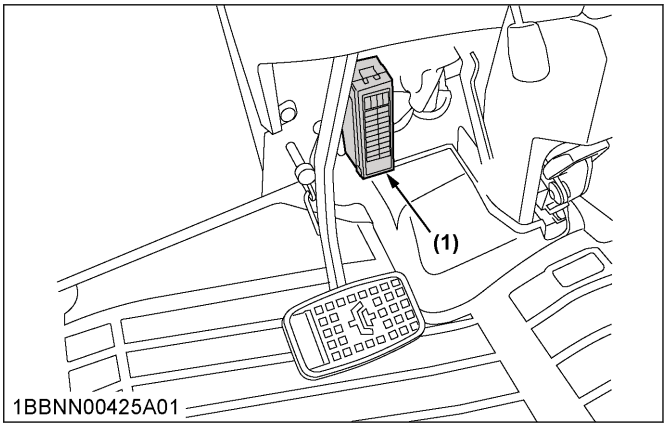
重要：

- **燃料フィルタの空気抜きプラグをゆるめないで、空気抜きの操作を行わないでください。**

3. キースイッチにキーを差し込み**[入]**位置にして、約 1 分間待ちます。
4. 燃料フィルタの空気抜きプラグを締めます。
5. アクセルレバーを低速回転位置でエンジンを始動します。
   スタータを連続 10 秒間回しても始動しない場合は、30 秒間休み、この操作を再度 1 回～2 回繰り返します。
6. 燃料系に残された空気を取り出すために、エンジン回転数を上げます。
7. これらの操作後、まだ空気が抜けずにエンストする場合は、再度空気抜きを行います。

2. ヒューズの交換

1. ヒューズボックスのふたを外します。
2. ヒューズを外します。



(1) ヒューズボックス

3. 切れた物と同容量のヒューズと交換します。

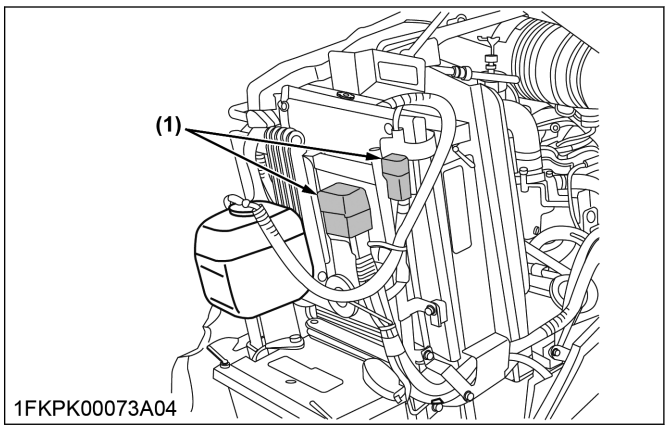
重要：

- **ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、針金や銀紙などで代用せず、購入先で点検、修理してください。**

3. スローブローヒューズの交換

スローブローヒューズは、配線を保護するための物です。

- もしスローブローヒューズが切れた場合は、購入先で点検、修理してもらいます。



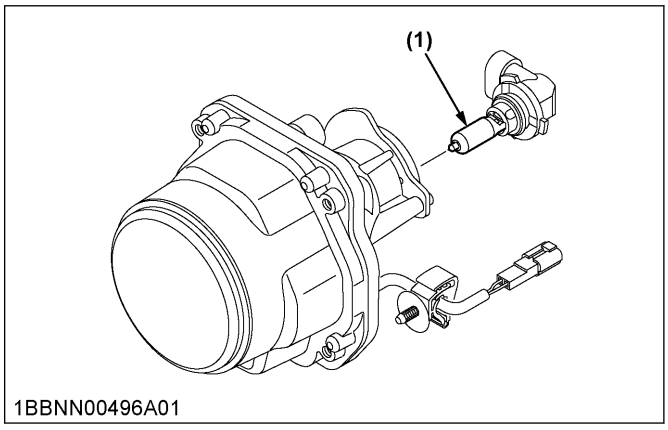
(1) スローブローヒューズ

4. ヘッドランプの交換

⚠ 警告

- **電球を落としたり、キズをつけたりしないでください。破損した場合、ガラス片が飛散しケガの原因となります。特にハロゲン電球は、ガラス内部の圧力が高いため、注意してください。**
- **電球を交換するときは、じゅうぶん冷えてから行ってください。**
  ヤケドの原因となることがあります。

1. 電球を交換ます



(1) 電球

重要：

- **ワット数の大きい電球を取り付けないでください。**
- **素手でガラス面を触らないでください。指紋や油脂が付着すると電球が破損するおそれがあります。**

5. ランプ一覧

ヘッドランプ	60 W
ウインカランプ（前）	21 W
ウインカランプ（後）	21 W
車幅灯	5 W
尾灯、ブレーキランプ	5 W / 21 W
バックランプ	21 W

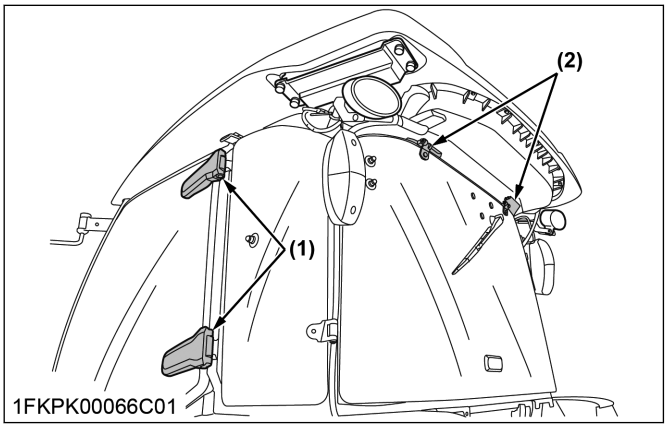
6. ホーン接点のグリース塗布

ハンドルのホーン接点用グリースが切れると、ハンドルを回したときに音が鳴ります。

- もし音が鳴っている場合は、購入先で点検およびグリースを塗布してもらいます。

7. ドアヒンジ部とリヤウインドヒンジ部の注油［安全キャブ仕様］

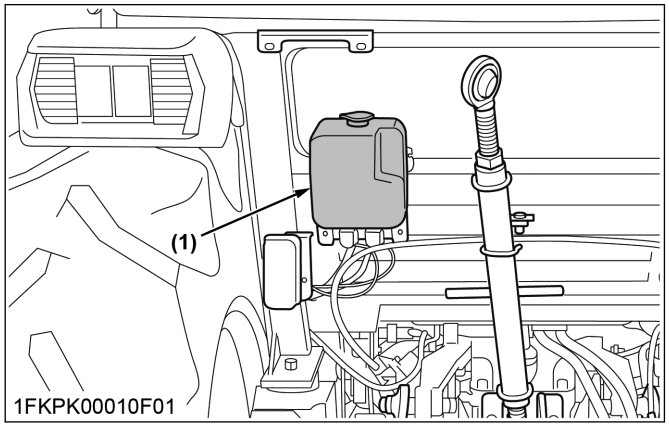
1. ドアやリヤウインドの開閉がうまくいかないときは、図で示された箇所に注油します。



(1) ドアヒンジ部　*(2)* リヤウインドヒンジ部

8. ウォッシャ液の補充［安全キャブ仕様］

1. ウォッシャタンク内のウォッシャ液が少なくなってきたら、自動車用ウォッシャ液を適量補充します。



(1) ウォッシャタンク

重要：
- **凍結を避けるため、清水のみの使用はしないでください。**
- **空回しはポンプを損傷させる原因となりますので空運転をしないでください。**
- **ウォッシャノズルの詰まりを防ぐために、ごみが入らないようにしてください。**

9. 冷媒（ガス）量の点検［安全キャブ仕様］

冷媒が不足するとエアコンの冷えが悪くなります。

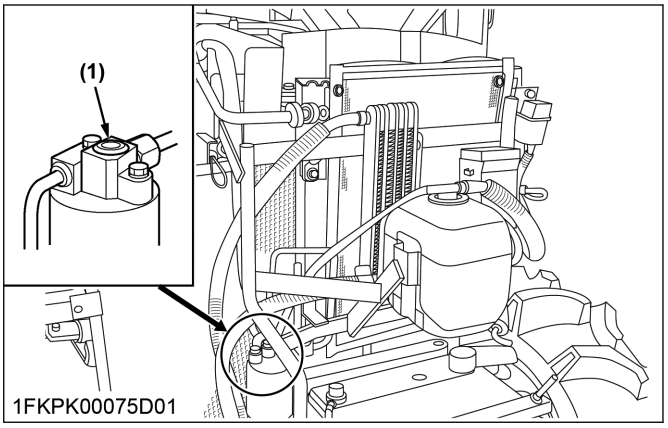
1. 冷媒（ガス）量の点検方法［安全キャブ仕様］（164 ページ）の要領で点検します。
2. 冷媒が不足しているときは、速やかに購入先に漏えい箇所の修理を依頼します。

9.1 冷媒（ガス）量の点検方法［安全キャブ仕様］

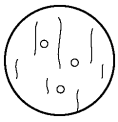
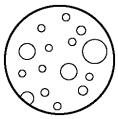
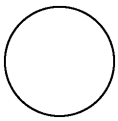
1. エアコンを次の条件で運転します。

ドア	全開
周囲の空気温度	30 ℃～35 ℃
エンジン回転数	約 1500 rpm
温度コントロール	最強冷位置（左端）
ファンスイッチ	最強風
内外気切換え	内気循環
エアコンスイッチ	入 インジケータランプ点灯

2. サイトグラスにより、冷凍サイクルを流れている冷媒の状態を確認します。



(1) サイトグラス

	適正	流れの中にほとんど気泡が含まれていない。
	不足	流れの中に気泡が含まれている。 気泡が断続的に通過する。
	無し	無色透明

10. スプロケットの交換［パワクロ仕様］

- 購入先で点検および交換をしてもらいます。

補足：
- **オイル、オイルシール、クローラガイド、スプロケット、およびゴムクローラ交換要領の詳細については、購入先にご相談ください。**

11. ゴムクローラの交換[パワクロ仕様]

- 購入先で点検および交換をしてもらいます。

補足：
- **ゴムクローラ交換後、ゴムがなじむまでの間ゴムクローラの張りがゆるみやすくなるので、必要に応じてクローラの張りの点検と調整を行ってください。**
- **オイル、オイルシール、クローラガイド、スプロケット、およびゴムクローラ交換要領の詳細については、購入先にご相談ください。**

格納

1. 長期格納時の手入れ

⚠ 警告

- **長期格納時は、クラッチ固着防止のため、クラッチ“切”に固定してください。クラッチが固着するとエンジン始動と同時に車体が動くことがあります。**
- **シートをかける場合は、マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。火災を起こす原因になります。**

トラクタを長い間使用しない場合は、次の要領で整備してから格納しましょう。

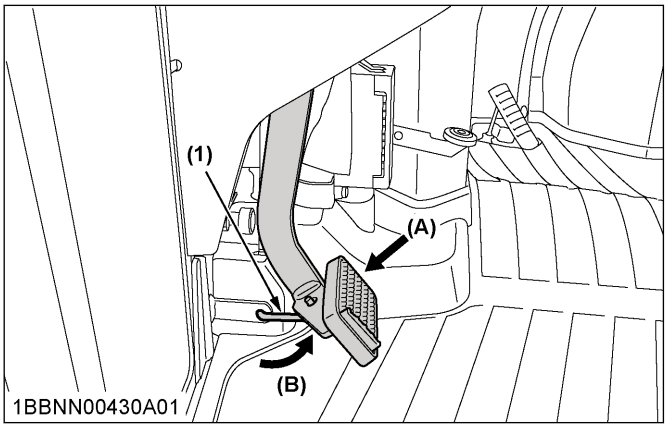
- 不具合箇所は整備してください。
- エンジンオイルを交換し、2000 rpm 以上で 10 分～15 分間の防錆運転をし、各部にオイルをゆきわたらせてください。
  その後も 1 か月～2 か月ごとに同様に防錆運転をしてください。
- 定期点検一覧表の項目を確認するようにしてください。
- 車体のさびやすい部分には、グリースかオイルを塗っておいてください。
- 周囲の安全を確認した後エンジンを始動させ、各油圧シリンダの防錆運転を 1 か月～2 か月ごとに行ってください。
  - ステアリングハンドルを左右に、パワーステアリングシリンダがストロークエンドに達するまで 1 回～2 回まわします。
  - 油圧（ポジションコントロール）レバーで 3 点リンク（作業機）を最上昇位置まで 1 回～2 回上下させます。
  - モンロー手動スイッチまたはモンロー角度調節ダイヤルで、リフトシリンダ（右）を 1 回～2 回全ストローク伸縮させます。
    作業機が装着されているときは作業機を上げてから行ってください。
- 燃料コックを“閉”にしておいてください。
- 冷却水は抜いておいてください。ただし、オールシーズンタイプのクーラントであれば抜かなくても構いません。
- クラッチペダルは、クラッチ板のさび付きによりクラッチが切れなくなる場合がありますので、クラッチを踏み込んだ状態で必ずロックしてください。
- クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して、水が浸入していないことを確認してください。
- タイヤの空気圧は、標準より少し多めにしてください。
- バッテリを本機から取り外し風通しの良い冷暗所に保管してください。またトラクタに取り付けたまま保管するときは必ずアース側（－側）を外してください。
- ウエイトは取り外し、作業機は、外すか地面に降ろした状態にしてください。
- 後輪の前後に車止めをしておいてください。
- 各部の配線、バッテリコード、燃料配管などのキレツ、被覆の破れ、コードクランプの外れは、確実に点検、整備してください。
- 格納中バッテリは、1 か月に 1 回充電器で完全充電するようにしましょう。
- 格納場所は、周囲にわらなど燃えやすい物が無い雨のかからない乾燥した場所を選定し、シートをかけるようにしましょう。
- 燃料は満タンにしてください。空にしておくと水滴ができ、燃料系統の故障の原因になります。

重要：

- **クラッチペダルをロックせずに長期保管した場合、クラッチ板のさび付きにより、クラッチが切れなくなるだけでなくクラッチが損傷する場合があります。**
- **洗車するときは、次の点に注意して行ってください。**
  - **エンジンを止めてから行ってください。もしエンジンをかけて行うときはエアクリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入ると故障の原因となります。**
  - **灯火類は消灯した状態で行ってください。もし点灯した灯火類に直接水がかかるとランプのバルブが切れるおそれがあります。**
  - **［安全キャブ仕様］で高圧洗車機を使用するときは、ノズルの先端をドア、リヤウインドなどに近づけすぎないでください。近づけすぎると水圧が高いため、室内に水が入るおそれがあります。**
- **格納時は、必ずキースイッチ[切]の位置でキーを抜いておいてください。**
- **バッテリの取付けの際には、（＋）と（－）をよく確認し、絶対に逆に接続しないでください。逆に接続すると、トラクタの電子機器類が破損する場合があります。**

1.1 クラッチの切状態保持の方法

1. クラッチペダルをいっぱい踏み込み、“ロック”します。



(1) ロック金具
(A) 踏む
(B) ロック

2. ロックしたまま、クラッチペダルから足を離します。これでクラッチは、“切”の状態で保持されます。

トラクタを使用するときは、クラッチペダルをいっぱい踏み込めば、“ロック”が外れ、“切”保持の状態が解除されます。

2. 作業機を装着しているトラクタの保管について

⚠ 警告

- **トラクタ保管の際は、作業機を取り外すか必ず地面に降ろした状態で保管してください。作業機の自然落下などによる挟まれのおそれがあります。**

重要：

- **作業機を装着している場合は、作業機を取り外すか必ず地面に降ろした状態で保管してください。落下による器物破損やトラクタ作業機昇降装置の故障の原因となります。**

3. 長期格納後の運転

3.1 長期格納後のエアコンの取扱い

重要：

- **オートエアコン付きトラクタで 1 か月以上長期放置後、オートエアコンを使用する場合は、コンプレッサ保護のため、必ず“エンジンアイドリング”にてファンスイッチ“*LOW*”、エアコンスイッチ“入”にし、5 分以上エアコンを作動させてください。ファンスイッチ[AUTO]での起動ではコンプレッサが作動しない場合があります。**

不調と処置

1. エンジンの不調と処置

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し、適切な処置をしてください。

現象	原因	処置
始動困難な場合	燃料が流れない。	• 燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を除いてください。 • 燃料フィルタを点検し、汚れていれば交換してください。
	燃料送油系統に、空気や水が混入している。	• ホース、プラグ、袋ナット、および締付けバンドを点検し、ゆるみがあれば締め、損傷があれば新品と交換または補修しておきます。 • 空気抜きをしてください。 （燃料の空気抜きのしかた（162 ページ）を参照）
	寒冷時にオイル粘度が高く、エンジン自体の回転が重い。	• ラジエータに熱湯をそそいでください。
	バッテリがあがり気味で、回転力が弱くなって圧縮を越す勢いが無い。	• バッテリを充電してください。
出力不足の場合	燃料不足	• 燃料を補給してください。 • 燃料系統を調べてください。特に空気混入に注意してください。
	燃料の流れ不足	• 燃料フィルタの清掃をしてください。
	エアクリーナの目詰まり	• エレメントを清掃してください。
突然停止した場合	燃料不足	• 燃料を補給してください。 • 燃料系統を調べてください。特に空気混入に注意してください。
	燃料が流れない。	• 燃料フィルタを点検し、汚れていれば交換してください。
排気色が異常に黒い場合	燃料が悪い。	• 良質の燃料に交換してください。
	エンジンオイルの入り過ぎ。	• 正規のオイル量にしてください。
	エアクリーナの目詰まり	• エレメントを清掃、または交換してください。
水温計が**[H]**付近を示すとき	冷却水が 125 ℃付近になったため。	• 冷却水の量が不足していないか、および水もれの点検をしてください • ファンベルトの張りにゆるみが無いかの点検をしてください • フロントグリル、ラジエータの防虫網にごみの詰まりが無いか点検してください
始動時青白煙が消えない	前の作業が長時間にわたるアイドリング運転で終わっている場合、または冷機時アイドリング運転の繰返しであった場合、マフラ内部に湿りが残っている。	• 負荷をかけてマフラをじゅうぶんに加熱してください。冷機時アイドリング運転の繰返し、および長時間にわたるアイドリング運転は極力避けてください。
	インジェクタ不良	• インジェクタを点検してください。
	燃料不良	• 良質の燃料に交換してください。
エンジン異常警告灯が点灯する	—	• いったんエンジンを止め、再始動を行ってください。 • エンジンが再始動できない場合や警告灯が消灯しない場合、購入先へご相談ください。 • 警告灯が点灯時、エンジンの故障箇所により次の現象が現れます。 – エンジンが突然止まった。 – エンジンが再始動できない。または始動してもすぐ止まる。 – エンジン出力がじゅうぶんでない。 – エンジン出力はじゅうぶんあるが、警告灯が点灯する。 – エンジン回転がアイドリングから上がらない。

重要：

- **わからない場合は、購入先にご相談ください。**

2. トラクタの故障と処置

異常が生じた場合、電子メータに異常箇所を示す次表のメッセージが表示されます。
もし表示された場合、すぐ購入先に連絡して点検、整備を受けてください。
なお、故障箇所によっては緊急避難処置として一部機能制限をした使用ができる場合もあります。詳細はメッセージと処置の欄を確認してください。

エンジン

電子メータメッセージの表示	原因	処置
"エンジン停止します レール圧確認" "購入先へ連絡して下さい"	レール圧の異常	"回転制限" 3 分後エンジン停止します。速やかに停車し、購入先に連絡してください。
"エンジン 水温センサ確認" "購入先へ連絡して下さい"	水温センサの異常	"回転制限" EGR 停止します。購入先に連絡してください。
"エンジン停止します" "レール圧センサ確認" "購入先へ連絡して下さい"	レール圧センサの異常	"回転制限" 3 分後エンジン停止します。速やかに停車し、購入先に連絡してください。
"エンジン インジェクタ確認" "購入先へ連絡して下さい"	インジェクタの異常	"回転制限、レール圧制限（出力制限）、故障状態によって *3* 分後エンジン停止" 速やかに停車し、購入先に連絡してください。
"エンジン グローリレー確認" "購入先へ連絡して下さい"	グローリレーの異常	"グロー常時通電" 購入先に連絡してください。
"エンジン EGR バルブ確認" "購入先へ連絡して下さい"	EGR バルブの異常 EGR DC モーターの異常 EGR リフトセンサの異常	"回転制限、レール圧制限（出力制限）" 購入先に連絡してください。
"バッテリ電圧確認" "高電圧を検出"	バッテリ電圧の異常	"回転制限、レール圧制限（出力制限）、*EGR* 停止" 購入先に連絡してください。
"エンジン ECU 確認" "購入先へ連絡して下さい"	エンジン ECU の異常 エンジン ECU の通信異常	"回転制限、またはエンジン停止" 速やかに停車し、購入先に連絡してください。
"エンジン停止します" "エンジン SCV 確認" "購入先へ連絡して下さい"	SCV の異常	"エンジン停止" 速やかに停車し、購入先に連絡してください。
"エンジン メインリレー確認" "購入先へ連絡して下さい"	エンジンメインリレーの異常	購入先に連絡してください。
"エンジン レール PLV 確認" "購入先へ連絡して下さい"	レール PLV の異常	"エンジン停止" 速やかに停車し、購入先に連絡してください。
"エンジン 排気温センサ確認" "購入先へ連絡して下さい"	排気温センサの異常	"出力制限またはエンジン停止" 速やかに停車し、購入先に連絡してください。
"エンジン フィルタ差圧センサ確認" "購入先へ連絡して下さい"	フィルタ差圧センサの異常	"出力制限" 購入先に連絡してください。
"エンジン 吸気スロットルバルブ確認" "購入先へ連絡して下さい"	吸気スロットルバルブの異常 吸気スロットルセンサの異常	"出力制限" 購入先に連絡してください。
"エンジン MAF センサ確認" "購入先へ連絡して下さい"	MAF センサの異常	"出力制限" 購入先に連絡してください。
"エンジン NE センサ確認" "購入先へ連絡して下さい"	NE センサの異常	"出力制限" 購入先に連絡してください。
"エンジン センサ電源線確認" "購入先へ連絡して下さい"	エンジンセンサ電源ラインの異常	"出力制限" 購入先に連絡してください。
"フィルタ目詰まり警告" "購入先へ連絡して下さい"	PM 蓄積量が再生レベル 4 を超えたとき	"出力制限" 速やかに停車し、購入先に連絡してください。

[U シフト 前進 24 段仕様 トランスミッション]

電子メータメッセージの表示	原因	処置
"主変速レバーセンサ確認" "購入先へ連絡して下さい"	変速レバーセンサの異常	エンジン停止までは変速を保持します。 速やかに停車し、購入先に連絡してください。
"シフトソレノイド 1 確認" "1、2、9 速不可"	ソレノイド 1 の異常	シフトソレノイド異常が発生すると、変速レバー位置はそのままでも自動的に使用可能な変速段、あるいはニュートラルに変速します。 自動的に変速した変速段を表示しますので、変速段表示に注意して使用し、速やかに購入先に連絡してください。
"シフトソレノイド 2 確認" "3、4、10 速不可"	ソレノイド 2 の異常	
"シフトソレノイド 3 確認" "5、6、11 速不可"	ソレノイド 3 の異常	
"シフトソレノイド 4 確認" "7、8、12 速不可"	ソレノイド 4 の異常	
"副変速ソレノイド確認" "1〜8 速不可"	副変速ソレノイドの異常	
"H/L ソレノイド確認" "1、3、5、7 速不可"	Hi-Lo ソレノイドの異常	
"バルブ（GST、PRO）確認" "購入先へ連絡して下さい"	U シフト圧力バルブの異常	購入先に連絡してください。

[U シフト 前進 30 段仕様 トランスミッション]

電子メータメッセージの表示	原因	処置
"主変速レバーセンサ確認" "購入先へ連絡して下さい"	変速レバーセンサの異常	エンジン停止までは変速を保持します。 速やかに停車し、購入先に連絡してください。
"シフトソレノイド 1 確認" "1、2、9 速不可"	ソレノイド 1 の異常	シフトソレノイド異常が発生すると、変速レバー位置はそのままでも自動的に使用可能な変速段、あるいはニュートラルに変速します。 自動的に変速した変速段を表示しますので、変速段表示に注意して使用し、速やかに購入先に連絡してください。
"シフトソレノイド 2 確認" "3、4、10 速不可"	ソレノイド 2 の異常	
"シフトソレノイド 3 確認" "5、6、11 速不可"	ソレノイド 3 の異常	
"シフトソレノイド 4 確認" "7、8、12 速不可"	ソレノイド 4 の異常	
"副変速ソレノイド確認" "1〜8 速不可"	副変速ソレノイドの異常	
"H/L ソレノイド確認" "3、5、7 速不可"	Hi-Lo ソレノイドの異常	
"OD ソレノイド確認" "9〜12 速不可"	OD ソレノイドの異常	
"H/L ソレノイド確認" "3、5 速不可"	Hi-Lo ソレノイドの異常	
"シフトソレノイド 1 確認" "1 速不可"	ソレノイド 1 の異常	
"シフトソレノイド 2 確認" "2 速不可"	ソレノイド 2 の異常	
"シフトソレノイド 3 確認" "3、4 速不可"	ソレノイド 3 の異常	
"シフトソレノイド 4 確認" "5、6 速不可"	ソレノイド 4 の異常	
"バルブ（GST、PRO）確認" "購入先へ連絡して下さい"	U シフト圧力バルブの異常	購入先に連絡してください。

AD 倍速

電子メータメッセージの表示	原因	処置
“切れ角センサ確認” “AD 倍速・オートアップが使用できません”	切れ角センサの異常	走行モード切換スイッチを**[2WD]**または**[4WD]**に切り換えてください。 オートアップスイッチを“切”にしてください。
“2WD ソレノイド確認” “2WD・倍速が使用できません”	2WD ソレノイドの異常	走行モード切換スイッチを**[4WD]**に切り換えてください。
“倍速ソレノイド確認” “倍速が使用できません”	倍速ソレノイドの異常	走行モード切換スイッチを**[2WD]**または**[4WD]**に切り換えてください。
“AD ソレノイド（右）確認” “AD（右）が使用できません”	AD ソレノイド(R)の異常	走行モード切換スイッチを**[2WD]**、**[4WD]**、または**[倍速]**に切り換えてください。
“AD ソレノイド（左）確認” “AD（左）が使用できません”	AD ソレノイド(L)の異常	

その他

電子メータメッセージの表示	原因	処置
“PTO ソレノイド確認” “購入先へ連絡して下さい”	PTO 圧力バルブの異常	購入先に連絡してください。
“通信確認” “購入先へ連絡して下さい”	通信回線の異常	表示切換スイッチで表示モードを切り換えてください。 購入先に連絡してください。
“ハーネス（赤白線）確認” “購入先へ連絡して下さい”	センサ電源ラインの異常	アイドリングになります。 購入先に連絡してください。
“ECU 確認” “購入先へ連絡して下さい”	ECU の異常	購入先に連絡してください。
“スタータリレー確認” “購入先へ連絡して下さい”	スタータリレーの異常	購入先に連絡してください。
“シャトルスイッチ確認” “購入先へ連絡して下さい”	シャトルの異常	購入先に連絡してください。
“アクセルセンサ確認” “購入先へ連絡して下さい”	アクセルセンサの異常	アイドリングになります。 購入先に連絡してください。

付表

主要諸元

1. トラクタの主要諸元

[ホイール仕様]

型式				GJE28	GJE28X	GJE35	GJE35X	GJE35H	GJE35HX	GJE35HXN
仕様				標準仕様				ハイスピード仕様		
駆動方式				4 輪駆動						
機体寸法	全長		mm	3125		3190				
	全幅		mm	1380	1375	1445				
	全高		mm	1985	2190	1980	2185	1980	2185	
	軸距		mm	1695		1745				
	輪距	前輪	mm	1080		1130				
		後輪	mm	1050、1165		1110、1330				
	最低地上高		mm	315		330				
質量（重量）			kg	1330	1515	1410	1595	1420	1605	
エンジン	機関型式			D1803-CR-E4						
	形式			水冷 4 サイクル 3 気筒立形ディーゼル						
	総排気量		L	1.826						
	出力／回転速度		kW (PS) / rpm	20.6 (28) / 2600		25.7 (35) / 2700				
	使用燃料			ディーゼル軽油						
	燃料タンク容量		L	36		40				
	始動方式			セルモータ式（グロープラグ式）						
	バッテリ			80D26R						
タイヤ	前輪			7-16		8-16				
	後輪			11.2-24		13.6-24				11.2-28
車体	クラッチ方式			乾式単板						
	制動装置			一系統左右独立（連結装置付）、湿式ディスクブレーキ（機械式）						
	かじ取り方式			ボールスクリュ式（インテグラルパワーステアリング）						
	差動方式			2 ピニオンかさ歯車（デフロック付）		4 ピニオンかさ歯車（デフロック付）				
	変速方式			主・副変速：シンクロメッシュ クリープ：コンスタントメッシュ						
変速段数			段	前進 24 段、後進 16 段				前進 30 段、後進 20 段		
走行速度		前進	km/h	0.18～14.46		0.18～14.72		0.18～29.90		
		後進	km/h	0.19～12.96		0.19～13.19		0.18～26.79		
最小旋回半径（ブレーキ使用時）			m	2.1		2.2				
PTO	回転速度／エンジン回転速度	正転	rpm	549、775、960、1280 / 2600		552、779、964、1286 / 2700				
		逆転	rpm	960 / 2600		964 / 2700				

（次へ続く）

型式			GJE28	GJE28X	GJE35	GJE35X	GJE35H	GJE35HX	GJE35HXN
PTO	軸寸法	mm	JIS 35						
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール						
	装着方式		3 点リンク JIS 1 形						

[ ]は安全フレーム仕様

補足：

- **この主要諸元は、改良のため予告無く変更することがあります。**

［パワクロ仕様］

型式				GJE35KHX
仕様				ハイスピード仕様
駆動方式				4 輪駆動
機体寸法	全長		mm	3190
	全幅		mm	1550
	全高		mm	2255
	軸距		mm	1730
	輪距	前輪	mm	1170
		後輪	mm	1150
	最低地上高		mm	375
質量（重量）			kg	1875
エンジン	機関型式			D1803-CR-E4
	形式			水冷 4 サイクル 3 気筒立形ディーゼル
	総排気量		L	1.826
	出力／回転速度		kW (PS) / rpm	25.7 (35) / 2700
	使用燃料			ディーゼル軽油
	燃料タンク容量		L	40
	始動方式			セルモータ式（グロープラグ式）
	バッテリ			80D26R
タイヤ	前輪			8-18
	後輪			クローラタイプ
車体	クラッチ方式			乾式単板
	制動装置			一系統左右独立（連結装置付）、湿式ディスクブレーキ（機械式）
	かじ取り方式			ボールスクリュ式（インテグラルパワーステアリング）
	差動方式			4 ピニオンかさ歯車（デフロック付）
	変速方式			主・副変速：シンクロメッシュ クリープ：コンスタントメッシュ
変速段数			段	前進 30 段、後進 20 段
走行速度		前進	km/h	0.17～21.93
		後進	km/h	0.18～19.65
クローラ	幅×接地長		mm	400×910
	リンク数×ピッチ		mm	38×90
	接地面積		cm^2	7280
	接地圧		kPa (kgf/cm^2)	14.1 (0.14)
	緩衝方式			揺動式（±9°）
	遊輪／転輪			2 / 3
PTO	回転速度／エンジン回転速度	正転	rpm	552、779、964、1286 / 2700
		逆転	rpm	964 / 2700
	軸寸法		mm	JIS 35

（次へ続く）

型式		GJE35KHX
作業機昇降装置	制御方式	ポジションコントロール
	装着方式	3 点リンク JIS 1 形

2. 走行速度表

［ホイール仕様］

		GJE28		GJE35		GJE35H	
主変速レバー	クリープレバー	前進	後進	前進	後進	前進	後進
1	低	0.18	0.19	0.18	0.19	0.18	0.19
2		0.21	0.27	0.21	0.27	0.21	0.27
3		0.25	0.33	0.25	0.33	0.25	0.33
4		0.30	0.46	0.30	0.45	0.30	0.45
5		0.31	0.61	0.31	0.62	0.31	0.62
6		0.37	0.85	0.37	0.87	0.37	0.87
7		0.43	1.06	0.42	1.08	0.42	1.08
8		0.51	1.46	0.51	1.48	0.51	1.48
9		0.68	---	0.69	---	0.69	---
10		0.98		0.97		0.97	
11		1.18		1.20		1.20	
12		1.62		1.65		1.65	
1	高	1.59	1.71	1.57	1.68	1.57	1.68
2		1.90	2.41	1.87	2.37	1.87	2.37
3		2.25	2.98	2.21	2.93	2.21	2.93
4		2.69	4.10	2.64	4.04	2.64	4.04
5		2.78	5.39	2.74	5.49	2.74	5.49
6		3.33	7.60	3.27	7.74	3.27	7.74
7		3.83	9.42	3.77	9.58	3.77	9.58
8		4.58	12.96	4.51	13.19	4.51	13.19
9		6.01	---	6.12	---	6.12	---
10		8.48		8.63		8.63	
11		10.51		10.69		10.69	
12		14.46		14.72		14.72	
1	高速走行	---	---	---	---	12.43	11.14
2						17.54	15.71
3						18.17	19.47
4						21.72	26.79
5						25.01	---
6						29.90	

(km/h)

補足：

- **表中の速度の値は、トラクタ単体状態における基準値であり、作業機の装着状態やほ場条件により、変化いたします。**

[パワクロ仕様]

		GJE35KHX	
主変速レバー	クリープレバー	前進	後進
1	低	0.17	0.18
2		0.20	0.26
3		0.24	0.32
4		0.29	0.44
5		0.30	0.60
6		0.36	0.84
7		0.41	1.04
8		0.49	1.44
9		0.67	---
10		0.94	
11		1.17	
12		1.60	
1	高	1.52	1.63
2		1.84	2.30
3		2.14	2.85
4		2.56	3.92
5		2.66	5.32
6		3.18	7.51
7		3.66	9.30
8		4.37	12.80
9		5.94	---
10		8.38	
11		10.38	
12		14.28	
1	高速走行	9.12	8.17
2		12.86	11.52
3		13.32	14.28
4		15.93	19.65
5		18.34	---
6		21.93	

(km/h)

補足：
- **表中の速度の値は、トラクタ単体状態における基準値であり、作業機の装着状態やほ場条件により、変化いたします。**

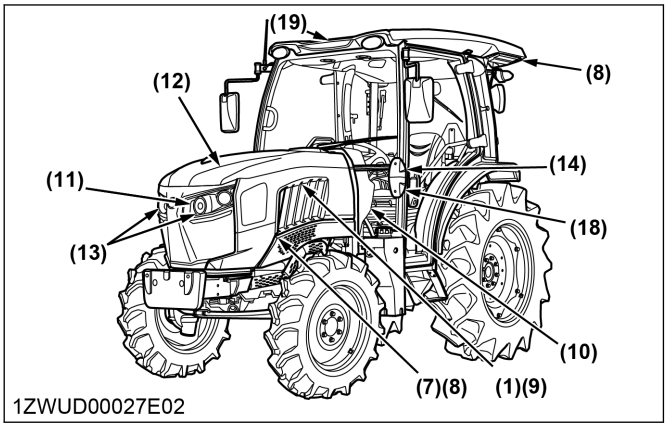
3. 標準付属品

品名	数量／台	備考
メインスイッチキーアッシ	1	
取扱説明書	1	
保証書	1	
メンテナンスブック	1	
取扱説明確認カード	1	
オーディオのリモコン	1	**［安全キャブ仕様］**のみ
オーディオの取扱説明書	1	**［安全キャブ仕様］**のみ
オーディオの保証書	1	**［安全キャブ仕様］**のみ
PTO 軸キャップ	1	
ボルト	1	PTO 軸キャップ用
取扱いのポイント	1	
省エネ運転ガイド	1	
インプルメント操作ボックス固定用金具セット	1	金具上下各 1 個、取付ネジ 4 個 **［安全キャブ仕様］**のみ
盗難防止機能操作ガイド	1	
ロータリ爪固定工具セット	1	

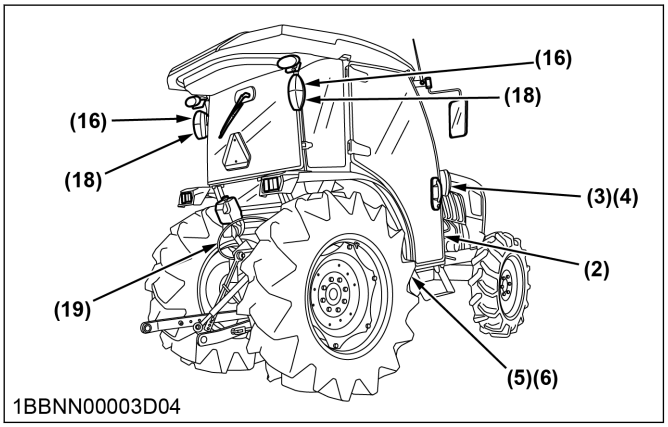
主な消耗部品一覧

純正部品を使いましょう。

安全キャブ仕様

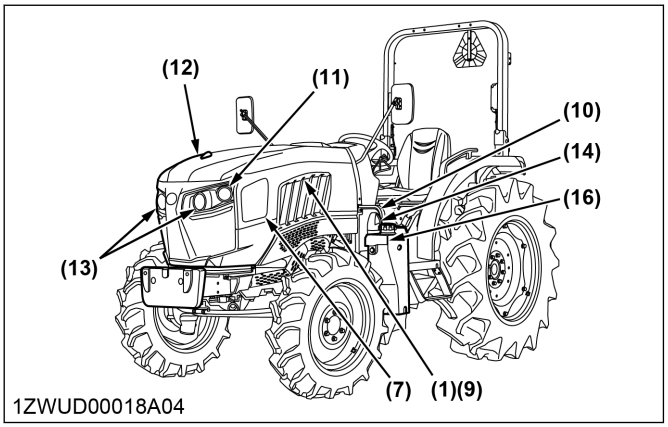


1ZWUD00027E02

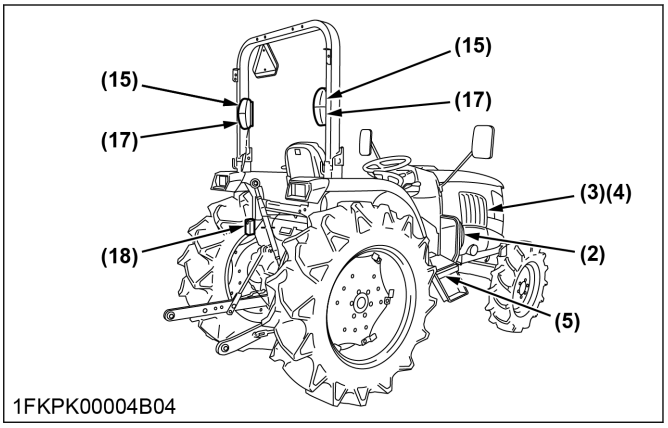


1BBNN00003D04

安全フレーム仕様



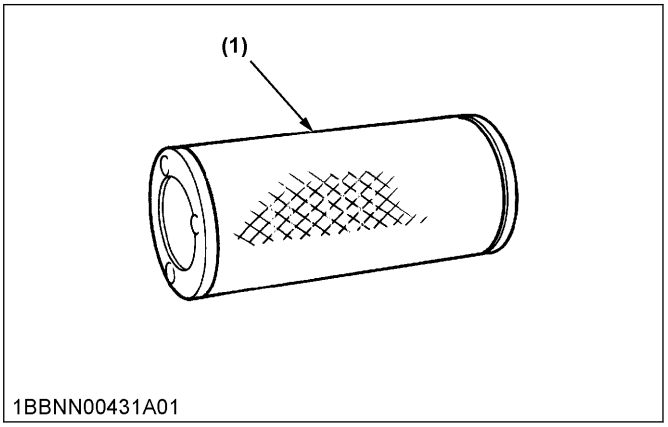
1ZWUD00018A04



1FKPK00004B04

(1) エアクリーナエレメント
(2) セパレータエレメント
(3) フューエルフィルタ
(4) エンジンオイルフィルタ
(5) 油圧オイルフィルタ
(6) 外気フィルタエレメント［安全キャブ仕様］
(7) ファンベル
(8) エアコンベルト
(9) オイルセパレータエレメント
(10) ヒューズ
(11) スローブローヒューズ
(12) 電源取出ヒューズ
(13) ヘッドライト
(14) ウインカ前
(15) ウインカ後
(16) 車幅灯
(17) 尾灯、ブレーキランプ
(18) バックランプ
(19) ルームランプ

(1)エアクリーナエレメント

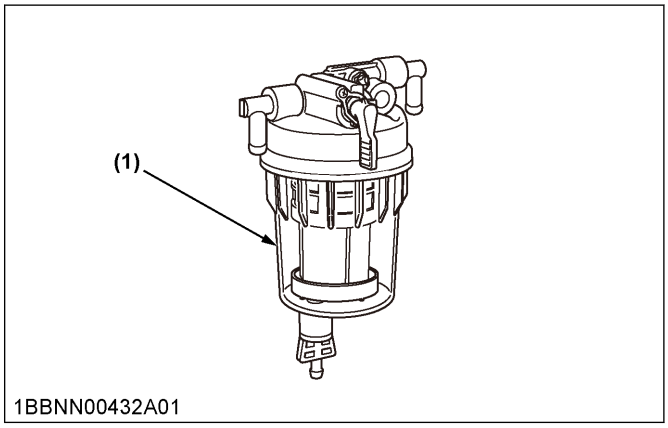


1BBNN00431A01

(1) エアクリーナエレメント

図番	品名	品番
(1)	エアクリーナエレメント	99740010860

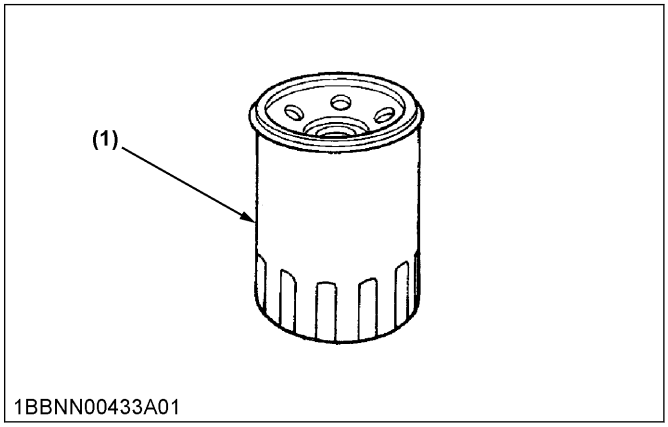
(2)セパレータエレメント



(1) セパレータエレメント

図番	品名	品番
(1)	セパレータエレメント	99930004590

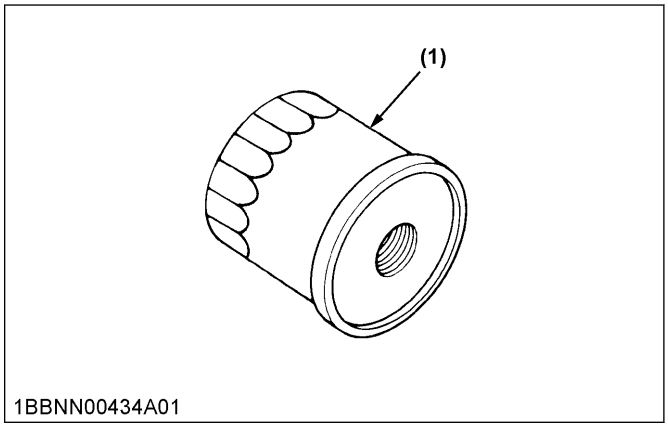
(3)フューエルフィルタ



(1) フューエルフィルタ

図番	品名	品番
(1)	フューエルフィルタ	99930001510

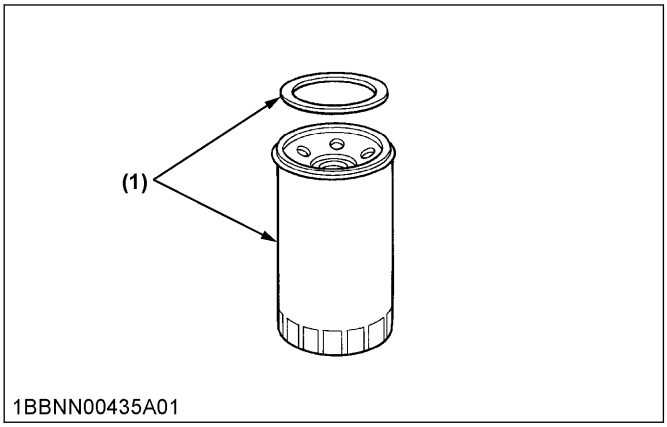
(4)エンジンオイルフィルタ



(1) エンジンオイルフィルタ

図番	品名	品番
(1)	エンジンオイルフィルタ	99580001871

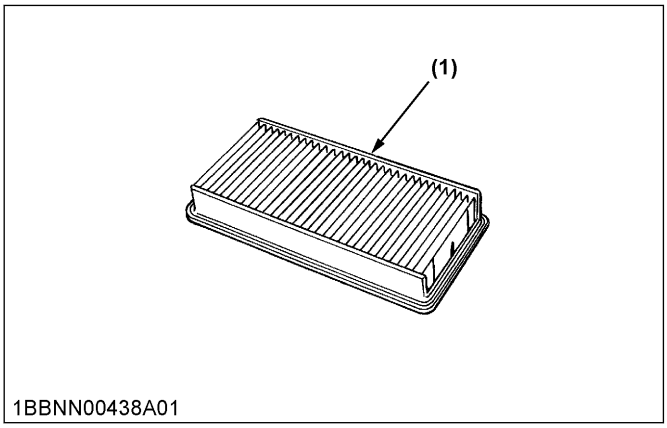
(5)油圧オイルフィルタ



(1) 油圧オイルフィルタ

図番	品名	品番
(1)	油圧オイルフィルタ	95340000460

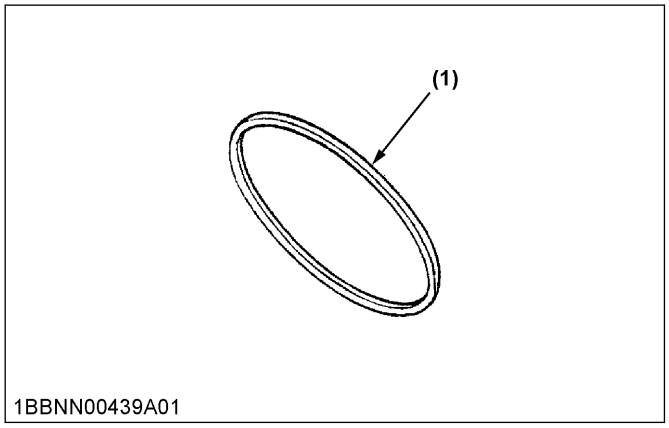
(6)外気フィルタエレメント［安全キャブ仕様］



(1) 外気フィルタエレメント

図番	品名	品番
(1)	外気フィルタエレメント	99660029230

(7)ファンベルト



(1) ファンベルト

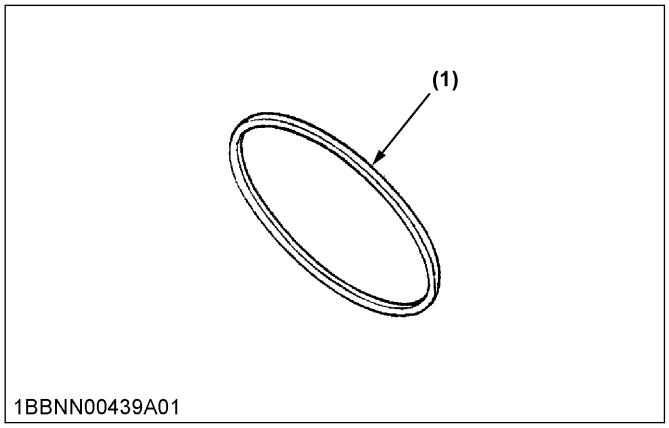
[安全キャブ仕様]

図番	品名	品番
(1)	ファンベルト（44 インチ）	95340000430

[安全フレーム仕様]

図番	品名	品番
(1)	ファンベルト（43.5 インチ）	99740000550

(8)エアコンベルト



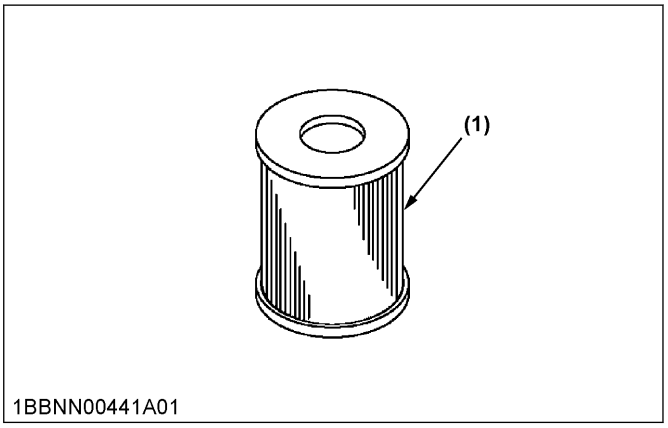
(1) エアコンベルト

図番	品名	品番
(1)	エアコンベルト	95340000810

補足：

- **エアコンベルトを交換の際は、機種により交換するベルトが違いますので、購入先にご相談ください。**

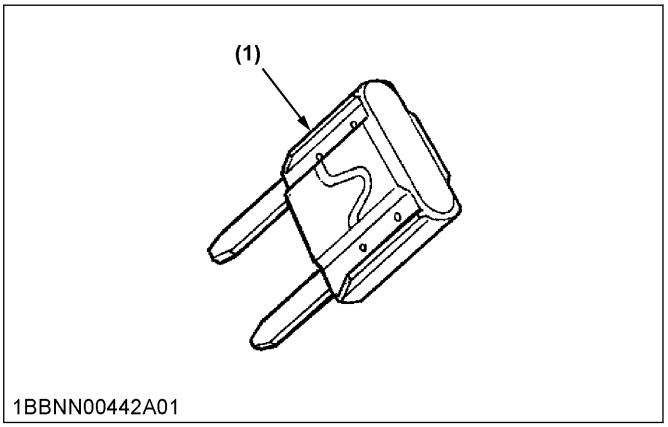
(9)オイルセパレータエレメント



(1) オイルセパレータエレメント

図番	品名	品番
(1)	オイルセパレータエレメント	99820002830

(10)ヒューズ

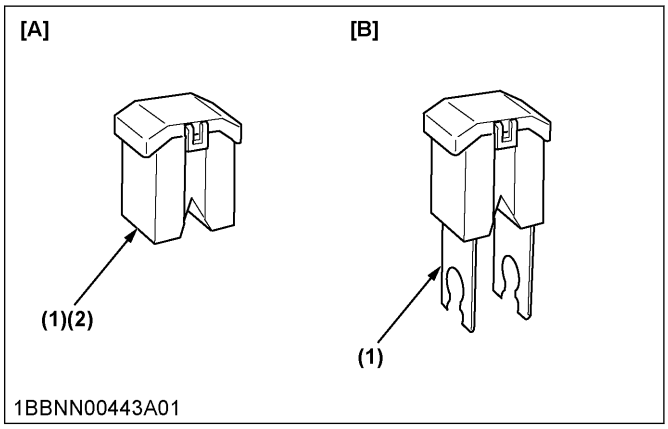


(1) ヒューズ

図番	品名	品番
(1)	ヒューズ（ミニ 30 A）	99790000440
	ヒューズ（ミニ 20 A）	97430000380
	ヒューズ（ミニ 15 A）	97430000370
	ヒューズ（ミニ 10 A）*1	97430000360
	ヒューズ（ミニ 7.5 A）	95340000500
	ヒューズ（ミニ 5 A）	99790001220

*1 ［安全キャブ仕様］にはヒューズボックスの横にヒューズがあります。このヒューズにはヒューズ（ミニ 10 A）を使用してください。

(11)スローブローヒューズ、(12)電源取出ヒューズ



(1) スローブローヒューズ
(2) 電源取出ヒューズ
[A] プラグインタイプ
[B] ネジ止めタイプ

[安全フレーム仕様]

図番	品名	品番
(1)	スローブローヒューズ(60 A)（プラグインタイプ）	95340000520
	スローブローヒューズ(60 A)（ネジ止めタイプ）	95340000440
	スローブローヒューズ(80 A)（ネジ止めタイプ）	99790001320
	スローブローヒューズ(40 A)（プラグインタイプ）	95340000450

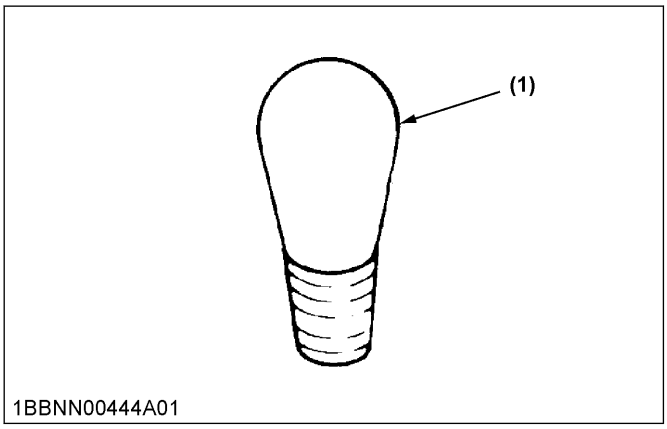
[安全キャブ仕様]

図番	品名	品番
(1)	スローブローヒューズ(40 A)（プラグインタイプ）	95340000450
	スローブローヒューズ(60 A)（プラグインタイプ）	95340000510
	スローブローヒューズ(80 A)（ネジ止めタイプ）	99790001320

[安全フレーム仕様、安全キャブ仕様]

図番	品名	品番
(2)	電源取出ヒューズ(60 A)（プラグインタイプ）	95340000510

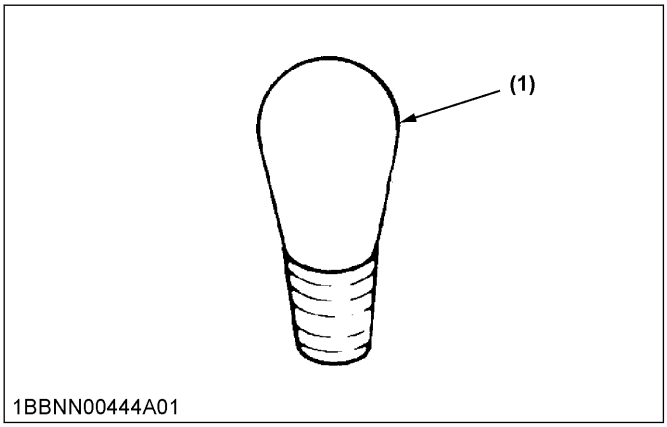
(13)ヘッドライト



(1) 電球

図番	品名	品番
(1)	デンキュウ（H4、12 V、60 W/55 W）	99580005060

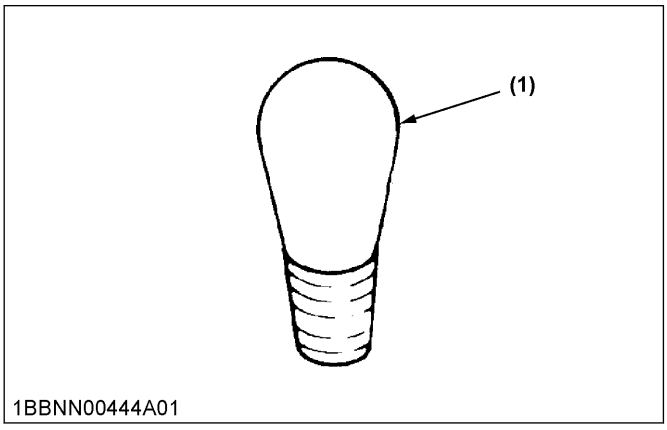
(14)ウインカ前



(1) 電球

図番	品名	品番
(1)	デンキュウ(21 W)	99580005070

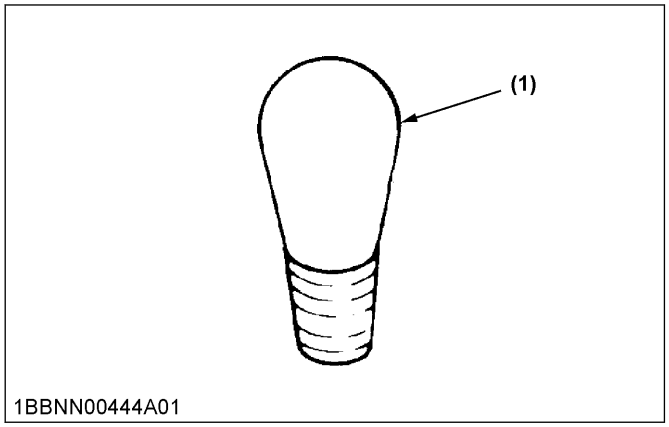
(15)ウインカ後



(1) 電球

図番	品名	品番
(1)	デンキュウ(21 W)	99660029280

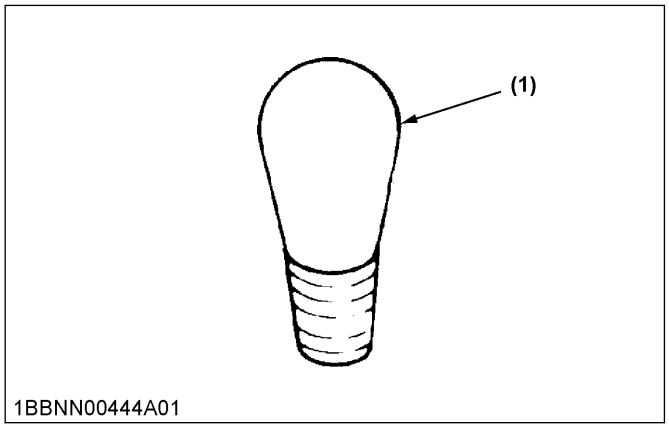
(16)車幅灯



(1) 電球

図番	品名	品番
(1)	デンキュウ(5 W)	99660029310

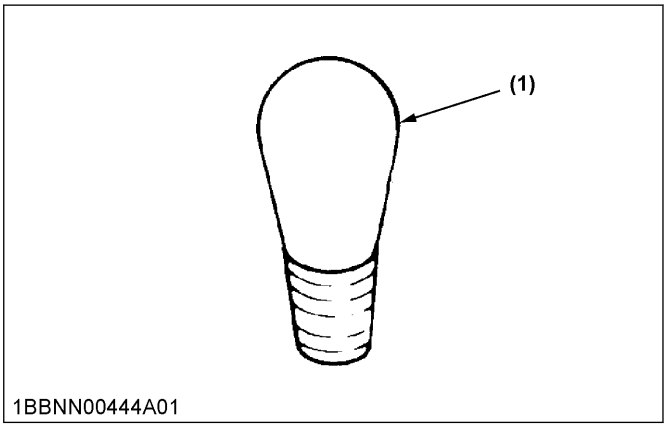
(17)尾灯、ブレーキランプ



(1) 電球

図番	品名	品番
(1)	デンキュウ(5 W / 21 W)	99660029290

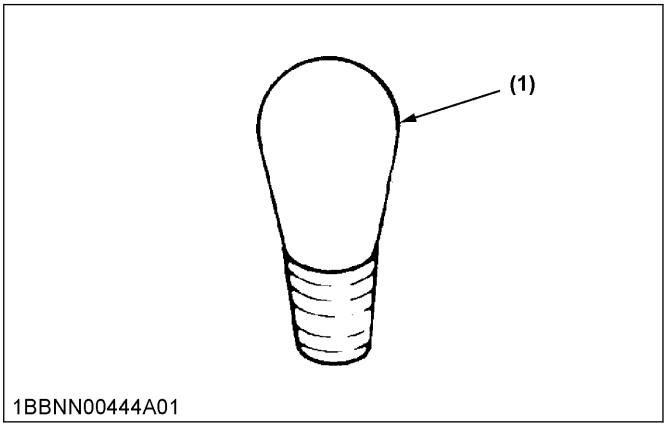
(18)バックランプ



(1) 電球

図番	品名	品番
(1)	デンキュウ(21 W)	99660029440

(19)ルームランプ



(1) 電球

図番	品名	品番
(1)	デンキュウ(5 W)	99870003870

パワクロ仕様足回り交換部品一覧表

クローラ

品番	品名	適応型式	用途、仕様
95340000590	クローラ（ゴム 400*38*90）	GJE35KHX	PC2 仕様 38 リンク

転輪

品番	品名	適応型式	用途、仕様	
95340000760	トラッククローラ、アッシ（F、S）	GJE35KHX	中転輪	
95340000770	トラッククローラ、アッシ（R、ヒダリ）		後	左転輪
			前	右転輪
95340000780	トラッククローラ、アッシ（R、ミギ）		後	右転輪
			前	左転輪

遊輪

品番	品名	適応型式	用途、仕様
95340000630	アイドラ、アッシ(250)	GJE35KHX	前遊輪
95340000610	アイドラ、アッシ(300)		後遊輪

スプロケット

品番	品名	適応型式	用途、仕様
95340000720	スプロケット	GJE35KHX	---

ガイド

品番	品名	適応型式	用途、仕様
95340000620	ガイド（クローラ）	GJE35KHX	---

アタッチメント一覧表

純正部品を使いましょう。

補助車輪

品番	品名	適応型式	用途、仕様	併用アタッチメント
3218212020	11.2-24 ストレーク取付台	GJE35KHX	• 片側にストレーク 7 枚取付け用 • 11.2-24 用	P20、P25、P30、P38 のいずれかを 7 組／台
3218212030	ストレーク取付台アッシ		• 片側にストレーク 7 枚取付け用 • 13.6-24 用	P20、P25、P30、P38 のいずれかを 7 組／台
3218212060	P20 反転ストレークアッシ		シュー幅 20 cm ピン式 構成は R、L 各 1 個	前記の取付台アッシ
3218212040	P25 反転ストレークアッシ		シュー幅 25 cm プレート式 構成は R、L 各 1 個	
3218212050	P30 反転ストレークアッシ		シュー幅 30 cm プレート式 構成は R、L 各 1 個	

3 点リンク

品番	品名	適応型式	用途、仕様	併用アタッチメント
95340000470	トップリンクアッシ	GJE35KHX	一般作業機用	---

油圧取出対応キット

品番	品名	適応型式	用途、仕様	併用アタッチメント
3218211920	KL350-R-AP 油圧取出キット	GJE35KHX	外部油圧取出を必要とするインプルメントに、油圧を供給するためのキット	---
3218211930	KL350-Q-AP 油圧取出キット		外部油圧取出を必要とするインプルメントに、油圧を供給するためのキット	---

ウエイト

品番	品名	適応型式	用途、仕様	併用アタッチメント
KT007049800	ウエイト（ホジョ）	GJE28、GJE35 (H)	10 kg×2 個 前車軸フレームの前部内側に取付け	99660000360 ボルト×4 コ
3218212080	前部ウエイト(25 kg)	全型式	前部フック式ウエイト	取付台アッシ 6、10 必要
3218212090	ウエイト取付台アッシ 6		25 kg ウエイト 6 枚まで	3218212080 前部ウエイト (25 kg)
3218212100	ウエイト取付台アッシ 10		25 kg ウエイト 10 枚まで	3218212080 前部ウエイト (25 kg)
3218212110	前部ウエイトアッシ	GJE28、GJE35 (H)	28 kg バンパの前部に取付け	---
99580010490	バンパ(15)		15 kg、20 kg、30 kg、40 kg 前車軸フレーム前部に取り付けているバンパを取り外して装着するウエイトです。	99580011050 ボルト×2 コ 99660001790 ナット×2 コ
99580010580	バンパ(20)			
99580010590	バンパ(30)			99580011060 ボルト×2 コ 99660001610 ナット×2 コ 99100002600 バネザガネ×2 コ
99580010510	バンパ(40)			99580011070 ボルト×2 コ 99660001610 ナット×2 コ 99100002600 バネザガネ×2 コ
95340000550	バンパ(20)	全型式	20 kg バンパの前部に取付け	**[ホイール仕様]** に装着する場合は、前車軸フレーム前部に取り付けているバンパを取り外して装着します。
3218212120	ウエイト、キット		25 kg ウエイト 4 枚まで	**[ホイール仕様]** には 95340000550 バンパ(20)が必要です。
3218212130	ウエイト取付台アッシ(PC6)		25 kg ウエイト 6 枚まで	3218212120 ウエイト、キット (25 kg)
3218212140	ウエイト取付台アッシ(PC10)		25 kg ウエイト 10 枚まで	3218212120 ウエイト、キット (25 kg)

その他

品番	品名	適応型式	用途、仕様	併用アタッチメント
99563-8100-2	キャノピ（簡易型）	全型式	ホロ製日よけ **[安全キャブ仕様]**には装着できません。	---
99571-9100-0	作業灯アッシ		12 V 27 W 1 個口 **[安全キャブ仕様]**には装着できません。	---
96397-1510-0	洗車ポンプ		後部 PTO に取付け **[スーパージョイント付き]**には取付けできません。	---
99563-8500-0	キャノピアッシ		樹脂製折りたたみ日よけ **[安全キャブ仕様]**には装着できません。	---
99233-7500-2	ヒッチアッシ		けん引作業時に使用	---
95340000900	鍵付き燃料キャップ		鍵付き燃料キャップ 板金製の燃料タンクには装着できません。	---
95340019620	サンバイザ	安全キャブ仕様	安全フレーム仕様には装着できません。	---
95340020380	ルームミラーアッシ		安全フレーム仕様には装着できません。	---
95340020370	ハロゲンランプ作業灯（後）		安全フレーム仕様には装着できません。	---
95340020410	LED ランプ作業灯（後）		安全フレーム仕様には装着できません。	---
95340020400	LED ランプ作業灯（前）		安全フレーム仕様には装着できません。	---

インプルメント

⚠ 警告

- **トラクタ後部用作業機を装着したとき、かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20%以上になるようにバランスウエイトを装着し、使用してください。**
- **装着可能な最大ウエイトを装着してもかじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20%以上を確保できない作業機は装着しないでください。**
- **フロントローダを使用するときは、安定性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装備してください。詳細は購入先にご相談ください。**

1. ロータリ、補助ユニット一覧表

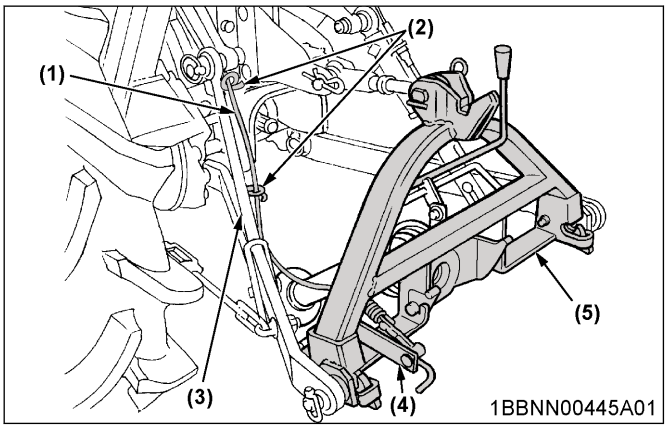
品名	質量(kg)	適応型式		
		GJE28 (X)	GJE35 (H) (X) (N)	GJE35KHX
RZ14SWC	267	○	–	–
RZ15SC	277	○	–	–
RZ15SWC	277	○	–	–
RZ16SC	289	○	○	–
RZ16SWC	289	○	○	–
RZ17SC	299	○	○	–
RZ17SWC	299	○	○	–
RZ18SC	307	–	○	○
RZ18SWC	307	–	○	○
RZ19SC	320	–	○	○
デュアルヒッチキット KGJE-WH *1	–	○	○	–
デュアルヒッチキット KGJEK-WH *2	–	–	–	○

*1　トラクタ ホイル仕様用補助ユニット

*2　トラクタ クローラ仕様用補助ユニット

センサリンク取付け要領

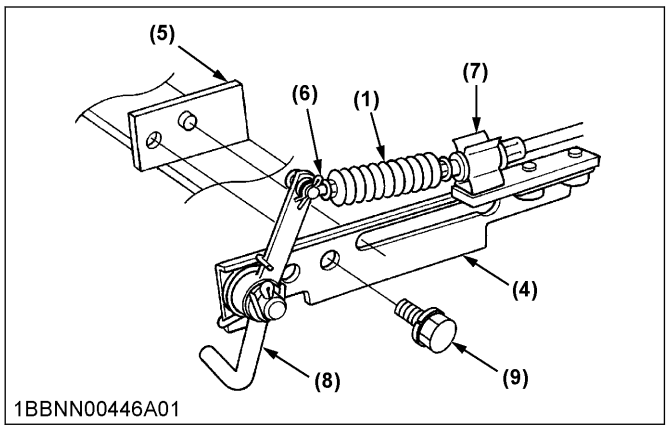
トラクタの出荷部品に入っているセンサリンクをオートヒッチフレームおよびロータリに取り付ける場合は、オートヒッチフレーム側センサリンクの取付け方法（187 ページ）の要領で行ってください。
また、作業機を取り付けないときは、オートワイヤを収納してください。
（オートワイヤの格納（112 ページ）を参照）



1. オートヒッチフレーム側センサリンクの取付け方法

[特殊 3P 仕様]

1. リフトロッドの上下にあるコードガイドにワイヤを通します。
2. 金具をオートヒッチフレームにボルト(M10)で取り付けます。
3. 仮付けしてあるスナップピンを外し、ワイヤをアーム（センサ）に取り付け、スナップピンでセットします。
4. ワイヤを金具のワイヤ受け部に取り付けます。

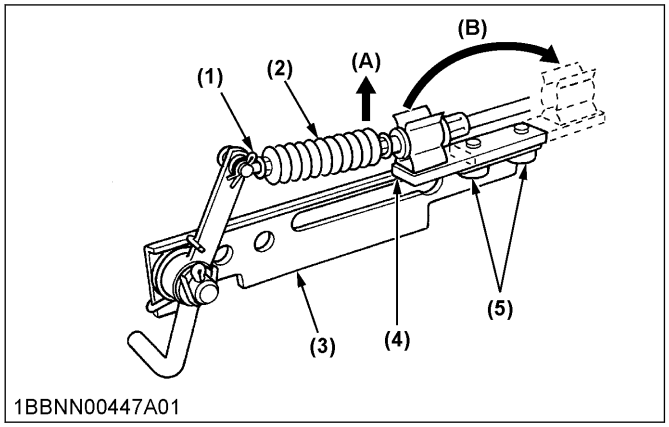


1BBNN00446A01

(1) ワイヤ
(2) コードガイド
(3) リフトロッド
(4) 金具
(5) オートヒッチフレーム
(6) スナップピン
(7) ワイヤ受け部
(8) アーム（センサ）
(9) ボルト*(M10)*

［W3P 仕様］

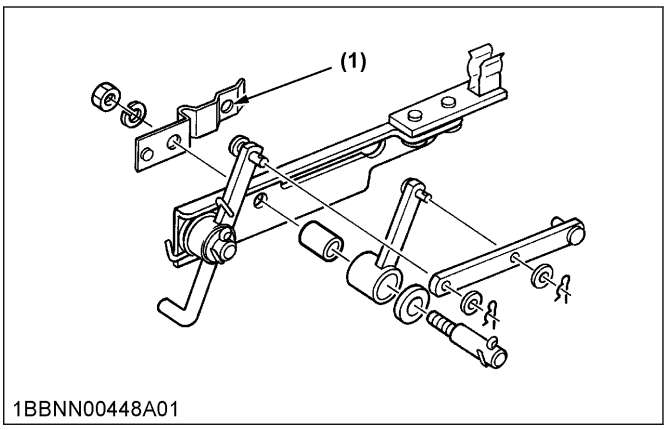
1. **［特殊 W3P 仕様］**の金具を組み替えます。
   a. スナップピンを外し、金具とホルダ（ワイヤ）からワイヤを取り外します。
   b. ボルトを外しホルダ（ワイヤ）を逆向きに組み替えます。



1BBNN00447A01

(1) スナップピン
(2) ワイヤ
(3) 金具
(4) ホルダ（ワイヤ）
(5) ボルト
(A) 取り外す
(B) 逆向きに組替え

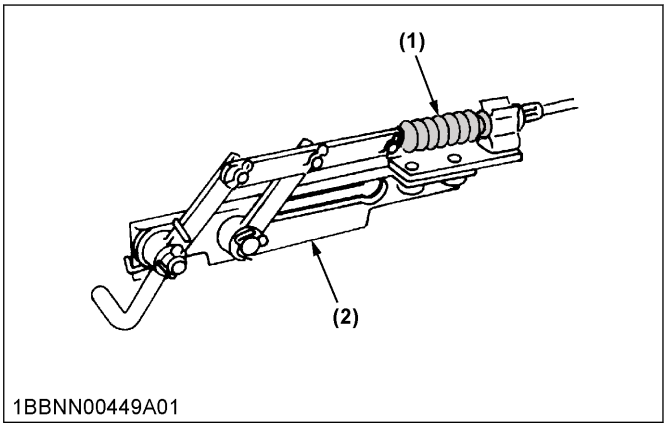
2. 付属の部品を次図のように取り付けます。
   付属の部品は**[W3P]**用補助ユニットに入っています。



1BBNN00448A01

(1) 抜け止め穴

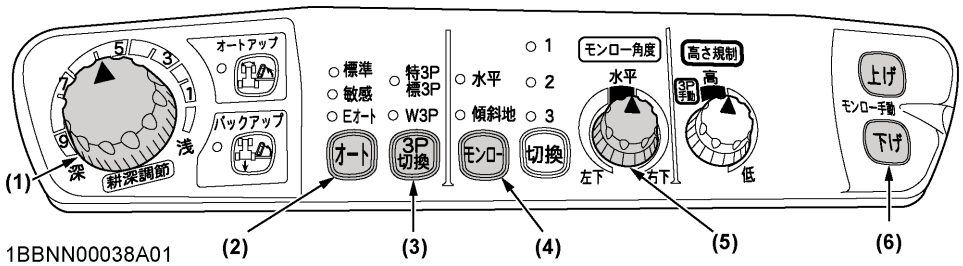
3. ワイヤを金具に組み付けます。



1BBNN00449A01

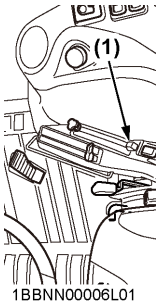
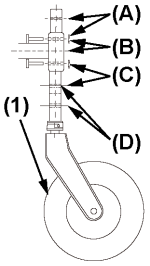
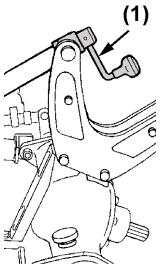
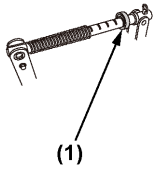
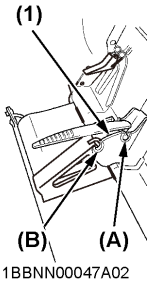
(1) ワイヤ
(2) 金具

作業ごとの一般的な調整要領

作業内容		操作箇所					
		 1BBNN00038A01				
		(1)耕深調節ダイヤル	(2)オートスイッチ	(3)3P 切換スイッチ	(4)モンロースイッチ	(5)モンロー角度調節ダイヤル	(6)モンロー手動スイッチ
モンローマチック・オート“入”	浅起こし（5 cm～8 cm）	希望耕深になるよう調節	標準または敏感	［W3P 仕様］は W3P ［特 3P 仕様］は特 3P、標 3P	水平	水平	―
	一般耕うん（8 cm～15 cm）						
	深起こし（15 cm 以上）						
	代かき湿田		敏感または標準				
	カバーを上げての耕うん		E オート				
	傾斜地の耕うん		標準または敏感		傾斜地		タイヤ沈下量に応じ調整
モンローマチック・オート“切”	浅起こし（5 cm～8 cm）	―	切（全ランプ消灯）	―	切（全ランプ消灯）	―	―
	一般耕うん（8 cm～15 cm）						
	深起こし（15 cm 以上）						
	代かき						
	うね立て						
	傾斜地の耕うん						

補足：

- **ワンタッチ耕うんモードスイッチを“入”にすると、モンロー水平、オート標準、AD 倍速、オートアップ、バックアップが“入”になります。（ワンタッチ耕うんモードスイッチ（104 ページ）を参照）**

作業内容		操作箇所				
		 1BBNN00006L01	 1BBNN00044A01	 1BBNN00045A01	 1BBNN00046A01	 1BBNN00047A02
		(1)油圧（ポジションコントロール）レバー	**(1)後 2 輪上下調節**	**(1)後 2 輪ハンドル**	**(1)スプリングロック**	**(1)フラップカバー**
モンローマチック・オート“入”	浅起こし（5 cm～8 cm）	最下位置	後 2 輪を外す	ー	ロータリカバー 2 を下げるスプリングロックを接地圧条件に合わせてセット	(B)の位置
	一般耕うん（8 cm～15 cm）					(A)の位置
	深起こし（15 cm 以上）					
	代かき湿田					(B)の位置
	カバーを上げての耕うん					任意調整
	傾斜地の耕うん					耕うん深さに応じ任意調整
モンローマチック・オート“切”	浅起こし（5 cm～8 cm）	最下位置	(A)または(B)の位置	希望耕深になるように調整	ロータリカバー 2 を下げるスプリングロックを接地圧条件に合わせてセット	(B)の位置
	一般耕うん（8 cm～15 cm）		(B)の位置（必要に応じて(C)の位置）			(A)の位置
	深起こし（15 cm 以上）		(D)の位置			
	代かき		(A)の位置			(B)の位置
	うね立て		後 2 輪を外す	（うね立て時は後 2 輪ハンドルで、うね高さを調整する）		フラップカバーを外す
	傾斜地の耕うん		耕うん深さに応じ任意調整	希望耕深になるように調整		耕うん深さに応じ任意調整

補足：
- **主な作業ごとの一般的な調整要領を記載しています。土質など作業条件に合わせ適宜調整してください。**
- **高さ規制、オートアップ、バックアップスイッチなどは、作業に応じて使用してください。**

インプルメントの大きさの上限について

トラクタに装着するインプルメントは適正な大きさの物を使用してください。

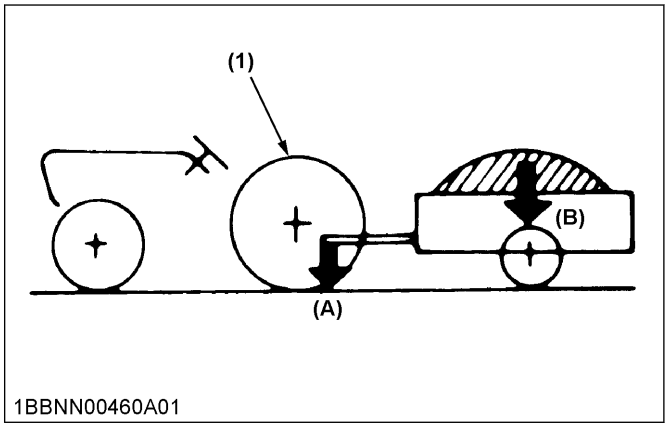
警告

- **トラクタの後部にインプルメントを装着する場合、必要に応じトラクタ前部に適正なウエイトを取り付けてください。前車軸にかかる重量は総重量の20%以上になるようにしてください。それ以下になると、前輪のステアリング操作が難しくなったり、前が浮いて転倒事故につながる場合があります。**

大きすぎるインプルメントの使用はトラクタの故障につながります。特にトレーラについては次表にもとづいて適正なインプルメントを選択してください。

インプルメントの大きさの上限

けん引ヒッチまたはドローバにかけることができる最大の重量 W 1	使用可能なトレーラの最大積載荷重W 2
500 kg	1500 kg



(1) インプルメント
(A) W *1*
(B) W *2*

索引

記号・数字

3P 切換スイッチ
　機能.....106
3P 手動
　使用方法.....98
3 点リンク.....43
　安全ロック機能.....100
　名称..... 111
3 点リンク作業機
　注意.....19
3 点リンク高さ規制ダイヤル
　機能.....98
4 輪駆動
　使用方法.....71

アルファベット

AD 倍速ターン
　使用方法.....72
DPF
　点検.....139
DPF 差圧センサパイプ
　点検.....160
DPF 差圧センサホース
　交換.....162
DPF マフラ
　PM 堆積量表示.....45
　再生禁止モード.....46
　再生に関する豆知識.....51
　再生方式.....46
　自動再生モード.....46
　取扱いポイント.....44
　灰（燃えカス）の除去..... 159
e-アシスト旋回
　応答時間変更.....90
　機能.....88
　設定.....89
EGR クーラ
　点検、清掃..... 159
EGR システム
　点検、清掃..... 159
EGR パイプ
　点検.....160
PTO 逆転
　使用方法.....115
PTO 軸カバー
　注意事項.....116
PTO 軸キャップ
　注意事項.....116
PTO 変速レバー
　注意事項.....115

あ

アクセルペダル
　機能.....72
アクセルレバー
　機能.....72
アタッチメント一覧表..... 184
アップオフ PTO モード
　機能..... 115
油漏れ
　点検.....20
あゆみ板
　使用時の注意.....15
　使用時の注意［パワクロ仕様］.....96
　使用方法［パワクロ仕様］.....21
暗証番号
　入力.....83
　変更.....85
あんしん PTO スイッチ
　操作..... 114
　注意事項..... 114
安全キャブ
　改造禁止.....11
　シートベルトの併用.....11
　目的..... 11
安全キャブ部.....42
安全フレーム
　起こす方法..... 60
　折りたたみ..... 60
　改造禁止.....11
　使用時の注意.....11
　シートベルトの併用.....11
　目的..... 11
安全ラベル
　手入れ..... 28
　貼付け位置.....23
アンテナ［安全キャブ仕様］
　概要..... 126
インプルメント
　大きさの上限.....191
　注意事項.....187
イージーチェッカ
　警告ランプの概要..... 91
ウインカスイッチ
　機能.....61
ウエイト（オプション）
　注意事項..... 118
ウォッシャ液［安全キャブ仕様］
　補充..... 164
ウォータセパレータ
　確認..... 137
　清掃..... 158
　水の排出..... 137
ウォータホース［安全キャブ仕様］
　点検..... 160

運転免許.....32
エアクリーナエレメント
交換.....160
交換時期.....149
交換時の注意.....149
清掃.....149
清掃時の注意.....149
エアコンコンデンサ用防虫網［安全キャブ仕様］
清掃.....139
エアコンコンデンサ［安全キャブ仕様］
詰まり除去.....155
エアコンスイッチ［安全キャブ仕様］
機能.....125
エアコン配管［安全キャブ仕様］
点検.....160
エアコンベルト［安全キャブ仕様］
張り調整.....156
エアコンホース［安全キャブ仕様］
点検.....160
液晶表示
切替え.....78
液晶モニタ
PM 堆積量表示.....45
PM 堆積量表示項目.....45
エキゾーストマニフォールド
点検.....160
エキゾーストパイプ
状態の確認.....150
エバキュエータバルブ
清掃.....137,149
エンジン
始動.....52
始動確認.....142
暖機運転.....58
停止.....52,58
停止時の注意.....18
ならし運転.....59
排気の状態確認.....142
バッテリあがりの処置.....58
不調と処置.....167
エンジンオイル
一覧表.....134
交換.....150
汚れの点検.....136
量の点検.....136
エンジンオイルフィルタカートリッジ
交換.....151
エンジン回転計.....92
エンジン回転メモリ設定
入.....88
エンジン回転数の設定.....87
機能.....87
切.....88
設定条件.....88
エンジン始動システム
点検.....145
エンジン始動セキュリティ機能
入／切設定.....84
概要.....82
エンジンバルブクリアランス
点検.....159
オイルクーラ
清掃.....139
オイルクーラホース
交換.....162
点検.....152
オイルセパレータエレメント
交換.....159
オイルセパレータホース
交換.....162
点検.....152
温度コントロールつまみ［安全キャブ仕様］
概要.....124
オーディオ機器
電源が入らないときの対処.....126
オーディオ機器［安全キャブ仕様］
お問合せ.....126
取扱い.....125
本機で利用できない機能.....126
オートアップ
使用時の注意.....100
使用方法.....100
オートアップスイッチ
オートアップ時の注意.....100
オートエアコン
トラクタ長期格納後のの取扱い.....166
オートエアコン［安全キャブ仕様］
機器の簡易点検.....159
機能.....123
空気の流れ.....123
暖房、冷房、除湿暖房.....125
デフロスト.....125
フロン取扱いの注意.....123
オートグロー
機能.....56
オートスイッチ
機能.....109
オートワイヤ
格納.....112,113
オーバーヒート
処置.....92

か

外気フィルタ［安全キャブ仕様］
清掃.....155
外部電源
機能.....63
納時
長期格納時の手入れ.....165
吸気ホース
交換.....161
点検.....152
給水一覧表.....133
給油一覧表.....133

切換スイッチ
機能.....108
キースイッチ
機能.....55
クォータウインド［安全キャブ仕様］
開閉.....121
クラッチ
切状態保持.....165
クラッチハウジング
水抜き.....146
クラッチペダル
遊びの点検.....140
機能.....66
調整.....150
点検.....150
グリース
一覧表.....134
注入.....145
グリース［パワクロ仕様］
注入.....143
クリープ速度
使用方法.....70
クリープレバー
機能.....69
クローラガイド［パワクロ仕様］
点検.....156
けん引ヒッチ
注意事項.....113
けん引フック
使用時の注意.....113
耕深調節ダイヤル
機能.....109
小型特殊自動車取得の届出.....32
ご相談窓口.....29
ゴムクローラ［パワクロ仕様］
交換.....164
点検.....156
張り調整.....143
コモンレール仕様
注意事項.....20
コントロールパネル［安全キャブ仕様］
エアコンスイッチ.....125
温度コントロールつまみ.....124
概要.....124
内外気切換えスイッチ.....124
ファンスイッチ.....125

さ

再生禁止モード
PM 堆積の警告レベルと必要な処置.....50
操作手順.....49
サイドカバー
左側の取外し.....135
右側の取外し.....135
サイド吹出口［安全キャブ仕様］
機能.....124
作業機
操作ボックスの取付け［安全キャブ仕様］.....126
着脱.....15
取り付けないときの注意.....113
作業機用操作ボックス［安全キャブ仕様］
取付け.....126
作業条件メモ
操作手順.....82
作業灯スイッチ［安全キャブ仕様］
機能.....122
作業灯（前、後）［安全キャブ仕様］
注意事項.....122
サプライポンプ
点検.....159
サンバイザ（オプション）
機能.....122
時刻合わせ
時刻.....86
時計 on/off.....87
自動再生モード
PM 堆積の警告レベルと必要な処置.....48
操作手順.....47
シャトルレバー
機能.....70
車幅灯
機能.....63
主変速レバー
変速操作.....67
主変速（U シフト）レバー
注意事項.....67
変速操作.....67
主要諸元.....171
省エネ運転
距離燃費表示.....73
しかた.....72
瞬間燃費表示.....73
積算量表示.....73
平均燃費表示.....73
消耗部品.....178
除湿暖房［安全キャブ仕様］
使用方法.....125
信号取出端子
機能.....63
シート
調整.....59
シートベルト
概要.....60
シートベルトホルダ
機能.....60
水温計
概要.....92
ステアリングジョイント部
点検.....153
スプロケット［パワクロ仕様］
交換.....164
点検.....156
スローブローヒューズ
交換.....162

センサリンク
オートヒッチフレーム側の取付け....187
取付け要領....187
前車軸ケースオイル
交換....156
前部ウエイト
取付け....118
前部デフケース
前後遊びの調整....158
前後遊びの点検....158
走行速度表....175
走行モード切換スイッチ
機能....71
操作レバー［安全キャブ仕様］....38
操作レバー［安全フレーム仕様］....40
損害賠償保険....33

た

タイヤ
確認....19
空気圧の点検....116,138
損傷の点検....138
注意事項....116
標準空気圧の確認....116,138
摩耗の点検....138
タイヤ取付けボルト
点検....146
タイロッド
調整....154
暖機運転
概要....58
暖房［安全キャブ仕様］
使用方法....125
チェックチェーン
調整....113
注意事項
PTO 軸の保護....16
PTO の回転数....16
あゆみ板使用時....15
あゆみ板使用時［パワクロ仕様］....21
あゆみ板での途中変速禁止....15
あゆみ板の使用条件［パワクロ仕様］....96
安全確認....18
安全キャブ....59
安全フレーム....59
運転してはいけない人....12
運転時［パワクロ仕様］....21
運転操作［パワクロ仕様］....95
運転に不適切な場所....14
屋内で運転するとき....14
オートアップ時....100
改造禁止....12
急旋回禁止....15
共同作業時....14
傾斜地作業時....16
けん引作業時....113
交通法規遵守....17
公道走行時....33
後方転覆の危険....14
後輪を浮かせての始動禁止....20
サイドカバーの取外し時....134
坂道走行....17
坂道での運転....93
作業機を装着しているトラクタの保管....166
作業に適した服装....12
作業前の点検、確認....12
周囲の安全確認....13
主変速（U シフト）レバー....67
乗降時....13
シートベルト....59
シートをかけるとき....18
スイッチ類の確認....13
旋回時....93
旋回速度....17
洗車時....128
正しい運転方法....12
駐車場所....18
適した服装....18
デフロックの禁止....17
転倒防止のための重量バランス....16
同乗禁止....13
道路走行中....94
トラクタの簡単な手入れ、処置時....128
トラクタへの乗降....44
トラックへの積み、降ろし....95
乗り降り時［パワクロ仕様］....21
排ガス後処理装置....44
排気管周辺....21
廃棄物の処理....20
発進、走行時....64
ブレーキの確認....13
フロントローダ作業....16
ほ場外での作業機落下防止....15
ほ場への出入り....14
ほ場への出入り時....93
ほ場への出入り時［パワクロ仕様］....94
ボンネットの開閉....134
モンローマチック・オート....102
輪距....33
輪距の調整....116
レバーの状態....18
レバー類の確認....13
ローダ作業....96
駐車再生
操作手順....51
駐車ブレーキ
解除....65
掛ける方法....65
作動点検....140
調整要領....189
チルトステアリングハンドル
機能....60
定期点検箇所一覧表....130
低速車(SMV)マーク....32
表示....17

ディーゼルパーティキュレートフィルタ
注意事項....20
ディーゼルパーティキュレートフィルタ(DPF)マフラ
PM 堆積量表示....45
概要....44
再生禁止モード....46
自動再生モード....46
デフロスト［安全キャブ仕様］
使用方法....125
デフロック
禁止事項....17
使用方法....93
デフロックペダル
機能....93
電子エンジン制御
機能....87
電子メータ
液晶表示....75
エンジンオイル交換時のメッセージリセット....151
表示....74
メッセージのリセット....80
電子メータパネル
項目選択....81
作業条件メモ....82
時刻合わせ....86
選択表示....80
電子メータ［パワクロ仕様］
グリースアップ時のメッセージリセット....145
転輪［パワクロ仕様］
点検....156
ドア［安全キャブ仕様］
開閉とロック....120
開閉とロックの注意事項....120
ヒンジ部の注油....163
時計（電子メータパネル）
時刻設定....86
表示／非表示....87
トップリンク
取付け穴の選択....112
長さの調整....112
トラクタ
運転中の作動確認....91
運転前の点検....44
けん引作業時の注意....14
故障と処置....168
駐車....65
停車....65
発進....64
トラクタの外観....34
トラブルシューティング
エンジン....167
トラクタ....168
トランスミッションオイルフィルタカートリッジ
交換....153
取扱説明書
収納場所....30
トレーラカプラ電源....64
トーイン
調整....154
点検....154

な

内外気切換えスイッチ［安全キャブ仕様］
概要....124
内気フィルタ［安全キャブ仕様］
清掃....154
取付け....154
取外し....154
ならし運転....59
ナンバープレート
標識の取付け....32
日常点検
前日の異常箇所....135
注意事項....135
トラクタの周囲....135
日常点検箇所一覧［パワクロ仕様］....142
日常点検［パワクロ仕様］
概要....142
燃料
空気抜き条件....162
空気抜き手順....162
補給....141
燃料インジェクタ
点検....159
燃料クーラ
清掃....139
燃料計
概要....92
燃料フィルタカートリッジ
交換....157
燃料ホース
交換....161
点検....147
農機型式名一覧表....31

は

排ガス後処理装置
注意事項....44
廃棄物
処理....128
倍速ターン
使用方法....71
ハザードスイッチ
機能....62
バックアップ
使用方法....101
バックアップスイッチ
機能....101
バックミラー
機能....61
バックランプ
機能....63
バッテリ
あがり時の処置....58

点検時の注意.....147
取扱いの注意事項..... 19
取付け..... 148
取外し..... 148
補充電..... 148
バッテリ液
点検.....148
バッテリ電解液
点検時の注意.....147
バッテリ（+）コード
点検.....137
パワクロ
足回り交換部品.....183
パワーステアリング
取扱い..... 95
パワーステアリングホース
交換.....161
点検.....146
ハンドル部..... 37
尾灯
機能.....63
一うねおき耕うん
方法..... 119
ヒューズ
交換.....162
標識
標識の取付け.....32
標準付属品..... 177
ヒータ配管［安全キャブ仕様］
点検.....160
ヒータ［安全キャブ仕様］
注意.....125
ファンスイッチ［安全キャブ仕様］
機能.....125
ファンベルト
調整.....149
点検.....149
不凍液
使用方法.....161
ブレーキ
確認.....13
ブレーキペダル
遊びの点検..... 139
機能.....65
使用方法.....16
調整.....149
点検.....149
ブレーキベルト
調整.....150
ブレーキランプ
機能.....63
ブレーキ連結ロック解除警告灯
機能.....66
フロントサイド作業灯
スイッチの機能.....62
フロント吹出口［安全キャブ仕様］
機能.....124
フロントワイパ・ウォッシャスイッチ［安全キャブ仕様］
機能.....121
ペダル［安全キャブ仕様］..... 38
ペダル［安全フレーム仕様］..... 40
ヘッドライトスイッチ
機能.....61
ヘッドランプ
交換.....163
変速レバー
取扱い..... 67
方向転換
方法..... 119
防虫網
清掃.....138
補修用部品
供給年限.....30
補助ユニット
一覧表..... 187
ボンネット
開ける方法..... 134
閉める方法..... 135
ポンパレバー
機能.....99
使用時の注意.....99
上手な使用方法..... 100
ポンパスイッチ［安全キャブ仕様］
機能.....99
使用時の注意.....99
上手な使用方法..... 100
ホーン接点
グリース塗布.....163
ホーンボタン
機能.....62

ま

窓［安全キャブ仕様］
開閉とロックの注意事項.....120
マフラ
状態の確認..... 150
満タンお知らせブザー
取扱い..... 142
ミッションオイル
一覧表..... 134
交換.....156
汚れの点検..... 136
量の点検.....136
メインシリンダホース
交換.....162
メンテナンス表示
操作手順.....81
表示画面.....81
表示時間のリセット.....82
メータパネル
距離燃費表示.....73
瞬間燃費表示.....73
積算量表示..... 73

平均燃費表示....73
メータ類
作動点検....141
目的目次....9
モニタランプ
概要....57
モンロー角度調節ダイヤル
機能....109
モンロー手動スイッチ
機能....110
モンローシリンダホース
交換....162
モンロースイッチ
概要....106
切（手動）....107
傾斜地....107
水平....106
モンローマチック・オート
各部の名称....103
使用時の注意....102
モンロー操作パネル....42

や

油圧部品
外すときの注意....20
油圧レバー
取扱い特性....98
油圧ロック
作業機落下速度の調整....101
取扱い....102
油圧（ポジションコントロールレバー）レバー
機能....98
遊輪［パワクロ仕様］
点検....156

ら

ラジエータ
洗浄....161
ラジエータホース
交換....161
点検....152
ラジエータ用防虫網
清掃....138
ランプ一覧....163
ランプ類
作動点検....141
リフトシリンダ
取付け....110
取外し....110
リヤウインド［安全キャブ仕様］....120
ヒンジ部の注油....163
リヤワイパ・ウォッシャスイッチ［安全キャブ仕様］
機能....121
輪距
後輪....117
後輪の調整....116
前輪....116
調整時の注意....116
隣接耕うん
方法....118
ルームミラー（オプション）
機能....123
ルームランプ［安全キャブ仕様］
スイッチの機能....121
冷却水
交換....160
量の点検....136
冷媒（ガス）［安全キャブ仕様］
点検....164
点検方法....164
冷房［安全キャブ仕様］
使用方法....125
レバーストッパ
使用方法....98
ロアーリンク
取付け穴の選択....112
ロータリ
一覧表....187

わ

ワイパ［安全キャブ仕様］
寒冷時の使用....122
ワイヤハーネス
点検....137
ワンタッチ耕うんモード
機能....104
設定変更....106
任意変更....105
ワンタッチ耕うんモードスイッチ
機能....104